

目 次

I. 全学共通科目の履修案内	
1. 全学共通教育の目的と位置付け	1
2. 全学共通科目の理念と目的	1
(1) 総合教育科目	1
(2) 基礎教育科目	2
(3) 外国語科目	2
(4) 健康スポーツ科学科目	2
3. 単位の基準	2
4. 授業時間	2
5. 全学共通科目の履修について	2
6. 履修受験届等について	3
7. 障害を有する学生の受講等について	4
8. 試験及び成績について	4
(1) 定期試験等	4
(2) 成 績	4
9. 各種掲示について	4
10. 交通スト、台風時等の授業について	5
11. 単位互換およびインターネット講義について	5
12. 全学共通科目 Q & A	6
13. 履修受験届の記入例	7
II. 全学共通科目の授業科目	
1. 全学共通科目群の英語表示	10
2. 平成20年度全学共通科目の授業科目一覧	11
参考(1) 平成20年度新設廃止科目名変更一覧	24
参考(2) 平成9年度から20年度までの総合教育科目の開講実績一覧	25
III. 全学共通科目シラバス（講義概要）等	
1. 総合教育科目 A	31
2. 総合教育科目 B	47
3. 基礎教育科目	123
4. 外国語科目	167
(1) 第1部	167
○外国語科目クラス分け	168
○外国語科目の履修について	170
○シラバス	171
(2) 第2部	229
5. 健康スポーツ科学科目	253
(1) 健康・スポーツ科学科目の履修について	254
(2) 実習授業時の集合場所	255
(3) シラバス	256
IV. 教室等施設配置図	267
V. 学則	275
VI. 各学部等の電話番号・所在地	299

平成20年度学年暦

第 1 部

第 2 部

学 年 開 始	4月1日(火)	同 左
入 学 式	4月4日(金)	同 左
ガイダンス	4月7日(月)	同 左
前期授業開始	4月8日(火)	同 左
振替授業日	5月7日(水) 月曜日の授業実施 5月8日(木) 火曜日の授業実施	5月7日(水) 月曜日の授業実施
創立記念日	6月1日(日)	同 左
試験・調整期間	7月22日(火)～8月4日(月)	7月23日(水)～8月5日(火)
夏季休業	8月5日(火)～9月15日(月)	8月6日(水)～9月15日(月)
※研修期間	9月16日(火)～9月30日(火)	同 左
後期授業開始	10月1日(水)	同 左
冬季休業	12月23日(火)～1月7日(水)	同 左
振替授業日	11月5日(水) 月曜日の授業実施 11月27日(木) 月曜日の授業実施	11月5日(水) 月曜日の授業実施 11月27日(木) 月曜日の授業実施 1月15日(木) 月曜日の授業実施
試験・調整期間	2月3日(火)～2月17日(火)	1月30日(金)～2月13日(金)
振替試験日	2月17日(火) 水曜日の試験実施	2月13日(金) 水曜日の試験実施
※研修期間	2月18日(水)～3月19日(木)	2月14日(土)～3月19日(木)
春季休業	3月20日(金)～4月6日(月)	同 左
※振替授業日	————— 各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。	
※研修期間	————— 集中講義や補講などが行われることがある。	
※試験・調整期間	————— 定期試験や補講を行う。	

振替試験日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、1セメスターで行える授業の回数が少なくなってきました。そこで、本学では平成12年度から振替授業日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は試験期間の繰り下げにより、前期は夏季休業中に、後期は研修期間中に試験を実施することとしています。

なお、試験期間中に祝日が含まれる場合は、その日の試験を別の曜日に振り替えて実施することがあります。具体的な日程については、別紙のカレンダーをご覧ください。

☆ 参 考

・新入生歓迎祭開催に伴う休講

第1部 4月17日(木) 5時限、18日(金) 3～5時限
[歓迎祭開催日程：4月17日(木)～19日(土)]

第2部 4月17日(木) 2時限、18日(金) 全時限
[歓迎祭開催日程：4月17日(木)～18日(金)]

・大学祭開催に伴う休講

第1部 10月29日(水) 5時限、10月30日(木) 全時限、10月31日(金) 全時限
[大学祭開催日程：10月30日(木)～11月3日(月)]

第2部 休講は伴わない
[大学祭開催日程：11月15日(土)～16日(日)]

・センター試験に伴う休講

1月16日(金) 全時限(予定)

平成20年度カレンダー（第1部）

〔1部前期〕

〔1部後期〕

	日	月	火	水	木	金	土	主な行事
4月			1	2	3	4	5	1日(火)～6日(日) 春季休業
	6	7	8	9	10	11	12	4日(金) 入学式
	13	14	15	16	17	18	19	7日(月) ガイダンス
	20	21	22	23	24	25	26	8日(火) 前期授業開始
	27	28	29	30				17日(木) 新歓祭5限休講 18日(金) 新歓祭午後休講
5月					1	2	3	7日(水) 振替授業日 (月曜の授業を実施)
	4	5	6	7	8	9	10	8日(木) 振替授業日 (火曜の授業を実施)
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
6月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						
7月			1	2	3	4	5	22日(火)～8月4日(月) 試験・調整期間
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
8月						1	2	5日(火)～9月15日(月) 夏季休業期間
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
9月	31							
		1	2	3	4	5	6	16日(火)～30日(火) 研修期間
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30						

	日	月	火	水	木	金	土	主な行事
10月				1	2	3	4	1日(水) 後期授業開始
	5	6	7	8	9	10	11	29日(水) 大学祭5限休講
	12	13	14	15	16	17	18	30日(木)～31日(金) 大学祭休講措置
	19	20	21	22	23	24	25	大学祭 10月30日(木) ～11月3日(月)
	26	27	28	29	30	31		
11月							1	5日(水) 振替授業日 (月曜の授業を実施)
	2	3	4	5	6	7	8	27日(木) 振替授業日 (月曜の授業を実施)
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
12月	30							
		1	2	3	4	5	6	23日(火)～1月7日(水) 冬季休業期間
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
1月	28	29	30	31				
					1	2	3	16日(金) センター試験に 伴う休講措置
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
2月	25	26	27	28	29	30	31	
	1	2	3	4	5	6	7	3日(火)～17日(火) 試験・調整期間
	8	9	10	11	12	13	14	17日(火) 水曜日の振替調整・ 試験日
	15	16	17	18	19	20	21	18日(水)～3月19日(木) 研修期間
	22	23	24	25	26	27	28	
3月	1	2	3	4	5	6	7	20日(金)～4月6日(月) 春季休業期間
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					

平成20年度カレンダー（第2部）

〔2部前期〕

〔2部後期〕

	日	月	火	水	木	金	土	主な行事
4月			1	2	3	4	5	1日(火)～6日(日) 春季休業 4日(金) 入学式 7日(月) ガイダンス 8日(火) 前期授業開始 17日(木) 新歓祭2限休講 18日(金) 新歓祭午後休講
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				
5月					1	2	3	7日(水) 振替授業日 (月曜の授業を実施)
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
6月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						
7月			1	2	3	4	5	23日(水)～8月5日(火) 試験・調整期間
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
8月					1	2		6日(水)～9月15日(月) 夏季休業期間
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
9月			1	2	3	4	5	16日(火)～30日(火) 研修期間
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					

	日	月	火	水	木	金	土	主な行事
10月				1	2	3	4	1日(水) 後期授業開始
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
11月							1	5日(水) 振替授業日 (月曜の授業を実施) 15日(土) 大学祭 ～16日(日) 27日(木) 振替授業日 (月曜の授業を実施)
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
12月			1	2	3	4	5	23日(火)～1月7日(水) 冬季休業期間
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
1月					1	2	3	15日(木) 振替授業日 (月曜の授業を実施) 16日(金) センター試験に伴う休講措置 30日(金)～2月13日(金) 試験・調整期間
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
2月								13日(金) 水曜日の振替調整・試験日 14日(土)～3月19日(木) 研修期間
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
3月								20日(金)～4月6日(月) 春季休業期間
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
4月								
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
5月								
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
6月								
	29	30	31					

I 全学共通科目の履修案内

I 全学共通科目の履修案内

1. 全学共通教育の目標と位置付け

全学共通教育は、「大学生として必要な知識を修得すること、自主的・総合的な判断力を養成すること、そして社会人として必要な教養を身につけること」を目標としています。

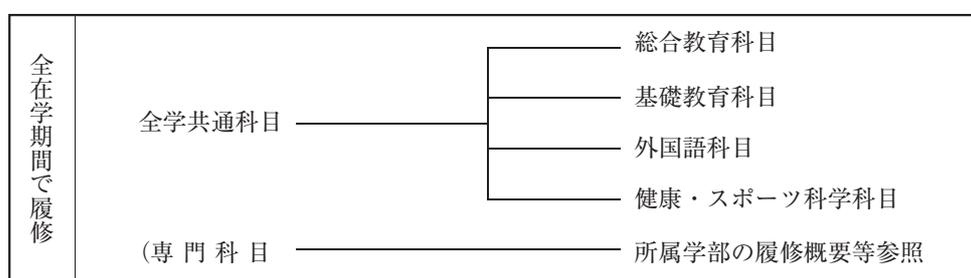
本学では原則として、全在学期間を通じた一貫教育体制のもと教育を行っています。これは、それぞれの学部が提供する専門教育科目と、全学体制で提供する全学共通科目とを、全在学期間を通じて並行して学習するという制度です。

もちろん、全学共通科目として提供されているもののうち、基礎教育科目や外国語科目のように低学年での履修が望ましい科目もあります。

しかし、総合教育科目に関しては、専門に偏ることがないように、できるだけ学問的視野を広げ、幅広い知識と教養を身につけるように設けられた科目であり、高学年での履修に適した科目も提供されています。

したがって、総合教育科目については低学年で集中的に履修するのではなく、全在学期間を通して、履修計画を立てることが望まれます。

また、全学共通教育は、集中的・効果的な教育、科目体系と科目選択の多様化、学生の国際交流の観点から、 Semester制度（前期・後期の2期制）を導入し、それぞれの期間で完結する授業を提供しています。



注意：履修方法については所属学部の履修概要等を参照してください。

所属学部の履修概要は、4月上旬に配布される予定です。

2. 全学共通科目の理念と目的

(1) 総合教育科目

総合教育科目は、大学教育全般の基礎となる学習・研究能力の育成、広い視野に立った総合的な判断力の育成、現代社会に生きる人間に求められる普遍性をもつ教養の修得等を目的とするもので、全学の協力のもとに行われます。

総合教育科目は、総合教育科目Aと総合教育科目Bの二つに区分されます。

- ① 総合教育科目Aは、人類の生存や市民生活等に直接かわり、すぐれて現代的・実的な問題を、多面的に取り扱う科目から構成され、これまでの本学における教育・研究の蓄積に基づいて、「人間と環境」「都市・大阪」及び「生命と人間」という三つの主題と一つの「特別枠」で行われます。総合教育科目Aは、とくに学際的・総合的な科目ですので、全学生の受講の便宜をはかって、原則として総合教育科目以外の授業のない水曜日・金曜日の5時限（第1部）に開講されています。
- ② 総合教育科目Bは、人間にとってより基本的かつ一般的な問題を取り扱います。ここには、人間存在とその基礎となる社会に関わる問題をテーマとする「人間と社会」、過去から今日に至る人間の社会的営為が生み出してきたものをテーマとする「歴史と文化」、こうした人間のもう一方の基盤である自然の理解をテーマとする「自然と人間」、情報社会を生きる人間として必要な計算機ならびに情報をテーマとする「情報と人間」という四つの科目群と一つの「特別枠」がもうけられ、その下にさらに九つの主題が設けられています。学生諸君はこの多様なメニューを持った総合教育科目A・Bの中から、各々の関心や興味に応じて、自由に科目を選択することができますが、所属の学部や専攻領域にとらわれず、幅広く、また4年間（医学部を除く）の中で計画的に修得するようにしてください。
- ③ 総合教育科目Bの演習科目は平成10年度から開講されたもので、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。
- ④ 総合教育科目Aの特別枠「大阪市大でどう学ぶか」と総合教育科目Bの特別枠「1年生セミナー」は1年生を対象に前期に開講される科目で、新入生が本学のことをよく知り、大学での学び方を習得することを目的としています。さらに、総合教育科目Bの特別枠「単位互換科目」は（P. 5参照）、個別大学の枠を超えた大学相互の協力によって大学間連携を強めるとともに、大学の知的財産を活用することによって地域社会に貢献することを

目的として大学コンソーシアム大阪（平成18年度より）及び大阪府立大学、大阪商業大学（平成14年度より）との協定によって科目が提供されます。

(注) 平成18年度の総合教育科目では、履修受験届を提出するだけで、受講しない者が多く見受けられました。そのため、授業や試験時の教室運用に支障をきたす場合があります。今後は、履修する科目を慎重に選んで履修受験届を提出するように注意してください。
履修希望者が教室定員を上回る場合は、履修者数を制限することがあります。

(2) 基礎教育科目

主として理科系の学部において専門教育のための原点であり、広い意味での基礎として体系的習得が望まれる授業です。数学、物理学、その他の自然科学が一例です。これは専門教育に直接つながる専門基礎教育とは異なり、基礎的学問分野をそれ自身の体系として学習し、専門教育のより深い理解と目先の科学技術にとらわれない、長期的視野に立つ創造の原動力たることを目的とします。

(3) 外国語科目

本学の外国語教育は、学問研究のための情報交換や将来の職業上の必要性を考慮し、それに応じた語学力の養成、外国人とのコミュニケーション能力の開発、異文化の正確な目標として総合的な見地から行われています。そのために教育内容やクラス編成を多様化し、視聴覚機器（外国語特別演習室）を利用した授業も提供されています。

(4) 健康・スポーツ科学科目

健康と体力増進に関する科学的知識と個人に応じたその実践方法を修得すること、生涯を通じて、よりスポーツに親しみ楽しむことができるようにスポーツ科学の知識を修得すること、個人の体力や能力に応じたスポーツ実践能力を高めることによって健康的で活動的なライフスタイルを形成し、豊かな社会生活を営むうえでの資質を育成することを目的とします。

3. 単位の基準

大学の授業の単位は、大学設置基準の規定に基づき、原則として教室での学習と教室外の学習とを含めて45時間の学習に対して1単位と定められています。

本学の全学共通科目における1単位の基準は下記のとおりとします。

講義、演習科目……………15時間の授業と30時間の自習をもって1単位

外国語科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

〔新修外国語〕特修…15時間の授業と30時間の自習をもって1単位

実験、実習科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

全学共通科目では、1回（時限）の授業時間を2時間としているので、1時間の学習時間と単位は次のとおりです。

	授業時間数	自習時間数	期間（回数）	合計時間数	単位数
講義、演習科目	1回 2時間	4時間	15週	90時間	2
外国語科目	1回 2時間	1時間	15週	45時間	1
新修外国語〔特修〕	1回 2時間	4時間	15週	90時間	2
実験、実習科目	1回 2時間	1時間	15週	45時間	1

4. 授業時間

〈第1部〉

第1時限	9時00分～10時30分
第2時限	10時40分～12時10分
第3時限	13時00分～14時30分
第4時限	14時40分～16時10分
第5時限	16時20分～17時50分

〈第2部〉

第1時限	18時00分～19時30分
第2時限	19時40分～21時10分

5. 全学共通科目の履修について

全学共通科目の履修については、学部・学科によって進級又は卒業に必要な科目、単位数、履修年次等が異なっていたり、科目数を指定している場合がありますので所属学部で発行している履修概要等を参照してください。

(注) 外国語科目及び健康・スポーツ科学科目の履修については、シラバス（P. 167、P. 253）を参照してください。

◎「情報基礎等」の履修について

(1) 「情報基礎」の履修について（前期）

総合教育科目Bの「情報基礎」は、コンピュータを使用する実習科目であるため、履修者数を一クラスにつき48名に制限します。履修を希望する者は、所属学部へ「履修受験届」を提出する前に「希望調査カード」を教務部教務課（教務部事務室内）に提出し、履修の許可を受けなければなりません。

- ・履修「希望調査カード」の配布 新1回生については、入学手続指定日に所属学部より手渡される全学共通教育関係書類に同封し配布します。2回生以上は以下の受付日時に全学共通教育棟（2階）教務部事務室において配布します。
- ・受付日時及び場所 新1回生については、4月2日（水）入学関係書類提出日に各所属学部受付会場（1号館教室予定）において「希望調査カード」を提出してください。
2回生以上は、3月26日（水）～28日（金）9時～12時、13時～17時の間に全学共通教育棟（2階）教務部事務室にて受付並びに提出してください。ただし、提出は一人1枚とします。
- ・履修許可者の発表 4月7日（月）13時 第1体育館西側掲示板に掲示します。
- ・授業の開始 この授業科目は4月8日（火）1時限から開始します。
初回の授業には、事前に配布されたパスワードを記した用紙を持参してください。
詳細及び第2部の履修については、別途掲示します。

(2) 「情報基礎」および「プログラミング入門」の履修について（後期）

前期と同様「希望調査カード」の提出が必要です。提出時期等については7月に別途掲示します。

(3) 「情報の探索と利用」の履修について（前期）

「情報基礎」および「プログラミング入門」と同様に履修者を48名に制限しますので、「出席調査票」を学生支援課に提出し、履修の許可を受けなければなりません。提出時期等は「情報基礎」（前期）と同様です。

◎「演習科目」の履修について

平成10年度から開講された総合教育科目Bの「演習科目」は、概ね主題ごとに1～2科目を提供します。

「演習科目」は、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。

第1回目の授業時に履修許可者を確定しますので、履修を希望する者はシラバスを参照のうえ、必ず出席してください。

◎ 留学生対象科目の履修について

外国人留学生を対象に、外国語科目として「日本語」1A～5B（P.226参照）、総合教育科目Bとして「日本事情」IA～IIB（P.89～P.91）が開講されています。

このうち、「日本事情」IIA、IIBについては、留学生と日本人学生の交流をかねて、クラス定員（20～25名程度）を上回らない範囲で留学生以外の学生の履修を認めます（日本人学生の履修希望者数が多い場合、留学生履修者数とのバランスを考え、選考を行う予定です。）

6. 履修受験届等について

単位を修得しようとする科目は、各セメスターの初めに、次の【記入要領】により「履修受験届」等を所属学部学務係に提出してください。提出時期・提出場所等は、所属学部で掲示します。

【記入要領】

(1) 履修申請の手続及び登録の確認

- ① 前期の履修手続時に申請する授業科目は、前期・集中講義・通年（専門科目のみ）の科目です。後期開講の授業科目については、後期履修申請時（10月）に行います。ただし、通年科目（専門科目のみ）については記入する必要はありません。また、集中講義は後期には登録できません。
- ② 提出後、履修受験届の内容を記載した「履修申請確認表」を交付しますので、提出した内容と一致しているか各自点検のうえ、エラー表示のある科目及び登録内容に誤りがある場合は、指定された期日までに必ず「修正届」を各所属学部事務室に提出してください。
期日までにエラー表示のある科目及び登録内容の誤りを修正しないと、当該科目の登録が無効になるので注意してください。
- ③ 修正手続の期限を過ぎた後は、別科目への変更は認められませんので登録漏れのないようによく確認してください。

- ④ 【履修申請手続きの流れ】(P.8)を参照してください。
- ⑤ 「履修受験届」、「修正届」の提出がない場合は、当該授業科目を履修し、受験することができません。

(2) 記入上の注意

- ① 【履修受験届の記入例】(P.7)及び「英数字の記入見本」(P.7)を参照のうえ、必ずHBの黒鉛筆で記入してください。(枠の外へはみださないこと)
- ② 誤記入の場合は、消しゴムで完全に消してから再記入してください。
- ③ 時間割コードの誤記入が多く見受けられますので、記入後、必ず点検してから提出してください。
- ④ 用紙は直接機械処理をしますので、汚したり折り曲げたりしないでください。万一用紙を破損した場合は、所属学部事務室に申し出て、再交付を受けてください。
- ⑤ 学部より特に願い出が必要な科目を履修する場合は、別途、履修受験届(指定外クラス履修願等)の提出を必要とすることがありますので、所属学部事務室に申し出てください。

7. 障害を有する学生の受講等について

障害を有する学生の受講等について要望があるときは、第1部にあつては所属学部事務室に、第2部にあつては2部事務室に申し出てください。

8. 試験及び成績について

(1) 定期試験等

全学共通科目の定期試験は、原則として各セメスターの期末に行います。ただし、授業担当者によっては、このほかに一定期間の各授業時間に実施する「期間外試験」や、試験に替えてレポートの提出、平常の成績などで評価する場合があります。さらに、その他随時実施される試験があります。

試験に関する詳細は適宜、教務部共通教育専用掲示板(全学共通教育棟1階ピロティ東側)に掲示します。

◎ 追試験

病気その他やむを得ない事情により定期試験を受験できなかった者に対しては、学部が指定する範囲・条件を満たす場合に限り、本人の願い出により追試験を行うことがあります。

追試験の願い出は、当該科目の試験終了後1週間以内に、受験できなかった理由を明記し、医師の診断書等証明する書類を追試験願に添付のうえ、所属学部事務室に提出しなければなりません。

追試験に関する条件等は、定期試験前に所属学部掲示板に、また、追試験の受験を許可された者の氏名及び実施日程等は、定期試験終了後定められた日に、教務部共通教育専用掲示板(全学共通教育棟1階ピロティ東側)にそれぞれ掲示します。

(2) 成 績

成績は、合格科目は「A・B・C」の表記、不合格科目は「E」の表記をもって、所属学部事務室から各人に成績通知書で通知します。なお、成績通知書の交付日時(各セメスターごと)、場所については所属学部掲示板に掲示します。

9. 各種掲示板について

全学共通科目に関する事項(授業、休講、履修等)やその他あらゆる連絡事項は掲示板をもって行いますので、見落とさないよう注意してください。

第1部の掲示板は、主に授業時間割関係、休講・補講通知、教室変更、学生呼び出し等の掲示を行う教務部共通教育専用掲示板(全学共通教育棟1階ピロティ東側)と、適宜使用する「履修関係(履修許可者の発表、各セメスター開始前の履修方法の周知等)の掲示を行う」第1体育館西側掲示板があります。第2部の掲示板は、2部事務室前に設置しています。

10. 交通スト、台風時等の授業について

(1) 交通スト当日の杉本学舎の授業について

次の交通機関のいずれかがストライキを行った場合の授業は休講とします。ただし、別表のとおりスト解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。

- ① JR阪和線
- ② 私鉄（近鉄、阪急、阪神、南海、京阪）の1社以上
- ③ 地下鉄及びJR環状線が同時

(2) 台風時等の杉本学舎の授業について

「大阪府に暴風警報」が発令された場合の授業は原則として休講とします。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、状況によって警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

〈別表〉

第1部の授業

スト・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午前7時以前		全時限
午前10時以前	1・2時限	3・4・5時限
午前10時を過ぎても解除されない場合	全時限	

第2部の授業

スト・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午後3時以前		全時限
午後3時を過ぎても解除されない場合	全時限	

11. 単位互換及びインターネット講義について（講義概要等は別冊）

(1) 単位互換

平成14年度から、教育分野における交流を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、大阪府立大学及び大阪商業大学との間で単位互換を実施しています。さらに平成18年度から新たに大学コンソーシアム大阪として単位互換事業が実施されています。なお、単位互換科目を履修する際には、所属学部によって単位認定等の取り扱いが異なりますので、必ず所属学部履修規程等を参照してください。

(2) インターネット講義

平成14年度から、全学共通科目でインターネット講義を実施しています。インターネット講義には、国内外の受講者を対象としたインターネット講座と同時に行われる科目もあり、受講時間に縛られることなく、社会人など学外受講者とメールによる意見交換などをしながら受講することもできます。履修後、試験に合格した場合は総合教育科目として単位認定されます。

(3) 平成20年度の履修について

- ① 履修及び卒業に必要な単位として認めるかどうかは、各所属学部によって異なります。各所属学部履修規程を必ず参照してください。
- ② 提供される科目ごとに受講者数の制限があります。
- ③ 単位互換科目の講義概要の配布は教務部事務室と2部事務室で行います。また、講義概要の閲覧は各所属学部事務室でも可能です。
- ④ 「単位互換履修出願票」の受付は、下記期間中に教務部事務室（第1部学生）と2部事務室（第2部学生）で行います。
 - ・大学コンソーシアム大阪単位互換科目 4月1日（火）～4月11日（金）
 - ・大阪府立大学、大阪商業大学の間で実施する単位互換科目 4月7日（月）～4月14日（月）
- ⑤ 詳細については、学生支援課共通教育担当（06-6605-2935）までお問い合わせください。

12. 全学共通科目 Q & A

Q1 全学共通教育は何のため？

人生の中でも大学生の間こそ、自らを磨く絶好の機会です。本学の皆さんには、学部の専門を習得することはもちろんですが、専門の狭い範囲だけにとじこまることなく、時代の変化に対応できる基礎を固め、広い視野を持って考えることのできる人間になってほしいと思います。全学共通教育は、そのために皆さんを手助けします。卒業に必要な一定の単位数などが定められてはいますが、それを受け身ではなく、自らの“人間づくり”のために積極的に履修して下さい。

Q2 なぜ、全学共通科目はセメスター制なのか？

本学でも以前は1年間を通して授業をする通年制でしたが、平成6年の教育課程の改革にあわせて、1年間を前期と後期に分けて、授業を各期に完結させるセメスター制に移りました。セメスター制を採用したのは、次のようなメリットが考えられるからです。①短期間に集中して履修することで、効果的な学習ができる。②多数の科目を提供することによって、科目体系が整備され、多様な科目の選択が可能になる。③海外の大学の学期と整合させることで、学生の国際交流が促進される。

Q3 総合教育科目は、なぜこんなにたくさんあるの？

全学共通科目の中でとりわけ総合教育科目は、幅広い視野と考える力を身につけることにより社会人として必要な教養を培うとともに、自己の専門の意義も据え直すことにより人間としての責務を考える最適の場です。

本学では平成6年に大規模なカリキュラム改革を行いました。セメスター制の利点を生かして総合教育科目を多様化し、学生の皆さんの関心に応じて自由な履修ができるようにしました。総合教育科目のシラバスが「全学共通科目シラバス・履修案内」の大半を占めているのはそのためです。在学中の履修計画を立てるために必ず目を通して下さい。

本学の総合教育科目は、基礎的・教養的なものから応用的・実践的なもの、さらに学際的・総合的なものまで、多種多様な科目から構成されており、他大学に比べて豊富なメニューに恵まれていると言っていいでしょう。

Q4 4年一貫教育とは？

最近、「4年一貫教育」（全在学期間を通じての体系的教育という意味）という言葉がよく使われますが、これは専門教育と全学共通科目の両方を学生の全在学期間を対象に行うということで、以前は1・2回生を教養課程、3回生から専門課程となっていました。これを廃止したのはそのためです（なお、残念ながら医学部だけはキャンパスの都合で全学共通科目の履修は現在も2回生までとなっています）。

もちろん、全学共通科目の中でも外国語科目や基礎教育科目の多くはその性格上、今も1・2回生における履修が中心となっていますが、総合教育科目に関しては1・2回生の間だけでなく、3・4回生になってからも履修を続けることを強く勧めます。総合教育科目の中には専門科目をある程度習得した3・4回生に適した科目も数多くあります。とくに総合Aは上回生が受けやすいように専門科目のない5時限に開かれています。専門科目の習得段階に応じた科目を選ぶためにもシラバスを活用して下さい。

Q5 総合教育科目の履修制限は、なぜ？

総合教育科目の履修制限を行っている理由は、履修を全く自由にしてしまうと、卒業に必要な単位数を早く取ってしまおうと、1・2年生の間に空いている時間を総合教育科目で埋めてしまう傾向があるからです。外国語や専門科目の大部分が年次指定されているのに対し、総合教育科目は原則としていつでも履修できるからです。しかし、大学での授業は、十分な予習・復習時間を必要としています。したがって、履修科目が多すぎると、十分な予習と復習ができなくなります。在学期間全体を通して総合教育科目を履修するという4年一貫教育の趣旨からしても、総合教育科目の履修制限は必要と考えています。

Q6 総合教育科目の受講者数制限は、なぜ？

授業を行う教室の席数には上限がありますし、また科目によっては授業に合った人数の適正規模もありますので、授業と学習を正常に行うためにはやむを得ない措置です。

（注）第1回目の授業時の空登録（受講の決心をしていないのに出だけ出しておく）は、本当に受けたい人の受講を妨げることとなりますので、絶対にやめてください。また、履修受験届を出した科目の授業は必ず受けてください。

Q7 総合教育科目Aは、なぜ5時限目（第1部）なの？

総合教育科目Aは、どの学部・学年の学生の受講にも応えられるようにと、全学の協力で提供している学際的・実的な科目です。したがって、どの学部・学年の学生でも受講しやすい時間帯に開講する必要があります。しかし、1時限から4時限まではすでに他の教材が入っていますので、それらの受講と競合しないように、週2回（水・金）の5時限に開講しています。

13. 履修受験届の記入例

H B の黒鉛筆で記入

時間割コードは、下の記入見本にならい、枠内に記入すること。
(英字と数字の区別をはっきりする。)

記入要領に該当する場合のみ記入すること。
(所属学部学務係で指示を受けること。)

2006年度 前期 履修受験届
理学部 (第 部) 回生
氏名 杉本 太郎

記入例 G C E J L S T M H N
O I 2 3 4 5 6 7 8 9

A06SX999

第1部					第2部	
1	2	3	4	5	1	2
1G1129		1G1349	1G1442		2G1101	提出する前に コードと科目 名を照合確認 して下さい。
基礎物理学I		ドイツ語基礎1・2	英語1A		心理学への招待	
	1G2222	1G2322				※第2部の学生はこの欄に 記入して下さい。
	解析I	基礎物理学実験I				
	1G3272	1G3342		1G3504		
	バスケットボールI	英語2A	ドイツ語基礎1・2	現代の医療		
1G4121		1G4323				
線形代数I		基礎物理化学B				
1G5101						
心理学への招待			基礎物理学I			
現住所(連絡先)	〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-5-8				TEL 6761-1234	
勤務先名(第2部学生のみ)	大阪株式会社				TEL 6321-4321	
				携帯電話番号	TEL 090-123-4567	

連絡先を記入すること。
(2部学生で勤めている人は勤務先も記入)

複数時限にわたる科目(ペア科目)については、最初の時限には時間割コードと科目名を記入し、残りの時限には、時間割コードは空白のまま、下の欄に科目名のみを記入すること、なお、時限が連続しているときは、科目名を「→」で表示してもよい。

【英数字の記入見本】

G 線をつながない
つき出しをはっきり

S セリフをつける
セリフは下に長く

1 余計な飾りをつけない
縦線は真直ぐに

6 線を十分長く
線をつなぐ

C セリフをつける
セリフを傾けない

T 縦線を傾けない
横線は水平にまっすぐ

2 下線は真横に
ループはつけない

7 鍵をつける
余計な飾りをつけない

E ひげを出さない
垂直に

H 縦線を傾けない
横線は水平にまっすぐ

3 中央部は十分つき出す
カーブは大きく

8 ループを大きく
線を確実につなぐ

J 上ぶたをはっきり
カーブをはっきり

N 縦線・斜線とも
まっすぐ

4 間隔を十分あける
角をはっきりつける

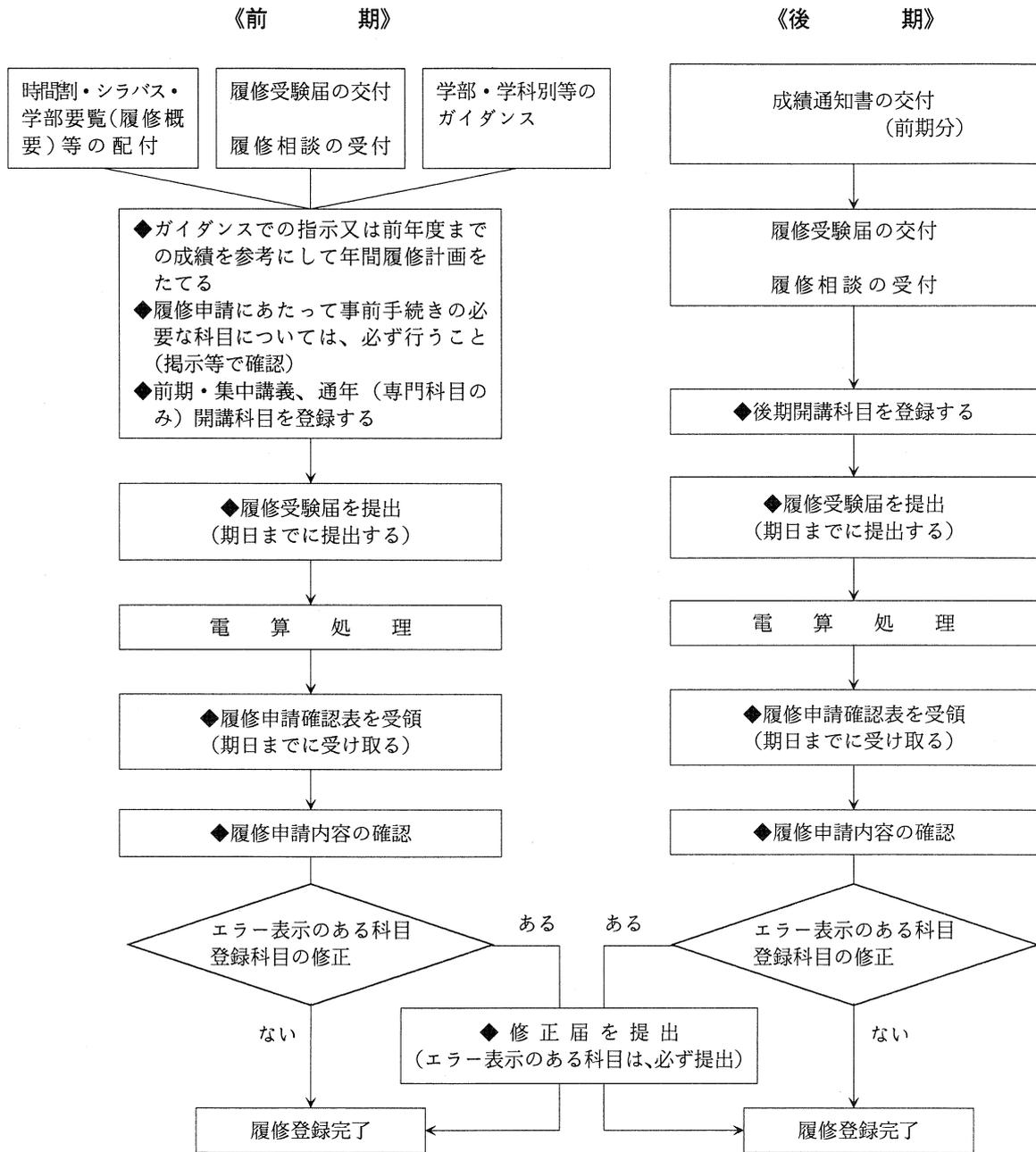
9 線を確実につなぐ
縦線を十分長く

L 真下にまっすぐ
真横にまっすぐ

5 間隔を十分あける
縦線をつき出す

0 線を確実につなぐ
縦長の楕円にする

【履修申請手続の流れ】



注：◆印は、学生がしなければならない作業を表す。

Ⅱ 全学共通科目の授業科目

1. 全学共通科目の履修案内

日 本 語			英 語		
総合教育科目 A			Integrated General Courses A		
	主 題	人間と環境 都市・大阪 生命と人間 特 別 枠		主 題	Humanity and the Enviroment Studies of Osaka Humanity and Life
総合教育科目 B			Integrated General Courses B		
科目群	人 間 と 社 会		科目群	Humanity and Society	
	主 題	人間と知識・思想 現代社会と人間 社会と人権		主 題	Humanity and Knowledge Humanity and Modern Society Society and Human Rights
科目群	歴 史 と 文 化		科目群	History and Culture	
	主 題	歴 史 地域と文化 文学と芸術		主 題	History Regions and Culture Literature and the Arts
科目群	自 然 と 人 間		科目群	Nature and Humanity	
	主 題	現代の自然科学 自然科学と人間		主 題	Modern Natural Science Natural Science and Humanit
科目群	情 報 と 人 間		科目群	Information and Humanity	
	主 題	情報と人間		主 題	Information and Humanity
科目群	初 年 次 教 育		科目群	First Year Seminar	
	主 題	初年次教育		主 題	First Year Seminar
基礎教育科目			Basics in the Sciences		
	主 題	数 学 物 理 学 物 質 科 学 化 学 生 物 学 地 球 学 図 形 科 学		主 題	Mathematics Physics Material Sciences Chemistry Biology Geosciences Graphics
外国語科目			Foreign Languages		
	主 題	英 語 ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 中 国 語 ロ シ ア 語 朝 鮮 語 日 本 語		主 題	English German French Chinese Russian Korean Japanese
健康スポーツ科学科目			Health, Exercise and Sport Sciences; HESS		
	主 題	健康スポーツ科学 講義 健康スポーツ科学 実習 <ul style="list-style-type: none"> 実験実習 { スポーツ実習 		主 題	Health, Exercise and Sport Sciences througout Life Practise Courses <ul style="list-style-type: none"> Experimental Education for HESS { Practise-Field Work for HESS

2. 平成20年度 全学共通科目の授業科目一覧

○総合教育科目 A

総合教育科目 A では、すぐれた現代的・実証的な問題を「主題」として取り上げ、総合大学としての本学の教育・研究の蓄積を生かして、一つ一つの「主題」を様々な学問領域から多面的に取り扱うことによって、今日的な問題について多面的かつ総合的な理解力と判断力を養うことをめざしている。今年度開講の三つの主題の内、「人間と環境」では、人間と環境の関わりを、公害、科学技術、医療、法・行政、経済活動等の視点から検討する。「都市・大阪」では、本学がそこに立地する大阪の都市としての歴史・文化や在り方、地理、都市生活、都市政策や都市づくり、経済活動などを多面的に取り扱う。また「生命と人間」では、生命倫理、戦争、医療、福祉、進化等、人間の生死に深くかかわる問題に、様々な学問領域からアプローチする。いずれの主題に属する科目も、一つ一つ完結した科目であるが、同じ主題に属する科目を複数受講することによって、その主題についてより深い知見を得ることができる。

主題	授業科目	毎週時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項
				前期	後期	前期	後期		
人間と環境	日本の公害	2	2	全:金・5					32
	技術と環境	2	2		全:金・5				32・33
	環境と健康	2	2	全:金・5					33
	開発と環境	2	2		全:金・5				34
都市・大阪	歴史のなかの大阪	2	2		全:水・5		全:木・1		34・35
	大阪の自然	2	2		全:金・5				35
	大阪の都市生活	2	2		全:金・5				35・36
	大阪の都市づくり	2	2	全:金・5					36・37
	都市の経済とビジネス	2	2		全:水・5				37
	大阪の地理	2	2	全:水・5					38
	現代都市論	2	2	全:木・2					38・39
	国際地域経済と大阪	2	2		全:水・4				39
	大阪落語への招待	2	2	全:金・5					40
生命と人間	生と死の倫理	2	2		全:水・5				41
	戦争と人間	2	2		全:水・5				41・42
	生命と進化	2	2	全:金・5					42
	現代の医療	2	2	全:水・5					43
	生命と法	2	2	全:水・5		全:水・1			43・44
	健康へのアプローチ	2	2	全:金・5					45
	生物の時間と人間の生活	2	2		全:金・5				45
特別枠	大阪市大でどう学ぶか	2	2	全:水・5					46

○総合教育科目B

科目群：人間と社会

「人間と社会」の目標は、社会の構成要素である人間そのものと、人間が形成する社会について、多様な側面から総合的に理解することである。そのために多数の科目が配置されているが、主題「人間の知識・思想」では、人間の心理・思想・行為など人間の内面や人間の行動に関する科目が配置され、人間そのものに対する理解を深めることが目標である。「現代社会と人間」の目標は、政治・経済・法制度など社会、とりわけ現代社会の仕組みと人間の関わりを理解することである。「社会と人権」では、人間の権利とそれに関連する諸問題に関する科目を提供し、人権尊重の認識を深めることを目標とする。

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲載 項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
人間 と 知 識 ・ 思 想	哲 学 入 門	2	2	全：火・4					48
	心 理 学 へ の 招 待	2	2	全文：月・3		全：月・1			48～51
				全文：木・4					
				全理：火・3					
				全理：金・1					
	認 知 の 仕 組 み	2	2		全：木・4				51・52
	人 間 と 宗 教	2	2				全：火・2		52
	対人行動の影響と意味	2	2	全：月・3					52・53
	ゲームで学ぶ社会行動	2	2		全：木・4				53
	日常の中の不思議を探す 演 習	2	2		全：火・3				54
	教育と発達のパシク心理学	2	2	全：火・2					54・55
教育と発達のパシク心理学 演 習	2	2		全：木・3				55	
読むこと書くことの科学	2	2		全：火・1				55・56	
現 代 社 会 と 人 間	社会科学のフロンティア	2	2	全：月・2					56
	日 本 国 憲 法	2	2	全：木・2		全：木・1			57
	都市的世界の社会学	2	2				全：火・1		57
	宗 教 と 社 会	2	2	全：木・4					58
	現 代 社 会 学 入 門	2	2	全：月・3					58・59
	現 代 の 社 会 問 題	2	2	全：金・4					59
	世界のなかの日本経済	2	2	全：水・1		全：水・1			59・60
	現 代 経 済 学 入 門	2	2		全：水・3		全：水・2		60
	法 と 社 会	2	2		全：木・4				60
	現 代 の 経 営	2	2	全：木・3			全：木・2		61
	ライフサイクルと教育	2	2		全：木・2				61・62
	現 代 社 会 と 健 康	2	2	全：火・1 全：木・2	全：火・1 全：木・2	全：水・1			62・63
	メディアの社会学	2	2		全：火・2				63
	現代社会における キャリアデザイン	2	2		全：火・3				63・64
現代社会と大学	2	2	全：木・4					64・65	

主題	授業科目	毎週	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス 掲載項
		時間		前期	後期	前期	後期		
現代社会と人間	現代文化の社会学演習	2	2		全：木・2				65
	現代の経営演習	2	2		全：木・3				66
	国際理解と教育演習	2	2		全：火・3				66～67
	現代社会と大学演習	2	2		全：木・3				67

主題	授業科目	毎週	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス 掲載項
		時間		前期	後期	前期	後期		
社会と人権	現代の部落問題	2	2	全：金・2		全：金・1			68・69
	都市社会と差別	2	2	全：金・1					69・70
	部落解放のフロンティア	2	2		全：金・1				70・71
	部落差別の成立と展開	2	2		全：金・1 全：金・2		全：金・1		71・72
	障害者と人権Ⅰ	2	2	全：金・2		全：金・2			72
	障害者と人権Ⅱ	2	2		全：金・2		全：金・2		73
	女性学入門編	2	2	全：金・2					73・74
	女性学応用編	2	2		全：金・2				74
	女性学	2	2			全：月・1			74・75
	エスニック・スタディ入門編	2	2	全：金・2		全：金・1			75
	エスニック・スタディ応用編	2	2		全：金・2				76
	部落産業論	2	2	全：金・2		全：金・1			76・77
	障害者と人権Ⅲ演習	2	2	全：水・1					77

科目群：歴史と文化

「歴史と文化」は、人間の築きあげた社会や文化を歴史的、地理的に展望すること、文化の高度に洗練された部分である文学や芸術の真髄に触れることを目的とする科目からなる。これらを通じて、人間の生と営みの意義を認識し、現代を主体的に生きていくことのできる人間としての自己を形成すること、総合的思考力を養い、専門科目の完全な習得のために必要な知的基礎と豊かな人間性を涵養することを目指している。主題「歴史」は、人間社会の構造の形成過程、言語文化の展開などを学び、歴史的なものの考え方を養成する。「地域と文化」は、世界諸地域の空間的仕組みとさまざまな伝統的・現代的文化の理解を通じて、国際化時代にふさわしい知性を養う。「文学と芸術」は古来からの人間の生の軌跡を示す文学・美術などの享受により、古典の素養を身につけ、人間性について深く思索する姿勢を培う。

主題	授業科目	毎週	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項	
		時間		前期	後期	前期	後期			
歴史	日本史の見方	2	2	全：金・1		全：火・2			78	
	東洋史の見方	2	2	全：木・2		全：木・2			78・79	
	西洋史の見方	2	2	全：水・3		全：木・1			79・80	
	日本社会の歴史	2	2				全：水・2		80	
	東洋社会の歴史	2	2		全：火・2				80・81	
	西洋社会の歴史	2	2		全：火・3				81	
	考古学入門	2	2		全：水・2				82	
	ことばの歴史	2	2		全：水・4				82	
	現代の歴史	2	2	(未定)						83
	歴史学の世界 演習	2	2	全：木・4					83	
地域と文化	現代の地理学	2	2	全：木・3			全：火・2		84・85	
	都市の地理学	2	2	全：月・3					85	
	文化人類学入門	2	2	全：火・3		全：火・1			86	
	文化とコミュニケーション	2	2	全：木・4					86・87	
	ことばと文化	2	2				全：水・2		87	
	景観と文化	2	2	全：木・2					87・88	
	アジアの文化	2	2	全：月・3					88	
	アジアの地域と文化演習	2	2		全：月・2				89	
	日本事情 I A	2	2	全：金・1					89	
	日本事情 I B	2	2		全：金・1				90	
	日本事情 II A	2	2	全：水・3					90	
	日本事情 II B	2	2		全：月・4				91	
文学と芸術	東洋の文学	2	2		全：木・2				91・92	
	西洋の文学	2	2	全：火・4					92	
	日本の詩歌	2	2	全：木・3					93	
	芸術の世界	2	2				全：月・1		93・94	
	東洋美術の流れ	2	2		全：水・2				94	
	音楽の諸相	2	2	全：水・4					95	
	文学と芸術へのいざない演習	2	2		全：火・4				95	

科目群：自然と人間

高度に発達に発達した現代の科学技術社会において、自然と人間の関わりを自然科学の視点から理解することは、理科系文科系を問わず不可欠である。そのために本科目群では、自然を理解する科学の方法を学び、自然を正しく理解することを目的とした主題「現代の自然科学」と、人間と自然科学・人間と科学技術との関わりや、科学とは一体何であるかについて考える主題「自然科学と人間」とを提供する。

主題「現代の自然科学」は、文科系学生を対象に分かりやすく解説する科目である（下段の備考参照）。

なお、理科系学生は、興味があれば対応する基礎教育科目群から選んで履修されたい。

一方、主題「自然科学と人間」は、文科系および理科系の全学の学生を対象に提供される科目である。

備考：「自然と人間」の提供科目のうち、全文のみに開講している科目については、生活科学部人間福祉学科の学生は履修することができる。

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
現代 の 自然 科学	数 学 の 考 え 方	2	2		全文:月・3	全:月・1			96
	ニュートンからアインシュタインへ	2	2	全文:木・2			全:月・1		97
	物 質 の 多 様 性	2	2		全文:月・2	全:木2			98
	現 代 の 分 子 科 学	2	2	全文:月・3			全:水・1		99
	生 物 学 へ の 招 待	2	2	全文:水・3		全:水・1			99
	地 球 の 科 学	2	2		全文:火・1				100
	実験で知る自然の世界	4	3		全文:水 3・4				100・101
	地 球 学 入 門	2	2		全文:火・1				101・102
	現 代 の 理 学 A	2	2	全文:火・2					102
	科 学 と 社 会	2	2	全:木・4					102・103
自然 科学 と 人間	現 代 科 学 と 人 間	2	2	全:木・4					103
	近 代 科 学 の 成 立	2	2		全文:木・4		全:木・1		104
	心 と 脳	2	2		全:月・2				104・105
	ドキュメンタリー・環境と生命	2	2		全:水・4				105
	植物の機能と人間社会	2	2		全:月・2				106
	実験で知る自然環境と人間	4	3	全:水 3・4					106・107
	21 世紀の植物科学と食糧・環境問題	2	2		全:火・3				107・108
	森林環境と人間社会	2	2	全:火・3	全:火・4				108
植物と人間 演習	2	2	全:集中					108・109	

科目群：情報と人間

「情報と人間」の目標は、情報社会に生きる人間として、情報の価値を知るとともに、これを資産として活用するための知識と技能の習得を通じて、情報に関する科学的な見方、考え方を養い、社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報化の進展に主体的に対応できる能力を養うことにある。

主題	授業科目	毎週時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項
				前期	後期	前期	後期		
情報と人間	情報基礎	4	2	12 クラス 曜日・時間 限はシラ バス参照	2 クラス 曜日・時間 限はシラ バス参照	1 クラス 全:金 1・2			110・111
	プログラミング入門	4	2	全:金 3・4	全:金 1・2 全:金 3・4	全:金 1・2			111～113
	情報の探索と利用	2	2	全:月・3	全:月・3				113
	地図と地理情報	2	2	全:火・2					113
	情報化の光と影	2	2		全:木・2		全:木・1		114・115
	社会と統計	2	2		全:水・3		全:水・1		115

○総合教育科目B「特別枠」

主題	授業科目	毎週時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項
				前期	後期	前期	後期		
特別枠	1 回生セミナー	2	2	曜日・時間 限はシラ バス参照					116～121
	単位互換科目	2	別冊 参照	曜日・時間 限はシラ バス参照	曜日・時間 限はシラ バス参照	曜日・時間 限はシラ バス参照	曜日・時間 限はシラ バス参照		

○基礎教育科目（曜日・時限はシラバス参照）

授業科目	毎週 時間数	単位数	第 1 部		備考	シラバス 掲載項
			前期	後期		
数	線形代数Ⅰ	2	2	○		124
	線形代数Ⅱ	2	2		○	124
	解析Ⅰ	2	2	○		125
	解析Ⅱ	2	2		○	126
	解析Ⅲ	2	2	○		126・127
	解析Ⅳ	2	2		○	127
	数学基礎Ⅰ	2	2	○		128
	数学基礎Ⅱ	2	2		○	128
	数学基礎Ⅲ	2	2	○		129
	数学基礎Ⅳ	2	2		○	129
	応用数学A	2	2	○		130
	応用数学B	2	2		○	130・131
	応用数学C	2	2		○	131
学	基礎数学A	2	2	○	第2部開講（前期）	132
	基礎数学B	2	2		第2部開講（後期）	132・133
	統計学A	2	2	○		133
	統計学B	2	2		○	134
	物 理 学	基礎物理学Ⅰ	4	4	○	週2コマ開講
基礎物理学Ⅱ		4	4		○	週2コマ開講
基礎物理学Ⅰ-A		2	2		○	135
基礎物理学Ⅱ-A		2	2	○		136
基礎物理学Ⅰ-E		2	2	○		136
基礎物理学Ⅱ-E		2	2		○	137
基礎物理学F		4	4		○	週2コマ開講
基礎物理学Ⅲ		2	2	○		138
基礎物理学Ⅳ-A		2	2		○	138・139
基礎物理学Ⅳ-B		2	2		○	139
物理学Ⅰ		2	2	○		140
物理学Ⅱ		2	2		○	140
物理学A		2	2	○		141
物理学B		2	2		○	141
入門物理学Ⅰ		2	2	○		142
入門物理学Ⅱ		2	2		○	142・143
入門物理学実験		4	2		○	143
基礎物理学実験Ⅰ	6	3	○	○	144	
基礎物理学実験Ⅱ	6	3	○	○	145	

授 業 科 目	毎 週 時 間 数	単 位 数	第 1 部		備 考	シラバス 掲 載 項
			前 期	後 期		
物 質 科 学	基 礎 物 質 科 学	2	2	○		145・146
	基 礎 機 能 性 物 質 学	2	2		○	146
	基 礎 生 体 物 質 学	2	2		○	147
	基 礎 物 質 科 学 実 験	6	3	○		147
化 学	基 礎 物 理 化 学 A	2	2	○	○	148
	基 礎 物 理 化 学 B	2	2	○	○	148
	基 礎 有 機 化 学 I	2	2	○		149
	基 礎 有 機 化 学 II	2	2		○	149
	基 礎 無 機 化 学	2	2	○	○	150
	基 礎 分 析 化 学	2	2	○	○	150・151
	基 礎 有 機 化 学 M	2	2		○	151
	入 門 化 学	2	2	○		151・152
	基 礎 化 学 実 験 I	6	3	○	○	152
	基 礎 化 学 実 験 II	6	3		○	152・153
	化 学 実 験	4	2		○	153
生 物 学	生 物 学 概 論 A	2	2	○	○	154
	生 物 学 概 論 B	2	2		○	154・155
	生 物 学 概 論 C	2	2		○	155
	生 物 学 概 論 D	2	2	○		155・156
	生 物 学 概 論 I	2	2	○		156
	生 物 学 概 論 II	2	2		○	156
	生 物 学 概 論 III	2	2	○		157
	生 物 学 A	2	2	○		157
	生 物 学 B	2	2		○	158
	生 物 学 実 験 A	4	2	○		158
	生 物 学 実 験 B	4	2		○	159
生 物 学 実 験 M	6	3	○	○	159	
地 球 学	一 般 地 球 学 A-I	2	2	○		160
	一 般 地 球 学 A-II	2	2		○	160
	一 般 地 球 学 B-I	2	2	○		161
	一 般 地 球 学 B-II	2	2		○	161
	建 設 地 学	2	2		○	162
	建 設 地 学 実 習	2	1		○	162・163
	地 球 学 実 験 A	4	2	○		163
	地 球 学 実 験 B	4	2		○	164
図 形 科 学	図 形 科 学 I	2	2	○		164・165
	図 形 科 学 II	2	2		○	165

○外国語科目（曜日・時限はシラバス参照）

授 業 科 目	毎週 時間数	単位数	第1部		第2部		備考	シラバス掲載頁		
			前期	後期	前期	後期		第1部		第2部
								前期	後期	前・後期
英	College English I	2	1	○		○		172~178	230~233	
	College English II	2	1	○		○				
	College English III	2	1		○		○			
	College English IV	2	1		○		○			
	College English V	2	1	○		○				
	College English VI	2	1		○		○			
語	ACE : TOEIC650	2	1	○	○	○		179・180	233・234	
	ACE : TOEFL80	2	1	○	○					
	ACE : Films	2	1	○						
	ACE : Media English	2	1	○	○	○				
	ACE : Critical Writing	2	1	○	○		○			
	ACE : Public Speaking	2	1		○					
	ACE : Literature	2	1	○						
	ACE : Debate	2	1		○		○			
ド イ ツ 語	基礎1・2	4	2	○				182~187 と 188~192 194~196	235~237 と 238~240	
	基礎1	2	1			○				
	基礎2	2	1			○				
	基礎3	2	1		○		○			
	基礎4	2	1		○		○			
	応用1 A	2	1	○						
	応用2 A	2	1		○					
	応用1 B	2	1	○						
	応用2 B	2	1		○					
	特修1	2	2			○		190・192 193・196	239・240	
	特修2	2	2		○		○			
	特修1 a	2	2	○						
	特修1 b	2	2	○						
	特修3 a	2	2	○						
	特修3 b	2	2	○						
	特修4	2	2		○					
特修5	2	2		○						
特修6	2	2		○						
特修7	2	2		○						
特修8	2	2		○						
特修9	2	2		○						
特修10	2	2		○						
中級1	2	1	○		○		190・193・197	239・240		
中級2	2	1		○						
上級1	2	1	○							
フ ラ ン ス 語	基礎1・2	4	2	○				198~204	241~243	
	基礎1	2	1			○				
	基礎2	2	1			○				
	基礎3	2	1		○		○			
	基礎4	2	1		○		○			
	応用1 A	2	1	○						
	応用2 A	2	1		○					
	応用1 B	2	1	○						
	応用2 B	2	1		○					
	特修1	2	2	○		○		200~202 204	242・243	
	特修2	2	2		○		○			
	特修3	2	2	○						
	特修4	2	2		○					

授 業 科 目	毎週 時間数	単位数	第1部		第2部		備考	シラバス掲載頁				
			前期	後期	前期	後期		第1部		第2部		
								前期	後期	前・後期		
フ ラ ン ス 語	特 修 5	2	2	○				200・202・204				
	特 修 6	2	2		○							
	特 修 7	2	2	○								
	特 修 8	2	2		○							
	特 修 9	2	2	○								
	特 修 10	2	2		○							
	中 級 1	2	1	○		○		200・201・204	242・243			
中 級 2	2	1		○			200・202					
上 級 1	2	1	○									
中 国 語	基礎1・2	4	2	○				週2コマ開講	205・206 208～213	244～246		
	基礎1	2	1			○						
	基礎2	2	1			○						
	基礎3	2	1		○		○					
	基礎4	2	1		○		○					
	応用1 A	2	1	○								
	応用2 A	2	1		○							
	応用1 B	2	1	○								
	応用2 B	2	1		○							
	特 修 1	2	2	○		○						
	特 修 2	2	2		○		○					
	特 修 3	2	2	○								
	特 修 4	2	2		○							
	特 修 5	2	2	○								
特 修 6	2	2		○								
特 修 7	2	2	○									
特 修 8	2	2		○								
特 修 9	2	2	○									
特 修 10	2	2		○								
中 級 1	2	1	○		○		207・210・214	245				
中 級 2	2	1		○			208・210					
上 級 1	2	1	○									
ロ シ ア 語	基礎1・2	4	2	○				週2コマ開講	215～218	247～249		
	基礎1	2	1			○						
	基礎2	2	1			○						
	基礎3	2	1		○		○					
	基礎4	2	1		○		○					
	応用1 A	2	1	○								
	応用2 A	2	1		○							
	応用1 B	2	1	○								
	応用2 B	2	1		○							
	特 修 1	2	2	○		○						
	特 修 2	2	2		○		○					
中 級 1	2	1	○		○		216・218・219	248・249				
中 級 2	2	1		○			217	248・249				
上 級 1	2	1		○			217・219					
朝 鮮 語	基礎1・2	4	2	○				週2コマ開講	220～225	250～252		
	基礎1	2	1			○						
	基礎2	2	1									
	基礎3	2	1		○		○					
	基礎4	2	1		○		○					
	応用1 A	2	1	○								
	応用2 A	2	1		○							
	応用1 B	2	1	○								
	応用2 B	2	1		○							
	特 修 1	2	2	○		○					222・223	251・252

授 業 科 目	毎週 時間数	単位数	第1部		第2部		備考	シラバス掲載頁		
			前期	後期	前期	後期		第1部		第2部
								前期	後期	前・後期
朝 鮮 語 特 修	2	2		○		○		222・225	251・252	
中 級	1	1	○		○			222・223	251・252	
上 級	1	1	○					222～224		
日 本 語			○				留学生のみ対象	226～228		
1 A				○			〃			
1 B							〃			
2 A			○				〃			
2 B				○			〃			
3 A			○				〃			
3 B				○			〃			
4 A			○				〃			
4 B				○			〃			
5 A			○				〃			
5 B				○			〃			

○健康・スポーツ科学科目

(健康・スポーツ科学講義)

授業科目	毎週 時間数	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 頁
			前 期	後 期	前 期	後 期		
健 康 運 動 科 学	2	2	火 2 全	火 2 全		火 2 全	旧:健康運動科学論	256
体力トレーニング科学	2	2	火 2 全 木 4 全				旧:体力トレーニング科学論	256・257
ス ポ ー ツ 実 践 科 学	2	2	木 3 全 木 4 全	木 4 全			旧:スポーツ実践科学論	257・258

(健康・スポーツ科学実習)

授業科目	毎週 時間数	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 頁
			前 期	後 期	前 期	後 期		
健康運動科学実験実習 1	2	1		火 4 全			旧:健康運動科学科目 1	258・259
健康運動科学実験実習 2	2	1					旧:健康運動科学科目 2 休講	
体力トレーニング科学実験実習 1	2	1	火 3 CLI (全文) 木 1 EJI (全文)				旧:体力トレーニング科目 1	259・260
体力トレーニング科学実験実習 2	2	1					旧:体力トレーニング科目 2 休講	
スポーツ実践科学実験実習 1	2	1		水 2 全				260
バスケットボール 1	2	1	火 3 CLI (全文) 火 4 全 水 2 全 木 2 STI (全理)	水 2 全 木 1 EJI (全文) 木 2 STI (全理)	火 2 全			260・261
バスケットボール 2	2	1	木 1 EJI (全文)					261
バレーボール 1	2	1	火 3 CLI (全文) 火 4 全	火 3 CLI (全文) 火 4 全				261・262
サッカー 1	2	1	火 3 CLI (全文) 木 2 STI (全理)	火 3 CLI (全文) 火 4 全				262
サッカー 2	2	1	火 4 全					262
ハンドボール 1	2	1					休講	
ハンドボール 2	2	1					休講	
陸上競技 1	2	1	木 1 EJI (全文)					263
陸上競技 2	2	1					休講	
アーチェリー 1	2	1	火 3 CLI (全文) 火 4 全 木 2 STI (全理)	火 3 CLI (全文)	木 2 全			263
ソフトボール 1							休講	
ソフトボール 2							休講	

授業科目	毎週 時間数	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 頁
			前 期	後 期	前 期	後 期		
テ ニ ス 1	2	1	火3 CLI (全文) 火4 全 木1 EJI (全文) 木2 STI (全理) 木3 全 木4 全					264
テ ニ ス 2	2	1		木1 EJI (全文) 木2 STI (全理) 木3 全 木4 全				264
卓 球 1	2	1	木1 EJI (全文) 木2 STI (全理) 木3 全		火2 全			265
卓 球 2	2	1		火4 全 木1 EJI (全文) 木2 STI (全理)				265
バ ド ミ ン ト ン 1	2	1					休講	
バ ド ミ ン ト ン 2	2	1					休講	
ゴ ル フ 1	2	1					休講	
ゴ ル フ 2	2	1					休講	
フ ッ ト サ ル 1	2	1	火3 CLI (全文) 火4 全 木1 EJI (全文) 木2 EJI (全理)	火3 CLI (全文) 火4 全	木2 全			266
健 康 管 理 1	2	1	水5 全	水5 全				266
健 康 管 理 2	2	1					休講	

参考 (1)

平成20年度 新設・廃止科目一覧

平成20年度から下記のとおり科目を新設・廃止及び科目名の変更をします。

新設・廃止・変更	教 科	科目群	主 題	科 目 名	備 考
新設科目	基礎教育科目(講義)		化 学	基礎有機化学 M	
〃	基礎教育科目(実験)		生 物 学	生物学実験 M	
〃	外国語科目	英 語		ACE : TOEFL 80	
〃	外国語科目	英 語		ACE : TOEIC 650	
〃	外国語科目	英 語		ACE : Critical Writing	
〃	外国語科目	英 語		ACE : Media English	
〃	外国語科目	英 語		ACE : Literature	
〃	外国語科目	英 語		ACE : Public Speaking	
〃	外国語科目	英 語		ACE : Films	
〃	外国語科目	英 語		ACE : Debate	
〃	外国語科目	英 語		ACE : Discussion	
〃	外国語科目	新修外国語		中国語特修 1 ～中国語特修 10	
廃止科目	基礎教育科目(講義)		化 学	化 学 A	
〃	基礎教育科目(講義)		化 学	化 学 B	
〃	基礎教育科目(実験)		生 物 学	生物・化学実験	
〃	外国語科目	英 語		EW : TOEFL 80	
〃	外国語科目	英 語		EW : ビジネス英会話	
〃	外国語科目	英 語		EW : 英語でニュースを読む	
〃	外国語科目	英 語		EW : ディスカッション	
〃	外国語科目	英 語		EW : TOEIC 650	
〃	外国語科目	英 語		EW : 日常英会話	
〃	外国語科目	英 語		EW : リスニング・シャワー	
〃	外国語科目	英 語		EW : スクリーンイングリッシュ	
〃	外国語科目	英 語		EW : 理系のための英作文	
〃	外国語科目	英 語		EW : 文系のための英作文	
〃	外国語科目	英 語		EW : BBC/VOA を聞く	
〃	外国語科目	英 語		EW : インターネットイングリッシュ	
〃	外国語科目	新修外国語		ドイツ語中級 3 ドイツ語中級 4	
〃	外国語科目	新修外国語		フランス語中級 3 フランス語中級 4	
〃	外国語科目	新修外国語		中国語特修 1 a ～中国語特修 6 c	
〃	外国語科目	新修外国語		中国語中級 3 中国語中級 4	
科目名変更	総合教育科目 B	自然と人間	自然科学と人間	植物の機能と人間社会	旧名 : 生化学から見た人間と社会

平成7年度から20年度までの総合教育科目の開講実績一覧

[科目名は、20年度を基準に記載し、旧科目については、新科目に置き換える。
 ただし、単位互換科目は、他大学等提供科目を含む]
 (○：開講、 ———— ：未開講を示す)

○総合教育科目 A

主 題	授 業 科 目	7年度		8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度			
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部		
人 間 と 環 境	環 境 と 歴 史	○				○			○	○					○	○			○	○			○				○				
	日 本 の 公 害						○	○					○	○			○			○							○	○			
	技 術 と 環 境	○		○		○		○		○		○		○		○				○		○		○		○		○			
	環 境 と 健 康	○		○	○						○	○					○				○	○						○			
	生 活 と 環 境 問 題	○				○		○		○		○		○			○			○		○		○		○		○			
	開 発 と 環 境	○				○		○		○	○					○				○	○			○	○			○			
	環 境 と 法 ・ 行 政				○	○	○		○													○		○		○		○			
	環 境 と 経 済				○					○														○							
大 阪 市 ・ 大 阪	歴 史 の な か の 大 阪		○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○				○	○			
	上 方 の 文 化					○				○		○							○												
	大 阪 の 自 然	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○		○	○	○		
	大 阪 の 都 市 生 活	○		○				○		○				○		○				○		○				○		○			
	大 阪 の 都 市 づ く り	○		○		○		○		○					○		○			○		○				○		○			
	都 市 の 経 済 と ビ ジ ネ ス															○		○		○		○		○		○		○			
	大 阪 の 地 理															○		○		○		○		○		○		○			
	現 代 都 市 論																○		○		○		○		○		○		○		
	大 阪 の 空 間 文 化 論																○	○		○		○		○		○		○			
	国 際 地 域 経 済 と 大 阪																					○		○		○		○		○	
大 阪 落 語 へ の 招 待																											○		○		
生 命 と 人 間	生 と 死 の 倫 理			○			○	○		○		○		○		○				○	○		○				○	○			
	戦 争 と 人 間			○	○	○		○		○		○		○		○				○		○		○	○	○		○			
	生 命 と 進 化			○		○		○		○		○		○		○				○		○		○		○		○			
	現 代 の 医 療	○	○	○		○		○	○		○		○	○	○		○				○		○		○		○		○		
	人 体 を 考 え る					○				○					○	○					○					○					
	生 体 の し く み							○						○							○	○		○							
	生 命 と 法									○		○	○	○		○				○								○	○		
	健 康 へ の ア プ ロ ー チ									○		○		○		○					○		○				○				
特 別 枠	技 術 と 生 命										○		○		○		○			○		○		○		○					
	生 物 の 時 間 と 人 間 の 生 活																				○		○		○		○		○		
	大 阪 市 大 で ど う 学 ぶ か																			○		○		○		○		○			

○総合教育科目B
科目群：人間と社会

主題	授 業 科 目	7年度		8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部
人間と 知 識 ・ 思 想	哲 学 入 門	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○		○		○		○	○							○	
	倫 理 学 入 門	○		○		○		○		○		○		○		○		○	○							○			
	心理学への招待	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西 洋 の 思 想	○		○	○	○		○			○								○				○		○	○			
	東 洋 の 思 想	○				○				○				○	○	○			○										
	倫 理 学 の 展 開	○		○		○		○			○																		
	認 知 の 仕 組 み	○	○				○			○		○					○	○				○							○
	文化と社会の心理	○		○		○		○		○				○					○						○				
	性格心理学入門	○		○		○		○					○						○								○		
	人 間 と 宗 教	○	○	○		○		○	○			○		○		○				○			○	○			○		○
	倫 理 学 入 門	○	○	○	○	○		○		○	○		○		○				○				○	○			○		
	行動と学習の心理	○		○		○		○		○				○								○					○		
	感覚と近くの心理			○	○	○		○			○				○					○									
	対人行動の影響と意味																								○	○	○	○	
ゲームで学ぶ社会行動																								○	○	○	○		
日常の中の不思議を探す 演習																								○	○	○	○		
教育と発達心理学																									○	○	○		
教育と発達心理学 演習																									○	○	○		
読むこと書くことの科学																										○	○		
現 代 社 会 と 人 間	現代文化の社会学		○	○		○						○	○		○				○				○	○					
	社会科学のフロンティア					○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	日 本 国 憲 法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	都市的世界の社会学	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	日本と世界の教育	○	○	○	○	○		○	○	○			○	○	○								○				○		
	宗 教 と 社 会	○				○				○		○		○					○			○						○	
	現代社会学入門	○		○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	現代の社会問題	○		○	○	○	○	○	○		○		○	○										○	○	○	○		
	世界のなかの日本経済	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代経済学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	法 と 社 会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○			○		○	
	政 治 と 人 間	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
	現 代 の 経 営	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○					○	○					○	○	
	日 本 の 企 業	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○					○	○			○	○	○	○			
ライフサイクルと教育			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
現代社会と健康			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
家 族 と 社 会			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		

主題	授 業 科 目	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度		
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部
現代社会と人間	メディアの社会学									○	○			○	○		
	現代社会におけるキャリアデザイン											○	○	○	○		
	現代社会と大学											○	○	○	○		
	基礎会计学											○		○			
	経営情報と社会											○	○				
	現代文化の社会学 演習					○	○		○		○				○	○	
	現代の経営 演習						○		○	○	○					○	
	日本の企業 演習					○		○				○		○	○		
	国際理解と教育 演習							○	○			○					○
	現代の社会問題 演習									○	○						
現代社会と大学 演習												○	○	○	○		
社会と人間	現代の部落問題	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	都市社会と差別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	部落解放のフロンティア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	部落差別の成立と展開	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	障害者と人権Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	障害者と人権Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	女性学入門編									○	○	○	○	○	○	○	○
	女性学応用編									○	○	○	○	○	○	○	○
	女性学									○	○	○	○	○	○	○	○
	エスニック・スタディ入門編	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エスニック・スタディ応用編	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○		○	
部落産業論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
大阪の部落産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
障害者と人権Ⅲ 演習						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
エスニック・スタディ 演習									○		○			○			
市民活動のインターンシップ 演習												○					
人権の多様性の研究 演習												○	○	○			

科目群：歴史と文化

主題	授 業 科 目	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部
歴史	日本史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	東洋史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西洋史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本社会の歴史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	東洋社会の歴史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西洋社会の歴史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

主題	授 業 科 目	7年度		8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
歴史	現代の歴史	○		○	○	○		○	○	○		○					○			○								○		
	考古学入門			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ことばの歴史	○		○			○	○		○			○	○		○			○	○		○						○		○
	歴史学の世界 演習							○		○		○		○		○			○		○						○		○	
地域と文化	現代の地理学	○	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	都市の地理学			○		○		○	○	○		○		○		○		○		○		○		○			○	○	○	
	文化人類学入門			○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	文化とコミュニケーション					○				○				○				○				○						○		
	言語学入門					○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○		○			○						
	ことばと文化	○	○	○		○			○	○		○		○	○		○			○	○		○				○		○	
	景観と文化	○	○	○		○	○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	アジアの文化																						○		○		○		○	
	西洋の文化	○		○	○	○		○	○	○		○	○		○	○		○		○		○		○		○		○		○
	民族と社会																						○		○		○		○	
	アジアの地域と文化 演習							○		○		○												○		○		○		
	日本事情ⅠA	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	日本事情ⅠB	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	日本事情ⅡA	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○
日本事情ⅡB	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
文学と芸術	日本の古典文学																					○		○			○			
	東洋の文学	○		○	○					○							○												○	
	西洋の文学	○	○	○		○	○	○		○	○		○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本の詩歌			○		○	○		○		○	○		○		○	○		○	○		○		○	○	○	○	○	○	
	日本の物語	○		○		○		○		○	○		○		○	○		○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	
	日本の戯曲			○		○										○		○												
	芸術の世界	○	○	○		○		○	○	○		○		○		○	○		○	○		○		○		○		○	○	
	美の本質	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	東洋美術の流れ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○		○		○		○		○		
	西洋美術の流れ	○	○	○		○		○	○	○		○	○		○	○		○	○		○		○		○		○		○	
	音楽の諸相																						○		○		○		○	
文芸と芸術へのいざない 演習							○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○			

科目群：自然と人間

主題	授 業 科 目	7年度		8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
現代の自然科学	数学の考え方																							○	○			○		
	数学の歩み																						○	○			○	○		
	ニュートンからアインシュタインへ	○		○	○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	

主題	授 業 科 目	7年度		8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部
現代科学	マイクロとマクロの世界	○	○			○	○			○				○				○	○			○	○			○	○		
	物質の多様性	○		○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	
	化学の世界		○	○	○	○				○	○			○				○	○			○	○			○	○		
	現代の分子科学	○			○	○				○		○	○		○	○			○	○			○	○				○	○
	生物学への招待	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地球の科学	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	実験で知る自然の世界	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	地球学入門																				○	○		○	○		○	○	
	現代の自然科学																										○		
自然科学と人間	科学と社会	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代科学と人間	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	近代科学の成立			○	○			○	○			○	○		○	○			○	○			○	○			○	○	
	日本の科学技術	○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○			
	心と脳	○		○		○		○	○		○			○		○			○		○		○		○		○		○
	ドキュメンタリー・環境と生命															○	○		○	○		○	○		○	○		○	○
	植物の機能と人間社会																											○	
	実験で知る自然環境と人間																				○	○		○	○		○	○	
	森林環境と人間社会																						○	○		○	○		○
21世紀の植物科学と食糧・環境問題																								○	○		○	○	
植物と人間 演習											○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		

科目群：情報と人間

主題	授 業 科 目	7年度		8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部
情報と人間	情報基礎																							○	○	○	○	○	○
	プログラミング入門																							○	○	○		○	
	情報の探索と利用																							○		○		○	
	地図と地理情報	○			○	○		○			○	○			○	○					○			○			○	○	
	情報化の光と影	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会と統計																								○	○			○

○総合教育科目B

特別枠

主題	授 業 科 目	7年度		8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度	
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部
特別枠	一回生セミナー																			○	○		○		○		○		
	単位互換科目																							○	○	○	○	○	○

Ⅲ 全学共通科目シラバス（講義概要）等

1. 総合教育科目 A

科目名 英文科目名	(開講期 曜日・時限 クラス)	単位数
	②は第2部 ①は第1部	
	表示が無い場合は第1部	
	授業担当者	

日本の公害

Environmental Disruption of Japan

(前期 金・5 全)

2 単位

経営学研究科 畑 明郎

●科目の主題と目標

足尾鉍毒事件と別子・小坂・日立煙害事件の四大鉍毒事件発生後100年、イタイイタイ病と水俣病発生後50年経つが、四大鉍毒事件や、イタイイタイ病、熊本水俣病、新潟水俣病および四日市ぜんそくの四大公害事件などにおける「公害を湮滅しようとする構造」は、最近の大気汚染、土壌汚染、廃棄物問題などの公害・環境問題でも、相変わらず繰り返されている。そして、「公害は終わっていない」のである。

1990年代以降、環境問題化した地球温暖化やダイオキシン・環境ホルモンに対しても、最近、問題を湮滅しようとする「環境問題まきかえし」キャンペーンが意図的に展開されている。

本科目では、イタイイタイ病、足尾鉍毒事件、日立鉍山、四日市公害、大気汚染、土壌汚染、廃棄物問題、軍事公害、石油開発、地球温暖化、ダイオキシン・環境ホルモンなどの諸事例を通じて、「公害湮滅の構造」を分析する。

●授業内容・授業計画

教科書を用いて、下記の項目について解説する。

- ① イタイイタイ病
- ② 足尾鉍毒事件
- ③ 日立鉍山
- ④ 四日市公害
- ⑤ 大気汚染

- ⑥ 東京都六価クロム鉍毒事件
- ⑦ 大阪の土壌汚染
- ⑧ 産業廃棄物不法投棄事件
- ⑨ 軍事公害
- ⑩ 石油開発
- ⑪ 環境問題まきかえし
- ⑫ 地球温暖化問題まきかえし
- ⑬ ダイオキシン・環境ホルモン問題まきかえし
- ⑭ 環境リスク論批判

●評価方法

出席率、期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

新聞やテレビなどの環境問題報道を視聴すること。

●教材

教科書：畑明郎・上園昌武共編『公害湮滅の構造と環境問題』世界思想社、2007年。

参考書：

1. 畑明郎『イタイイタイ病』実教出版、1994年。
2. 畑明郎『金属産業の技術と公害』アグネ、1997年。
3. 畑明郎『土壌・地下水汚染』有斐閣、2001年。
4. 畑明郎『拡大する土壌・地下水汚染』世界思想社、2004年。

授業中にDVDも使用するので、欠席しないようにすること。

技術と環境

Technology and Environment

(後期 金・5 全)

2 単位

工学研究科 矢持 進 他

●科目の主題と目標

科学技術は人類の歴史とともに発展し、我々の生存と進化を支え、物質的繁栄を築くことに大いに貢献してきた。その一方で、技術は全知全能でない人間が造り出した産物であるためか、それ自体があるいは化学物質や廃棄物などを排出することを通じて大気圏・地圏・水圏の円滑な物質循環を阻害し、結果として地球生態系の崩壊を進めたとも言われている。技術革新と人間生存という視点から見ると、この21世紀初頭には人類の発展か衰退かの新たな「分水嶺」ではないかと考えられる。

本授業では、大気圏から水圏に至る環境汚染の実態を概説し、それを科学技術との関連において考察する。また、人と自然との共生を目指す科学技術のあり方を考え、その上で都市域およびその近傍における環境再生の方向性について講義する。

●授業内容・授業計画

- ①：技術論1（技術と環境との関わりおよびその変遷）
：五百井正樹
- ②：地球温暖化とその予測：増田喬史
- ③：エネルギー開発と環境保全：西岡真稔
- ④：沿岸開発と海岸環境の保全：重松孝昌
- ⑤：大阪湾生態系の現状と課題：矢持 進
- ⑥：内湾環境の修復技術：矢持 進
- ⑦：大阪の気候と熱環境：鍋島美奈子
- ⑧：都市被覆の改善によるヒートアイランド対策：西岡真稔
- ⑨：都市のエネルギー消費構造と課題：中尾正喜
- ⑩：大阪の地盤・地下水問題との方策：大島昭彦
- ⑪：水質汚染の実態とその対策：貫上佳則
- ⑫：廃棄物の実態とその対策：水谷 聡

- ⑬：廃プラスチックの実態とリサイクル：圓藤紀代司
 ⑭：技術論2（技術評価のあり方と課題）：五百井正樹

●評価方法

テーマごとのレポートで評価し、平均点60点以上で合格とする。

●受講生へのコメント

地域環境や地球環境問題に日頃から関心を持ち、その

原因や可能な対策について、「本当だろうか？」ということを含めて自問してみることを期待する。

●教材

プリントやOHPを併用する。

参考書：五百井正樹「環境ことはじめ」（北斗出版）

圓藤紀代司「高分子とそのリサイクルー分ければ原料、混ぜれば焼却ー」（裳華房）

環境と健康

Environmental Health

（前期 金・5 全）

2単位

医学研究科 中嶋 弘一 他

●科目の主題と目標

ひとは物理的、化学的、生物的、社会的な常に変化する環境の中で生きている。ひとと環境の相互作用を様々な角度から理解し、世界保健機関（World Health Organization, WHO）憲章に示された積極的な意味での健康の保持増進の立場から環境を考える。

●授業内容・授業計画

「様々な環境とひととの関わり (1) (2) (3)」について、圓藤吟史が担当する。生命の誕生の環境から変遷、人口動態と環境、感染症との戦い、化学物質による影響、癌原性の評価、地球環境保全、健康に生きる権利、持続性のある発展などを概説する。

「細菌感染症の脅威 (1) (2)」は、松本壮吉が担当する。自己増殖できるモノを生物と定義すれば細菌は地球上で最小の生物といえる。単純な構造で倍加的に増殖する旺盛な生命力により極限環境を含む数多の地球環境に適応し生存している。生体に侵入し増殖する能力を獲得した微生物が感染症を引き起こす。人に限定せず感染性を有するものが多く存在し、新興感染症は人類の未到達であった環境の微生物を人間社会に持ち込んだケースが多い。このように環境と感染症は密接に関わっており、本講義では細菌感染症の脅威と環境に特化して解説し考察する。

「C型肝炎と肝がん」は福島若葉が担当する。C型肝炎の侵淫度、主たる感染機会、肝炎から肝がんへの進展、肝がん進展の修飾因子などを疫学的観点より概説する。

「インフルエンザ対策とワクチン接種」は大藤さここが担当する。毎年繰り返すインフルエンザのインパクト、その予防としてのワクチン接種の位置づけ、および新型インフルエンザ発生のメカニズムと対応について概説す

る。

「ヒト新型インフルエンザウイルスとトリインフルエンザウイルスの関係 (1) (2)」は、小倉 壽が担当する。高病原性トリインフルエンザウイルス（H5N1）のヒトへの感染事例が1997年に香港で初めて報告され、その後、中国、東南アジアやアフリカを中心に発生し、これまでに330例以上に達し、その死亡率は60%に及んでいる。このような状況の中で、世界的流行を起こす新型のヒトインフルエンザウイルスがどのようにして生まれるのか、出現した場合どのように対応すれば良いのかな等を概説する。

「健康を脅かす動物；原虫、蠕虫、有害動物 (1) (2)」は宇仁茂彦が担当する。地球上の人々の40%はマラリアの流行地に住み、毎年300万人が死亡している。また、10億人が回虫、住血吸虫などの寄生虫に感染し、さらに毒蛇、有毒魚などによっても大きな被害を受けている。WHOは、これら熱帯病は、今後、地球の温暖化、自然環境の破壊などによって、大きく拡大することを予測している。熱帯寄生虫病の現状と対策について考える。「免疫と環境 (1), (2), (3)」は中嶋弘一が担当する。免疫の基本的なしくみの概略を話した後、環境と免疫疾患との関わり、HIV感染症と後天性免疫不全について概説する。

●評価方法

担当者7人による個別の評価を総合して判定する。それぞれレポートまたは授業中の小テストをもとに評価する。

●教材

教科書は特に指定しない。

開発と環境

Development and Environment

(後期 金・5 全)

2単位

経済学研究科 瀬戸口 明久

●科目の主題と目標

テーマ：科学技術と開発／環境

科学技術は自然環境をどのように変えてきたのでしょうか。近代ヨーロッパに生まれた科学技術は、開発を通じて環境を破壊してきたと言われていました。したがって科学技術の歴史を知ることは、現在の環境問題について考えるために重要なことです。この授業では、科学技術が開発や自然保護にどのようにかかわってきたのか歴史を振り返り、現代の環境問題をより深く理解するための材料にしたいと思います。

理系の皆さんは、自分たちが学んでいる科学技術が、歴史とともに社会のなかで形成され、自然環境を大きく変えてきたことを知ってください。文系の皆さんには、科学技術が、国土開発や自然保護、われわれの身近な自然とのつき合い方などに大きな影響を与えていることを知ってほしいと思います。

●授業内容・授業計画

「科学技術史」と「環境史」の両方の研究動向について話していきます。具体的な内容としては、明治以降の日本の環境史と、近代以降のグローバルな環境史の二つをあつかいます。可能な限り現代の環境問題とも絡めながら話す予定。授業計画は多少の変更の可能性がありますが、概ね以下の通り。

ガイダンス：科学技術と環境問題

第一部：近代日本の環境史

- 国土と環境 (1) 河川：「洪水」を征圧する
- 国土と環境 (2) 農業：「害虫」を根絶する
- 都市の環境 (1) 上下水道：「きれいな水」を飲む
- 都市の環境 (2) 「動物園」の誕生
- 戦後日本の開発と環境 (1) 産業公害と技術者
- 戦後日本の開発と環境 (2) 里山の保全

第二部 グローバル環境史

- 帝国主義とエコロジー (1) コロンブスの交換
- 帝国主義とエコロジー (2) 植物園とイギリス帝国
- 自然保護の成立 (1) イギリス帝国と自然保護
- 自然保護の成立 (2) アメリカと国立公園
- グローバル化と環境 (1) 生物多様性の保全
- グローバル化と環境 (2) 軍事テクノロジーと環境

まとめ：科学技術・開発・自然保護

●評価方法

期末試験とレスポンス・ペーパー（質問票）

●受講生へのコメント

環境問題のような複合的な問題を考えるためには、理系・文系両方のアプローチが必要です。いろいろな分野から積極的に学んでください。

●教材

教科書：授業時にプリントを配布する。

参考書：授業中に指示する。

歴史のなかの大阪

History of Osaka

(後期 水・5 全)

2単位

文学研究科 塚田 孝

●科目の主題と目標

私たちが住み、生活している大阪について、歴史的に振り返ることで、現在の私たちの立脚点を確かめる手掛りをえたい。

豊臣秀吉の大坂城とその城下町建設に始まる近世（江戸時代）の大坂は、現代都市大阪につながってくる直接の基点である。しかし、一方で、近世の大坂に生きた人々は、現在のわれわれの生活感覚とは異質な面も多い。この講義では、現代の基点である側面と異質な側面を意識しつつ、豊臣期から近世にかけての大坂の都市社会史にしばって話してみたい。講義では、鍵となる近世の史料（活字）を入り口として話を進めていくが、これにより大坂の歴史をより身近に感じてもらえればと思っている。

●授業内容・授業計画

この講義の前半では、大坂の都市空間の形成過程と、

都市社会を構成する諸身分・諸階層について概観する。後半では、孝子・忠勤褒賞の記録を手掛りに、都市民衆の生活の細部をうかがってみたい。

- ① 大和川付替え300年と都市大阪の形成
- ② 秀吉の大坂城と都市建設
- ③ 町奉行所と蔵屋敷－大坂の武士－
- ④ 大坂三郷の町と町人
- ⑤ 孝子・忠勤褒賞の動向と特徴
- ⑥ 都市民衆の暮らし①－職人・商人－
- ⑦ 都市民衆の暮らし②－町に関わるものたち－

各テーマについて2回程度で進めていくつもりである。重点的に述べる部分では、最先端の学説なども紹介するつもりなので、歴史学という学問の方法の一端にも触れてもらえればと思う。なお、授業の一環として、大阪歴史博物館の見学会を実施する（例年は、授業期間中の土曜日に実施）。

●評価方法

授業中に行なう小テスト、およびレポートなどで総合的に評価する。

●受講生へのコメント

身近な大阪に関する講義なので、話に出てきた場所(史跡など)に自ら足を運んでみるくらいの積極的な姿

勢で受講してほしい。

●教材

教科書：塚田孝『歴史のなかの大坂』岩波書店、2002年

教科書を軸として、補助的にプリントを配布して授業を進める予定である。

大阪の自然

Natural History in and around Osaka Plain

(後期 金・5 全)

2 単位

理学研究科 三田村 宗樹 他

●科目の主題と目標

大阪およびその周辺に広がる現在の自然環境は、地球の歴史の変遷の結果として成立したものである。私たちが生活している大阪平野は、もっとも新しい地質時代の新生代第四紀(およそ200万年前から現在まで)に形成されてきた。したがって、第四紀は現在の自然を知るうえで重要である。とくに平野やその周辺を構成する各種の地盤は人間生活や災害にも密接に関係している。また、このような環境は、大阪にとどまらず、日本各地の海岸平野に立地する大都市周辺にも共通した状況と見られる。

ここでは、大阪平野とそれを取り巻く地質環境や植生変遷について解説し、われわれの生活との関係について考える。

●授業内容・授業計画

1. 大阪平野とその周辺の地形配置および構成地質とその変遷 (三田村担当)

大阪周辺の山地・丘陵地・台地・低地で見られる地層や岩石を中心にして、地球の歴史や地球規模の現象が地域に対してどのような働きをしているのかを考える。

- (1) 山地の地質 大阪周辺の山地を主として構成する古生代～中生代の地層の形成過程とプレートテクトニクス (2回)。斜面災害と山地の地質 (2回)。
(2) 丘陵の地質 泉南・泉北、千里丘陵など現在ベッドタウンとして開発されている丘陵地を構成する

地層とその成り立ちと第四紀の自然環境の変遷。氷河性海水準変動・ミランコピッチサイクルと丘陵地の地層や化石 (2回)。

- (3) 平野の地質 縄文海進と平野の地層。建設工事と地盤災害に関係する平野の地層とその特性 (2回)。山地と低地間に介在する活断層と地震 (1回)

2. 大阪周辺の森林植生とその変遷史(塚腰 実 担当)

- (1) 化石植物群：メタセコイア化石植物群、第四紀化石植物群の特徴、古気候の変遷と古植生 (2回)。
(2) 現在の森林植生：植生の類型区分と分布、植生の遷移と二次林、人工林、人類が与えた植生への影響 (3回)。

●評価方法

授業の初期に与えるフィールドワーク課題に関するレポート (20点) と期末試験 (80点) で評価する。

●受講生へのコメント

講義は地学分野からみた「大阪の自然」が中心であるが、地学の基本的な考え方も含めて授業を行うので、高校での地学の履修の有無を問わない。

●教材

主な参考書: 地学団体研究会大阪支部編『関西自然史ハイキング』創元社、同『大地のおいたち』築地書館、梶山・市原著『大阪平野のおいたち』青木書店 (三田村・塚腰担当)、大阪市立自然史博物館展示解説第13集『ネイチャースクエア 大阪の自然誌』(塚腰担当)。

大阪の都市生活

Life in Osaka : Toward an Urban Renaissance

(後期 金・5 全)

2 単位

生活科学部 上田 博之 他

●科目の主題と目標

都市の現状は様々な問題にあふれ、快適な都市を構築するには課題が山積している。本講義では大阪を主題として、都市という「環境」やそこに居住する人々の生活問題を取り上げ、これからの都市のあり方を考える。

都市生活の主体である個人 (子ども、成人、高齢者、障害者など)、家族、地域コミュニティの問題と、これ

らを受け止める都市を構成する地域空間 都市環境に着目し、現代の大阪の都市生活の魅力や問題点、さらにはその未来像について考える場を提供する。

●授業内容・授業計画

第1回 上田博之

オリエンテーション

第2回 畠中宗一

- 家族社会学からみた都市の家族の現状とその課題
 第3回・第4回 中井孝章
 教育実践学からみた都市と子どもの現状とその課題
 第5回・第6回 大堀彰子
 臨床心理学からみた都市の子どもと家族の現状
 第7回・第8回 和知富士子
 児童福祉からみた都市の子どもと家族の現状
 第9回 上田博之
 都市の子どもの安全性
 第10回・第11回 佐藤由美
 郊外住宅地の変化とこれからの居住
 第12回・第13回 藤野淳子
 親子のコミュニケーションと住宅
 第14回 小伊藤亜希子
 共働き家庭の子どもの生活

- 評価方法**
 レポートにより評価する。
- 受講生へのコメント**
 非常勤講師を含めたオムニバス形式で行う。実践を踏まえた様々な知見を提供するので、毎回の講義出席が不可欠である。
 日頃から身近な生活問題や大阪というフィールドに関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望みたい。また新しく大阪に住み始めた受講生や、都市としての大阪を再考してみたい受講生を望む。
 資料の配付は、E-mail等で行う。
- 教材**
 教員が作成した資料を配布する。

<h2 style="margin: 0;">大阪の都市づくり</h2> <p style="margin: 0;">Urban Planning and Construction on “Osaka”</p>	(前期・金・5 全)	2単位
	工学研究科	日野 泰雄 他

●**科目の主題と目標**

都市大阪は、古代からわが国の、あるいは近畿圏の中心として、また東アジアをはじめとする国際拠点として、その立地条件を活かしつつ、上町台地を中心に先端的都市づくりを行ってきた。この歴史的資産とそこで培われてきた個性を継承しつつ、現代の都市大阪では、グローバル化と社会経済の変化、特に東京及び関東圏への一極集中が強まる中においても、259.5万人の常住人口と358.2万人の昼間人口（2005年国勢調査）の多様な活動が活発に行われている。

本科目は、我が国で最も昼間人口比率が高く、それ故、複合化・高度化する都市大阪の活動を支える都市基盤システム、並びに人々の活動と住まいの場を快適に整える都市空間の計画・設計について、5つのテーマ（安全、循環、流動、水と緑、居住）を設けて講義する。それぞれ、第一線で活躍する専門家が担当し、最新の情報とその具体例を通して各テーマの基礎知識をわかりやすく解説する。特に、テーマ毎に専任講師と大阪市の担当者が学術と実務の両側面から講義することで、大阪の都市づくりの沿革とそこでの種々の課題を実践的に学び、将来の大阪の都市像を描く素養を身につけることを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

- ① ガイダンス・都市大阪の沿革
 日野泰雄（都市基盤工学科）
 赤崎弘平（環境都市工学科）
- ② 災害から都市を守る（その1）地震と火災
 打明茂樹【大阪市消防局】
- ③ 災害から都市を守る（その2）台風
 谷池義人（建築学科）

- ④ 資源を循環させる（その1）エネルギーのシステム
 西村伸也（機械工学科）
- ⑤ 資源を循環させる（その2）都市廃棄物のシステム
 水谷 聡（環境都市工学科）
- ⑥ 人・物を流動させる（その1）都市港湾のシステム
 真田幸直【大阪市港湾局】
- ⑦ 人・物を流動させる（その2）都市交通のシステム
 日野泰雄（都市基盤工学科）
- ⑧ 法定都市計画
 赤崎弘平（環境都市工学科）
- ⑨ 水と緑に親しむ（その1）緑豊かな環境
 小西 昭【大阪市ゆとりとみどり振興局】
- ⑩ 水と緑に親しむ（その2）水辺の空間
 角野昇八（都市基盤工学科）
- ⑪ 住まいとまちづくり（その1）大阪の長屋
 横山俊祐（建築学科）
- ⑫ 住まいとまちづくり（その2）住宅まちづくり政策
 平岡 博【大阪市住宅局】
- ⑬ 講義のまとめ・大阪の都市づくりビジョン
 日野泰雄（都市基盤工学科）
- ⑭ 総括レポートの作成（課題の提示）
- ⑮ 総括レポートの発表会

- 評価方法**
 レポート（毎回、講義時間後半にレポートを作成・提出（全13回）および総括レポートの総合点）により評価する。
- 受講生へのコメント**
 これからの都市には、個別技術の機能や効率だけでなく、安全・安心、環境、福祉に十分配慮した都市づくりが求められており、その結果、自然と歴史と共生し得る美しい都市の実現が可能となる。ここでは、多様な視点

と技術の総合化が必要となる。受講生には、各回の講義資料、参考文献による学習に加えて、できるだけ都市づくりの現場に出かけて、講義内容を体感するように心掛けて欲しい。質問等があれば、原則として昼休み時間に日野またはTAを訪ねること。

都市の経済とビジネス

Urban Economy and Bussiness

(後期 水・5 全)

2単位

創造都市研究科 明石芳彦、小長谷一之

●科目の主題と目標

(前半) 海外への生産拠点の移転など、21世紀に入り、経済のグローバル化によって国境の役割がますます低下しています。一方、先進国の経済は、知識集約型の最先端産業や、イノベーション・アイデアに基づく新産業の段階に移行していきませんが、シリコンバレーをみてもわかるように、これらは都市圏のスケールでの頭脳産業都市に基盤をおいているのです。このように、経済の主体・単位として「国家」よりも「都市」がますます重要となってきました。大阪・関西の活性化も都市型産業の振興にかかっているといて過言ではありません。そこで本科目では、まず、ベンチャー型企業の発生によるまちづくりの紹介と、観光などの都市型産業振興の成功の法則性を考えていきます。

(後半) 新事業を通じて社会に新しい価値を提供し地域社会を元気にしたい。個人も組織もそう考えます。一方、事業開始は難しくありませんが、事業継続は容易ではありません。事業環境をどのように見て取り組むか。営利事業領域に止まらず、社会が必要とする事業の継続にはすべて経営能力が必要です。都市や地域における新規事業がいかなる基礎の上で展開されるかを論じます。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の通常の講義とし、各教員が分担で講じます。

【前半：小長谷一之】「ベンチャーのまちづくりと都市型産業振興」7回担当

- 第1回 都市経済について－なぜ新産業振興が大切か
(小長谷) 10月1日
- 第2回 産業振興型まちづくり (小長谷) 10月8日
- 第3回 立地特性とソフト系IT産業地域の例－ニュー
ヨーク／サンフランシスコ
(小長谷) 10月15日

●教材

それぞれの講義で、レジュメ・資料のプリントを配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。講義は原則として、プロジェクターやOHP、スライドを用いて行う。

- 第4回 都市型産業／まちづくりが成功するには－ソーシャル・キャピタル論 (小長谷) 10月22日
- 第5回 都市型産業／まちづくりが成功するには－マーケティング論 (小長谷) 10月29日
- 第6回 サービス業型ベンチャーのまちづくり－町屋・アート (小長谷) 11月5日
- 第7回 サービス業型ベンチャーのまちづくり－観光 (小長谷) 11月12日
- 【後半：明石芳彦】「社会を変えるベンチャー起業家」7回担当
- 第8回 ベンチャーへの期待と問題提起 (明石) 11月19日
- 第9回 時代の流れを変えるベンチャー事例 (1) (明石) 11月26日
- 第10回 時代の流れを変えるベンチャー事例 (2) (明石) 12月3日
- 第11回 地域経済における社会的企業・ベンチャー起業家 (明石) 12月10日
- 第12回 事業経営の基本 (1) (明石) 12月17日
- 第13回 事業経営の基本 (2) (明石) 12月24日
- 第14回 経済社会の変革とアントレプレナー (明石) 1月14日

試験

●評価方法

期末の筆記試験(選択式)を原則とする。

●教材

- (前半) 『まちづくりと創造都市』(塩沢由典・小長谷一之編著)、晃洋書房、2008年。
- (後半) 『ベンチャーが社会を変える』(明石芳彦編著)、ミネルヴァ書房、2008年。

大阪の地理

Geography of Osaka

(前期 水・5 全)

2単位

都市研究プラザ・文学研究科 水内 俊雄

●科目の主題と目標

現代都市、特に大阪府、大阪市をベースに生起するさまざまな社会問題の起源、歴史、現状について、実際に都市のフィールドワーク2回以上を行なうことによって、実感的にも把握してもらうことをめざしている。都市社会地理学として、都市社会の現状を「批判的」にどのように見るか、そして語り、文章にまとめることを少しでも身につけてもらいたい。その次に要請される、提言、そして実践など、水内が関わっている調査活動の紹介などを通じて、地理学が大阪にどのように貢献するのかを紹介してみたい。

●授業内容・授業計画

授業内容は地図や文字資料、映像をヴィジュアルに見せながら進めることを基本とするので、語られる都市空間の現実感覚を授業で養ってもらいたい。そしてフィールドワークが非常に重要な位置を占めるので、普段の講義で紹介するフィールドワーク術を学ぶとともに、実地でのまちを見る地図を読むトレーニングを積んでもらいたい。

- 1) 絵図からみた近世都市空間
- 2) 明治期末期の都市空間の拡大の諸相
- 3) 大正期の都市社会政策と居住状況
- 4) フィールドワーク1 (大阪市orその近辺)
- 5) 郊外の誕生、スラムの拡大
- 6) 戦時体制、空襲と都市

- 7) 戦後闇市から、戦災復興事業の功罪
- 8) ニュータウン、団地、スプロール
- 9) 都市改造、都市再開発
- 10) フィールドワーク2 (大阪市orその近辺)
- 11) 同和対策事業と住環境改善
- 12) 日雇労働者のまち、在日のまち、沖縄人のまち
- 13) 福祉政策と都市居住の関連
- 14) 現代都市とホームレス
- 15) フィールドワーク3 (大阪市orその近辺)

●評価方法

出席の平常点に加えて、2 or 3 回課す予定のフィールドワークレポートを必須とする。このレポート内容をベースに成績評価をおこなう。

●受講生へのコメント

この手の研究は、まず現場に対してどれだけの情報を持ち、実際にその場を知っているかと言う、現場のリアリティ感覚が最も問われる。フィールドワークで都市を「批判的に見る」目をやしなっておいて欲しい。また下記の使用教材は地図が多用された内容となっており、これなしで授業を受けると、理解不能となり、フィールドワークにも差し支えることを予め注意しておいて欲しい。

●教材

『モダン都市の系譜—地図から読み解く社会と空間—』(ナカニシヤ出版)を事前に必ず購入のこと

現代都市論

—産業の再生と大都市、大阪を中心に—

Contemporary Urban Studies

(前期 木・2 全)

2単位

経営学研究科 富澤 修身 他

●科目の主題と目標

都市再生の必要性が言われるようになってかなりの時間が経つ。小泉内閣の時代には都市再生本部なるものも設けられ、都市再生は政府の基本方針に掲げられるまでになった。そのもとでさまざまなプロジェクトが進められ、また現在も進行中だが、はたしてこれらはほんとうに都市再生に資するものなのか。実は、かなりの問題があると言わねばならない。外から諸産業を引っ張ってきたり、道路や通信網などの従来のインフラ整備を進めたりしても、それが都市経済の活性化につながるとは言えなくなっている、それが現代である。都市再生を推進するには、転換期にある都市経済の内容を把握し、それに見合った都市政策を講じることが必要なのである。

大阪の都市再生も同様である。これまで、東京にあるものは大阪にも欲しいとひたすら東京追随路線を走って

きた結果が、今日の大阪の状況と言える。巨大開発や大規模イベントに頼らずに、いかにして地に足のついた大阪再生のプランを描けるのか、それが問題だ。残念ながら、巷にあふれんばかりに流布されてきた楽観的な大阪論のビジョンは、結局のところ歴史的かつ実証的な分析をとおした現実認識に立脚したものではなかった。「あったらいいな、そうあったらいいな」といった希望リストのような計画では、大阪の都市再生は不可能である。

本講義では、大阪の都市再生を具体的課題としながら、グローバリゼーションと福祉国家の危機の中にある現代都市の現状をどのように把握したらよいか、その上で、都市再生構想を都市のいかなる可能性から描くことができるのか、を論じるものである。

●授業内容・授業計画

安井・富澤・遠藤編『産業の再生と大都市』をテキスト

トとし、その各章を掘り下げる形で各教員がオムニバス形式の講義を行う。その内容と分担は、以下の通り。現時点で、全15回の講義と試験を予定している。教科書の該当部分を事前に読んでおくことが必要となる。

- 1 序章「大阪問題と大阪の産業構造」 富澤
- 2 第1章「戦後大阪産業の変遷」 安井
- 3 第3章「大阪の交通と都市構造」 西村
- 4 第3章「大阪の交通と都市構造」続き 西村
- 5 第4章「機械工業と産業集積の系譜」 中瀬
- 6 第4章「機械工業と産業集積の系譜」続き 中瀬
- 7 第5章「繊維産業」 富澤
- 8 第6章「卸売業の「付加価値」化」 加藤
- 9 第9章「小売業とまちづくり」 田村
- 10 第10章「大阪産業のグローバル化」 鈴木
- 11 第11章「大阪の産業再生と地域産業政策」 本多
- 12 第12章「大都市自治体の産業政策」 本多
- 13 終章「産業活動の資産としての都市」 立見
- 14 終章「産業活動の資産としての都市」続き 長尾
- 15 学期末試験

●評価方法

基本的に期末の筆記試験によって行います。

●教材

安井國雄・富澤修身・遠藤宏一編著『産業の再生と大都市』ミネルヴァ書房、2003年。

国際地域経済と大阪

International Regional Economy and Osaka

(後期 水・4 全)

2単位

創造都市研究科

小長谷一之(代表)、中本悟
森澤恵子、朴泰勲、杉本孝

●科目の主題と目標

いまや世界を解くキーワードとなったグローバル化、その影響は世界のすみずみまで及ぶようになりました。われわれが身近に感じているように、21世紀は、隣の工場がアジアに移転したり、外国の商品や会社が入ってきたりする時代になってきているのです。

しかし、そのような中で各国の地域や地方には、独自の暮らしと経済活動があり、グローバル化に対抗したり、地域が活性化していくためにも、地域独自の戦略や政策が必要となってきています。また経済がうまく機能するためには現地化・ローカル化といった働きも欠かすことができません。私たちの大阪・関西の暮らしが良くなるかどうか、こうした動きによってきまるといっても過言ではありません。

このように、グローバルのみならず、リージョナル、ローカルな視点から現代の経済の動向を捉える新しいコンセプトが「国際地域経済」という考え方です。この授業では、この国際地域経済という新しい視点から現在の経済の動きをわかりやすく説明し、最後に大阪・関西との関係、その振興策について考えてみたいと思います。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の通常の講義とし、各教員が分担で講じる。

[1] グローバルな経済の動き

- 第1回 イントロダクション(中本) 10月1日
- 第2回 現代世界経済とグローバリゼーション論争(中本) 10月8日
- 第3回 グローバリズム、リージョナリズム、ローカルリズム(中本) 10月15日

[2] リージョナルな経済の動き

- 第4回 ASEANにおけるリージョナリズム(1)(森澤) 10月22日
- 第5回 ASEANにおけるリージョナリズム(2)(森澤) 10月29日
- 第6回 中国の産業集積地域(渤海湾、華東、華南)(1)(朴) 11月5日
- 第7回 中国の産業集積地域(渤海湾、華東、華南)(2)(朴) 11月12日

[3] ローカルな経済の動き

- 第8回 中国経済の発展プロセス(杉本) 11月19日
- 第9回 日中政治経済関係の現状と諸問題(杉本) 11月26日

[4] 国際地域経済の動きと大阪の振興

- 第10回 工場はどこへいくー工業立地論(小長谷) 12月3日
- 第11回 アジア都市発展論(1)(小長谷) 12月10日
- 第12回 アジア都市発展論(2)(小長谷) 12月17日
- 第13回 先進国都市・大阪の課題(小長谷) 12月24日
- 第14回 まとめ(小長谷) 1月14日
試験

●評価方法

期末の筆記試験(選択式)を原則とする。

●教材

(参考書)

『都市経済再生のまちづくり』(小長谷一之著)、古今書院。

大阪落語への招待

Introduction to Osaka Rakugo

(前期 金・5 全)

2単位

文学研究科 久堀 裕朗

ゲスト 桂春之輔・春雨ほか

●科目の主題と目標

江戸時代、商都として栄えた大阪は、多くの新しい文化を生み出し、育んだが、その中の一つに落語をあげることができる。落語は、16世紀末の安土桃山時代、大名の側近にあって咄相手や講釈をした御伽衆の営為に端を発し、直接には17世紀後半、京都・大阪・江戸で辻咄をする商業的落語家が登場し、その芸が発達を遂げたものである。江戸後期には寄席での興行が始まり、近代にかけて大阪・江戸（東京）を中心に最盛期を迎えた。当初は単に「はなし」と呼ばれ、その後「軽口・軽口ばなし」と言われたが、咄を効果的に結ぶ「落ち」の技法が確立されるとともに「落としばなし」の名称が定着、近代に入って「落語（らくご）」と音読みされるようになった。一人の演者が、扇子や手拭いその他、わずかな道具を使うだけで、全ての登場人物を演じ分け、季節や場面を髣髴とさせる高度な話芸が育まれたのは、先人たちの長きにわたる丹精のたまものである。

この科目は、「大阪落語」の第一線で活躍する落語家をゲストスピーカーに迎えて、落語の実演をたっぷり聴くとともに「落語の情（優しさと思いやりと）」という観点から、主として大阪を中心に発達を遂げてきた落語の本質と特色について考察する。落語の歴史、芸の約束事、周辺芸能との関係、東西落語の比較など、様々な視点を導入することによって「落語」というジャンルへの理解を深め、併せて伝統芸に対する演者の姿勢を知ることにより、現代における落語の意義やあり方について受講者の思索を深めることを目標とする。またそれらを通して、落語にとどまらず、広く大阪の歴史・文化・芸能について考える視座を提供しようとするものである。

●授業内容・授業計画

① 開講にあたって

科目の趣旨、講義計画、履修の心得、評価のこと、など。

②～⑤ 初級編

まずは、落語とはいかなる芸能かを4回にわたって解説する。

落語を演じるときの基本的なルールや、扇子と手拭いの使い方、落語のルーツや現在に至るまでの歴史、そして江戸落語との比較など、様々な角度から大阪落

語を分析する。

(テーマ) 落語とは・落語の演じ方・東西落語・落語のルーツなど。

⑥～⑨ 中級編

続く4回は中級編として、長屋の暮らしや、落語に影響を与えた他の芸能、寄席囃子などを取り上げ、昔の大阪や大阪落語の芸に対する理解を深める。

(テーマ) 長屋の暮らし・落語と義太夫・落語と大阪の芝居・寄席囃子など。

⑩～⑬ 上級編

最後の4回は上級編として、「落語の情」という観点から、大阪落語の特色について更に深く掘り下げていく。また最終回には、寄席への招待として、それまでの授業に増して本格的に落語の実演に接する機会を提供する。

(テーマ) 落語の中の男と女・親子の情愛など。

⑭ 終講にあたって

授業全体のまとめ

●評価方法

毎回の授業に対する感想・意見（コミュニケーションカードに記入・提出）と期末のレポートによる（評価の比重は、前者50%・後者50%）。ただし、本科目は、出席することに大きな意義があるので、②～⑭の授業のうち5回以上欠席した者については、原則として成績評価を行わない。

●受講生へのコメント

本科目で取り上げるのは、落語という一伝統芸能であるが、講義で扱われるテーマは、落語の世界にとどまらない広がりを持つものである。各回の講義を一つの契機として、受講者が、落語のみならず、芸能全般、伝統と現代、大阪の歴史と文化等々について、更に考察を発展させていくことを期待したい。

※本科目の設置趣旨から、市民への公開授業としても提供するため、受講者数は200名程度とする。

●教材

テキスト：プリント配布。

参考書：天満天神繁昌亭・上方落語協会編 やまだりよこ著『上方落語名鑑 ぶらす上方噺』（出版文化社）
豊田善敬編『桂 春団治 はなしの世界』（東方出版）

生と死の倫理

Bioethics

(後期 水・5 全)

2単位

文学研究科 土屋 貴志

●科目の主題と目標

生命倫理学 (bioethics) ないし医療倫理学 (biomedical ethics) のトピックのうち、人工妊娠中絶を取り上げる。本科目は、人工妊娠中絶をめぐる倫理的問題に関して、学生諸君が自分の意見を持ち、その意見を倫理的に根拠づけられるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業予定は下記の通りだが、適宜変更する可能性もある。

1. オリエンテーション
2. 妊娠と出産について
3. 中絶をめぐる日本の状況
4. 人工妊娠中絶の手術
5. 中絶論争 (1) 生命尊重派の主張
6. 中絶論争 (2) 中絶権擁護派の主張
7. 討論 1 (母体保護法の経済的理由を削除すべきか)
8. 中間的総括 (中間レポート)
9. 出生前診断と選択的中絶 (1)
10. 出生前診断と選択的中絶 (2)
11. 減胎手術
12. 中絶胎児の利用
13. 討論 2 (中絶胎児の利用を進めるべきか)
14. 中絶カウンセリング
15. 全体の総括 (期末レポート)

これらのテーマについて、講義やプリント資料、ビデオ視聴などによって基本的知識を得たあと、問題点を絞り込み、そこで下される倫理的判断を抽出し、その根拠

を検討する。倫理的判断の根拠の検討にあたっては、グループディスカッションや討論なども取り入れる。

●評価方法

担当教員は、授業期間中に2回課すレポートの成績に、授業への参加姿勢などを勘案して評点原案を作成する。受講者は、半期にわたる自らの学習活動を評点化しその根拠を記した「自己評価レポート」を最終授業時に提出する。担当教員は評点原案と自己評価レポートの内容を突き合わせて成績を決定する。

●受講者へのコメント

1. 所定の事項を記入した受講カードを提出すること。受講カードは所見と評価を記録する「カルテ」として用いる。受講者は自分の受講カードの記載内容をいつでも閲覧できる。
2. 受講者の顔と名前を覚えたいので、顔と氏名を積極的に売り込むこと。履修登録者数が20人を越えた場合は、顔写真の受講カードへの貼付を受講者全員に義務づける。
3. レポート・自己評価レポート・受講カードは成績採点終了後に返却する。返却の掲示が出たら、教務部教務課まで各自受け取りに来ること。
4. 受講カードと自己評価レポートのいずれか一方でも未提出の場合は履修放棄とみなす。

●教材

教科書：とくに指定しない。

参考書：授業中に紹介する。

その他、プリント資料を配布し、ビデオを上映する。

戦争と人間

War and Human

(後期 水・5 全)

2単位

文学研究科 早瀬 晋三

●科目の主題と目標

「ポスト戦後時代の東南アジア」。首相の靖国神社参拝問題などで「戦後が終わらない」日本にたいして、ほかの東・東南アジアでは「ポスト戦後」の動きが顕著になってきている。「ポスト戦後」状況は戦争を忘却し、「戦前」に直結する危険性も孕んでいる。だとすると、戦争責任や戦後責任を無縁と考えている日本の若い世代には、現在を「戦前」にしないための責任が生じてきている、とすることができる。いま、日本の若い世代は、アジアにおける対日戦争の歴史とその「記憶」の伝えられ方に目を向け、今後の交流を考えていく必要があるだろう。

本講義では、今日の東南アジア各国・地域の博物館で

の展示や碑文、教科書で、日本との戦争がどのように語られ、今日のそれぞれの社会に影響を与えているかを考える。また、戦中の日本人が東南アジアの歴史や文化にたいして無知であったことから、現地の社会と摩擦を起こしたことを理解し、「ポスト戦後」時代に必要な歴史・文化的知識について考える。

マスコミなどでは、おもに中国や韓国の反日報道がとりあげられているが、日本の「大東亜共栄圏」構想に巻き込まれた東南アジアでも、新たな動きが起こっている。戦後の東南アジアでは、日本との経済関係が発展したが、近年の中国の経済成長とともに中国との関係が緊密になってきている。社会に出て接する機会の多い東南アジアの今日の対日観について学び、今後の交流を考える。

●授業内容・授業計画

1. 授業の目的
2. 「ポスト戦後」責任とは？
3. シンガポール－多民族国家形成のための教訓
4. マレーシア－つぎの世代へ繋ぐ記憶と忘却
インドネシア－フロンティア史のなかの虐殺
5. タイ－観光資源としての戦争遺跡
6. タイ－日本人の慰霊活動
7. 討論－日本人の慰霊活動
8. ミャンマー（ビルマ）－語られない日本の占領
9. フィリピン－アメリカと日本のはざま
10. フィリピン－フィリピン人の対日観
11. 韓国と中国の対日観
12. 日本の戦争博物館
13. 討論－「ポスト戦後」責任とは？
14. 総括

●評価方法

授業中に書く小レポート（30%）と試験（70%）。正直者がバカをみない評価をします。試験には書籍2冊まで持ち込み可です。

●受講生へのコメント

現在を「戦前」にしないためにどのような努力が必要なのか、まずは知り、そして考えてください。視聴覚教材でわかった気にならず、文献もしっかり読んでください。

●教材

教科書：早瀬晋三『戦争の記憶を歩く 東南アジアのいま』岩波書店、2007年。

参考文献として『岩波講座 アジア・太平洋戦争』（岩波書店、2005-06年、全8巻）をあげておきます。最新の研究状況がわかります。各論文末の文献目録も参考にしてください。

生命と進化

Life and Evolution

（前期 金・5 全）

2単位

理学研究科 田村 実 他

●科目の主題と目標

地球上の生命は、地球の歴史とともに進化してきた。その記録は、化石として残るか、あるいは現在の生命体に残り書き残されている。この科目では、現在の生物に残された進化の記録を、種、個体、細胞、分子と、マクロからミクロまでのレベルに分けて、わかりやすく紹介する。

●授業内容・授業計画

1. 細胞の進化（若林和幸担当）

地球の誕生から十数億年を経て最初の生命である原核細胞が出現し、その後、約20億年をかけて私達の体を構成するような真核細胞が進化した。この原核細胞から真核細胞への進化の過程について、細胞生物学、形態学、生化学的観点から解説する。

- (1)・(2) 細胞の基本構造の解説。
- (3)・(4) 原核細胞から真核細胞への進化の道すじ。核や細胞内小器官の形成と細胞機能の多様化。
- (5) 細胞の多様化、巨大化を支えたエネルギー獲得系の進化。

2. 分子の進化（中村太郎担当）

進化に関する研究は分子生物学技術の導入によって大きく進展したが、これが具体的にどのようなものであるかを解説する。

- (1) 分子の進化を理解するために必要な分子生物学の知識について説明する。
- (2) 分子時計。DNAには生物進化の歴史が刻まれている。人類の起源をはじめ、DNAを調べて明らか

になった様々な例を紹介する。

- (3)・(4) 分子生物学の発展により、進化をDNAなど分子のレベルで研究する分子進化学が誕生し、進化学は劇的に進展した。この分子進化学のさまざまな説を紹介する。

3. 植物の進化（田村 実担当）

最初の生物誕生から、植物の陸上進出を経て、現在の被子植物の繁栄に至るまでの植物進化の道すじを、形態学、解剖学、発生学、細胞学、分子生物学、古生物学などの観点から解説する。

- (1) 生物の起源と初期進化。化石やいろいろな進化の仮説を紹介する。
- (2) 藻類の進化の道すじと生物の陸上進出。
- (3) コケ植物・シダ植物・裸子植物の進化の道すじ。
- (4)・(5) 被子植物の進化の道すじ。花の器官決定遺伝子などの最新の話にも触れる。

●評価方法

期末試験で評価する。

●受講者へのコメント

講義は分子、細胞、個体・種の3部構成であり、生命とは何か、進化とは何かを考える話題を提供する。

●教材

主な参考書：「細胞の分子生物学」第3版（ニュートンプレス）、宮田 隆「分子進化学への招待」（講談社ブルーバックス）、田村道夫「植物の系統」（文一総合出版）

現代の医療

Recent Advance in Medical Treatment

(前期 水・5 全)

2 単位

医学研究科 白木 邦彦 他

●科目の主題と目標

近年、疾病の診断や治療を行う医療技術はめざましい進歩を遂げ、疾病の早期診断や最先端治療が行われるようになってきた。悪性腫瘍（がん）、脳血管障害、心臓病における早期診断または最新の治療により確実にその予後が改善しつつある。悪性疾患としては、胃がん、大腸がん、肝臓がん、白血病等の早期発見、治療の進歩について解説する。また、外傷医療や救急医療に対する取り組みも変わってきている。これらの発展で近年は多くの救急患者の救命率が上昇してきている。最近ではメタボリックシンドロームという概念で捉えられている、肥満、糖尿病、高脂血症、高血圧を総括的にとらえての診断、治療が進んできている。これらの疾病を予防することが最終的には心臓病や脳血管障害への予防とつながり、社会人が十分認識しておく必要のある疾患である。手術に関しては以前と比べるとできるだけ患者さんに加える負担を少なくする工夫が行われており、各種内視鏡手術も増加してきている。

わが国においては、本格的な高齢化社会へと突入し、人口構造の変化が急激に起こってきている。このように医療を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、国民の医療に対する関心も高まりつつある。そのため、医療従事者以外も、現代の医療に対して一定の知識を有することが望ましい。

授業に関しては、基本的には臓器別の講義を行う。画像診断学、救急医学のように臓器全般にかかわる

講義もある。14回の講義全体を通して、現代の医療に関して知識を深めてもらう予定である。

●授業内容・授業計画

- 1 循環器疾患（心臓血管、高血圧）
- 2 消化器疾患（胃、小腸、大腸）
- 3 肝臓、胆嚢、膵臓疾患（肝炎など）
- 4 内分泌・代謝疾患（糖尿病、高脂血症など）
- 5 血液疾患（貧血、白血病など）
- 6 神経・筋肉疾患、老年医学（ギランバレー症候群など）
- 7 神経精神疾患（うつ病など）
- 8 産婦人科学
- 9 整形外科学
- 10 腫瘍外科学
- 11 循環器外科学
- 12 放射線医学
- 13 小児科
- 14 救急医療

●評価方法

テスト、出席率（70%以下のものには、単位を与えない）

●受講生へのコメント

健康、医療についての一定の知識は、社会人として必須のものである。現代の医療についての理解を深めてほしい。

●教材

特定のものを使用しない。

生命と法

Life and law

(前期① 水・5 全)

2 単位

法学研究科 安竹 貴彦 他

●科目の主題と目標

主題は「生命に関わる法的諸問題」である。直接的か間接的かを別にすれば、生命と全く無関係な法はほぼ存在しえないといってよいであろう。また同時に法は社会内における様々な異なる価値を調整し、結びつける役割をも果たしている。戦争のルール、死刑や堕胎の是非、安楽死の問題などは古くから論じられてきたし、近年では医療や科学技術の進歩に伴い、臓器移植、遺伝子治療、出生前診断、クローン、薬害問題などへの対処も法の重要な任務となりつつある。また環境問題への関心の高まりとともに、法の対象とする「生命」はもはや人間だけにはとどまらなくなっている。

本講義ではこれらの中から、重要かつ初学者にも関心を抱きやすいと思われる幾つかの問題をとりあげ、その

実態と問題点を提示するとともに、これに対し法が「従来いかに対処してきたのか」、また「現在の到達点と残された課題は何か」を受講生諸君と一緒に明らかにすることを試みたい。これら一連の作業が「法とは何か」、あるいは「法的思考とはどのようなものか」「法的責任とは何か」という命題へのアプローチとなれば幸いである。

●授業内容・授業計画

授業は、法制史・法哲学・国際法・刑事法・社会法・医事法などを専攻する本学あるいは他大学の法学研究科教員らが講師となり、オムニバス形式で進める。各回の授業では、概ね以下のようなテーマを取り上げられることを予定しているが、変更になることもありうる。各回のより詳細な内容については、初回授業の際に示す予定であ

る。

- 1 はじめに
- 2 安楽死・尊厳死
- 3 患者の自己決定権
- 4 医療事故への対応
- 5 社会保障と生命
- 6 過労死を考える
- 7 生殖補助医療・1
- 8 生殖補助医療・2
- 9 死刑をめぐる諸問題
- 10 「正義の戦争」？
- 11 遺伝子をめぐる諸問題
- 12 患者情報の保護と利用
- 13 知的財産権と医薬品アクセス問題
- 14 まとめ

●評価方法

通常の学期末試験による。

●受講生へのコメント

本講義は全学共通教育科目として提供されるものであることから、細かい法理論や判例などの理解よりも、社会の実態と問題点の析出、その解決手段としての法の機能や考え方を解明することに重点を置きたい。それゆえ、講師による一方的な講義ではなく、受講生諸君との質疑応答や、参考文献の紹介、あるいは小レポートの提出なども実施したいと考えている。積極的な態度で受講してほしい。

●教材

講義の際に、必要に応じ資料等を配布する。当該講義のみの配布とし、後からの配布要求は受け付けられないため、受領し忘れることのないよう留意してほしい。

生命と法

Life and Law

(前期② 水・1 全)

2単位

法学研究科 安竹 貴彦 他

●科目の主題と目標

主題は「生命に関わる法的諸問題」である。直接的か間接的かを別にすれば、生命と全く無関係な法はほぼ存在しえないといってよいであろう。また同時に法は社会内における様々な異なる価値を調整し、結びつける役割をも果たしている。戦争のルール、死刑や堕胎の是非、安楽死の問題などは古くから論じられてきたし、近年では医療や科学技術の進歩に伴い、臓器移植、遺伝子治療、出生前診断、クローン、薬害問題などへの対処も法の重要な任務となりつつある。また環境問題への関心の高まりとともに、法の対象とする「生命」はもはや人間だけにはとどまらなくなっている。

本講義ではこれらの中から、重要かつ初学者にも関心を抱きやすいと思われる幾つかの問題をとりあげ、その実態と問題点を提示するとともに、これに対し法が「従来いかに対処してきたのか」、また「現在の到達点と残された課題は何か」を受講生諸君と一緒に明らかにすることを試みたい。これら一連の作業が「法とは何か」、あるいは「法的思考とはどのようなものか」「法的責任とは何か」という命題へのアプローチとなれば幸いである。

●授業内容・授業計画

授業は、法制史・法哲学・国際法・刑事法・社会法・医事法などを専攻する本学あるいは他大学の法学研究科教員らが講師となり、オムニバス形式で進める。各回の授業では、概ね以下のようなテーマを取り上げることを予定しているが、変更になることもありうる。各回のより詳細な内容については、初回授業の際に示す予定である。

- 1 はじめに
- 2 安楽死・尊厳死
- 3 患者の自己決定権
- 4 医療事故への対応
- 5 社会保障と生命
- 6 過労死を考える
- 7 生殖補助医療・1
- 8 生殖補助医療・2
- 9 死刑をめぐる諸問題
- 10 「正義の戦争」？
- 11 遺伝子をめぐる諸問題
- 12 患者情報の保護と利用
- 13 知的財産権と医薬品アクセス問題
- 14 まとめ

●評価方法

通常の学期末試験による。

●受講生へのコメント

本講義は全学共通教育科目として提供されるものであることから、細かい法理論や判例などの理解よりも、社会の実態と問題点の析出、その解決手段としての法の機能や考え方を解明することに重点を置きたい。それゆえ、講師による一方的な講義ではなく、受講生諸君との質疑応答や、参考文献の紹介、あるいは小レポートの提出なども実施したいと考えている。積極的な態度で受講してほしい。

●教材

講義の際に、必要に応じ資料等を配布する。当該講義のみの配布とし、後からの配布要求は受け付けられないため、受領し忘れることのないよう留意してほしい。

健康へのアプローチ

Approach to health

(前期 金・5 全)

2 単位

生活科学研究科 羽生 大記 他

●科目の主題と目標

少子高齢化が急速に進む現代日本社会において、いかにして自らの健康を保持、増進し、より長い健康寿命を達成するかは、喫緊の社会的命題であると共に、一人一人のかけがいのない人生においても大変重要な課題です。本講座においては、基礎的分野及び臨床医学的分野における多彩な専門領域のエキスパートである講師から、健康に生きるためのアプローチ法を学びます。

●授業内容・授業計画

基礎的分野に関しては当学科の教員が担当し、1人2回ずつ、4人の教員がオムニバス形式で講義します。臨床医学的分野は、6名の非常勤講師が、それぞれの臓器、疾患別の専門領域に関して1回ずつ、実際的な健康保持

法、増進法に関して解説します。

●評価方法

出席点を考慮します。非常勤講師の枠に関しては、毎回小レポートを課します。最終回は、記述式のテストをする予定です。

●受講生へのコメント

本講座は、健康的な生活へ近付くための様々なアプローチ法を、基礎的分野、臨床医学的分野から講義します。健康に生きてゆくためのヒントが多く含まれていますので、ぜひご自分の生活にも役立ててください。

●教材

適宜プリントなどを配布します。

生物の時間と人間の生活

Biological Time and Human Life

(後期 金・5 全)

2 単位

理学研究科 沼田 英治 他

●科目の主題と目標

わたしたち人間を含むすべての生物が、時間の流れの中で生きている。生命現象の中には、時間の経過とともに進行しふたたび元へは戻れないものと、時間を追ってくり返し生じる周期的なものがある。周期的な生命現象をもたらしくみとして、ほとんどすべての生物が、進化の過程で、生まれながらに体の中にある時計、「生物時計」を獲得してきた。一方、現代社会に生きるわたしたちにとって、時間というものの意味は数十年前とは大きく変わってきている。時間帯を越える海外旅行は珍しいことではなくなり、都会では夜間に照明が煌々と輝き、少なからぬ人たちが夜通し働いている。本講義では、生物にとって時間とは何かを理解し、その知識を現代社会に生きる人間の生活に応用できる教養を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

毎回、質問票を配布、回収し、その疑問に答えながら講義を進める。

- ① イントロダクションー宇宙の時間と生物の時間 (沼田英治 1回)
- ② 生物にとって時間とは何か (幸田正典 2回)

- ③ 生物時計と動物の生活 (沼田英治 3回)
- ④ 生物時計と植物の生活 (保尊隆享 2回、平澤栄次 1回)
- ⑤ 生物時計と人間の生活 (沼田英治 3回、平澤栄次 1回)
- ⑥ 総合討論 (全担当者 1回)
全員のレポートを読んだ全担当者によるパネルディスカッション形式で行う。

●評価方法

質問票 (40点) と課題レポート (60点) による。

●受講生へのコメント

第1回の出席は必須とし、受講制限が必要な場合には、第1回の質問票の内容を基準にする。質問票は講義開始後15分間しか配布しない。

●教材

参考書：沼田英治『生きものは昼夜をよむ 光周性のふしぎ』(岩波ジュニア新書)

富岡憲治・沼田英治・井上慎一『時間生物学の基礎』(裳華房)

平澤栄次『満月が大きく見えるー体内時計が発振する暮らしのリズムー』(大阪公立大学共同出版会)

大阪市大でどう学ぶか

What and How You will Learn in OCU

(前期 水・5 全、1 回生優先) 2 単位

大学教育研究センター 矢野 裕俊 他

●科目の主題と目標

新入生の皆さん、合格おめでとうございます。

ところで、あなたは数ある大学の中からなぜ市大を選びましたか。市大がどういう大学か、どこまで知っていますか。何となくという人も多いかと思いますが、せっかく市大に入ったのですから、まずは自分の大学がどんな大学かを知り、そこで何をどう学び、どういう職業人や人間になるかを考えてみませんか。この科目の目的はこうした自分探しとでもいうべきことを入学直後の前期に行うことによって、これから大学で学ぶ意義について考え、学ぶ意欲を自ら育んでもらうことにあります。

また、大学での学習は高校までと大きく違い、自分で学ぶことが基本になっています。さらに最近は、インターネットによる情報の検索やコンピューター技法も不可欠な時代です。さいわい本学には国内有数規模の学術情報総合センターがあります。この科目を受講する間にぜひ大学で学ぶための基本的な力（スタディ・スキル）も身につけてください。

この科目は、学びの場としての大阪市立大学について知り、現在（入学時点）の自分に目を向け、これからの在学期間で何をどのように学ぶのか、そして学んだことを卒業後どのように生かすのかを考え、それらを具体的に明らかにすることを目標にします。

なお、科目の趣旨から、授業は今年度の1 回生ならびに編入学生を対象に行います。

●授業内容・授業計画

本学の歴史を遡れば120年前の大阪商業講習所まで行きつきますが、大学としては1928年の大阪商科大学が始まりです。戦後、1949年に大阪市立大学となってからは日本で最大の公立総合大学となり、現在8学部9研究科を擁しています。

この本学の歴史や各学部の歩みと現在を知ることで、大阪市大という大学のアイデンティティを持ってもらえればと思います。また、自分の学部以外の話を聞くこと

によって、総合大学で学ぶメリットを感じ取ってほしい。

授業計画は、第1 回と最終回に大学教育研究センターの教員が大学で学ぶことについて話します。第2 回目からは、学長、大学史資料室、経営学研究科長（商学部長）、経済学研究科長（経済学部長）、法学研究科長（法学部長）、文学研究科長（文学部長）、理学研究科長（理学部長）、工学研究科長（工学部長）、医学研究科長（医学部長）、生活科学研究科長（生活科学部長）、創造都市研究科長のそれぞれが、大学・学部・研究科の歩みと今後の展望、自身の経験にそくした学問の面白さなどについて話します。

●評価方法

最初の授業の後、「市大に入学して？期待と抱負？」、大学で学ぶことや市大への期待・抱負などをレポートにしてもらいます。

2 回目の授業からは、その日の授業を聞いて感じたことや考えたことを授業の最後の5 分間で感想カード（400字）にまとめて提出してもらいます。

最後の授業の後には、「これから市大で何をどう学び卒業後どう生きていくのか」を最終レポートにしてもらいます。

成績評価は上記2 通のレポート（各20%）と感想カード（60%）で行います。試験は行いません。なお、欠席や遅刻をしないように注意してください。

●受講生へのコメント

この授業は講義形式ですので、スタディ・スキルの習得に関しては限界があります。スキルを身につけたい人は1 回生だけを対象に少人数で行う「1 回生セミナー」の受講を勧めます。

●教材

教科書：使用しません。

参考書：授業で適宜紹介します。

プリント：授業で適宜配布します。

哲学入門

Introduction to Philosophy

(前期 火・4 全)

2単位

文学研究科 美濃 正

●科目の主題と目標

古代ギリシアで生まれた哲学という学問への標準的な入門コースを提供することを目標とします。哲学とはどのような特性を持つ学問であり、哲学で取り扱われる問題とはどのような問題であるのか、について基本的な理解が得られるように、できるだけ具体的な事例を交えながら講義する予定です。

●授業内容・授業計画

各回の授業は次のような内容で進める計画です。

- 1 哲学の基本的特性 (神話や宗教との違い)
- 2 哲学の基本的特性つづき (東洋の諸思想との違い)
- 3 哲学的問題の特徴－パラドクス1 (一般的説明)
- 4 パラドクス2 (ゼノンのパラドクス1)
- 5 パラドクス3 (ゼノンのパラドクス2)
- 6 パラドクス4 (嘘つきパラドクス)
- 7 哲学の具体的問題－心身問題1 (一般的説明)
- 8 心身問題2 (心身二元論1)
- 9 心身問題3 (心身二元論2)
- 10 心身問題4 (唯物論の諸形態1)
- 11 心身問題5 (唯物論の諸形態2)
- 12 心身問題6 (唯物論の諸形態3)
- 13 心身問題7 (まとめ)
- 14～15 全体のまとめ

●評価方法

中間レポートと最終試験の成績によって評価する予定です。

●受講生へのコメント

基本的には講義形式の授業ですが、質問や意見発表などにより授業に積極的に参加することを望みます。オフィスアワーについては、授業中に知らせます。

●教材

教科書は、山本巍・今井知正他編『哲学 原典資料集』東京大学出版会を用います。その他、適宜、授業中に資料配布を行います。

心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期 月・3 全文)

2単位

文学研究科 辻本 英夫

●科目の主題と目標

君たちの多くは“心理学”という学問を「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいまいか。その理解は充分ではない。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問であるからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は、さまざまなアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現われるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるかを問題にしている。

この授業は、君たちに心に関する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるかということに対する回答を君たち自身で見出すことができるように、人に対する理解力を養ってもらうことを目的とするものである。

●授業内容・授業計画

心理学の各領域から、それぞれ幾つかずつのトピックを選んで紹介する。おおよそ、以下のスケジュールで講義する予定である。

- ① はじめに：長い過去と短い歴史
- ②③ 知覚：外界への心の窓
- ④⑤ 学習：行動の獲得・変容
- ⑥⑦ 認知：記憶の仕組み
- ⑧⑨ 発達：こどもの心
- ⑩⑪ 社会：他者との交流
- ⑫⑬ 性格：個性の理解
- ⑭ 心理学研究法：心を探る・心を測る

●評価方法

出席率も重視するが、基本的には学期末の筆記試験で評価を行う。加えて、課外での読書や随時行う小テストの結果も考慮する。評価比率はおおよそ、期末試験60%、課外読書20%、小テスト20%である。

●受講生へのコメント

心理学はデータを重視する科学的・実証的な学問である。心理学の調査・実験の被験者を経験することを通して、授業を聞いたり本を読んだりするだけでは得られないようなより深い理解が得られると思う。この授業でも、そういった機会を提供する予定であるので、積極的に参加してもらいたい。

●教材

教科書：特に使用しない。
参考書：随時紹介する。

心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期 木・4 全文)

2単位

非常勤 山口 哲生

●科目の主題と目標

君たちの多くは“心理学”という学問を「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいまいか。その理解は充分ではない。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問であるからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は、さまざまなアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現われるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるかを問題にしている。

この授業は、君たちに心に関する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるかということに対する回答を君たち自身で見出すことができるように、人に対する理解力を養ってもらうことを目的とするものである。

●授業内容・授業計画

人や動物がなぜそのような行動を行うかを理解するために、以下の各領域から主要なトピックを選び講義する。

1. 心理学とは

2. 心理学の歴史

3. 反射の原理

4. 行為の原理 (1)

5. 行為の原理 (2)

6. 知覚：刺激性制御と概念形成

7. 意思決定 (1)：自己制御と衝動性

8. 意思決定 (2)：価値割引

9. 記憶：遅延見本合わせ課題

10. 推論：ベイイズ推論

11. 言語：人口言語習得と記号によるコミュニケーション

12. 動機づけと情動

13. 日常場面に見られる反射の原理

14. 日常場面に見られる行為の原理

●評価方法

学期末試験 (80%) 及び講義中に実施する小テスト (20%) の成績により評価する。

●受講生へのコメント

本講では、心理学の実験や調査に参加する機会をできるだけ多く提供する予定なので、授業内容の理解を深める為にも受講生は積極的に参加されたい。

●教材

教科書：伊藤正人「行動と学習の心理学：日常生活を理解する」昭和堂 2005

心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期 火・3 全理)

2単位

文学研究科 池上 知子

●科目の主題と目標

君たちの多くは“心理学”という学問を「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいまいか。その理解は充分ではない。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問であるからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は、さまざまなアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現われるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるかを問題にしている。

この授業は、君たちに心に関する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるかということに対する解答を君たち自身で見出すこと

ができるように、人に対する理解力を養ってもらうことを目的とするものである。

●授業内容・授業計画

心理学の各領域から主要なトピックを精選して講義する。なお、講義内容に対する理解を深めるため、適宜、心理検査や心理実験を実施し、ビデオ教材等も活用する。内容は、おおよそ以下の通りである。各テーマに2回程度充てる予定である。

1. 心理学とは何か：科学と常識のあいだ

2. 心と体を結ぶもの：脳科学と心理学

3. 心と身体疾患

4. 心を動かす源泉：欲求と感情

5. 行動異常と心の力学

6. 心を支える記憶のはたらき

7. 心の個人差と形成因

●評価方法

学期末に行う試験の成績を基本とし、これに出席率等

を加味して評価する。

●**受講生へのコメント**

講義形式の授業ではあるが、参加型の授業を目指したため、授業時間中に受講者に発言を求めることが多くなる。受講者は積極的に意見を述べてほしい。また、心理学の研究手法への理解を深めてもらうため、授業中に

種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に実験への参加協力を要請する場合もある。

●**教材**

教科書：特に使用しない。適宜プリントを配布。
参考書：無藤隆他著『心理学』（有斐閣）
OHP, ビデオを使用する予定。

心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期 金・1 全理)

2単位

非常勤 恒松 伸

●**科目の主題と目標**

君たちの多くは“心理学”という学問を「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいまいか。その理解は充分ではない。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問であるからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は、さまざまなアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現われるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるかを問題にしている。

この授業は、君たちに心に関する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるのかということに対する回答を君たち自身で見出すことができるように、人に対する理解力を養ってもらうことを目的とするものである。

●**授業内容・授業計画**

以下を主要な内容とし、それぞれ1～2コマ程度を目安として、講義を進める予定である（ただし、進捗状況により、講義の順番が変更されたり、一部が省略されたりすることもありうる）。

1. はじめに：心理学とは
2. 心理学の歴史：研究対象の変遷
3. 心理学の研究法：観察と実験を中心に
4. 行動に影響するさまざまな要因：学習・成熟・動機

づけ等

5. 行動とは何か：定義・種類・原因
6. 学習の基礎と応用（1）：基本的行動随伴性
7. 学習の基礎と応用（2）：日常場面への応用例
8. 認知：言語と概念
9. 選択：セルフコントロールと衝動性
10. 経済：消費者行動の理解

●**評価方法**

期末試験の成績により評価する。講義中に心理学実験を実施する場合は、その参加の有無も成績に加味するので、留意されたい。詳しくは、第1回目の講義で説明する。

●**受講生へのコメント**

本講義では、私たちが環境に適応していく上で、最も基本的な機能である「学習」と「行動」を中心に、心理学の歴史、研究法、個体の行動を規定する要因、行動の原因論等に触れる。さらに、心理学の実証的研究より明らかにされたいくつかの重要な知見や日常場面への応用例を紹介したいと考える。講義は、以下の指定教科書を用いて進められるので、毎回忘れずに持参すること。なお、レジュメ・資料を配布することがあるが、それらは、当日の講義中のみで入手可能である。したがって、講義の内容を十分に理解するためには、毎回の出席が必要である。

●**教材**

教科書：伊藤正人 2005 『行動と学習の心理学：日常生活を理解する』 昭和堂
参考書：必要に応じて、講義で随時紹介する。

心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期② 月・1 全)

2単位

文学研究科 伊藤 正人

●**科目の主題と目標**

あなた方の多くは“心理学”を、「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいないだろうか。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかとなるだろう。もちろん、心理学は

「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、

言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどういう影響を受けるかを問題にしている。

この講義はあなた方に、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるのかということに対する回答をあなた方自身で見いだすことができるようになることを目的とする。

●授業内容・授業計画

本講義では、下記の教科書を用い、人や動物がなぜそのような行動をとるのかを理解する行動分析的な枠組みについて概説する。また、このような枠組みから日常生活の様々な出来事がどのように理解できるかを検討する。大まかな授業計画は以下の通りである。

(1) はじめに：行動分析的視点

第1部：実験室から得られた行動の原理

(2) 現代心理学の2つの立場

(3) 行動とは：生得的行動と習得的行動

(4) 反射の原理：条件反射の形成

(5) 反射の原理：複合条件づけ

(6) 行為の原理：新しい条件づけの発見

(7) 行為の原理：強化の原理

(8) 行為の原理：選択・意思決定

(9) 動機づけ：行為の原因

第2部：日常場面に見る反射と行為の原理

(10) 怒り恐怖・好き嫌い

(11) やる気・意欲

(12) ほめる・しかる

(13) 自己制御と社会的ジレンマ

(14) まとめ

●評価方法

レポートの評価による。

●受講生へのコメント

受講生は、教科書に取り上げられている映画をあらかじめ見ておくとうい。

●教材

教科書：伊藤正人「行動と学習の心理学：日常生活を理解する」昭和堂 2005

参考書：伊藤正人「心理学研究法入門：行動研究のための研究計画とデータ解析」昭和堂 2006

金児暁嗣（編）「サイコロジー事始め」有斐閣 2003

河野哲也「心は体の外にある：エロコジカルな私の哲学」NHKブックス 2006

中島義明（編）「心理学辞典」有斐閣 1999

小川 隆（監修）「行動心理ハンドブック」培風館

1989

杉山尚子「行動分析学入門：ヒトの行動の思いがけない理由」集英社新書 2005

認知の仕組み

Mechanism of Cognition

(後期 木・4 全)

2単位

非常勤 佐伯 大輔

●科目の主題と目標

ヒトの認知機能はどのようなメカニズムによって実現されるのか。この問題を解明するために、これまで認知心理学分野において行われてきた実証的研究の知見を学ぶことを目標とする。さらに、これらの研究に共通する科学的方法論について学ぶことを通して、ヒトの「心」を客観的に観る方法とその重要性について理解することを目指す。

●授業内容・授業計画

「認知」とは、知覚・記憶・思考などを含む精神機能を表す言葉であり、心理学を構成する多くの研究分野で使用される重要な概念である。認知の機能には、環境からの情報の理解、保持、利用、さらに、新たな情報の生成がある。認知心理学は、これらの認知機能がどのようなメカニズムによって実現されるのかを、科学的方法論に基づいて明らかにすることを目的としており、これまでに、様々な理論やモデルが提案されてきた。

授業では、認知心理学に関係する以下の研究テーマについて、これまで実証的方法に基づいてなされてきたヒトの認知メカニズムに関する研究を解説する。

1. 認知心理学とは：歴史と方法
2. 記憶の基礎
3. 様々な記憶 (1)：感覚記憶
4. 様々な記憶 (2)：短期記憶
5. 様々な記憶 (3)：長期記憶
6. 記憶研究の展開
7. 注意 (1)：聴覚
8. 注意 (2)：視覚
9. 表象 (1)：命題的表象
10. 表象 (2)：アナログ表象
11. 言語
12. 問題解決
13. 推論
14. 判断と意思決定

●評価方法

定期試験により成績評価を行う。

●受講生へのコメント

授業中の私語は厳禁とする。

●教材

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布す

る。

参考書

道又 爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢 学 (著) (2003) 「認知心理学 ― 知のアーキ

テクチャを探る」有斐閣アルマ

森 敏昭・井上 毅・松井孝雄 (著) (1995) 「グラフィック 認知心理学」サイエンス社

人間と宗教

The Science of Religion

(後期② 火・2 全)

2 単位

文学研究科 仲原 孝

●科目の主題と目標

人間が「生きる」ということにとって宗教はいかなる意味を持つか、ということ講義形式で考えて行く。宗教について考えるのに、具体的な個々の宗教思想や宗教者の生き方を離れて抽象的な一般論を行なっても意味がないため、毎年特定のテーマを定めて、それについて深く掘り下げて考えるという形で講義を行なう。

●授業内容・授業計画

今年はショーペンハウアーの宗教哲学を手がかりに、宗教とはいかなるものか、そして人間の生にとって宗教はいかなる意義を有しているか、という問題について考えていく。

授業計画は次のとおり（ただし授業進捗の関係上、授業計画に多少の変更が行われる場合もありうることを付記しておく）。

1. ショーペンハウアー再評価に向けて
2. ニーチェとショーペンハウアー
3. 表象としての世界
4. 時間と空間の観念性
5. 因果律の観念性
6. カントとショーペンハウアー
7. 意志としての世界
8. 意志と身体

9. アイデアについて
10. 自然の諸段階
11. 物自体の表現としての音楽
12. 生の本質としての苦悩
13. 意志の否定としての宗教
14. 禁欲主義
15. ショーペンハウアーの宗教論の現代的意義

●評価方法

小論文形式の試験またはレポートを課す。論ずるべき課題を通知する時に、同時に、枚数、テーマ、論じ方など、論述が満たすべき条件を何項目かにわたって指定する。それらすべてが満たされていることが、単位認定の必須の条件となる。

●受講生へのコメント

宗教の問題に唯一の確定的な答はありえない。講義の目的はあくまで受講者各自が問題を考える上での手がかりを提供するところにある。したがって、小論文では講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索することが求められ、ノートや参考書をまとめただけの答は最低の評価となるので注意すること。

●教材

教科書は用いない。必要な資料は印刷して配布する。

対人行動の影響と意味

Various Effects and Meanings of Interpersonal Behavior

(前期 月・3 全)

2 単位

大学教育研究センター 渡邊 席子

●科目の主題と目標

この授業で主に取り上げるのは、説得的コミュニケーションと呼ばれる分野にすることがらである。説得的コミュニケーションとは、人々の態度や行動を変化させるための複合的なコミュニケーションである。受講者諸君には、授業中に行われるパフォーマンスや意見交換、ストーリー作成に参画することによって、日常的な対人行動に関する説得的コミュニケーションの知識だけでなく、その知識の使い方（メタ知識）を学び取ってほしい。そして実際の社会的相互作用場面にいかにしてそれらを「善意をもって」応用するか、また、「自分に向けられた悪意から身を守る」かを考えてほしい。

これらの諸作業を通じて、自分にとって、かつ自分とかわりをもつ他者にとって望ましい対人関係を構築し、さらに、自分にとって悪影響を与える可能性のある対人関係へのかかわりを事前に回避するための術を、頭と身体を使って学んでもらうことがこの授業の目標である。

●授業内容・授業計画

授業では、説得的コミュニケーションに関連する講義を行い、演習課題に取り組みながら、日常的な問題をからめた各種ストーリー（小説・演劇シナリオなど）を作成、相互に発表しあう。授業計画は以下のとおりである。
第 1 回：授業の進め方に関するガイダンス

第2～6回：第一ユニット＝説得的コミュニケーションに関する講義、およびストーリーづくり1

第7～11回：第二ユニット＝説得的コミュニケーションに関する講義、およびストーリーづくり2

第12～14回：第三ユニット＝説得的コミュニケーションに関する講義、ストーリーコンペティション

第15回：まとめと総合自己評価

※ ストーリーづくりの内容に関しては、授業の進行にあわせて随時説明する。

●評価方法

(1) 平常点（学ぼうとする意思・態度・行動、課題・宿題・報告書等の内容、タイムマネジメントができてい

たか等）：70点満点

(2) ストーリー作成に対する学生同士の相互評価：30点満点→合計100点満点

●受講生へのコメント

- ・受講を希望する学生は、必ず第1回目の授業に出席すること。
- ・授業の進行に付随して宿題を随時提示し、宿題を解いてきていることを前提に授業を行う。
- ・授業は3つのユニットから成っている。特に重要な回を欠席した場合、次のユニットまで授業に参画できないこともある。欠席したときは、担当教員に連絡をとる等して自ら授業内容をフォローすること。

●教材

教科書は用いない。必要な教材は授業中に配布する。

ゲームで学ぶ社会行動

Learning about Social Behavior with Experimental Games

(後期 木・4 全)

2単位

大学教育研究センター 渡邊 席子

●科目の主題と目標

われわれが普段何気なくとっている行動は、ときに、社会に対して無視できない影響を与えることがある。また、その逆に、社会はわれわれに対して無視できない影響を与えることがある。このような、個人と社会と間にある相互作用関係を理解し、その中で最適な行動を選択していくことは、われわれが知的に生きる上で必要な術であるといえる。

この授業では、ゲーミング・シミュレーションという手法を利用しながら、まずは自分自身を理解し、続いて、自分が組み込まれている社会と自分自身との関係を俯瞰することを目指す。この授業を通じて、自分の弱点が見えるかもしれない。社会関係の中で身動きがとれず、無力感を覚えることへの恐れを感じることもあるかもしれない。しかし、それらの負の側面からあえて目を逸らさずに自分の行動を客観的に見つめなおし、社会的生物としていかにあるべきかを積極的に考え、責任ある行動を実践できるようになっていただきたい。

●授業内容・授業計画

この授業では、各種ゲーミング・シミュレーションに学生自身が参画し、そこで得られたデータの意味するところを自分自身で考察し、さらに、小グループに分かれて建設的な討論を行って互いの意見を評価しあいながら、社会的生物としての人間行動の意味を問う。授業計画は以下のとおりである。

第1回：授業の進め方に関するガイダンス

第2～7回：第一ユニット＝「社会で生きることについて問う」をテーマに、大学生向けゲーミン

グ教材をつくる(教材作成、自己評価、相互評価)

第8～11回：第二ユニット＝自分と社会との関係／位置づけ／影響過程を考える(講義、演習)

第12～14回：第三ユニット＝意思決定ゲーミングの実施(ゲーミング参画、討論、相互評価、自己評価)

第15回：まとめと総合自己評価

※ ゲーミング・シミュレーションの内容に関しては、授業の進行にあわせて随時説明する。

●評価方法

(1) 平常点（学ぼうとする意思・態度・行動、課題・宿題・報告書等の内容、タイムマネジメントができていたか等）：80点満点

(2) 学生同士の相互評価：20点満点 →合計100点満点

●受講生へのコメント

- ・受講を希望する学生は、必ず第1回目の授業に出席すること。
- ・授業の進行に付随して宿題を随時提示し、宿題を解いてきていることを前提に授業を行う。
- ・授業は3つのユニットから成っている。特に重要な回を欠席した場合、次のユニットまで授業に参画できないこともある。欠席したときは、担当教員に連絡をとる等して自ら授業内容をフォローすること。

●教材

教科書は用いない。必要な教材やゲーミングマニュアル等は授業中に配布する。

日常の中の不思議を探す 演習

(後期 火・3 全)

2 単位

Seminar : Let's find out wonders in our daily life

大学教育研究センター 渡邊 席子

●科目の主題と目標

この演習では、われわれの周りにある身近な場面のもつ意味を、当たり前と受け流さず、鵜呑みにせず、今一度しっかりと考え、捉えなおす各種課題に取り組む。これらの課題を解くにあたっては、クリティカル・シンキング(批判的かつ創造的にものを考えること)の手法の獲得が不可欠である。よって、受講者には、演習・課題への取り組みを通じてクリティカル・シンキングの手法を身につけていただく。

クリティカル・シンキングの手法は、大学での学びに要するのみならず、われわれが自分のキャリア(=生き方、含労働)を自らデザインし、発達させていくためにも必要不可欠である。2008年度は、「社会ではたらくこと」をテーマとする調査演習も加え、学生から社会人への移行を意識した授業を展開する。演習を通じて、大学から社会へと出て行くにあたり、知的に、かつ自立的に、自らにさまざまな影響を与えうる諸問題の本質を見極め、解決を目指して的確な意思決定を為し、実行する力を蓄えていただきたい。

●授業内容・授業計画

演習では、コミュニケーションの4スキル(読む・書く・聴く・話す)の中で特に、「他者の話をしっかりと聴く」こと=知的受信センスを磨くことにポイントをおきながら、クリティカル・シンキング手法の獲得を目指す知的作業を行う。授業計画は以下のとおりである。

第 1 回：演習の進め方に関するガイダンス、受講者決定

第2～6回：クリティカル・シンキング演習(アドバンス編1)

第7～10回：「社会ではたらくこと」に関する調査課題(調査・発表・相互評価・フィードバック)

第11～14回：クリティカル・シンキング演習(アドバンス編2)

第15回：まとめと総合自己評価

※ 演習および調査課題の詳細に関してはガイダンス時に説明する。

●評価方法

教員からの評価だけでなく、学生同士による相互評価も加えて成績を決定する。

(1) 課題への取り組みに対する評価(教員・学生それぞれからの評価)：60点満点

(2) 参画への意思・態度・行動(積極的に意見を述べたか、報告書等の内容、タイムマネジメントができていたか等)：40点満点 →合計100点満点

●受講生へのコメント

・受講希望者は、第1回目のガイダンスに必ず出席すること。また、受講人数の上限を15名とし、全回出席を基本とする。

・授業の進行に付随して宿題を随時提示し、宿題を解いてきていることを前提に授業を行う。

●教材

教材は授業時間中に適宜配布する。なお、課題の内容によっては、教材となりうる素材を受講者自身が調査の上集めて持ち寄る場合もある。

教育と発達心理学

(前期 火・2 全)

2 単位

Psychology on Education and Development

大学教育研究センター 西垣 順子

●科目の主題と目標

子どもの発達と教育について理解することを目指す。その上で、教育と発達をめぐる現代的な課題を自分のこととしてより深く多面的に考える。また、巷に溢れる一面的な思想やエセ心理学に踊らされない市民になることを目指す。

●授業内容・授業計画

次のような計画でそれぞれのトピックを扱い、授業を進めます。

第1週 ガイダンス

第2～4週 愛着関係の成立と発達

第5～6週 発達段階説と領域固有性

第7～8週 個性と個人差、知能

第9～10週 発達の障害

第11～12週 心の理解の発達

第13～14週 生涯発達と達成動機

●評価方法

6月と最終講義の際にレポートを提出する。また、授業1～2回ごとに小レポートを作成する。成績評価に際しては、最終レポートと小レポート、授業中の発言状況(出席状況も含む)を、1：3：1の比率で考慮し、成績判定を行う。

●受講生へのコメント

総合科目においては、専門知識を覚えることよりも、学生が自分で考え、悩むことが重要です。授業の内容をもとに大いに考え、議論してください。授業は教員が

90分間話をするのではなく、学生同士の討論や小レポートの作成に取り組んでもらいます。またそのために、ほぼ毎回レポート課題を出します。授業は受講生と担当教員の両方が作り上げていくものですので、積極的な参加を期待します。

授業には遅刻せずに、毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないので単位

をください」という類の依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

授業に関するwebページはこちら。

<http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/~nishigaki/>

●教材

授業中に参考文献を呈示します。

教育と発達の心理学 演習

Seminar: Psychology on Education and Development

(後期 木・3 全)

2単位

大学教育研究センター 西垣 順子

●科目の主題と目標

本授業では、子どもの発達と教育に関する基本的な事柄を理解すると同時に、それらに関する社会的な活動に実際に参加することを通じて、発達や障害に関して自分自身で多面的に考える力を身につけることを目指す。巷に溢れる一面的な思想を鵜呑みにしたり、それらに踊らされない市民性を培う。

●授業内容・授業計画

- 第1週 ガイダンス
- 第2～4週 講義（認知発達と愛着形成）
- 第5～6週 受講生によるレジメ発表会
- 第7～10週 次の発表会に向けた情報収集
- 第11～14週 受講生によるプレゼンテーション
- 第15週 まとめ

受講生を学習重点組と活動参加組にわけます。活動参加組は、知的障害者のスポーツの祭典であるスペシャルオリンピックの日常プログラム（原則的に日曜日に開催）に3回以上参加する。学習重点組は、レポートやレジメ作成の課題を多くする（例えば、活動参加

組はレジメ作成が1枚だが、学習重点組は3枚など）

●評価方法

第1回発表会、レポート執筆、プレゼンテーションの成績と授業への貢献度（議論への参加など）を、それぞれ2:3:2:3の比率で評価する。

●受講生へのコメント

演習形式の授業のため、受講生数を16名程度以下に制限します。多くの受講希望者が集まった場合は抽選をしますので、あらかじめご了承ください。

演習形式ですので、受講生の発表や議論を中心に授業を進めます。授業への積極的な関与を期待します。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の2時限目と昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示する。

授業に関するwebページはこちら。

<http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/~nishigaki/>

●教材

次の書籍を教科書として指定します。

子安増生（編）「よくわかる認知発達とその支援」ミネルヴァ書房（2,400円）

読むこと書くことの科学

Cognitive Psychology on Reading and Writing

(後期 火・1 全)

2単位

大学教育研究センター 西垣 順子

●科目の主題と目標

現代社会に参加していく上で必須の能力であるリテラシーについて、その仕組みや発達を理解することを目指す。そしてそれを通じて、自分自身が自分や身近な他者・大学・社会をどのように理解し、それらに向かって如何に情報を発信するかについて考えられるようになることを目指します。

●授業内容・授業計画

- 第1週 ガイダンス
- 第2～4週 読み書きの障害について
- 第5～6週 認知過程とスキル
- 第7～9週 発達と教育

第10～12週 批判的思考とリテラシー

第13～14週 レポート提出と発表会

●評価方法

授業の終盤にレポートの提出と発表を行う。また、授業1-2回ごとに小レポートを作成する。成績評価に際しては、最終レポートと小レポート、授業中の発言状況（出席状況も含む）を、1:3:1の比率で考慮し、成績判定を行う。

●受講生へのコメント

総合科目においては、専門知識を覚えることよりも、学生が自分で考え、悩むことが重要です。授業の内容をもとに大いに考え、議論してください。授業は教員が

90分間話をするのではなく、学生同士の討論や小レポートの作成に取り組んでもらいます。またそのために、ほぼ毎回レポート課題を出します。授業は受講生と担当教員の両方が作り上げていくものですので、積極的な参加を期待します。

授業には遅刻せずに、毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないので単位

をください」という依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

授業に関するwebページはこちら。

<http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/~nishigaki/>

●教材

教科書は指定しない。参考文献は授業中に適宜指示する。

社会科学のフロンティア

The Frontier of Social Sciences

(前期 月・2 全)

2単位

経済学部 橋本 文彦

●科目の主題と目標

私たちは社会の中でルールを定め、それを適用しているが、それらのルールは所属する集団によって異なる場合がある。そのような差異はどのようにして発生したのかを探る。また、このように異なるルールを持つ集団が互いに交流しようとするとき、そのルールはどのように適用されるのか、また適用されるべきかを理論的に探っていく。

高度に細分化された各種の専門研究領域の最新の知見を知った上で、私たちの社会のルールの起源と適用について基礎的で論理的な考え方を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 1-1. 「科学」としての社会科学の位置づけ
—— 自然科学・人文科学との関係 ——
- 1-2. 「科学」としての社会科学の位置づけ
—— K. ポパーとTh. クーン ——
2. あることとないこと。ありえたこととありえなかったこと
- 3-1. 言語をめぐる「規約」の問題
—— なぜ言語が問題となるのか ——
- 3-2. 言語をめぐる「規約」の問題
—— プラトンのクラテュロスから
F. ソシュールまで ——
- 4-1. 言語と可能世界
—— D. ルイスの「可能世界」と「規約」 ——
- 4-2. 言語と可能世界

—— R. カルナップとW. V. オクワイン ——

- 5-1. ゲーム理論をめぐる問題
—— vonノイマンのゲーム理論 ——
- 5-2. ゲーム理論をめぐる問題
—— 最近のゲーム理論の展開 ——
- 5-3. ゲーム理論をめぐる問題
—— ゲーム理論の応用 ——
- 6-1. 恣意性から自然性への回帰
—— 可能世界と現実世界の衝突 ——
- 6-2. 恣意性から自然性への回帰
—— R. ドーキンスの世界観 ——
- 7-1. 現実の社会と解釈学的循環
—— M. ハイデガーとH. ガダマー ——
- 7-2. 現実の社会と解釈学的循環
—— コンテキストの理解と社会 ——
8. 自然科学から社会科学へ
ニューロ・エコノミックス (脳神経経済学)
の射程と可能性

●評価方法

期末試験による

●受講生へのコメント

本講義の重要なテーマは、さまざまな領域の有機的な結びつきにあるので、すべての講義に出席することが重要である。

●教材

講義の中で、毎回2冊程度の参考文献を紹介する。教科書は特に定めない。

日本国憲法

The Constitution of Japan

(前期① 木・2 全) 2単位

(前期② 木・1 全) 2単位

法学研究科 米澤 広一

●科目の主題と目標

「日本国憲法」は教員免許取得のための必修科目に指定されているため、受講生の多くが教育問題に関心を持っている。そこで、本講義では、後掲の教科書に沿って、学校教育での憲法問題について解説を加え、日本国憲法への関心と理解を深めることを、目標とする。

なお、法学部生に対しては、本講義は、教職の単位としてのみ認定される（全学共通教育の単位としては認定されない）。

●授業内容・授業計画

- 1 明治憲法から日本国憲法へ
- 2 未成年者の人権享有主体性
- 3 生徒の自己決定権
- 4 日の丸・君が代と学校
- 5 宗教と公立学校
- 6 生徒と政治

- 7 教育情報の本人開示と公開
- 8 教科書の検定、採択、給付、使用
- 9 学校事故の賠償と防止
- 10 障害児の教育を受ける権利
- 11 外国人の子どもの教育を受ける権利
- 12 親の教育の自由
- 13 教師の「教育の自由」
- 14 私立学校と憲法
- 15 児童の権利条約

●評価方法

学期末に行う定期試験によって評価する。

●受講生へのコメント

教職の単位を必要としない法学部生は、専門科目の憲法Ⅰ、憲法Ⅱのみを受講されたい。

●教材

教科書：米沢広一『憲法と教育15講』（北樹出版）

都市的世界の社会学

Sociology of Urbanism

(後期② 火・1 全) 2単位

文学研究科 谷 富夫

●科目の主題と目標

本講では、現代都市に特徴的な現象をいくつか取り上げ、そのメカニズムと人間的意味を考察する。

本講を通して、都市に関する社会学の理論と知識を身につけることが、たとえばこの大阪という大都市でよりよく生きるための一助となりうることが理解されるだろう。

●授業内容・授業計画

- ① 都市の社会理論－総論（第1～4講）
「アーバニズム理論」は、今世紀初頭のシカゴで生まれ、その後の批判、修正を経て、今なお有効性を堅持している都市理論の一つである。アーバニズム理論を学ぶことによって、都市へアプローチするための基本的視座を獲得することから本講を始めよう。
- ② 都市グローバル化とエスニシティ－各論Ⅰ（第5～7講）
日本社会で多文化化、多民族化が進行している。それは、とりわけ大都市で顕著である。民族と民族はどのような社会関係を結ぶことができるのか——古くて新しいエスニシティ問題を、大阪都市圏の調査結果をもとに考察する。
- ③ 都市で生まれる新宗教－各論Ⅱ（第8～10講）
なぜ若者は宗教に惹かれるのか。しかも大学生や高学歴エリート層が。ある新宗教教団の青年信者を東京

と大阪で調査したデータをもとに、都市と宗教、宗教と若者の関係について考える。

- ④ 大都市コミュニティ形成論－各論Ⅲ（第11～13講）
地域社会は今や解体の一途をたどっている。隣は何をする人ぞ、である。しかし、今後ますます深刻化する少子高齢社会において、地域社会の解体は放置できない都市問題である。地域社会の福祉力や教育力の問題へ「コミュニティ形成論」の角度からアプローチする。
- ⑤ 現代都市を生きる－総括（第14講）
都市的世界を深く認識することが、私たちがよりよく生きるために有益であることを確認し、本講を閉じる。

●評価方法

授業中に数回小レポート（合計50点）を、学期末にレポートか試験（50点）を課す。

●受講生へのコメント

必ず前回までの講義ノートを持参して出席すること。

●教材

教科書：使用せず。

参考書：倉沢進『都市空間の比較社会学』放送大学教育振興会。その他、授業中に適宜指示する。

プリントを配布、ビデオやスライドも使用する予定。

宗教と社会

Religion and Human Society

(前期 木・4 全)

2単位

文学研究科 仲原 孝

●科目の主題と目標

あらゆる宗教は社会を構成する。したがって宗教には必ず社会的な問題がつきまとう。この授業ではこうした宗教をめぐる社会的問題を、講義形式でさまざまな角度から考察して行く。

●授業内容・授業計画

今年は「宗教多元論」の問題について考察する。あらゆる宗教は自己自身を絶対的な真理と見なすものであり、無数の宗教が共存しなければならない現代世界では宗教対立が深刻な問題となっている。講義では、この問題に取り組んだ先人の思想を吟味しながら、宗教共存の可能性を探る。

授業計画は次のとおり（ただし授業進捗の関係上、授業計画に多少の変更が行われる場合もありうることを付記しておく）。

1. 宗教多元論の問題
2. ヒックの宗教多元論の原理
3. 排他主義・包括主義・多元主義
4. ヒックの宗教多元論の限界
5. ラーナーの「無名のキリスト教」論
6. ラーナーとカント
7. 宗教的アプリオリは存在するか
8. ニーチェの道徳的パースペクティヴィズム
9. 貴族的道徳と奴隷的道徳

10. パースペクティヴィズムと永遠回帰思想
11. ニヒリズムと宗教多元論
12. 西谷啓治の「空」の宗教哲学
13. 仏教とキリスト教
14. 「空」は宗教多元論と調和するか
15. あるべき宗教多元論とは

●評価方法

小論文形式の試験またはレポートを課す。論ずるべき課題を通知する時に、同時に、枚数、テーマ、論じ方など、論述が満たすべき条件を何項目かにわたって指定する。それらすべてが満たされていることが、単位認定の必須の条件となる。

●受講生へのコメント

宗教の問題に唯一の確定的な答はありえない。講義の目的はあくまで受講者各自が問題を考える上での手がかりを提供するところにある。したがって、小論文では講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索することが求められ、ノートや参考書をまとめただけの答は最低の評価となるので注意すること。

●教材

教科書は用いない。必要な資料は印刷して配布する。宗教学・宗教哲学全般に関する一般的な参考書としては次のものを推薦しておく。藤田正勝・細谷昌史編『シリーズ新しい教養の科学—宗教学』（昭和堂）。

現代社会学入門

Invitation to Contemporary Sociology

(前期 月・3 全)

2単位

文学研究科 進藤 雄三

●科目の主題と目標

社会学という学問領域についての概括的知識を学習するとともに、現代社会に生起している多様な社会現象を主題ごとに検討し、社会学的思考法に関する理解を深める。

●授業内容・授業計画

- 1 社会学：オリエンテーション
- 2 自己論：「個人化」のなかの「私」
- 3 家族：現代家族の歴史的位相
- 4 逸脱：犯罪への2視点／規範と常識の社会的生成
- 5 医療：現代医療の歴史的位相／医療化という趨勢
- 6 政治：国民国家と市民社会／ナショナリズムの現在
- 7 情報・メディア：メディア論の現在／「情報社会」の諸相
- 8 教育：日本型学歴社会論／教育の現在
- 9 宗教：世界史における宗教／現代における宗教

- 10 ジェンダー：ジェンダー論の歴史／ジェンダーの現在
- 11 エスニシティ：民族主義から多文化主義へ／「エスニシティ」概念
- 12 エイジング：高齢（化）社会論の前提／エイジズムとどう向き合うか
- 13 階層：階級から階層を経て「格差」へ／「格差社会」で問われているもの
- 14 現代社会の歴史的位相：「ポストモダン」と呼ばれる時代の特性とは何か
- 15 試験

●評価方法

出席3・コメント3・試験4の割合で評価する

●受講生へのコメント

キーワードを指示するので、復習・予習の際に参考書の該当箇所を読んでおくこと。

●教材

参考書：『新しい世紀の 社会学中辞典』ミネルヴァ

書房，2005

現代の社会問題

Contemporary Social Problems

(前期 金・4 全)

2単位

非常勤 内田 龍史

●科目の主題と目標

1990年代以降、日本社会は大きく変化した。グローバル化の進行に伴い、高度経済成長期に整備されたさまざまな社会システムが行き詰まりを見せ、様々な領域で「格差」が拡大しつつある。

本講は、現代日本社会における「フリーター」問題を中心に、現代日本社会における産業・雇用・労働問題ならびに社会的不平等の再生産構造について検討を行う。かかる検討は、現代社会に生きる我々がどのような社会を展望すればよいかについて、重要な示唆を与えることとなるだろう。

●授業内容・授業計画

1. 現代社会と不平等
2. 不平等の再生産
3. フリーター問題とは何か？
4. フリーターの現状
5. フリーターと不平等の再生産
6. ニート論とその陥穽
7. 新自由主義の時代

8. 規制緩和と現代の労働
9. 正規雇用／非正規雇用／無業
10. ワーキングプア問題とは何か？
11. ワーキングプアの現状
12. グループディスカッション①
13. グループディスカッション②
14. 不平等の克服に向けて
15. 試験

●評価方法

毎回小レポートを課す。

出席・小レポート30点・グループディスカッション20点・試験50点の配分で評価する。

●受講生へのコメント

若者と労働について、過去・現在・未来の自分と重ね合わせて考えてみてください。

●教材

適宜、プリントを配布する

参考書：『排除される若者たち－フリーターと不平等の再生産』解放出版社，2005

世界のなかの日本経済

Japanese Economy from the World Viewpoint

(前期① 水・1 全)

2単位

(前期② 水・1 全)

2単位

経済学研究科 滋野 由紀子

●科目の主題と目標

本講義は、身近なトピックをとりあげ、世界的な視野からみた日本経済の特徴、世界と日本の関連を考えることを目標としている。本年の講義では特に、我々の毎日の生活に密接に関係する雇用、家族形成、消費・貯蓄、経済格差、社会保障、環境に関する問題を取りあげる。

日本経済は2002年2月より景気拡大期に入り、それまでの最長であった高度経済成長期の「いざなぎ景気」を上回り、戦後最長の好況を記録した。しかし大半の人々は好況を実感できずにいる。それは、経済のグローバル化を背景に企業収益の増加が賃金上昇に結びつきにくくなったこと、また、巨額の政府債務残高や年金・医療等の社会保障制度の持続性への疑問、低迷する出生率による少子高齢化の一層の進展、人口縮小、さらには地球温暖化などから生じる将来不安が影響している。

本講義を通じて、今、日本経済で何が問題なのか、その要因、背景は何か、世界経済との関係はどうか、その問題を解決するためにはどうすることが必要なのか

を考えるきっかけを掴んでもらいたい。

●授業内容・授業計画

- ①～③ 日本経済の概況
- ④, ⑤ 雇用問題
- ⑥, ⑦ 少子化問題
- ⑧ 消費・貯蓄の行方
- ⑨ 経済格差は拡大しているか？
- ⑩ 社会保障システムのあり方
- ⑪ 公的年金保険について
- ⑫ 公的医療保険について
- ⑬ 環境問題の経済的取組み
- ⑭ まとめ

●評価方法

期中のレポート(30点)および期末試験(70点)による。

●受講生へのコメント

・社会経済問題の答えは一つではありません。常に疑問を持って自らの頭で考えて欲しいと思います。

・オフィスアワー：水曜日17：00～18：00

●教材

教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

現代経済学入門

Introduction to Modern Economics

(後期① 水・3 全) 2単位

(後期② 水・2 全) 2単位

経済学研究科 長沼 進一

●科目の主題と目標

現代社会に生きる私たちにとって経済は欠かすことのできない活動の一つです。生存のために自然に働きかけるといふ経済行為は市場メカニズムをつうじてますます複雑な現象として現れています。私たちは労働し、財やサービスを生産することにより、交換を通して必要なものを獲得するという基本的活動は社会的分業を媒介としてシステムができあがっています。このような経済システムを理解し、人間のよりよき生存状態 (well-being) を達成することが大切になってきます。

個人や企業などにとって合理的な行動が国民経済や世界経済にとっては不合理な結果をもたらすことがあるという矛盾について考えてみましょう。講義では日本の直面している経済問題が理解できるように解説しようと思います。

●授業内容・授業計画

第1講 経済学の学び方

第2講 経済的豊かさの指標

第3講 国民所得の生産

第4講 国民所得の分配

第5講 国民所得の支出

第6講 価格メカニズムの役割

第7講 消費者行動の理論

第8講 生産者行動の理論

第9講 価格メカニズムと経済厚生

第10講 貨幣と金融の役割

第11講 財政の役割

第12講 貿易と経済厚生

第13講 経済成長と経済変動

●評価方法

期末試験の成績によって評価します。

●教材

特定の教科書はないが参考書として下記のものを利用してください。

中谷 巖『マクロ経済学入門』日経文庫

奥野正寛『ミクロ経済学入門』日経文庫

法と社会

Law and Society

(後期 木・4 全)

2単位

法学研究科 桐山 孝信

●科目の主題と目標

本講義は、日本国憲法をはじめとする国内法だけでなく国際法も含めて、法律が現実の社会問題を解決していくうえでどのような意味を持つのかを、具体的な事例をも取り上げつつ、法と社会のかかわりについて受講生とともに考えていこうとするものである。したがって、この場合の社会とは、国内社会だけでなく、国際社会も意味する。

●授業内容・授業計画

第1回目はオリエンテーションとし、講義のねらい・進め方・評価方法などの説明を行う。

2回目以降は、現在私たちの周りで生じているいくつかの社会問題を、法律とのかかわりで考察する。具体的には、死刑制度の是非や、裁判員制度のあり方、国際平

和のための日本の貢献のあり方、などについて、講義するだけでなく、レポートを書いてもらったり、ディベートを行ったりして、どのような問題があり、どのように考えればよいのかについて、認識を深めてもらう。

●評価方法

講義時間中および時間外に課す数回のレポートと期末試験の成績により評価する。なお、遅刻は厳禁であり、遅刻者は減点の対象となる。

●受講生へのコメント

本講義を通じて、現実に生起する社会的問題に関心を持ってほしい。また現にそうした関心をもつ持つ学生の参加を希望する。

●教材

第1回目の講義時に言及する。

現代の経営

Contemporary Business Management

(前期① 木・3 全) 2単位

(後期② 木・2 全) 2単位

経営学研究科 中瀬 哲史

●科目の主題と目標

今年度の「現代の経営」では、「現代日本企業の履歴書」と題して、現代の日本企業がどのように推移して現在に至っているのか、そして現在どのような課題を抱えているのか、を検討する。最近、日本企業の不祥事が相次いでいる。「赤福」、「船場吉兆」等、耳目に新しい。こうした企業はなぜ不祥事を起こしたのか。同社を取り巻く経済的、社会的環境等が厳しくなったからなのだろうか。他方で、100年以上も事業を継続している老舗企業も存在する。ロングセラーで売り続ける商品を有する企業も存在する。これら企業はどのような工夫をしてきたのだろうか。以上のような問題意識で、現代日本の主要な企業を取り上げて、現在の日本において求められる「企業経営」とは何か、を受講生とともに考えてみたい。

●授業内容・授業計画

- 1 企業とは何か、経営とは何か
- 2 トヨタ自動車と日本の自動車産業の発展
- 3 大阪の家電産業の今昔
- 4 食品産業の発展
- 5 企業の壁を越える鉄道ネットワーク

6 スポーツビジネスの将来性

7 老舗企業の秘密

8 企業倫理の行方

9 経営者と企業の「DNA」

●評価方法

試験、レポート、出席点等で総合的に評価する。

●受講生へのコメント

受講生の多くが、大学を卒業すると人生の大半を過ごすことになる会社に入る。これからは自ら、キャリアをどのように作るのかという視点が求められる。他方、自らが加わる企業を自分なりに捉え、「うちの会社」だと思えることも、また必要であろう。本稿を通じて、ますます早まる就職活動に身をさらす前に、会社とは何か、自分はどういう存在なのかをつかんでもらうことを期待する。

●教材

テキストは使わない。毎回、レジュメを配布してそれに沿って講義する。参考文献は以下である。宇田川・佐々木・四宮（2005）、『失敗と再生の経営史』有斐閣、野村進（2006）、『千年、働いてきました』角川書店等。

ライフサイクルと教育

Life Cycle and Education

(後期 木・2 全)

2単位

大学教育研究センター 矢野 裕俊

●科目の主題と目標

教育を人がよりよく生きるための支援の体系としてみるならば、教育に関わるのは、人間の誕生から死に至るまでの一生だということになる。人間は生物学的な「ヒト」として成長、発達を規定されると同時に、社会の中で「人」として生きていく上では、それぞれの発達段階で達成しなければならない課題、通っていかねばならない道筋がある。教育はそうした課題の遂行に関わって、特定の間人関係を媒介として家庭をはじめ学校、地域社会、職場などで展開される、学習のために場を用意し、それにある種の方向付けを与える全体的な営みである。したがって、この科目で取り扱う教育は学校教育に限られない。

この科目では人と人との関係の中で人が学び育つという側面とともに、日常的な組織的教育活動とは異なるさまざまなライフイベント（入学、就職、結婚、病い、死別など）がもつ教育力にも注目し、現代社会における青年期から成人期への移行の問題と成人した人々の学びがもつ意味について、教育の文脈にそくして多角的に考え、それを毎回の授業のテーマに関連したレポートとしてまと

めると同時に、ライフサイクルと教育の関係およびそこで問題となる主要概念についての基礎的理解を得ることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. オリエンテーション（授業のねらい、内容の解説と進め方、評価の説明）
2. ライフサイクルとは何か 人生をとらえる方法の意義とその限界
3. 「自分」の「今」について考える（1）あなたは大人か子どもか
4. 「自分」の「今」について考える（2）大人になることのむずかしさ
5. 「自分」の「今」について考える（3）「大人-子ども」概念を再考する
6. 「自分」の「今」について考える（4）アイデンティティとは何か、「自分」とは何か
7. イニシエーション
8. 病い、死とライフサイクル
9. ライフサイクルと学び さまざまな学びのかたち
10. 学ぶことの意味について考える（1）知識・スキ

ル・社会的規範の習得

11. 学ぶことの意味について考える (2) 学びによる自己実現
12. 学ぶことの意味について考える (3) 学びと社会的排除
13. 生涯学習と学習社会
14. まとめ

●評価方法

評価は、授業への1)出席・毎回のふりかえりレポート(50%) 2)レポート(50%) 2項目について評定し、その総合により行う。

●受講生へのコメント

随時「ふりかえりレポート」を書くなどにより、自ら

考えることと積極的な参加が求められる。

●教材

教科書は使用せず、適宜資料(教材)を配布する。参考書として以下の4つを挙げておく。

それ以外は授業時に適宜紹介する。

- ・レビンソン『ライフサイクルの心理学』(上・下)、講談社、1992.
- ・河合隼雄『大人になることのむずかしさー青年期の問題ー』岩波書店、1996.
- ・V・ヘネップ『通過儀礼』思索社、1977.
- ・E. H. エリクソン『自我同一性』誠信書房、1973.

現代社会と健康

Today's Health Science

医学研究科	運動生体医学	藤本 繁夫 (1部前・後期火・1を担当)	(前期① 火・1 全)	2単位
医学研究科	運動生体医学	吉川 貴仁 (1部前・後期木・2および2部前期水・1を担当)	(前期① 木・2 全)	2単位
			(後期① 火・1 全)	2単位
			(後期① 木・2 全)	2単位
			(前期② 水・1 全)	2単位

●科目の主題と目標

文明の進歩に伴い現代社会は細分化し、我々の生活は便利にかつ快適になってきた。その反面、社会機構や人間関係はより複雑になり、健康を損ねる条件は時代と共に変わりつつある。公害や産業廃棄物などによる環境汚染、生活の便利さとは表裏の運動不足の習慣、アンバランスな食生活、複雑な社会生活や人間関係によるストレス病など種々の健康を阻害する要因が溢れている。

一方では、社会の高齢化が進み、日本人の平均寿命は延長しているが、生活習慣病や癌などの病気はかえって増加の傾向を示し、種々のアレルギー疾患の増加、エイズや鳥インフルエンザに代表されるような新しい感染症が出現し、健康的な日常生活はむしろ脅かされるようになってきている。

“現代社会と健康”は、自身の健康をキー・ワードにして、健康維持・増進のための情報を提供し、積極的な健康づくりについて講義する科目である。医学と健康の領域では、疾患の治療・予防にとどまらず健康を維持し、生活における“Quality of Life”を優先した研究が進んでいる。健康は自身で守るべきものであるが、そのためには正しい医学知識の理解に基づいて実践する必要がある。新しい時代に即した健康と医学の情報は、現代人が充実した、生きがいのある社会生活をおくる上で必要不可欠な情報といえる。

“現代社会と健康”は、以下の教育内容について健康の最新情報を系統的に講述してゆく。講義の担当者が、臨床経験と教育経験を積んだ第一線の臨床医であることもこの科目の特徴である。特に大学生の時期に、また社会人になってからも活用できるように実践的な教育と指

導を行なうことを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 健康の総論(健康とは、病気とは、健康・病気の傾向とその動態)
2. 現代社会の健康を害する因子(公害、産業、環境、社会生活、人間関係)
3. 健康生理学(身体活動に必要な心・肺・筋・消化吸収の機能)
4. 運動と健康(健康維持のための運動、運動効果とその障害)
5. 食生活と健康(健康に必要な栄養学、食生活と肥満、食中毒)
6. 生活環境と健康(余暇・休養と睡眠、酒、タバコ、嗜好品)
7. 現代社会と性(エイズ、性病とその予防、避妊法)
8. 現代社会と精神衛生(ストレスと心身症、神経症、心身医学)
9. 病気とその予防
 - (1) 癌
 - (2) 生活習慣病(肥満、高血圧、高コレステロール血症、糖尿病など)
 - (3) アレルギー疾患(気管支喘息、鼻炎、湿疹など)
 - (4) 感染症(伝染病、結核、インフルエンザなど)
 - (5) 血管障害(心筋梗塞、狭心症、脳卒中など)
10. 一般に必要な救急処置(救命法)、健康政策

●評価方法

平常の受講状況(出席率)に期末試験の成績を加え評価する。

●受講生へのコメント

自らの健康に関心があり、健康の維持・増進方法と病気の予防に興味のある学生の受講を希望します。心身の成長が一段落したこの時期に、自分の一生涯を見すえた“自分の健康”について考えてみよう。(出席だけで、またはテストだけで単位取得を考えている学生は受講しないでください。)

●教材

教科書

1. スポーツ医学(スチューデントトレーナーシリーズ) 嵯峨野書院
(病気に関しては、最新の情報をスライド、プリントで講義する。)

メディアの社会学

Sociology of Media

(後期・火・2 全)

2単位

文学研究科 土屋 礼子

●科目の主題と目標

本年度の講義では、戦争を伝える視覚的メディアを主題にして、十九世紀から二十世紀におけるさまざまなメディアの具体的な様相をふりかえりながら、メディアがどのように社会的に機能してきたのかを理解するとともに、メディアが個人や社会の認識に与える影響を考察する。

●授業内容・授業計画

各回ごとに次のテーマを扱う。

- (1) かわら版 (2) 草創期の新聞 (3) 錦絵新聞
(4) 西南戦争の報道 (5) 日清戦の報道 (6) 日露戦争の報道 (7) 風刺画と漫画 (8) ニュース映画
(9) 戦争とアニメーション (10) 植民地のメディア
(11) 戦時宣伝ビラ (12) 占領期のメディア
(13) ベトナム戦争の報道 (14) 湾岸戦争の報道

(15) イラク戦争の報道

●評価方法

毎回、講義を受けた後、終わりの十五～二十分程度の間、課題を書いて提出してもらおう。原則として、各自が各回に提出した課題に基づいて評価を行い、試験は行わない予定である。なお、出席及び課題提出回数が六割に満たないものは、評価対象としないので注意すること。また、講義を二十分以上遅刻した者は原則として教室内への入室を禁じるので、遅刻しないように心すること。

●教材

各回の講義の最初に、提出用課題の用紙とともにプリントを配布するので、履修者は遅刻しないようにすること。

教科書は使用しない。参考書としては、佐藤卓己『現代メディア史』(岩波書店、1998)を挙げておく。

現代社会におけるキャリアデザイン

Career Design in Modern Society

(後期 火・3 全)

2単位

大学教育研究センター 飯吉 弘子

●科目の主題と目標

近年、キャリアや職場をめぐる環境が大きく変化しつつある。「就職」で人生の大半が決まるという従来の日本人の典型的な職業観・働き方・生き方モデルが急激に変化・多様化している。それに伴い、多様な選択肢から、我々個人が、自らの生き方・働き方を選び取っていく必要性にも迫られている。一生をかけて自分のキャリアを主体的にデザインしていく観点への移行が急速に求められている。

このような主体的キャリアデザインには、「自ら問題を設定し、自ら考え、自ら解決・行動すること」が一層重要となる。また、そのためには、「情報や知識を複数の視点から注意深く、かつ論理的に分析する」姿勢と能力が必要であり、それとともに、他者の意見や情報を鵜呑みにするのではなく、自分の思いこみも点検しながら、自らの意見をまとめ表現していける力を身につけることが必要となる。こうした力を「クリティカル・シンキン

グ」と呼ぶが、なかでも本科目では、キャリアをめぐる現代の社会変化を題材に、他者の意見や情報、自らの思いこみ等を分析・点検しながら、多角的に考え、自分の意見にまとめ・表現していく力の修得を目指す。

本科目は、就職支援・対策のための科目ではなく、教養教育の一貫としてのキャリアデザインを考えるものである。キャリアや職場をめぐる現代の社会変化の状況について学び、その中における、個人の生涯を通じてのキャリアデザインのあり方や可能性について、受講生が自らの問題として考えること、そして最終的には現在の自分を相対化できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業は具体的には、以下の内容に沿って進める。

- 1回：ガイダンス・イントロダクション・キャリアデザインとは？
2回：なぜ今キャリアデザイン？—大学へ行くことの意味の変化

3-5回：現代社会における職場・仕事をめぐる動向
(経済社会・労働環境変化、職場の価値観変化等)

6-7：キャリア選択の多様性と現代の若年労働者をめぐる状況
(従来型雇用変化、非正社員増加、起業、職業の多様性、フリーター問題、世界の若年雇用等)

8-9：必要とされる能力・スキルとは
(産業界の求める能力・スキルの変遷、新しい教養等)

10-14回：自らのキャリアデザインについて考える
(中間レポート発表・自分で考える自己イメージと他者から見た自分像・これからの自らのキャリアと現在の自分、現代社会におけるキャリア開発・デザインとは等)

前半は講義を中心に、毎回の小レポート課題にかかれた意見のフィードバックを行いつつ進め、後半は、レポート発表やグループワーク、授業内ディスカッションなど参加型の授業を行う予定。

いずれにおいても、

●評価方法

1) 毎時間提出の小レポートと授業参加55点、および

2) 課外レポート(中間・最終の計2本および発表)45点の総合評価とする。

ただしこれに加えて、全体回数の3分の2以上の出席が最低限求められる。これは、本授業が、単なる知識伝達型授業ではなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講生へのコメント

本授業では、各テーマの現状・動向を、ただ知識として吸収するだけでなく、毎回、自らの問題として向き合い・考えていくことを求める。そのため、毎時間の授業内レポート等で自らの意見を根拠とともに論理的に表明してほしい。それらを出来る限り授業でフィードバックしながら進めたいと考えている。また、発表やグループワーク等に積極的に参加してほしい。

最終的には、社会における自らの今後のキャリア・人生、そして、働くということについて考えることを通して、現在の自己を相対化し把握する契機として欲しい。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

現代社会と大学

University and Modern Society

(前期 木・4 全)

2単位

大学教育研究センター 飯吉 弘子

●科目の主題と目標

自分が今いる「大学」がどういうところなのか？

今当たり前のように通っている大学はどうやって出来たのか？考えてみたことはあるだろうか。

2人に1人は大学や短大に進学する時代となった日本の大学は、もはや広く大衆や世界に開かれた場となり、かつてないほど多くの役割を社会から期待されるようになった。大学に関する論議も頻繁に行われ、大学は存在意義・あり方を社会から問われている。

今ある「大学」がどうやってできたのか。大学が現在抱える諸問題はどのようなもので、何故生じたのか。また、大学および学生に対する社会からの現在の評価はいつ頃生まれたのか。授業ではこれらの点について、現在の問題を起点として、その現状と歴史の両面から考え、今後の大学のあり方を考えることを目指す。

「大学」というテーマは、学生諸君にとって、学部を超えた共通の身近なテーマであるとともに、自らの足もとから社会や世界に広がるテーマでもある。本授業を通して、そこから広がる現代社会を考えるとともに、学生としての自分を相対化して捉えてみてほしい。

本授業で大学について考えることを通し、自らの足もとを改めて確認し、大阪市大での自らの学び・学生とし

ての関わり方について考えることを最終目標とする。

●授業内容・授業計画

以下の5つの内、1.と2.の側面を中心に、見ていくこととする。

1. 今ある大学はどのようにできたのか?~大学「制度」成立過程
2. 今の学生・昔の学生~大学で学ぶ「学生」の変化
3. 大学とはどういう存在なのか?~「社会との関係」の変遷
4. 大学で学ぶということは?~「教育機能」と教養教育
5. これからの大学はどうなっていくのか?~法人化・大学評価

授業計画としては、初回授業はガイダンスを行い、2~6回目授業で1.の側面について扱い、その後、7~10回目で2.と3.について、11~14回目で4.と5.について考えていく予定である。

なお、それぞれのテーマを扱う際には、現在の状況と同時にその背景についても考え、また、日本の大学全体の問題と同時に、諸君がその中で学んでいる大阪市立大学という長い歴史を持つ1公立大学のケースについても考える。日本の大学全体の中に大阪市大はどのように位

置づけられるのだろうか。「大阪市大らしさ」とは何なのか、についても考えていく。

●評価方法

評価割合は1) 毎時間提出のレポート課題と授業参加が60%、2) 期末レポートが40%とする。

ただしこれに加えて、全体の3分の2以上の出席回数が、最低限求められる。これは、本授業が、単なる知識伝達型授業ではなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講者へのコメント

この授業は、講義をただ聴き知識を吸収するのではなく、大学に関するテーマについて自らの問題として考えることを通して、「学生」としての自らの立場や、「大学で学ぶ」ということの意味を考えることを目標として

いる。そのため毎回の小レポートや授業内発表等で、大学に関する問題への自らの意見を積極的に表明することを求める。それら意見を出来る限り授業内でフィードバックしつつ授業を進めていく。

また、現在の大学をめぐる動向・大学や学生への社会の眼差しを実感するために、毎回、大学に関する記事・ニュース等を探ることを課外課題として課し、それらの要約と意見を毎回の小レポートに記入することも求める。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

サブテキストとして『大阪市立大学の125年』を使用する予定。

現代文化の社会学 演習

seminar in contemporary cultural studies

(後期 木・2 全)

2単位

文学研究科 石田 佐恵子

●科目の主題と目標

本科目は、上回生を対象とする演習・実習的なものである。

まず、第一の目標として、テレビ・電話・コミックス・映画・ゲーム・音楽・インターネットなど、現代メディア文化を考察するために必要な一般的知識の習得をめざす。次に、現代文化研究の応用例やさまざまなアプローチを理解したうえで、それぞれの参加者の関心にしたがって、報告を行う。

最終的な目標は、身近な現代文化現象について、批判的・主体的に考察する能力を身につけることである。

●授業内容・授業計画

第1回～第3回 現代文化分析のための理論と方法を学ぶ。演習形式の報告・議論を行う。

第4回～第6回 「日常生活とメディア文化」を主題に、メディアの影響を自分自身の生活を素材に考える。ワークショップ形式の議論を行う。

第7回～第13回 メディア文化の具体的な題材に焦点をあてて、グループごとに素材収集・分析・発表を行う。

第14回～第15回 まとめの発表・討論とレポートの作成。

●評価方法

平常点：4割程度。毎回の出席と議論への参加、報告準備と発表の熱心さを評価する。

レポート：6割程度。学期末に作成される個人レポートについての総合的評価。

●受講生へのコメント

この演習は、講義科目「現代文化の社会学」と隔年で開講されます。「現代文化の社会学」既修者を歓迎しますが、未履修の者でも理解できる内容になっています。

特定の現代メディアの文化に特に関心のある学生にとって、十分に学ぶ意義があるでしょう。また、2008年度は、テレビ文化・映像文化の分析を中心に扱います。

本科目は、購読・報告・議論が中心となる科目です。履修人数は20人以内とします。制限を超えた場合には、調整を行うことがあります。

●教材

鈴木みどり編『Study Guide メディア・リテラシー』リベルタ出版

他、授業中に適宜指示する。

現代の経営 演習

Seminar of Contemporary Management

(後期 木・3 全)

2 単位

経営学研究科 川村 尚也

●科目の主題と目標

経営学への入門科目として、経営組織論および経営戦略論の基礎概念・理論を理解した上で、それらの概念・理論を用いて現代の日本企業の経営実態と課題を調査・分析し、企業に資本または労働力を投資する未来の「投資家」として、その収益性と将来性を評価することを目標とする。単に企業データを集めて報告するのではなく、理論的視点を用いてデータを分析し、批判的解釈を行えるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回 ガイダンス

第2-4回 企業分析の視点と技法（教員による講義。企業の公式ホームページから入手できる情報とその解釈・分析の手法の紹介を含む。）

第5-14回 受講生（グループ）による調査・分析結果の報告と討議（毎回1つの企業について2つのグループが報告を行い、他の受講生と教員による質疑応答のち、他の受講生と教員が各グループの報告を評価する。）

第15回 まとめ（教員による講義。現代日本企業の経営課題と解決の方向性について。）

●評価方法

グループワークへの貢献度、グループ報告の評価、授

業中の発言、出席状況を併せて50%、期末レポートを50%として成績評価を行う。

●受講生へのコメント

演習科目であるため受講生は最大20名とし、4グループ程度に分かれて、授業時間外にグループワーク（図書館、資料館やインターネット等を利用したデータ収集と分析、報告資料の作成）を行い、その成果を授業で発表してもらう。授業時間外の他の受講生との共同作業に積極的に取り組む意欲をもつ学生を希望する。

●教材

教科書：大阪市立大学商学部（2003）『ビジネス・エッセンシャルズ① 経営』 有斐閣

参考書：大阪市立大学商学部（2002）『ビジネス・エッセンシャルズ② 経営情報』 有斐閣。伊丹敬之（2000）『日本型コーポレートガバナンス』 日本経済新聞社。塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男（1999）『経営管理』 有斐閣アルマ。大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智（1997）『経営戦略』 有斐閣アルマ

国際理解と教育 演習

Education and International Understanding

(後期 火・3 全)

2 単位

特任 David B. Willis

●科目の主題と目標

「国際理解」と「教育」とは何か？また、これらを理解する方法とは？「国際理解と教育」は教育学において最も多様な分野の一つである。この授業は、まず、「国際理解とはなにか？」という社会的、文化的テーマから始まる。これは私たちが日頃マスメディアで目にする「国際理解」よりもはるかに複雑なものである。21世紀の教育は社会、文化をより創造的に人間らしく統合し、新しい方法を探求していくというチャレンジに直面している。

●授業内容・授業計画

講義概要・スケジュールと必要事項（注意：クラスへの出席、ポスター）

1 「今日の国際理解教育問題」グループディスカッション

Keywords : International, Transnational, Transcultural, Hybrid, Creolization

2 日本・アメリカ・世界の教育問題を各3-5項づつ挙げ、提出

ファイナルプロジェクトの説明
「窓際のトットちゃん」を読む

3 ドキュメンタリー「青い目、茶色目」を観賞後自分の学校での経験と比べる

4 講義：Davidの小学校、中学校、大学（BA）、大学院（MA, PhD）と国際理解の経験
自己紹介の例：Davidの場合

5 「日本と世界の学校」「窓際のトットちゃん」に関するグループワーク（課題は授業内にて説明）

6 ファイナルプロジェクトの準備、「Transcultural Japan」

7 ファイナルプロジェクトの準備、「Transcultural Japan」映画「Osaka Story」

8 「Osaka Story」、ファイナルプロジェクトの準備

9 ファイナルプロジェクト-ポスターを展示

- (ポスターは一週間展示される)
- 10 ポスターを外す、映画「長州ファイブ」
- 11 映画「長州ファイブ」、グループディスカッション
- 12 FIELDWORK 宿題：両親/祖父母に彼らが受けた国際理解と教育、ノート提出日
- 13 FIELDWORK 宿題：両親/祖父母に彼らが受けた国際理解と教育、グループディスカッション
- 14 「Hotel Rwanda」「Schindler's List」「戦争中毒」

宿題：戦争と平和について

15 FIELDWORK、ノート提出日

●評価方法

ノート、POSTER, FIELDWORK、出席率 (12/15)

●教材

「窓際のトットちゃん」

PDFs、ドキュメンタリー、映画

現代社会と大学 演習

Seminar: University and Modern Society

(後期 木・3 全)

2 単位

大学教育研究センター 飯吉 弘子

●科目の主題と目標

本授業は、現代の大学が抱える多様な問題を共通題材として、自分で調べ、その成果を発表し、学年・学部学科を超えたメンバーでのディスカッション、自らの意見をまとめる経験を通して、自ら課題を発見し解決策を考える力・自律的に学ぶ力やコミュニケーション力の基礎の修得を旨とし、受講生参加型の演習授業である。

現代社会における大学が抱える諸問題・大学と学生の位置づけについて考えることや、大学の一部である「学生」という立場で内側から見る「大学」と、外側から見られている「大学」像・「学生」像を比較し実感することを通して、より客観的に「大学」や「自分自身が大学で学ぶ意味」を捉えなおし、考察することを目標とする。最終的には、今後の大学自体のあり方とともに「自らの学びや学生としてのあり方」を考え、自己の相対化・客観化を行うことを目指す。

●授業内容・授業計画

本授業では、大学に関する以下の6テーマ（他に興味のあるテーマがあれば応相談）の中から、各自orグループの調査希望に沿って選んだ4~5つのテーマに関して進める。

【テーマ】

1. 大学の大量化と学生の学力の問題
2. 社会から求められる能力・スキル
 3. 大学の入り口・出口問題
 4. 21世紀社会に求められる教養教育
 - ・・・学士課程に求められる教養教育とは？
 5. 専門職大学院と職業資格
 6. グローバル化と大学

授業は以下のとおり進める予定。

- 1 回目授業：ガイダンス・メンバー紹介・希望テーマ調査
- 2～3 回目：調査テーマ決定・調査方法の検討・グループ分け等必要に応じて資料検索・収集と調査のまとめ方指導
- 4～14回目：上記4～5テーマについて、テーマ毎に授業2～3回分を1サイクル（発表と補足講義+ディスカッション）として授業を進める。

●評価方法

1) 授業内提出課題、2) テーマについての調査報告発表の相互評価、3) それをもとにまとめた最終レポート、4) ディスカッションへの参加度合い、5) 出席率をそれぞれ20%ずつ総合評価する。

(20点×5項目=100点) 授業内活動参加を重視するため、全体の3分の2以上の出席回数が最低限求められる。

●受講生へのコメント

本演習では、自らの発表担当回に限らず、授業内外での多くの自律学習と、授業内の活動への積極的な参加が求められるが、それらに真剣に取り組むことで、課題設定・探求力、思考力、自律的学習力・コミュニケーション力等の基本が身につくと考える。投げ出さずに最後までがんばって取り組んでほしい。

参加型の演習授業のため、受講生を15名程度に制限する

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

現代の部落問題

Buraku Issues in Modern Japanese Society

(前期 金・2 全)

2 単位

人権問題研究センター 野口 道彦

●科目の主題と目標

部落差別は、今もなぜ残っているのか。これは大きな謎である。その謎を解いていくことで、日本の社会の現実がみえてくる。社会の構造が浮かび上がってくる。

さまざまな差別問題に共通することは、「差別はもうない」という意見と、「まだある」という意見に分かれることだ。部落差別をめぐってもそうである。問題認識の出発点での認識の食い違いが、どうして生まれるのだろうか。

講義では、まず具体的な差別事件を通して、今、部落差別はどのような形であらわれているのかを考える。そのことから、差別がなくなりつつあるのか。新しいバージョンの差別が生まれてきているのかを考える。

第2の課題は、パラダイムの転換である。部落問題の常識的な見方を疑ってみる。「部落」とは何だろうか、「部落民」とは誰のことをいうのだろうか。今まで、わかりきったことと思っていることも、あらためて考えてみると、ぐらついてくる。あやふやな知識に頼っていたり、カテゴリカルな見方をしていることに気づく。

第3の課題は、差別をなくすためには何をしたいのだろうか、これを一人ひとりの学生が自分の頭で考えることだ。できあいの解答ではない、一人一人にとってのユニークな意見をもつことだ。

●授業内容・授業計画

講義は、次のようなテーマを中心に考える。それぞれ

について、およそ3回づつ講義する。

- 1) 今日の部落差別
- 2) 差別意識
- 3) 社会システムと差別
- 4) 被差別部落の現状と課題
- 5) 部落問題の三位一体的認識からのパラダイム転換

●評価方法

コミュニケーション・カード、中間レポート、期末の試験により評価を行う。

●受講生へのコメント

授業に関連した本を少なくとも3冊読むことを期待している。これについては、中間レポートを書いてもらう。毎回、コミュニケーション・カードに、講義内容に関連した意見や疑問を書いてもらう。次回にはそのうちのいくつかを紹介し、コメントする。このようなやりかたを通して、できるだけ一方通行の講義にならないようにしたい。積極的な受講態度を期待している。

●教材

寺木伸明・野口道彦編『部落問題論への招待---資料と解説, 第2版』(2006年、解放出版社)

大阪市立大学人権問題研究センター編『人権問題ハンドブック1---部落問題編,改訂版』(2006年発行)これは、講義の時に配布する。

現代の部落問題

Buraku Issues in Modern Japanese Society

(前期② 金・1 全)

2 単位

非常勤 内田 龍史、中村 清二
谷元 昭信、齋藤 直子

●科目の主題と目標

部落問題は日本の歴史と文化に根ざした深刻な社会問題の一つである。この問題の解決のために1969年から法的措置が続けられてきた「同和対策事業」は2002年3月で終了した。しかし、行政だけでは解決できない差別意識などの問題が依然として多く残されている。この講義では現代の日本社会において部落問題とは何を意味するかについて考えるとともに、現在その解決のために運動体、NGO/NPO、学校、企業がどのような活動を行っているのかを知り、今後の課題を考える。

この科目の目標は部落問題について正しい知識を身につけることにとどまらない。部落問題に関する自分なりの意見を持ち、それを表現する力を持ち、さらに様々な問題を解決することのできるスキルを身につけることがこの科目の目標である。

●授業内容・授業計画

内田龍史(非常勤、部落解放・人権研究所研究部員)が部落問題についての基礎的な知識と理論の紹介を担当し、中村清二(非常勤、部落解放・人権研究所研究部長)、谷元昭信(非常勤、ヒューマンライツ教育財団理事)が部落問題解決の実践的課題について担当し、齋藤直子が結婚差別について講義する。授業計画は次の通りである。

内田龍史 4月11日～5月2日

- ①部落問題再入門 - 部落問題とは何か-
- ②今日の部落問題の諸相
- ③部落解放への取り組み
- ④現代の部落問題

中村清二 5月9日～5月30日

- ①今日の部落の実態と課題
- ②部落出身者のアイデンティティと生き方
- ③学校発・人権の街づくり - 教育コミュニティ -
- ④グローバル化時代の企業と人権

谷元昭信 6月6日～6月27日

察することを通じて、結婚制度のあり方そのもの、あるいは受講者みなさん自身の結婚のあり方について考えを深められるような授業をしていきたいと思っています。

- ①部落問題認識をめぐる諸問題
- ②部落解放運動の史的展開と今日的課題
- ③人権の法制度確立への現状と展望
- ④人権のまちづくり運動の展開と現状

齋藤直子 7月4日～7月18日

- ①結婚差別を考える(その1)…日本における結婚の現状
- ②結婚差別を考える(その2)…結婚における差別
- ③結婚差別を考える(その3)…ワークショップ

●評価方法

毎回提出してもらうコミュニケーションカード、小レポート、ワークショップへの参加などによって総合的に評価する。また授業時に小レポートを課題と指示することもあるので、注意すること。

●受講者へのコメント

【内田龍史】今から10数年前、大阪市立大学に入学し、

私自身も大学の講義を通じて本格的に部落問題と出会い、向きあうことになりました。部落問題を学ぶことを通じて、現代社会におけるさまざまなマイノリティとの共生を展望する、そのキッカケとなるような講義を展開したいと思います。

【中村清二】部落問題との出会いを大切にしていけることを望みます。それは差別への認識を深めていくことだけではなく、自ら自身のアイデンティティ、人間性を豊かにしていけることだと思います。そのお手伝いをするのが授業です。幸いにして情報(文献)はたくさんありますので、皆さんからの積極的なアプローチを求めます。

【谷元昭信】部落解放運動は、2006年に社会的に指弾される不祥事を引き起こしました。その背景分析などを踏まえながら、現在の部落問題の認識の方法論や運動的・行政的・市民的課題を実践現場からめぐり出し、今後の課題をみなさんと率直に意見交換したいと思っています。そのことを通じて、人と人との豊かな関係づくり、人と社会との公正な関係づくりのために、一人ひとりの生き方に何が求められているのかを模索していきたいと思っています。

【齋藤直子】私の担当する3回の講義では、結婚差別について考えていきます。部落出身者に対する結婚差別について考

●教材

『講義レジュメと資料』を授業開始時に配布する。その他、参考文献については、授業の時に紹介する。

都市社会と差別

Discrimination in Urban Society

(前期 金・1 全)

2単位

非常勤 中川 健一

●科目の主題と目標

講師はこれまで40年近く通信社に勤務してきたジャーナリストである。講義では、講師がこれまで取材してきた具体例を挙げながら、「都市社会と差別」の実態や原因、そして人権都市の創造に向けた道筋を、受講生の皆さんと考えていきたい。

まず「差別と偏見とは何か?」という総論から入り、部落差別、女性差別、障がい者差別、民族差別などの概況や背景を学んでもらう。さらに「格差社会と雇用」「報道と人権」などのテーマや、差別社会を共生社会へと創り変えるための展望について講義する。

全体を通じ、受講生が差別問題についての知識を学ぶだけでなく、共生社会の創造に向けた人材へと成長する契機となるような講義内容にしたい。

●授業内容・授業計画

講義は以下のようなテーマを中心に、ビデオなども使って進める。

①はじめに

②差別とは何か?

③偏見とは何か?

④差別意識の現状

⑤部落差別

⑥女性差別

⑦グループ討論

⑧障がい者差別

⑨民族差別

⑩その他の差別(上)

⑪その他の差別(下)

⑫「格差社会」など労働問題と差別

⑬報道と人権

⑭共生社会創造の展望

⑮まとめ

●評価方法

出席状況、コミュニケーションカードの内容、レポートなどで評価する。

●受講生へのコメント

講師が教えるだけの一方通行ではなく、受講生から疑

問や意見をどんどん出してもらい、自由闊達(かったつ)に議論し合う「双方向」の授業にしたい。若者の「活字離れ」「新聞離れ」が深刻だが、新聞購読は知的生活の基本だ。講義では、新聞をはじめ「情報をクリティカルに読む習慣」を養うため、タイムリーなニュースについても解説したい。

●教材

中川健一著『メディアを人権からよむ』(2006年、解放

出版社)

部落解放・人権研究所編『人権年鑑 2008』(2008年、解放出版社)

寺木伸明・野口道彦編『部落問題への招待－資料と解説<第2版>』(2006年、解放出版社)

その他、講義時に適宜指示する。

<h2 style="margin: 0;">部落解放のフロンティア</h2> <p style="margin: 0;">Frontiers of Buraku Liberation</p>	(後期 金・1 全)	2 単位
	人権問題研究センター	野口道彦
	非常勤	友永健三
	非常勤	大賀正行

●科目の主題と目標

部落問題は日本の歴史と文化に根ざす深刻な社会問題の一つである。この問題をどう理解するかは重要であるが、理解することと問題を解決することとはまた次元が異なっている。この講義の主題は、「いかにして部落問題を解決するか」ということであり、部落問題の解決(部落解放)のために最先端(フロンティア)で取り組んでいる二人の講師を招き、その実践について客観的かつ理論的に分析してもらいながら、これからの実践的課題について考察する。当然のことながら、部落解放のフロンティアの一つではない。受講者には、あなた自身のフロンティアを見いだすことを目標としてもらう。

この講義は部落問題について知らない人を排除するものではないが、問題解決という実践的課題に焦点を絞るために、すでに部落問題の基礎知識を有していることを前提としてすすめる。大学入学までに十分な同和教育を受けていない人には、前期に『現代の部落問題』や『都市社会と差別』などを受講するか、部落問題についての基礎的な文献を読んで勉強しておくことを強く希望する。

●授業内容・授業計画

この講義は、部落解放の最前線で活躍する講師を招いて、今どきのような問題意識で、何が課題とされ、どのように取り組まれているのかを聞き、自らの課題としてどのように受けとめるのかを考える。人権問題研究センターの野口道彦が全体をコーディネートする。前半の6回を部落解放・人権研究所所長であり反差別国際運動(IMDAR)事務局次長である友永健三先生が講義を行う。後半3回を、「第三期の部落解放運動」を提唱し解放運動に大きな影響を与えた大賀正行先生(部落解放・人権研究所名誉理事)が講義する。その間にグループ討論を行い、講義で学んだ内容を受講生同士が議論することにより深める。最後に、野口がまとめを兼ねて講義を行う。

授業計画は次の通りである。

第1回目:<野口担当>○部落解放運動の歩みを振り返る(ビデオ『水平』2002年制作)

- 第2回目:<友永担当>○部落問題をどうとらえるか
- 第3回目:<友永担当>○今、改めて部落地名総鑑差別事件を問う
- 第4回目:<友永担当>○部落解放・人権施策の確立を求めて
- 第5回目:<友永担当>○世界人権宣言と国際人権規約
- 第6回目:<友永担当>○人種差別撤廃条約の締結の意義と課題
- 第7回目:<友永担当>○同和教育の成果を踏まえ人権教育の創造を
- 第8回目:<野口担当>○グループ討論
- 第9回目:<大賀担当>○第3期の新しい部落解放運動を考える(1)
- 第10回目:<大賀担当>○第3期の新しい部落解放運動を考える(2)
- 第11回目:<大賀担当>○第3期の新しい部落解放運動を考える(3)
- 第12回目:<野口担当>部落問題のパラダイム転換(その1)
- 第13回目:<野口担当>部落問題のパラダイム転換(その2)
- 第14回目:<野口担当>部落解放の戦略
- 第15回目:<野口担当>○補足的な講義
(振り替え授業によって、若干の日程の変更が生じる場合もある。)

●評価方法

出席状況と、毎回提出してもらうコミュニケーションカードの内容、グループ討論への参加度によって総合的に評価する。コミュニケーションカードの内容については、それぞれの担当者が評価する。

●受講生へのコメント

今日、新自由主義的な経済政策が拡大するなかで、世界的にも国内的にも貧富の差が拡大し差別が深刻化してきています。このような時代の変化にあたって部落差別の撤廃をはじめ一切の差別を撤廃し人権文化を世界的に築き上げることは決定的に重要です。そのためには何かできるかを共に考えて行きたいと思っています(友永)。

部落問題とは、単に部落の人々のきのどくな問題ではない。日本の近代化、戦後民主主義、日本社会のあり方、さらには各自の人生観や生きざまに関わる重要な社会問題です。このことを部落解放運動の理論や実践を通して学んでいただきたい（大賀）。

●教材

『2008年度 部落解放のフロンティア---講義レジュメと

資料』を、第1回目に配布する。

『人権問題ハンドブック1---部落問題編改訂版』（2006年発行）講義の時に配布する。

参考図書などについては、『講義レジュメと資料』を参照

部落差別の成立と展開

History of Discrimination against Buraku

(後期 金・1 全) 2単位
(後期 金・2 全) 2単位
非常勤 上杉 聡

●科目の主題と目標

被差別部落とそれを生みだした社会の歴史について、もうすでに小、中、高の段階で、ある程度学んだと思う。「士農工商穢多非人」のピラミッド図式や、部落の始まりは江戸時代の初期にあるなど、聞き飽きた人がいるかもしれない。

だが、部落の歴史研究の進展は、とくにこの20年間めまぐるしく、その固定観念がゆさぶられる段階に達している。本講義では、そうした最先端の研究成果をもとに、部落差別とは何か、そしてその始まりと歴史を、平易に、しかし本格的に検討してみたい。

どんな物事においてもそうだが、歴史を知ること、現状を知り将来の展望を導き出すために、不可欠である。大学に学んでいるこの機会に、部落問題を一度根底から考えてみたい、また本格的に取り組んでみたいと考える諸君に、是非とも歴史から深く学ぶ方法を知っていただきたいと考えている。

●授業内容・授業計画（カッコ内は授業回数）

1. 部落史原論（2回）

部落差別とは何か、そもそも部落とは何か、他の差別との違いと同質性、部落差別は日本だけにあるのか。

2. 起源（2回）

部落差別の始まりは、本当はどこに？

- 3. 部落を時代を追ってとらえると……（5回）
中世～近世の日本社会全体の歪みがみえてくる
- 4. 部落差別は今なぜあるのか？（4回）
近現代の差別と解放の原理を追求する
- 5. 部落差別と日本の文化（1回）
芸能・小説・宗教にあらわれた部落差別

●評価方法

期末試験と出席で評価する。

●受講生へのコメント

真理は人を自由にする。厳しく理不尽な差別の歴史だが、それを根底から考え直すとき、私達の精神は自由になり、解放される。部落の歴史を知ることは楽しいことだ。お説教やドグマを求めて講義を受けに来る人がもしいるとすれば、その人をガッカリさせてあげたいし、大学らしい知性溢れる授業にしよう努力したい。

●教材

教科書（毎回使用する）

上杉 聡『これでわかった！部落の歴史』（解放出版社）

参考書

上杉 聡『天皇制と部落差別』三一新書

同上『部落史がわかる』三一書房

同上『よみがえる部落史』社会思想社

部落差別の成立と展開

History of Discrimination against Buraku

(後期② 金・1 全) 2単位
非常勤 辻本 正教

●科目の主題と目標

1970年代以降活発化してきた部落史論は、膨大な地域史料の発掘とともに、これまでとまったく違った様相を呈してきている。中でも、近世大和における旧穢多村とそれ以外の「一般村」との間における土地所有実態等の解明から、これまでの部落史観がその根本から崩されようとしていることの意義は大きい。被差別部落はその成立からして悲惨であり貧困であったとする従来の歴史観が打ち破られたのである。近世大和における多くの旧

穢多村は他に比して遜色なく土地を所有し、経済活動もまた他に比してより活況を呈していたことが公然化されたのである。逆に、部落の貧困化は明治期以降、とりわけ松方デフレ以降に現出したものであったということが明らかとなってきたわけであるが、そんな中、では一体、部落差別とは何であり、何によって形作られたものであったのかという点の解明が、従来に増して必要とされるようになってきたのである。そこでこの講義は、部落解放にむけた展望とも重ね合わせながら、従来の部落史観

の転換を図っていくものとする。

●授業内容・授業計画

従来の部落史論の多くは、部落の成立が近世にあるものとし、穢多身分は近世幕藩勢力によって創出されたとする立場をとりつづけてきた。ところが、一般の歴史学界ではすでに、そのような考え方が一笑に付されている現実にあるのである。では何故そのような部落史が今もなお通用しているかという、圧倒的多くの歴史学者が今なお部落問題をタブーとし、彼と彼女らがもっているはずの本音をいまだに語ろうとしないという理由が一つ。さらには、部落史に手を染められている学者・研究者の中に、現実の部落解放運動に対する意識・無意識を問わない遠慮や配慮があったからだと言える。

本講では上記のような二側面からする制約をとばらいつつ、自由な立場で部落史を、いや日本史の一断面を切りとってみたい。その意味で本講では部落の成立を中世とみるいわゆる中世起源説をとり、古代をその前史、近世をその爛熟期ととらえて論を進めていく。また、近

代にあつては融和運動の歴史、ならびにそれと密接不可分にかかわるものとしての全国水平社の歴史をこれまではない視点で明らかにしてゆく。

方法論としては、従来の文献史学にみえる社会経済史的観点の限界性や、民俗学的手法の限界性を超えるべく、精神史とでも言うべき方法をとる。より具体的には、我が国の古代・中世、果ては近世に至るまでの社会を席卷した道教や陰陽五行説、ないし易学などをも駆使しながら、そこに神道や密教の歴史や教理内容にも触れていく形で展開していきたい。

講義時間の割り振りは、総論1、古代2、中世3、近世2、近代2、グループ討論2、まとめ1を予定している。

●評価方法

レポートと出席率（三分の二程度の出席を期待する。）

●受講生へのコメント

レジュメを基にするが、適宜、参考書を紹介する。

障害者与人権 I

Human Rights of People with Disabilities I

(前期① 金・2 全) 2単位

(前期② 金・2 全) 2単位

生活科学研究科 堀 智晴 他

●科目の主題と目標

「障害者与人権」の講義は、1973年に当時の教養部で起きた障害者差別につながる発言を契機にして、全学的な問題解決の必要性からもうけられた講義である。この講義には講師として障害のある本人も参加している。

障害者はこれまで長い間偏見と差別の中で、一人の人間として生きていく権利を奪われてきた。現在でも健常者中心の価値観の中で、社会生活はきびしい状況に置かれている。

この講義では、このような社会のあり方を具体的な問題を考察することを通して問い直していく。受講生は自分の問題として考えて欲しい。

●授業内容・授業計画

- ①オリエンテーションと障害者の自分史（堀、南部障害者解放センター）
- ②障害者問題入門1（牧口一二、堀）
- ③障害者問題入門2（牧口、堀）
- ④障害者問題入門3（牧口、堀）
- ⑤障害者問題入門4（牧口、堀）
- ⑥障害者の就労1（酒井京子、堀）
- ⑦障害者の就労2（酒井、堀）
- ⑧障害者の就労3（酒井、堀）

- ⑨障害者の就労4（酒井、堀）
- ⑩障害者の自立生活1（南部障害者解放センター、堀）
- ⑪障害者の自立生活2（南部障害者解放センター、堀）
- ⑫障害者と芸術（金満里、堀）
- ⑬障害者の教育1（堀）
- ⑭世界の障害者問題の現状（堀）
- ⑮まとめ（堀）

●評価方法

コミュニケーションカードによる出席点（50%）とレポート（50%）により評価する。

●受講生へのコメント

受講生は「障害者与人権 I」と「障害者与人権 II」とを履修してほしい。IとIIでひとまとめの講義と考えている。積極的に質問を出して欲しい。また意見を述べて欲しい。また、受講生は、ボランティア活動をするなどして障害者と接する機会を持って欲しい。

●教材

適宜資料を配付する。ビデオも活用する。

参考文献：牧口一二著『ちがうことこそええこっちゃ』（河合出版）

堀 智晴編著『ちがうからこそ豊かに学びあえる』（明治図書）

障害者与人権Ⅱ

Human Rights of People with Disabilities Ⅱ

(後期① 金・2 全) 2単位

(後期② 金・2 全) 2単位

生活科学研究科 堀 智晴 他

●科目の主題と目標

「障害者与人権」の講義は、1973年に当時の教養部で起きた障害者差別につながる発言を契機にして、全学的な問題解決の必要性からもうけられた講義である。この講義には講師として障害のある本人も参加している。

障害者はこれまで長い間偏見と差別の中で、一人の人間として生きていく権利を奪われてきた。現在でも健常者中心の価値観の中で、社会生活はきびしい状況に置かれている。

この講義では、このような社会のあり方を具体的な問題を考察することを通して問い直していく。受講生は自分の問題として考えて欲しい。

●授業内容・授業計画

- ①オリエンテーションと障害者の自分史 (堀、南部障害者解放センター)
- ②障害者と法の下での平等1 (松本晶行、堀)
- ③障害者と法の下での平等2 (松本、堀)
- ④障害者と法の下での平等3 (松本、堀)
- ⑤障害者と法の下での平等3 (松本、堀)
- ⑥精神障害者の人権1 (仲野実、堀)
- ⑦精神障害者の人権2 (仲野、堀)

- ⑧精神障害者の人権3 (仲野、堀)
- ⑨精神障害者の人権4 (仲野、堀)
- ⑩障害者の自立生活3 (南部障害者解放センター、堀)
- ⑪障害者の自立生活4 (南部障害者解放センター、堀)
- ⑫障害者の教育2 (堀)
- ⑬障害者の教育3 (堀)
- ⑭知的障害者問題の人権 (堀)
- ⑮まとめ (堀)

●評価方法

コミュニケーションカードによる出席点 (50%) とレポート (50%) により評価する。

●受講生へのコメント

受講生には「障害者与人権Ⅰ」と「障害者与人権Ⅱ」の両方を履修してほしい。ⅠとⅡでひとまとめの講義と考えている。講義中に積極的に質問を出して欲しい。また意見を述べて欲しい。受講生は、ボランティア活動をするなどして障害者と接する機会を持って欲しい。

●教材

適宜資料を配付する。ビデオも活用する。

参考文献：仲野実著『「近代」を抜ける』(批評社)

女性学入門編

Women's Studies, I

(前期 金・2 全)

2単位

人権問題研究センター 古久保 さくら 他

●科目の主題と目標

わたし達は社会的存在であり、社会的につくられた文化による刷り込みを日々受けている。社会的文化的刷り込みとしてのジェンダーに自覚的になり、社会のなかで当然と認識し、目にしていながら理解してこなかった問題を見えるもの、語りうるものにできる能力をつけること、これが本講義の主目標である。

本講義では、学生諸氏が慣れ親しんできた学校教育とマスメディアという領域を中心に、個々人の経験にジェンダーがどのように関連しているのかについて、考察したい。

そのことを通じて「個人」として生きることの難しさや大事さを考えてもらいたいと思う。

●授業内容・授業計画

以下の内容を計画しているが、非常勤講師の日程の都合で、若干の変更の可能性がある。

第1回 オリエンテーション (古久保)

第2～4回 メディアにおけるジェンダー

(小川真知子)

- ①CMにみるジェンダー
- ②アニメーションにみるジェンダー
- ③ジェンダー視角から報道をみる
- 第5回 グループディスカッション (古久保)
- 第6～8回 変容期にあるジェンダー (古久保)
- ①近代的ジェンダーとは
- ②変容期にあるジェンダー
- ③男女共同参画社会化はすすんだか
- 第9～13回 教育におけるジェンダー平等をめざして (堀内真由美・古久保)
- ①教育におけるジェンダー格差
- ②人権教育としての性教育
- ③「ジェンダーフリー」教育の現状
- ④ワークショップ
- ⑤キャンパスセクシュアルハラスメント
- 第14回 まとめ (古久保)
- 第15回 質疑応答とレポート提出

●評価方法

出席点 (毎回感想文を提出する)・中間レポート・最

終レポートにより評価する。

●受講生へのコメント

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカードの提出が義務づけられている。これをまとめて「ジェンダー・ペーパー」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。積極的に関与してくれることを期待している。

また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

●教材

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。それ以外にも随時指示する予定である。何回かの授業では、教材としてビデオを利用する。

女性学応用編 Women's Studies, II	(後期 金・2 全)	2単位
	人権問題研究センター	古久保 さくら 他

●科目の主題と目標

本講義の主目的は、女性学という学問で扱う問題領域のうち、セクシュアリティというテーマを中心に上げ、それを様々な角度から考察する事を通じて、その問題のもつ複雑さを理解し、関連問題の克服のための方策をとるという姿勢を習得することにある。それは、物事を複眼的に考察するという能力を養う事でもあると考える。

本講義では、メンズ・リブ運動の活動家や、フェミニスト・カウンセラー、弁護士など多様な非常勤講師をむかえ、現状の問題とその解決に向けた具体的方策などを講義いただく予定である。

●授業内容・授業計画

以下の内容を計画しているが、非常勤講師の日程の都合で、若干の変更の可能性がある。

- 第1回 オリエンテーション (古久保)
- 第2回 若者の性行動におけるジェンダー (古久保)
- 第3回 異性愛だけが性愛か? (古久保)
- 第4回 セクシュアリティと生殖技術 (古久保)
- 第5回 男性性とセクシュアリティ (中村彰)
- 第6回 グループディスカッション (古久保)
- 第7回 キャンパス・セクシュアル・ハラスメントという問題 (古久保)
- 第8回 性暴力被害者の心理と援助者の役割 (周藤由美子)

- 第9回 ワークショップ (周藤由美子)
- 第10回 法律家からみたジェンダー・セクシュアリティ (乗井弥生)
- 第11回 ジェンダー視点からみた売春 (古久保)
- 第12回 ジェンダー視点からみた買春 (中村彰)
- 第13回 グループディスカッション (中村彰)
- 第14回 「自己責任」を考える (古久保)
- 第15回 質疑応答とレポート提出 (古久保)

●評価方法

出席点 (毎回感想文を提出する) ・最終レポートにより評価する。

●受講生へのコメント

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカードの提出が義務づけられている。これをまとめて「ジェンダー・ペーパー」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。積極的に関与してくれることを期待している。

また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

●教材

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。それ以外にも随時指示する予定である。何回かの授業では、教材としてビデオを利用する。

女性学 Women's Studies	(前期② 月・1 全)	2単位
	非常勤	日野 玲子

●科目の主題と目標

性別分離が、いかに社会的に維持され、構造化されているのか。1970年代以降、女性学の視点から、社会のさまざまな領域の検討が始められ、90年代にはジェンダー概念を取り入れた研究がすすめられている。また、90年代以降、女性に対する暴力が新たな課題として問題化され、女性と男性の関係のあり方を問う契機となっ

ている。こうした女性学・ジェンダー研究の動向を知るとともに、受講者が自らの問題として考える機会を提供するつもりである。具体的には、以下の点を目標とする。

- ① ジェンダー概念を理解し、暮らしの中のジェンダー・バイヤスに気づく力をつける。
- ② ジェンダー・バイヤスをもたらず私たちの社会のジェンダー秩序を見抜き、そこにひそむ価値観について考

え、課題をみつける力をつける。

- ③ 女性学の意義を理解し、ジェンダー平等な人間関係や社会のしくみについて考える力をつける。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 暮らしをジェンダー・チェック
- 第3回 ジェンダー秩序を考える
- 第4回 文化の力を知る——ジェンダー化された身体
- 第5回 職務のジェンダー化——ジェンダー化言説の効果
- 第6回 女性学・男性学・ジェンダー研究の動向
- 第7回 男女共同参画社会基本法について
- 第8回 女性に対する暴力を考える
セクシュアル・ハラスメントをうみだす土壌
- 第9回 家庭内暴力（夫や恋人からの暴力）について
- 第10回 暴力防止のための取り組み

- 第11回 男性学の課題と主張
- 第12回 ジェンダーと教育——隠れたカリキュラム
- 第13回 ジェンダーの視点にたつ男女平等教育
- 第14回 家族問題とジェンダー
・授業の展開によって、内容の変わる場合があります。

●評価方法

授業時におけるレポート（30%）と試験に代わるレポート（70%）

●受講生へのコメント

女性学は実践的なテーマを扱うため、積極的な参加を求める。

●教材

各時間にプリント資料を配布。視聴覚教材も使用。
＜参考図書＞池内靖子他編『改訂版 21世紀のジェンダー論』晃洋書房 2004

エスニック・スタディ入門編

Ethnic Study

（前期 金・2 全）

2 単位

経済学研究科 朴 一

●科目の主題と目標

バブル崩壊後、日本を目指す外国人労働者はやや減少したものの、途上国に比べ高賃金の日本は、依然として外国人労働者の格好の出稼ぎ先となっている。日本に滞在、居住する外国人は、景気低迷期に入っても増加傾向を示しており、2002年時点で外国人労働者と不法残留者を合わせた在日外国人の実数は 200万人を超えた。

このうちの約 4 割が永住権をもつ在日コリアンと在日中国人（華人）である。彼らの多くは、戦前・戦中期の植民地政策によって日本への渡航を余儀なくされた歴史的経緯を有する人達の子孫である。日本に生活基盤を置く彼らは、日本人と同じように、日本で生まれ、日本社会で育ち、日本社会のさまざまな分野で活躍している。

だが、彼らはルーツや国籍が違うという理由で、就職、入居、結婚など人生のさまざまな場面で、日本社会からの圧迫を受けることが少なくない。どうして、こうした民族差別が存在するのだろうか。この講義では、日本人にとって最も身近な外国人である在日コリアンに光をあてて、日本の「内なる国際化」に問われた課題について考えてみたい。

●授業内容・授業計画

- 1. 私の彼は外国人
- 2. ペットと外国人、お断り！

- 3. 金由美さんからのメッセージ
- 4. 俳優「伊原剛志」のルーツ
- 5. 大震災の被災者は日本人だけではない
- 6. 忘れられた皇軍
- 7. こころの壁、法の壁
- 8. 無年金外国人は訴える
- 9. 同情するなら職をくれ
- 10. 国民とは誰か、住民とは誰か
- 11. 在日コリアン新世代の生き方とは
- 12. 力道山、新井将敬、孫正義、それぞれの生き方

●評価方法

出席とレポートを重視して採点。

●教材

教科書

- ・朴一『在日という生き方』講談社メチエ
- ・朴一『在日ってなんでんねん』講談社 + a 新書
- 参考書
- ・『歴史のなかの在日』藤原書店
- ・『ニッポンは面白いのか』講談社メチエ

●特記事項

授業とレポートで用いるので、受講者は教科書を購入して下さい。

エスニック・スタディ応用編

～世界の民族問題

(後期 金・2 全)

2 単位

経済学研究科 朴 一 他

●科目の主題と目標

20世紀は、世界のあらゆる地域で民族紛争が繰り返された時代であった。ロシア(旧ソ連)、東欧、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アラブ、北米など、世界中で民族独立運動や民族間の抗争、衝突が繰り返され、そして現在も異なる民族やエスニック集団の間で「文明の衝突」が起こっている。なぜ、これほど民族紛争は繰り返されるのか。また人類はこうした民族紛争を解決するために、どのような処方方を提示してきたのか。講義では、フランス、中国、インド、マレーシア、日本などの国を事例にして、現代世界の民族問題の断面に迫ってみたい。

●授業内容・授業計画

1. 日本における外国人労働者問題①
2. 日本における外国人労働者問題②

3. インドにおけるエスニック問題①
4. インドにおけるエスニック問題②
5. フランスにおける移民問題①
6. フランスにおける移民問題②
7. マレーシアにおける民族問題①
8. マレーシアにおける民族問題②
9. 中国における少数民族問題①
10. 中国における少数民族問題②
11. 民族問題への理論的アプローチ①
12. 民族問題への理論的アプローチ②

●評価方法

出席、レポート、試験を総合して採点

●教材

そのつどプリントを配付。参考書はそれぞれの講義で提示する。

部落産業論

－産業経済社会と人権－

Industrial Economics of Buraku (Discriminated Community)

－Industrial Economy and Human Rights－

(前期① 金・2 全)

2 単位

(前期② 金・1 全)

2 単位

非常勤 田中 充

●科目の主題と目標

部落差別の経済的側面は、特に主要産業・労働雇用面に現れている。そこで、部落の人々の携わってきている産業・労働などが、日本経済の発展・推移の過程でどのように位置づけられてきているかという実態を本質的に見極め、「部落完全解放」という国家・国民的課題の一助としたい。

立派な伝統的地場産業であり、広く内外の国民・消費者の文化生活を支えてきている重要な産業・中小企業であるのに、わが国ではまったく不当な差別の結果、産業構造の最末端に位置させられてきている部落の産業、その代表的な業種＝皮革関連産業・リサイクル・環境産業および食肉産業などに焦点を合わせ、これらの業界の特質・現状および問題点と、それに対する行政施策のあり方などをケーススタディーを通じて考察する。

大都市・地方はもとより、産業業種として、諸外国の場合とも比較検討し、今後の内外国民経済の重要な担い手という観点からも当該産業の発展課題などを模索し、提言を試みる。

なお、当問題は、究極の「人権問題」という立場から、今後一層増加することが必至である外国人労働問題とも関連して考察したい。

●授業内容・授業計画

1. 基本的認識 —産業経済社会と人権問題—
2. 部落の産業問題に対する社会学的・経済学的・経営

学的アプローチ

- (1) 日本的産業経済社会の発展・推移と中小・零細企業問題
- (2) 中小・零細企業の本質と問題点
- (3) 伝統的地場産業の本質と問題点
- (4) 部落の産業固有の本質と問題点
- (5) 企業の経営組織・形態の発展推移と部落の産業
- (6) 産業の構造および組織と部落の産業
3. 部落の産業の実態と関連行政施策の推移
4. 部落の産業、今後の課題
 - (1) サービス経済化・情報化・国際化の進展と部落の産業
 - (2) 国民文化生活・ニュービジネス分野における部落の産業の存続・発展の方向性

●評価方法

本講義を受講することによって、自分自身が何を理解しえたか、「国民的課題」にいかに関与すべきかなど、意見表明の場として、期末テストを論述式で行う。

●受講生へのコメント

たとえ単なる単位修得目的で受講したとしても、やがては自ら「国民的課題」として取り組む問題意識が芽生えることはもとより、積極的に選択した受講生一層の理解と認識の高まりを期待する。

●教材

教科書：田中充編著『日本の経済構造と部落産業

〔21世紀増補版〕『革新的中小企業への発展課題―』
 (関西大学出版部)

参考書：同『日本経済と部落産業』(解放出版社)

藤田敬三・竹内正己編『中小企業論(第4版)』有斐閣双書、Mitsuru Tanaka “Small Business of Buraku in Japan's Economy” Kansai Univ. Press.2004.9. その他適宜紹介。

ビデオ・資料コピーなどによって、より具体的に実態認識を深める。

●キーワード

大都市および地方における部落の産業・中小企業・慢性的窮乏・国際化・貿易の自由化・生活文化産業・ニュービジネス・部落解放と人権・企業努力・企業育成政策・中小企業に対するリーダーシップとカタライザー・社会的合理的分業

今こそ部落・人権問題を正しく認識し、あるべき解決策を構築しよう。

障害者と人権Ⅲ 演習

(前期 水・1 全)

2単位

Seminar: Human Rights of People with Disabilities Ⅲ

〔この科目は、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業である。〕

生活科学研究科 堀 智晴 他

●科目の主題と目標

本学では、総合教育科目として「障害者と人権Ⅰ、Ⅱ」を開講している。この講義はいわば障害者問題入門に当たる。この「障害者と人権Ⅲ」は、この入門をさらに専門的に深め、演習として開講するものである。

障害のある人にも講義をしてもらう。また、障害者授産施設や自立生活センターを見学してそこで意見交換を行う。

●授業内容・授業計画

- ①オリエンテーション(堀)
- ②自分と障害者との出会いについて語り合う(堀)
- ③障害者問題の歴史1(楠敏雄、堀)
- ④障害者問題の歴史2(楠、堀)
- ⑤障害者の教育問題(楠、堀)
- ⑥障害者の就労問題(楠、堀)
- ⑦障害者の自立生活(川嶋雅恵、堀)
- ⑧障害者施策の検討1(川嶋、堀)
- ⑨障害者施策の検討1(川嶋、堀)
- ⑩知的障害者通所授産施設の見学(楠、堀)
- ⑪知的障害者通所授産施設の見学についての感想を話し

合う(堀)

⑫自立生活センターの見学(川嶋、堀)

⑬自立生活センターの見学についての感想を話し合う(堀)

⑭現代の障害者問題の課題(川嶋、堀)

⑮まとめ(堀)

●評価方法

ゼミ形式での討議への参加(60%)とレポート(40%)により評価する。

●受講生へのコメント

受講生は「障害者と人権Ⅰ、Ⅱ」をすでに履修していることが望ましい。受講生の数は、20名程度に限る。ゼミ形式による演習なので積極的に発言すること。また、受講生は、ボランティア活動をするなどして障害者と接する機会を持って欲しい。

●教材

適宜資料を配付する。ビデオも活用する。

参考図書：楠敏雄著『自立と共生を求めて』(解放出版社)

日本史の見方

(前期① 金・1 全) 2単位

(前期② 火・2 全) 2単位

文学研究科 栄原 永遠男

●科目の主題と目標

奈良時代というと、諸君はいったいどのようなことを思い浮かべるでしょうか。壮大な平城京や東大寺が造営され、阿修羅像に代表される天平彫刻の優品や絢爛豪華な正倉院宝物が製作された時代、聖武天皇や光明皇后、藤原不比等や仲麻呂などの藤原氏の人々や、万葉歌人大伴家持が活躍した時代、などなど。

これらが、多くの人々がもっているイメージだと思います。たしかに、この時代が、一面で華やかさに満ちた時代であったことはまちがいないです。しかし、実はこれは、この時代の一面にしかすぎないのです。

この時代には、長屋王の変、光明立后、藤原広嗣の反乱、橘奈良麻呂の乱、藤原仲麻呂の乱、道鏡事件その他、多くの事件・政変があいついで起き、諸勢力がぶつかりあい、殺し合いました。この時代は、政治的にみると大変な激動期だったのです。

では、なぜこのように大事件が頻発したのでしょうか。華やかな天平文化の背後で何が起っていたのでしょうか。この授業では、近年の発掘調査や最近の研究の成果をふまえて、奈良時代の政治過程を、できるだけ具体的に検討します。

●授業内容・授業計画

律令国家が確立した8世紀の初頭から、歴史の流れにしたがって授業を進めています。今年度は、つぎのような内容で奈良時代中期～後期の政治過程を詳しく検討します。

1. 藤原仲麻呂政権の確立
2. 光明皇太后と藤原仲麻呂
3. 藤原仲麻呂の乱
4. 称徳女帝の即位

●評価方法

出席と定期試験の成績により評価します。

●受講生へのコメント

この授業は、諸君が抱えている奈良時代のイメージや先入観とはかなり違う内容になります。高校までの授業や、さまざまな影響で形成された先入観や固定観念にとらわれずに、歴史や現実を見ていく柔軟な眼を育ててほしいと思います。

●教材

教科書はありません。授業で使用する史料は、適宜プリントで配布します。

東洋史の見方

An Introduction to the Asian History

(前期① 木・2 全)

2単位

文学研究科 平田 茂樹

●科目の主題と目標

前近代中国社会においては「陞官発財」（官僚となつて富を築く）という言葉に代表されるように、官僚になることが立身出世の最大目標とされた。その目標に達する手段が科挙（官吏登用試験）であり、この科挙、官僚制の仕組みを講義することを通じて、前近代中国社会の仕組みについて理解することを目指す。

●授業内容・授業計画

テキストに『科挙と官僚制』を使用する。授業はこのテキストに従って講義を進めていく。

- 第1～2講：科挙と中国社会
- 第3～4講：科挙を理解するための視点
- 第5～6講：エリートへの登竜門
- 第7～8講：官僚昇進の仕組み

第9～10講：皇帝と官僚

第11～12講：科挙合格のもたらしたもの

第13～14講：科挙の虚構と真実

●評価方法

授業期間中、数度にわたる簡単な小レポートを課す。最後に、授業の理解度を問う最終レポートを課し、両者の成績を以て評価する。

●受講生へのコメント

この授業では前近代中国の歴史を講義しますが、同時に広く現代アジアの問題についても触れていきます。歴史を学ぶとともに、現代社会についても真剣に学んでいく姿勢を持ってください。

●教材

平田茂樹『科挙と官僚制』（山川出版社、1997）

東洋史の見方

An Introduction to the Asian History

(前期② 木・2 全)

2 単位

副学長 中村 圭爾

●科目の主題と目標

中国史としての『三国志』

『三国志』の時代、つまり2～3世紀の中国では、歴史は現実にどのように展開し、それは中国史上、どのような意味をもつのか。小説『三国志』(三国志演義)の英雄豪傑、諸葛亮や劉備、曹操、孫権たちはその時代の中で、小説の主人公ではなく、歴史上の人物としていかに生き、また、どのような役割を歴史の中で果たしたのか。

『三国志』の世界は、戦争と混乱に満ちていただけではない。その中には、未来を生み出す新しいエネルギーが蓄えられつつあった。この時代に始まった分裂は、收拾されるまでに約400年を要したが、その間、つぎの時代を彩るさまざまな要素をはぐくんだのである。

この『三国志』時代を、小説ではなく、歴史として正しく理解することをめざして、経済、社会、政治、文化などさまざまな角度から、史実を歴史学的に分析したい。

●授業内容・授業計画

おおむね以下のような順序で、講義中心で話を進めるが、各項目は進行の大きな基準であることをお断りしておく。

- 1 黄巾の乱から漢末政局の混乱
- 2 洛陽の権力闘争と董卓の登場
- 3 青州黄巾と曹操の台頭
- 4 徐州の戦乱と劉備の参戦

- 5 官渡の戦い
- 6 荊州の劉備と諸葛亮
- 7 天下三分の計
- 8 赤壁の戦い
- 9 曹操の関中出兵と劉備入蜀
- 10 建安24年
- 11 夷陵の戦い
- 12 諸葛亮の北伐とその意味
- 13 諸葛亮の死と東アジア
- 14 三国正閏論

●評価方法

学期末に論述試験を行なう。正確な事実認識は当然のこととして、自らの主体的な解釈や主張があるかどうか、それを正確に表現する能力があるかどうか、なども評価の基準である。

●受講生へのコメント

『三国志』に予備知識がなくとも十分に理解できるような内容にするつもりなので、とくに事前に準備することはない。小説三国志ではなく、歴史学の講義であることに留意してほしい。

●教材

教科書は使用しない。

授業時間中、必要に応じて、原典、年表、地図、その他関係史料のプリントを配布する予定。

参考書についても、授業時間中に随時紹介する。

西洋史の見方

An Introduction to the Western History

(前期① 水・3 全)

2 単位

(前期② 木・1 全)

2 単位

文学研究科 井上 浩一

●科目の主題と目標

「キリスト教の成立」

この授業では、イエスの時代から中世成立期に至る、初期キリスト教の歴史をたどります。歴史としてのキリスト教を知ることによって、西洋文明をより深く理解することができるでしょう。同時にそれは、国家と宗教の関係という現代的な問題を考える手がかりにもなると思われます。

●授業内容・授業計画

1. 序論——西洋文明とキリスト教
2. 共観福音書——史的イエス研究の方法
3. 史的イエス——イエスの実像を求めて
4. 原始キリスト教会——『使徒行伝』の世界
5. パウロの伝道——世界宗教への道
6. 「暴君」ネロの迫害——ローマ帝国とキリスト教 (1)

7. 寛容から迫害へ——ローマ帝国とキリスト教 (2)
8. 迫害から公認へ——ローマ帝国とキリスト教 (3)
9. コンスタンティヌスの改宗——歴史を変えた改宗の意味
10. 正統信仰の成立——キリスト教における異端問題
11. 中世キリスト教世界へ——古代文明の継承者
12. まとめ

授業は講義形式が中心ですが、資料を読んだり、短いレポート(感想・意見)を書いてもらうこともあります。

●評価方法

授業と関連するテーマでレポートを書いてもらい、それを主たる資料として評価します(レポート作成については次項②参照)。授業中に書いてもらう小レポートも評価の参考にします。なお評価にあたっては、自分なりの歴史の見方・考え方を、具体的な素材に即して、どれ

くらいきちんとまとめているかを重視します。

●受講生へのコメント

- ① 大学の歴史学は「暗記物」ではありません。本講義も高校世界史の予備知識なしで受講できます。ただし世界史をまったく習っていない人、すっかり忘れてしまった人は、世界史の教科書や入門書に少し目を通しておくと、講義が理解しやすくなると思います。
- ② レポート作成法の特別授業を2回行ないます。テー

マの決定、文献調査（学術情報センターの利用法）、書物の読み方、推敲のしかたなどレポートの書き方を具体的に話します。大学において主体的に学ぶための技術を身につけてもらいたいと思います。

●教材

教科書は用いません。授業に必要な資料は毎回プリントとして配布します。ビデオ教材も適宜使用します。各テーマに関する参考文献はその都度紹介します。

日本社会の歴史

Japanese History and culture

(後期② 水・2 全)

2単位

文学研究科 仁木 宏

●科目の主題と目標

中世の都市には、港町、宗教都市、宿、城下町など、さまざまな種類があり、中世はまさに「都市の時代」であった。また中世都市は経済だけでなく、政治、宗教、文化などの中心地であり、そこには多彩で豊かな住人の暮らしがあった。

この授業では、そうした中世都市のうち、大阪平野に生まれたものをとりあげて、その特質について学ぶ。中世の大阪平野は、首都京都と、大陸・半島・「南蛮」へつながる瀬戸内とを結ぶ位置に立地し、日本一多様で多数の都市が展開した地域である。

日本社会の歴史の多様性、特徴を理解し、複雑かつ具体的な事象が歴史を作り上げてゆくことを認識できる能力が身につくようにする。

●授業内容・授業計画

講義はおおよそ以下のテーマでおこなう。

- 1：中世大阪平野の歴史環境
- 2：四天王寺門前町
- 3：渡辺津
- 4：兵庫津
- 5：堺
- 6：尼崎

- 7：岸和田と茨木
- 8：芥川宿と芥川城
- 9：池田城下町と伊丹城下町
- 10：高屋城と古市
- 11：富田寺内町と枚方寺内町
- 12：久宝寺寺内町
- 13：富田林寺内町
- 14：大坂寺内町
- 15：中世大坂都市の特徴

プリントとスライド（パワーポイント）を利用して多角的に授業を進める。中世都市をどこまでビジュアルに復元できるのか、さまざまな工夫を凝らしたい。

●評価方法

講義内容を的確に理解できているか、講義に能動的にかかわっているかを、小レポート（30/100）と定期試験（70/100）で評価する

●受講生へのコメント

授業に出席するだけでなく、興味をもった中世都市にフィールドワークに出かけたいようになってほしい。

●教材

毎回、プリントを配布する。

東洋社会の歴史

Asian History and Culture

(後期 火・2 全)

2単位

文学研究科 井上 徹

●科目の主題と目標

「中国伝統社会の仕組みと近代化」

16世紀は時代の転換期である。国際貿易と連動する商品経済の急速な発展のなかで、商業化・都市化がかつてない深度をもって展開し、新たな国家や社会の仕組みが模索された。16世紀を転換点として、どのような社会が形成されたのかを考えてみたい。とくに注目するのは、明清両王朝の国家の仕組み、それを支える社会的流動性、国際関係と連動する商業化・都市化などである。

これらの諸問題の検討によって伝統社会の固有の構造を明らかにしたうえで、19世紀に始まる近代化の動きを紹介する。

●授業内容・授業計画

本講義では、ビデオや写真資料を用いて現代の中国社会の様子を紹介しながら、上記の問題を検討することにより、16世紀以降、現代に至るまでの長期にわたる中国社会の基底にあるものを探求する。講義は以下の順序で進める。

第1回	ガイダンス
第2回	明朝の樹立
第3回	皇帝と官僚制度
第4～第5回	人材登用制度と社会的流動性
第6～第7回	海外貿易の展開
第8～第9回	商業化・都市化
第10～第12回	「西洋の衝撃」とは何か
第12～第14回	近代化への歩み
第15回	まとめ

●評価方法

試験と出席状況によって評価する。

●受講生へのコメント

授業を聞くだけでなく、書籍、新聞、インターネット、旅行など様々な機会を用いて、それぞれ自主的に情報を入手し、現代に立脚する歴史学の方法を思考するようにつとめてください。

●教材

プリントを配布する。授業中に適宜、参考文献を紹介する。

西洋社会の歴史

History of Western Society

(後期 火・3 全)

2単位

文学研究科 大黒 俊二

●科目の主題と目標

読み書きと書物のあり方という視点から西洋の文化史をたどる。古代から現代まで、人はいかにして文字と付き合ってきたか、本を読んできたか。「読む」とはどのような行為なのか。読むことがあまりに自然となった現代、人はあらためてこうした問いを發することはない。

しかし、紙上の黒いしみを追って意味を解し、伝えることは、自然な行為ではなく、歴史と文化に深く規定された営みである。たとえば古代ギリシアには「読む」行為はあってもそれを表す単語がなく、古代ローマ人にとって書物とは巻物であった。中世の間は黙読ができず、単語を分かち書きすることもなかった。近代初期、文字を知らぬ民衆は他人の朗読によって「読書」した。読み書きと書物の歴史は、西洋文化の思いがけない一面を浮かび上がらせ、旧知の事実意外な光を当ててくれることになる。

●授業内容・授業計画

- ① 「書くこと」と「読むこと」の歴史性
- ② 声の文化と文字の文化
- ③ 声から文字へ（古代ギリシア）
- ④ 巻本から冊子本へ（古代ローマ）
- ⑤ パピルスから羊皮紙へ（古代ローマ）
- ⑥ ラテン語から俗語へ（中世初期）
- ⑦ 続け書きから分かち書きへ（中世初期）
- ⑧ 音読から黙読へ（中世中期）
- ⑨ 記憶から記録へ（中世中期）
- ⑩ 手書本から印刷本へ（中世後期）
- ⑪ エリートから民衆へ（近代初期）
- ⑫ 本学所蔵貴重書見学（近代初期）
- ⑬ 民衆から大衆へ（近代）
- ⑭ 読書と書物の未来（現代）
- ⑮ レポート講評

●評価方法

出席20%、レポート80%(レポート2回提出、各々40%)。

●受講生へのコメント

読み書きの実践という点から見た西洋文化史の概説であるから、通常の西洋史とは趣の違った内容になる点に注意してほしい。単なる西洋史概説ではない。講義の前提として高校世界史A程度の知識が望ましいが、なくても理解できるよう努力するつもりである。

●教材

教科書はとくに用いない。以下の書物を参考書としてあげておく。いずれも通読には骨の折れる書物だが、一部でもよいから目を通してほしい。講義と深い関係があるのは3である。

1. W. J. オング（桜井直文他訳）『声の文化と文字の文化』藤原書店、1991年。
2. I. イリイチ/B. サンダース（丸山真人訳）『ABC — 民衆の知性のアルファベット化』岩波書店、1991年。
3. R. シャルティエ/G. カヴァッロ編著（田村毅他訳）『読むことの歴史——ヨーロッパ読書史』大修館書店、2000年。
4. A. マングエル（原田範行訳）『読書の歴史——あるいは読者の歴史』柏書房、1999年。
5. M. マクルーハン（森常治訳）『ゲーテンベルクの銀河系——活字人間の形成』みすず書房、1986年。
6. N. ボルツ（敷名・足立訳）『ゲーテンベルク銀河系の終焉——新しいコミュニケーションの姿』法政大学出版局、1999年。
7. 清水徹『書物について——その形而下学と形而上学』岩波書店、2001年。
8. 香内三郎『「読者」の誕生——活字文化はどのようにして定着したか』晶文社、2004年。

考古学入門

Introduction to Archaeology

(後期 水・2 全)

2単位

文学研究科 岸本 直文

●科目の主題と目標

ひとびとが暮らした住まいの跡、使っていた道具などのモノ、これらが地面のなかに埋もれて遺っている。これが遺跡である。人間の活動が多様であるので、遺跡にもさまざまな種類がある。考古学は、こうした遺跡を発掘調査することにより、遺された痕跡やモノから、そこで生活したひとびとの営みを復元する。考古学により明らかになった日本の歴史をたどり、興味をもってもらうことを目標とする。

●授業内容・授業計画

日本の考古学では、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代という時代区分をする。それぞれがどんな時代であったのか、研究史をひもとき、遺跡の発掘調査の事例を紹介しながら、いま考えられている歴史像を紹介する。

- 1 考古学とはなにか
- 2 考古学の資料は遺跡
- 3 遺跡の発掘調査
- 4 旧石器時代 氷河の時代の狩猟生活
- 5 縄文時代(1) 定住のはじまり

- 6 縄文時代(2) 縄文文化の豊かさと限界
- 7 弥生時代(1) 米作りの開始
- 8 弥生時代(2) ムラからクニへ
- 9 弥生時代(3) 墓にみる権力の形成
- 10 古墳時代(1) 邪馬台国の考古学
- 11 古墳時代(2) 巨大な前方後円墳の誕生
- 12 古墳時代(3) 古墳時代から飛鳥時代へ
- 13 古代 都城と官衙
- 14 北海道と南西諸島の考古学

●評価方法

小レポート提出2回(各15点)。期末試験(70点)。

●受講生へのコメント

遺跡は全国で40万カ所といわれる。どこにでもあり、ごく身近なところにある。有名な遺跡ばかりでなく、あまり知られていない数多くの遺跡のすべてが、みなさんが住んでいる地域の歴史を明らかにする素材となる。そうした身近な遺跡に関心をもってほしい。

●教材

プリントを配布する。

ことばの歴史

Japanese and its History

(後期 水・4 全)

2単位

文学研究科 尾山 慎

●科目の主題と目標

日本人が漢字を理解している証左といえる現存最古の資料は5世紀後半の鉄剣銘である。それから実に1600年近い時を経て、日本人は漢字を音訓の別をもって使いこなし、さらにそれに仮名を交ぜて書くという方法を獲得した。独自の文字を持たず、異国語の文字である漢字だけを使っていた古代、そこにどのような工夫と叡智があったのか。本講義では、主に漢字だけで日本語を書記していた時代を中心として、「ことばの歴史」と、そしてそれを「書き記すことの歴史」を考究する。

漢字しか使えないというのは、現代に生きる我々からすればかなり不便なことのようには思える。しかし、万葉集を始め、古代の資料を紐解くと、そこには実に多種多様で、ある意味で自由な書記の営みが見てとれるのである。今の我々が音、訓と区別する漢字の読みのみならず、たとえば「暖」で「はる」と読ませたり、またあるいは「蜂音」で「ぶ」とよませたり、たとえその場一回限りのものであっても、書記者の様々な工夫が認められるのであり、日本語を話す者が、漢字を自家薬籠中におさめている姿を目の当たりにできる。各回の授業では様々な

資料をみながら講義を進める。また、古代日本と海外の交流や、日本語そのものの系統の話題にも及ぶ予定である。

●授業内容・授業計画

1. ガイダンス～漢字漢文との出会いー日本語を書き記すこと
2. 漢字とはー日本と中国
3. 漢字音概説
4. 万葉集とその表記
5. 古事記・日本書紀とその表記
6. 木簡・金石文とその表記
7. 風土記とその表記①
8. 風土記とその表記②
9. 宣命書きの成立と展開
10. 変体仮名と平仮名の成立ー翻刻実習
11. 日本の古辞書
12. 渡来人と古代日本
13. 日本語の系統
14. テスト

●評価方法

出席および最終回のテストの点による。

●受講生へのコメント

かつて日本人はどのように自分たちの言語を書き記していたのか。どうして、今日のような姿になったのか。

それを学ぶことによって、各自、日常普段の言語活動をあらためて内省し、言語と書記に対する鋭敏な感覚を養ってもらいたい。

●教材

授業中に配布するプリントを使用する。

現代の歴史

Contemporary History

(後期 開講時限未定)

2単位

担当者 未定

詳細は別途掲示によること。

歴史学の世界 演習

Seminar : World of History

(前期 木・4 全)

2単位

特任 山崎 覚士

●科目の主題と目標

現在では世界のあちこちで様々な社会問題が噴出し、それらの解決が喫緊の課題となっているが、そもそも現在が過去の積み重ねによって存在するとするならば、現在世界はその歴史の上に成り立っていると言える。現在の問題を理解・解決するためには、人間の歩んできた歴史の考察を抜きにできない。

歴史学は時代と共に扱うテーマが変遷し、また現在に至っても新たな事実が知られつつあり、進化し続ける学問である。そして現在の歴史学ではどのような現在の問題を受けて、何をテーマとし何を明らかにしているのだろうか。本講では、受講者が積極的に新しい歴史のテーマを選択して、現在の歴史学が扱う問題を深く考察し、現在世界を理解する糸口を探ることを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業は山川出版社より出版されている日本史・世界史

リブレットを用い、受講者がテキストを選択し、発表・討論を行うゼミ形式で進める。

- ① ガイダンス
- ②～⑤ 現在における日本史の諸問題
- ⑥～⑨ 現在における西洋史の諸問題
- ⑩～⑭ 現在における東洋史の諸問題

●評価方法

ゼミでの報告や討論、また期末レポートによって評価する。

●受講生へのコメント

ゼミ報告や討論の基本的な仕方を修得するとともに、幅広い歴史の問題を理解した上で、積極的な発言・自らの意見を主張する能力を身に付けてほしい。

●教材

山川出版社、日本史・世界史リブレットシリーズ。また適宜プリントを配布。

現代の地理学

Current Geography

(前期 木・3 全)

2 単位

文学研究科 山崎 孝史

●科目の主題と目標

本講義は、人文地理学への入門として、まず地理学の主要ツールである地図の役割について説明し、地図の変遷を歴史的にふり返ります。そして、空間・場所・スケールといった地理学の主要概念を用いて、日常の些細な出来事から、世界史上の大事件まで、どのようにアプローチできるか具体例を用いて解説します。大学の地理学は高校までの「地理」とはかなり違います。本講義を通して、地理学のものの見方や考え方が意外に役に立つことを学んでください。課題が多めですので、単位より内容に興味のある方におすすめです。

●授業内容・授業計画

- ① イントロダクション：講義の構成と学習方法について解説
- ② 地図1：地図は見るより読むもの
- ③ 地図2：歴史上地図に何が描かれてきたか
- ④ 地図3：地図表現のもつ恣意性とウソ
- ⑤ 空間1：実は伸びたり、縮んだり、歪んだり
- ⑥ 空間2：造られた空間としての都市
- ⑦ 空間3：知らぬ間に人間を制御する空間
- ⑧ 中間テスト

- ⑨ 場所1：人間にとって特別な意味をもつ空間
- ⑩ 場所2：モニュメントに馳せる思い
- ⑪ 場所3：場所を失う、守る、造る
- ⑫ スケール1：日常生活を取りまく空間の重なり
- ⑬ スケール2：マクドやスタバの立地戦略
- ⑭ スケール3：外国人が集まるコミュニティって
- ⑮ 期末テスト

●評価方法

出席 (10%)、テスト (60%)、レポート (30%) などによります。例年の合格者は登録者の約60%です。詳細は講義中に説明します。

●受講生へのコメント

講義の進行上、コンピュータおよびインターネットを使用できることが必要ですが、そうでない場合でも受講は可能です。

●教材

教科書は使用しません。必要な教材は担当教員のホームページを通して提供されます。詳しくは以下をご覧ください。

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/yamatoka/home.htm>

現代の地理学

Current Geography

(後期② 火・2 全)

2 単位

文学研究科 大場 茂明

●科目の主題と目標

地理学は、自然・人文の諸現象が相互にむすびついて展開する地表面の空間的な構造を研究する学問であり、そのために自然界から人間社会にわたる広範な研究領域を持っている。

自然と人間、あるいは自然環境と人間社会との関係に関する問題意識は、地理学の歩みの中で繰り返し取り上げられてきたが、近年では環境保護、防災、あるいは消費者行動やマーケティングなどにその成果が活かされている。しかし、一方で研究対象があまりにも多岐にわたることから、しばしば「地理学はつかみどころのない学問である」といった先入観にとらわれやすい面があることも否定できない。

そこで、本講義では現代地理学における最新の研究成果をできるだけ身近なテーマに引きつけて紹介することを通じて、地理的なものの考え方を提示し、現代社会を理解するための一助とすることを目的とする。

●授業内容・授業計画

現代の社会・経済システムを、自然と人間との間の

財・サービスの循環としてとらえ、生産・流通のみならず、近年社会的関心が高まっている人口・資源・環境問題や都市問題などを題材としながら、地理学の基本的な概念を提示するとともに、それらにもとづき地理学的な分析視点を深めていく。授業では、以下の項目に従って講述するが、最初の20分でコミュニケーション・カードに基づき、質疑応答など前回講義内容の確認を行う。

- ① 序：地理学とは何か
- ② 資源への地理学的アプローチ
- ③ 経済循環と産業構造
- ④ 産業立地論の基礎
- ⑤ 生産と流通 (1)：農業
- ⑥ 生産と流通 (2)：製造業
- ⑦ 生産と流通 (3)：商業・サービス業
- ⑧ 消費と廃棄
- ⑨ 都市とは何か
- ⑩ 日本の都市
- ⑪ 都市機能の分化と空間構造の変容
- ⑫ 現代社会と都市問題

- ⑬ 都市更新事業とまちづくり
⑭ 人間行動と生活空間

●**評価方法**

評価は、毎回の授業終了時に記入してもらったコミュニケーション・カードによる平常点（20%）と、定期試験の点数（80%）によって行う。

●**受講生へのコメント**

授業自体は、理論や概念のみを説明するのではなく、身近な問題や時事的な話題を盛り込みながら進めていく。したがって、高校時代に地理を履修していたかどうか

かは問わないし、特別な予備知識も必要としない。むしろ、地理学というフィルター（＝地理的なものの見方）を通じて、現代社会の諸問題を批判的に考察する術（すべ）を身につけてもらいたいと考えている。

●**教材**

教科書：使用しない（講義資料として授業時にプリントを配布）。

参考書：『現代地理学入門－身近な地域から世界まで－』古今書院、2005年。その他、必要に応じて授業時に紹介する。

都市の地理学

Geography of Urban Area

（前期 月・3 全）

2単位

非常勤 中川 聡史

●**科目の主題と目標**

都市の特徴のひとつは「常に変化し続けていること」である。変化し続けている都市をどう捉えるかを学び、都市はどこに向かっているのかについて考えることを授業の目標とする。授業では、地理学の特徴のひとつである、さまざまな空間スケールから対象地域（都市）をみることの重要性について理解されるよう努める。

●**授業内容・授業計画**

- ① イン트로ダクション1：ビデオ「63億人の地図」
- ② イン트로ダクション2：都市とは何か
- ③ 従来の都市地理学研究1：どこにだれが住むのか
- ④ 従来の都市地理学研究2：都市と都市の関係は
- ⑤ グローバル化と製造業立地の変容1：製造業の立地
- ⑥ グローバル化と製造業立地の変容2：先進国の都市
- ⑦ グローバル化と製造業立地の変容3：途上国の都市
- ⑧ グローバル化とサービス業立地の変容1：サービス業の立地
- ⑨ グローバル化とサービス業立地の変容2：先進国の都市

- ⑩ グローバル化とサービス業立地の変容3：途上国の都市
- ⑪ グローバル化と都市内部構造の変容1：先進国の都市
- ⑫ グローバル化と都市内部構造の変容1：途上国の都市
- ⑬ 大阪について1：だれがどこに住んでいるのか
- ⑭ 大阪について2：東京との関係は
- ⑮ 期末テスト

●**評価方法**

出席（10%）、レポート（20%）、テスト（70%）の予定。詳しくは1回目の授業で説明する。

●**受講生へのコメント**

毎回の授業内容は、授業はパワーポイントを用いておこなう。授業内容、参考文献リスト等は担当教員のホームページ（<http://www.econ.kobe-u.ac.jp/%7Enakagawa/>）からダウンロードできるようにします。

●**教材**

教科書は使用しない。

文化人類学入門

Introduction to Cultural Anthropology

(前期① 火・3 全) 2単位

(前期② 火・1 全) 2単位

文学研究科 多和田 裕司

●科目の主題と目標

文化人類学とは、自分とは「異なる」人々にたいする理解を深め、同時に、どうすれば「異なる」もの同士の間でよりよいコミュニケーションを持つことが出来るのかを探ろうとする学問である。文化人類学を学ぶことで、自分たちの身のまわりの人間関係といったことから、文化摩擦や民族紛争などの世界規模の問題にいたるまで、「異なる」ことに起因するさまざまな問題を考えるためのなんらかの手がかりを得ることができよう。

本講義においては、諸学説や具体的な民族誌の紹介をとおして、文化人類学がこれまで「他者／異文化」をどのようにとらえてきたかについて検討する。その作業のなかで、受講者それぞれが「他者／異文化」とのかかわり方のありようについて考えてほしい。

●授業内容・授業計画

主な内容は下記のとおり。

- ① 文化人類学とはどういう学問か
- ② 文化人類学の対象：他者、文化、異文化
- ③ 文化人類学の方法：フィールドワーク
- ④ レポート作成についての説明と助言
- ⑤⑥ 推論と偏見による異文化理解

⑦⑧ 「科学的」異文化理解への志向

⑨⑩ 文化相対主義とアメリカ文化人類学

⑪⑫ 文化を解釈する

⑬⑭ 双方向的異文化理解へ向けて

⑮ テスト

●評価方法

定期試験（60点満点）およびレポート（40点満点）によって評価する。

（レポート課題）

海外から日本を訪問中の人を対象にインタビューを行い、(1) その人が「日本にたいして感じたこと」、(2) 自分が「そのインタビュー経験のなかで感じたこと」、についてまとめる。なお留学生をインタビューの相手とすることは認めない。詳細については授業中に説明する。

●受講生へのコメント

文化人類学の知識を得るといよりも、人類学的なものを見方を習得してほしい。

●教材

教科書はとくに指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。

文化とコミュニケーション

Culture and Communication

(前期 木・4 全)

2単位

文学研究科 関 茂樹

●科目の主題と目標

文法形式と意味の対応関係を日本語と英語の比較を通して考察する。機能的な観点から文における情報構造と情報伝達の仕組みについて講義する。とりわけ、文の自然な情報の流れはどのようになっているか、どのようにすれば効果的な情報の伝達が可能となるかについて考えたい。新しい言語理論とともに伝統的な文法論の成果を取り入れ、基本的な方法論と用語についての理解を深め、さらに進んだ段階への手引きとなることを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業は講義を主に、適宜、ディスカッションの時間を設ける。それぞれの授業は、前の授業の理解を前提としているので、疑問があれば授業ごとに確認してゆくことが望ましい。授業計画は次のものを予定している。毎回、資料を配布するので、それ以前の内容を常に参照できるようにしておくこと。

- 第1回 機能的構文論の概説および用語の解説をする。
- 第2回～第4回 受動文と擬似受動文の特性を考察する。

第5回～第6回 前置文と後置文の特性について考察する。

第7回～第8回 外置文の特性について考察する。

第9回～第10回 数量表現の遊離現象について考察する。

第11回～第12回 照応表現と視点について考察する。

第13回～第14回 日英語の情報構造についての考察およびまとめ。

●評価方法

小テスト、定期試験の成績および出席率を加味して総合的に評価する。

●受講生へのコメント

各回の授業は連続しているので、前の授業の理解が前提となります。オフィスアワーは火曜日の5時限を予定しています。

●教材

毎回、プリントを配布する。

参考文献：

神尾昭雄・高見健一著『談話と情報構造』研究社

神尾昭雄著『情報のなわ張り理論』大修館書店

久野 暉著『談話の文法』大修館書店

ことばと文化

Japanese and our culture

(後期② 月・2 全)

2 単位

文学研究科 丹羽 哲也

●科目の主題と目標

この科目の目標は、現代日本語およびその歴史的背景について、基礎的・体系的な知識を身につけ、我々が普段何気なく使っている言葉に対して、自覚を深めることである。日本語に関して、ことば遣いや敬語の誤りを嘆き、外来語の氾濫に眉をひそめ、方言の喪失を惜しみ、あるいは、現れては消えてゆく新語・流行語を面白がる、ということがよく行われる。これらは当然の関心であるが、ともすると興味や知識が断片的なままに終わりがちである。正しい日本語というものがあらかじめ定まっているわけでもなく、どういう言葉遣いをするのが良いのかは、一人一人が自分で決めていくべきことである。この授業は、そのようなことを考えてゆくのがよい。

●授業内容・授業計画

具体的には以下のようなことを扱う。

1. 日本語の位置
2. 言葉の「乱れ」と規範
3. 言葉の「乱れ」と言語変化
4. 言葉の「乱れ」と位相
5. 外来語の受容の歴史
6. 漢語の受容の歴史
7. 敬語の体系 (1)
8. 敬語の体系 (2)
9. 敬語の運用
10. 敬語の「誤用」

11. 言葉の地理的変異 (1)

12. 言葉の地理的変異 (2)

13. 言葉の社会的変異

14. 文字表記のしくみ

ことばに対する考え方には、規範主義的な考え方と記述主義的な考え方とがあり、日本語について何か問題にされるといのは前者の立場からの発言が多く、一方、学問研究としては後者の立場で進められることが多い。この両方の立場のバランスを取りながら、身の回りの言葉を取りあげていく。

●評価方法

毎回課される課題の提出 (30%) と学期末の試験 (70%) による。

●受講生へのコメント

課題の問題は、題材は身近でも、必ずしも簡単なものではない。問題を通して、ことばの論理性と多様性を学んでもらう。

●教材

プリントを配布する。

参考書：井上史雄『日本語ウォッチング』(岩波新書)、同『敬語はこわくない』(講談社現代新書)、菊地康人『敬語再入門』(丸善ライブラリー)、井上ひさし『ニホン語日記1、2』(文春文庫) など、日本語に関して手軽に読める本はいろいろあります。

景観と文化

Landscape and Culture

(前期 木・2 全)

2 単位

文学研究科 山野 正彦

●科目の主題と目標

この科目の目標は、人間が地表空間に作りあげる「景観 (Landscape)」が、人間の生活の仕方としての「文化 (Culture)」とどのようにかかわっているのかを考えようとするところにある。人間が文化を通して景観を作り出すという観点から、現代都市に出現する新しい景観の具体的な姿を紹介しつつ、消費生活を基本とする現代都市市民の文化の特質を明らかにし、今後の都市景観と都市文化のあり方について、熟考しようとする。

●授業内容・授業計画

近年、私たちの身のまわりの都市空間に新しいコンセプトやデザインに基づいて建設された建築物、街並み、

商業・観光施設などが現われ、日常生活の様相が変化してきている。ポストモダンと称されるデザインに従った斬新な建築群や、古い建物をリノベーションしてノスタルジックな町並みを作り出そうとする傾向など、新しい景観の創造を意図した開発が進められている。授業では、現代の消費文化が生み出した景観の特徴を示すとともに、このような一見したところ魅力的で便利そうに見える現代の都市景観が、人間の生き方についてどのような問題点を含んでいるのかについて考察を進めてゆく。究極に、「景観」や「場所」がわれわれの生活のコンテクストとなり、アイデンティティの形成と密接につながっていることを明らかにしたい。

授業内容は以下のとおりである。

(1) 現代の都市景観と消費文化 (2回)、(2) 建造環境と公共の「場所」の創造、(3) ウォーターフロント再開発による景観 (2回)、(4) デイズニーランドの景観 (2回)、(5) ショッピングモールの景観と消費文化 (2回)、(6) アメリカ村・堀江・南船場境界の形成、(7) ファーストフードの景観と普遍文化、(8) コンビニの機能と日常生活の変化、(9) ツーリズムの景観、(10) まとめ：現代の景観と生活の仕方再考

●評価方法

レポートによる

●受講生へのコメント

この科目は、単に科学的な知識や技術を教えることを目的とするものではない。現代の都市文化と景観の性格について、人間の日々の生活の仕方と公共空間のありかたについて深く考えようとする受講者の参加を期待している。

●教材

参考書：レルフ、高野・阿部・石山訳『場所の現象学』、ちくま学芸文庫、1999。ボードリヤール、今村・塚原訳『消費社会の神話』、紀伊國屋書店、1995。フェザーストン、川崎・小川編著訳『消費とポストモダニズム』(上・下)、恒星社厚生閣、2003ほか。

アジアの文化

Culture of Asia

(前期 月・3 全)

2単位

文学研究科 中川 眞

●科目の主題と目標

本講義では東南アジア、特にインドネシアの文化について論じる。インドネシアは1万以上の島からなる島嶼国家であり、オランダの植民地を引き継ぐ形で第2次大戦後に独立したが内発的な統一国家としてスタートしたわけではなく、様々な民族、文化が並存している。本講義では、音楽、演劇、儀礼などの視点から、特にジャワ(イスラーム)、バリ(ヒンドゥー)の両文化を比較しながらその特質を論じる。キーワードとしては、身体性、コスモロジー、グローバリゼーション、パフォーマンスなどである。また、それらの文化が、現代の日本でどのように受け止められ、あるいは受容されているか、という側面からも論じてみたい。

●授業内容・授業計画

- (1) グローバル化時代における東南アジアの文化
- (2) インドネシアへの序章
- (3) 理論的枠組
- (4～8) ジャワの芸能
- (9～12) バリの芸能と儀礼
- (13) インドネシアの文化と日本

(14) インドネシアの文化と世界

(15) まとめ

授業は基本的に講義形式であるが、可能であれば、途中でいくつかのワーキンググループをつくり、グループ毎の課題を決め、発表形式にしたい(双方向授業)。これは受講生の人数次第である。

●評価方法

初回の講義時に「私のなかのアジア文化」というテーマでレポート(1200字程度)を提出することが受講の条件である。この場合の「アジア」には日本は含まない。事前に文献などで調べる必要はなく、あなたの体験に即した感想文を自由に書いてほしい。その他、指定図書読後レポート、イベントレポートなど、多くの課題が出される。

●受講生へのコメント

「評価方法」の項で書いたように、多量の課題が出される講義なので、生半可な気持ちで受講すると挫折する可能性がある。注意されたい。

●教材

講義時に指示する。

アジアの地域と文化 演習

Seminar: Regional and Cultural Studies of Asia

(後期 月・2 全)

2 単位

文学研究科 中川 眞

●科目の主題と目標

本演習ではインドネシアのガムラン音楽の演奏法習得を通じて、アジア的な音楽表現に親しむ。音楽は楽譜ではなく身体にある、ということを実感するだろう。そういった音楽的身体を体験することによって、音楽に対するこれまでの先入観は打ち砕かれていく。と同時に、日本とアジアの文化を比較し、アジア的眼差しから欧米の文化を見つめるための端緒を得るだろう。本演習の眼目はガムラン音楽演奏法の習得であり、授業はひたすら練習に明け暮れる。文学研究科所蔵のガムラン楽器を用いて基礎から始め、最終的に3～4曲を演奏することができるようにしたい。

●授業内容・授業計画

- (1) ガムランとは何か
- (2～6) ランチャラン形式の演奏法習得
- (7) ガムランコンサートの鑑賞(随時)

(8～12) ラドラン形式の演奏法習得

(13～14) 演奏の仕上げ

(15) まとめ

授業は基本的に実習形式であり、初歩からの演奏の手ほどきを行う。音楽経験の有無は問わない。

●評価方法

出席点とともに、演奏の習得レベルをチェックする。学期末の終了時に実技習得の見極めチェックを行う。

●受講生へのコメント

楽器の数に制約があるため、受講生の数を15名以内に制限する。受講希望多数の場合は選抜する(前年度の選抜に洩れた人が優先される)。ガムランはコミュニティ重視の音楽であり、他者への関心と寛容性を心がけてもらいたい。出席重視なので、欠席のないように。

●教材

授業中に配布する。

日本事情 I A

Current Japanese Culture and Society I A

(前期 金・1 全)

2 単位

非常勤 川端 伸典

●科目の主題と目標

「日本事情 I A」は、本学で学ぶ留学生のために置かれた科目である。留学生の皆さんが、一日も早く大学での学習や研究に適応できるように、日本に関する基礎知識を身につけることをめざして本科目は開設されている。また、他文化地域出身の留学生とも交流が円滑にできるよう相互理解を深めたい。

(※日本の学生は聴講はできるが、単位の修得はできないので、注意。)

●授業内容・授業計画

皆さんが、日常生活をしていて、疑問に思うことや不自然に感じることに、随時、こたえて行きたい。また、学生の積極的な質疑を通して相互理解のあり方と可能性を、授業を通して探してみたい。

日本列島概観

- ① アジアと日本(古代)
- ② 武士社会と儒教
- ③ 日本の伝統芸を見る

④ 「近代」への道

⑤ 「近代」とは何だったか

⑥ 軍国主義

⑦ 戦後の社会

⑧ 現代の社会

⑨ アジアと日本の課題

⑩ 特別講義(その1)、特別講義(その2)、予定

なお、受講生の要望により、授業内容は適宜変更する。

●評価方法

① テスト

② 出席重視(半数以上の欠席は単位修得不可)

●受講生へのコメント

① 日常生活をしていて、疑問に思うことを報告してもらいたい。

② 担当者への連絡先

e-mail: kawabata0512@yahoo.co.jp

●教材

随時配布する

日本事情 IB

Current Japanese Culture and Society IB

(後期 金・1 全)

2単位

非常勤 川端 伸典

●科目の主題と目標

「日本事情IB」は、本学で学ぶ留学生のために置かれた科目である。誰しも、自らの文化のあり方を当然のことと思っているが、その当然のことが、他文化地域出身者には必ずしも当然ではない。そのことを、自他のスピーチを通して、確認できるだろう。その差異＝異文化を理解した上で、どのような交流ができるのかを、各自のスピーチをもとに討議し、探って行きたい。

(※日本の学生は聴講はできるが、単位の修得はできないので、注意。)

●授業内容・授業計画

皆さんが、日常生活をしていて、疑問に思うことや不自然に感じることに、随時、こたえて行きたい。また、学生の発表と積極的な質疑を通して相互理解のあり方と可能性を、授業を通して探ってみたい。

「科目の主題と目標」にも記したように、受講者のスピーチと、その後の討議をおこなう。スピーチの内容は自

由。毎回二人、15分程度の発表をすることになるだろう。発表者は、発表原稿または内容の要約を準備する。

なお、発表の順序は初回の授業で決める予定。

また、各学部の教官による特別講義も2回設けられる予定である。

●評価方法

- ① テスト
- ② 出席重視 (半数以上の欠席は単位修得不可)
- ③ スピーチ

●受講生へのコメント

- ① 他者の意見をよく聞き、積極的に発言することを希望する。
- ② 担当者への連絡先

e-mail: kawabata0512@yahoo.co.jp

●教材

随時配布する

日本事情 IIA

Current Japanese Culture and Society IIA

(前期 水・3 全)

2単位

文学研究科 増田 聡

●科目の主題と目標

現代日本のポピュラー音楽文化の諸相について議論する。留学生が参加する授業という特性を生かして、受講者間の討議を交えながら、現代日本の音文化を検討する批判的視座の獲得を目指す。

●授業内容・授業計画

カラオケ、ポータブルオーディオ、多彩なCM音楽、携帯電話着信メロディ、Jポップ、レンタルCD店など、現在の日本の都市空間やメディア空間で目に(耳に)することができる音楽環境は、あるものは海外から由来し、あるものは日本に生まれたものであるが、さまざまな歴史的・社会的な文脈を経て現在あるような姿へと至っている。われわれが聞き流す「あたりまえ」の音楽環境が、異なる社会の耳にとってどのように聞こえているかを探るべく、留学生と日本人学生との意見交換を行いながら授業は進行する。よって、下記の授業計画は仮のものであり、受講生の関心に応じて適宜変更される。

授業はゼミ形式を軸に、ときおり講義を交えるかたちで行われる。何度かのレポート提出を経た後、受講生は、日本の(あるいは自国の)音楽文化について、映像や音楽を用いたプレゼンテーションを、最低一人あたり一回は必ず行うことになる。準備はかなりの負担となる

ので、覚悟して受講すること。日本や海外のポピュラー音楽文化について知見を深めようとする学生の受講を期待する。

(1～2) イントロダクションと授業方針の決定

(3～5) 日本の都市音楽環境・音楽メディア環境について

(6～11) Jポップ、歌謡曲における「日本的なもの」の諸相

(12～15) 海外の都市音楽環境・音楽メディア環境について

●評価方法

出席点と発表内容、討議への参加度、随時課されるミニレポート、および最終レポートを総合して評価する予定だが、受講者数によっては変更する可能性がある。

●受講生へのコメント

留学生特例科目のため、留学生は優先的に全員受け入れ、日本人学生を選抜して受講生の上限を20名程度とする予定。受講生を選抜方法などは初回の授業で指示するので必ず出席すること。初回の授業に欠席した学生の受講は認めない。また、出席を重視する。

●教材

授業内で指示する。

日本事情 II B

Current Japanese Culture and Society II B

(後期 月・4 全)

2単位

非常勤 鈴木 伸太郎

●科目の主題と目標

留学生向けに日本の現状を分かりやすく解説するのが「日本事情」であるが、この講義は主に日本の経済や社会の最近の変化に着目しながら説明するものである。また、日本で生まれ育った人たちが聴いても参考になる内容になるようにしていきたい。

日本事情といっても、必ずしも日本の「特殊事情」の解説ではなく、公共サービスの担い手の問題や、少子高齢化など、世界の他の国々にも共通する課題の中で、日本はどのような「解」を出そうとしているのか、どの程度までそれが成功と言えるのか、などについて理解を深めることが講義の目的である。言い換えるなら、21世紀初頭の世界における一社会としての日本社会がテーマであり、留学生を含めて受講生の現在の生活空間である日本社会の理解を通して、世界の他の国々（あるいは受講生の出身国）の社会の「事情」についての理解が少しでも深まるようにしていきたいと思う。

●授業内容・授業計画

まずは日本政府の財政事情をとりあげる。その桁外れの深刻さ、そこに至る経緯、そうした深刻な財政問題が政策や社会生活全般に影を落としている現状、および将来の努力の方向性などについて理解することを目指す。このことが「郵政民営化」をはじめとする「構造改革」のような政策が立案される背景になっている。そのような政策のプラス面とマイナス面、つまり現実の政策を評価するのに必要な視点を各自が獲得できるようにしていく。公共サービスの民間への開放、バブル経済の崩壊、公共事業の見直し、度重なる談合事件、地方経済の低迷、「格差社会」とも言われる状況が出現したこと、「貯蓄から投資へ」向かわせるような政策などが関連するテーマ

としてとりあげられることになるだろう。いずれも、政治的な論議を呼んできた問題である以上、単に現状を批判したり否定したりすることよりはむしろ、それぞれのテーマの背景を理解していくことに主眼がおかれる。

また、少子高齢化は特に日本では他の国々に比べてスピードが速く、そのために将来に対する不安が増大しているのも事実である。年金や医療といった問題にそれが典型的に、また集中的に表われている。受講生の皆さんはこれらの問題についても理解を深めて、今後の社会の課題について自ら考えていく力を養ってほしいと思っているし、受講する皆さんとともに私も考えていきたいと思っている。

以上のような講義の筋書きは一応用意されているが、実際に受講される皆さんの理解度や関心に、なるべく柔軟に対応できるようにしていきたい。

●評価方法

レポート試験（やや長文・5000字程度）の評価が主体である。ただし、毎回の授業で（参加人数に応じて）討論または作文という形で各自の意見を発表することを課題にする予定なので、（講義の出席状況も含めた）課題への取り組み状況が悪い受講生はマイナス評価となる。

●受講生へのコメント

受講者は留学生であることを想定しているが、留学生以外の学生の履修も認める。しかし受講希望者が多い場合には、留学生以外の学生の履修を制限することがあるので、受講希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。

●教材

教科書は指定しない。参考書は随時紹介し、必要な資料は授業において配布する。

東洋の文学

Oriental Literature

(後期 木・2 全)

2単位

非常勤 福田 知可志

●科目の主題と目標

中国の古典小説の中で、『三国志演義』ほど日本人に知られ、愛読されている作品はないだろう。近年では漫画・ゲームの『三国志』などから『三国志演義』に慣れ親しむ機会を得たという話を耳にする。ちなみに講義者が中国古典小説に関心を持つきっかけとなったのは、吉川英治『三国志』であった。本講義では、『三国志演義』の原文に触れ、史実にほどよく味付けされたフィクションとしての魅力を理解し、受講者の中国古典小説への関心をより高めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

具体的な授業の展開だが、三国志演義に登場する個性的なキャラクター像の豊富さに注目し、蜀・魏・呉の三国の順に、代表的な人物に関する記述を、よく知られたエピソードを中心に取り上げてゆく。正史『三国志』および『三国志平話』などとの比較も行い、各テキストにおける人物像の相違点にも着目する。授業計画は以下のとおり。

①～②『三国志演義』について/中国小説史上の位置づけなど概説中心

- ③～⑥「蜀」の人々 劉備、関羽、張飛、諸葛亮
 ⑦～⑩「魏」の人々 曹操、夏侯惇、張遼、郭嘉
 ⑪～⑭「呉」の人々 孫策、太史慈、周瑜、陸遜

●評価方法

出席点（三分の一欠席、すなわち五回欠席者は不合格とする）及び授業中で課されるレポートを平常点として三割、期末試験を七割とし、総合して評価を決定する。

●受講生へのコメント

原文を扱うので、漢文の基礎学力を身につけている

ことが望ましい。必要に応じて基礎文法事項を確認する予定である。『三国志演義』を既知の者もそうでない者も原文読解を通じて、その味わいを楽しんで欲しい。

●教材

授業時に作成した資料を配布する。

参考書：金文京『三国志演義の世界』（東方書店、一九九三年）

訳本：多数出ているが、一例として井波律子『三国志演義』（岩波書店、一九九八年）

西洋の文学

European Literature

（前期 火・4 全）

2単位

非常勤 中村 恵 他

●科目の主題と目標

ギリシャ・ローマ以来現代に到るまで脈々と続く西洋文学に“愛の諸相”という切り口をもってアプローチを試みる。大多数の学生諸君にはおそらくあまり馴染みのない分野だと思うが、親しみをもち、その面白さに目覚めてもらうのが目的。

まず最初に取り上げるのは、19世紀前半にドイツのグリム兄弟によって編纂された所謂『グリム童話』（原題『子供たちと家庭の童話』）。『グリム童話』のなかには様々な愛の形が登場するが、①呪いと祝福、②恐るべき母性、③愛と沈黙、という三つの観点から、いくつかの話を取り上げ考察する。

次に取り上げるのは、19世紀後半から20世紀初めにかけて活躍したイギリスの作家トマス・ハーディの小説『ダーバヴィル家のテス』並びに『日陰者ジュード』。両作品で描かれる男女の悲恋の物語から見えてくるものは、当時の風潮及び宗教（キリスト教）に対する痛烈な批判である。この点に着目し、作品に登場する主要人物の愛に当時の風潮や宗教がどのように関わっているのかを考察する。

最後にフランスの小説家マルセル・ブルースト（1871-1922）を読む。取り上げるのは、長編『失われた時を求めて』の中でも、最も早くから日本に紹介された挿話「眠るアルベルチヌを見つめる」。その読解を通して、最もミニマムな他者関係である「恋」の諸相を、サルトル、メルロ=ポンティ、レヴィナス等の思想を参照しながら、考察する。

●授業内容・授業計画

- ① 全体のオリエンテーション・導入
 ② グリム童話 (1) グリム兄弟と『グリム童話』
 ③ グリム童話 (2) 魔女に呪われた「野ばら姫」は‘真実の愛’に救われる

- ④ グリム童話 (3) 育児放棄した母妃が姫を「おおがらす」にする
 ⑤ グリム童話 (4) ‘沈黙’が「六羽の白鳥」を人間に戻す
 ⑥ トマス・ハーディ (1) ハーディとヴィクトリア朝
 ⑦ トマス・ハーディ (2) 進歩的エンジェルのテスに対する愛
 ⑧ トマス・ハーディ (3) 因習的ジュードのスーに対する愛
 ⑨ トマス・ハーディ (4) 両作品の結末の相違－エンジェルの覚醒とスーの逃避
 ⑩ マルセル・ブルースト (1) マルセル・ブルーストとは誰か？ そして「眠るアルベルチヌ」講読
 ⑪ マルセル・ブルースト (2) サルトルにとっての「恋」は？ -他者関係とは闘争か-
 ⑫ マルセル・ブルースト (3) メルロ=ポンティにとっての「恋」とは？ -恋とは癒合関係か-
 ⑬ マルセル・ブルースト (4) レヴィナスにとっての「恋」とは？ -他者とは無限か-
 ⑭ 全体のまとめ

●評価方法

期末試験・レポート・出席状況等を総合的に判断して、評価する。

●受講生へのコメント

授業で取り扱われる文学作品は、邦訳でよいので、必ず読んでおくこと。

●教材

教科書：グリム兄弟『完訳グリム童話集1～5』（岩波文庫）

トマス・ハーディ『テス』（岩波文庫）

日本の詩歌

Japanese Poetry

(前期 木・3 全)

2単位

文学研究科 村田 正博

●科目の主題と目標

詩歌は、古代の祭祀における呪祷の言葉と共同作業における結束の詠唱を母胎として生まれ、王朝の折節を彩り、主として貴族の交流の具として発展を遂げた。それが古代の詩歌。王政が揺らぎ、王朝から逸脱したところで言葉の新しい可能性を追究し、風雅に遊び「わび・さび」といった境地へといたる。それが中世の詩歌。明治維新を経て、西洋化が進む中で、一個の人格として思うこと、感じることを吐露するのが詩歌だと自覚し、恋を歌い苦悩をうたい勇気を歌う。そうしてそこに人として生存してある根源の、言葉による把握と表明を行なおうとする。それが近代の詩歌。時代三区分法によって言うならば、ざっとしたところ、そんな展開をたどって、日本の詩歌の千数百年の蓄積がある。

この展開は、政治や社会の展開に比べて、微細であり緩慢でもあり、それを考察の対象としてみたところで、はかばかしい成果をあげることができるものかどうか、必ずしも見透しは明るくはなく、大きな期待も寄せられていないのが現状である。

しかし、人間を人間としてあらしめる最も根幹をなすもので言葉があることを重視するならば、言葉を手立てとして人間存在の根源に迫ろうとする詩歌というのは、さまざまな言葉のありようの中で、最もその本質に関わるものであることに、人間として、実は、気づいていなければならない道理である。

われわれは、詩歌を、不当に軽く見てはいないであろうか。詩歌は、言葉の、最も言葉らしい顕現なのであり、したがって、それが軽視されるとき、人間の存在そのものが軽視されているのだと言っても、けっして言い過ぎではないのである。

これから半期をかけて試みる授業が、以上のような主張に見合うものとなるかどうか、担当者として精一杯

の努力を約束するとともに、受講の諸君の感性と誠意に期待する。

●授業内容・授業計画

- | | |
|-------------------|--------|
| ① 詩とはなにか？ | (2～3回) |
| ② 詩のことば・日常のことば | (2～3回) |
| ③ 新しい時代を拓いた詩 | (4～5回) |
| ④ ゆかしき詩人たち | (4～5回) |
| ⑤ 詩人が追放されない国をめざして | (最終回) |
| ⑥ まとめ・レポート受取 | (最終回) |

(授業回数は、だいたいの目安である。①の授業で③の内容にふれるといったことも、テーマの性質上、おそらくあるだろう。諒とされたい。)

●評価方法

毎回の授業に対する意見・感想(特製出席カード)と期末のレポート(授業の趣意に沿って諸君の思索のあとを披瀝すること)による(評価の比重は、前者50%・後者50%)。

●受講生へのコメント

教えるとは、夢を語ること、
学ぶとは、誠実を胸に刻むこと。

これは、フランスの詩人、アラゴンの言葉。そんな授業が実現されるように…。

●教材

プリント配布。

参考書：茨木のり子『詩のこころを読む』

(岩波ジュニア新書)

澤 正宏・和田博文『日本の詩 近代篇』

(和泉選書)

宗 左近『あなたにあいたくて生まれてきた詩』・
『詩のささげもの』(ともに新潮社)

正津 勉『詩人の愛』(河出書房新社)

芸術の世界

Aesthetics and Science of Art

(後期② 月・1 全)

2単位

文学研究科 高梨 友宏

●科目の主題と目標

「芸術への美学的ないし哲学的アプローチの試み」

古来、人の心をひきつけてやまない芸術作品。人は芸術作品にときに慰めを見だし、ときに生きる希望を与えられてきた。芸術に理屈はいらない。ただ作品を前にして、心の感じるままにふるまえばよい。そう考えることももちろん間違いではない。しかし、芸術に心惹かれている状態から、一歩踏み込んでみよう。するとそこに

は、私たちが芸術に惹かれるのはなぜか、その背後には何があるのかといった問いが開かれている。そんな問いは、やり過ごしたところで日常生活に支障が出る体(てい)のものではない。無意味な問いとさえ、人は言うかもしれない。しかし問わなくてもやり過ごせるからこそ、問うに値する問いというものが世の中にはある。問うこと自体がその目的であるような純粋な問い、つまり哲学的な問いがそれである。

古来、芸術に心惹かれた人（思想家）たちのなかには、芸術の本質をたずねて、こうした哲学的問いに取り組んだ者が少なからずいた。美は本来どこにあるのか。芸術は美とどう関係するのか。自然の美と芸術の美は違うのか同じなのか。芸術の本質は変化するのか、変わらないのか。芸術によって人は善くされるのか、墮落させられるのか。芸術は人間より上なのか下なのか・・・。

芸術をめぐるそうした哲学的問いを問うた西洋の先人たちの思索の歩みに歩調を合わせ、この問いの世界をみなさんとともに散策してみようと思う。

●授業内容・授業計画

- ① 「はじめに、または芸術（美）・真理・善」
- ②-⑤ 「芸術と美」
美の所在／自然美と芸術美（2回）／美の判定
- ⑥-⑨ 「芸術と崇高」
崇高論／崇高と芸術／共感覚と触覚的視覚／美的近代

の変様

⑩-⑫ 「芸術と倫理」

美的経験と道徳／芸術による人間形成／芸術と環境

⑬-⑭ 「まとめ（予備）」

●評価方法

学期末試験による評価。

●受講生へのコメント

予備知識は特に必要としないが、芸術への関心はもとより、哲学や美学に関心を持つ人を歓迎。面倒な理屈に付き合う覚悟を携えて受講してほしい。

●教材

教科書：ドイツ観念論研究会編『思索の道標をもとめて－芸術学・宗教学・哲学の現場から－』萌書房、2007年。

参考書：適宜授業中に指示する。

東洋美術の流れ

History of Eastern Art

（後期 水・2 全）

2単位

非常勤 土井 久美子

●科目の主題と目標

我々が暮らす日本では、中国・朝鮮半島の影響をうけながら、様々な場面において多彩な造形が生み出されてきた。たとえば信仰の場で生まれた仏像、仏画、法具、荘厳具。貴族の生活のなかから生まれた絵巻。城郭をかざる襖絵、屏風、調度類。茶の湯の場で用いられる椀、釜、茶入などの道具。芸能の場で生まれた能装束と能面などに代表される。そしてこうして制作されたもののうち、すぐれた技によって作られた優品の大半は今日美術工芸品とよばれている。

しかし「美術」、「工芸」という概念は19世紀の後半以降、西洋からもたらされた概念である。「絵画」、「彫刻」、「工芸」という西洋美術を物語るためのジャンルに分類して日本の造形物を研究することは、本来相互に深く関わりあいながら生み出されたはずの日本の造形についての正しい理解を妨げているともいえる。例えば同じ寺院の中で使われてきた各種の造形は、屏風と襖絵は絵画、仏像は彫刻、硯箱・茶碗・袈裟・法具は工芸というジャンルにわけで紹介されることが多い。こうしたジャンルは創作の場においても踏襲され、絵画・彫刻・工芸に分割された制作活動が現在もなお定着している。

この授業では、日本で生み出された各種の造形について、ジャンル別の視点から離れ、誰が、どのような場で使うために、どのようにして作られたか、つまり使用と制作の場に視点をおいて、日本の造形について紹介して

みたい。

●授業内容・授業計画

少ない授業数なので、「近代と日本の造形」「宗教と荘厳」「文学と造形」「屏風と調度」「茶湯の道具」「衣裳と装身具」「民芸と現代」などのテーマについて講義したいと考える。

●評価方法

授業内容に応じたレポートの提出。またテストを課すること、出席状況を成績に加味することがある。さらに出席と同時に、受講態度も評価の基準とする。

●受講生へのコメント

授業はパワーポイントを用いてすすめる。絵画、染織、陶磁、蒔絵など、様々な表現技法を用いたものがあるので、各自展示会などを鑑賞し、技法やスタイルについての見識を深めておいて欲しい。

受講前に読んでおくよ本として次の3冊をあげておく。

- ・日本美術のことは案内 日高薫著 小学館
- ・〈日本美術〉誕生近代日本の「ことば」と戦略 佐藤道信著 講談社
- ・日本美術の歴史 辻惟雄 東京大学出版会

●教材

教科書にそって授業はすすめないが、広範囲に及ぶ地域と時代について短期間に学習するため、事前に上記参考図書を熟読のこと。

音楽の諸相

Aspects of Music

(前期 水・4 全)

2単位

文学研究科 増田 聡

●科目の主題と目標

英米圏を中心とした20世紀のポピュラー音楽史について論じる。19世紀後半に出現し、20世紀初頭にアメリカ、ヨーロッパ社会に普及していったレコードやラジオといった音響複製メディアは、それまでの音楽文化の姿を大きく変えることになった。さまざまな民族や都市文化の美学を反映した多様なポピュラー音楽が市場に回り、音楽産業は巨大なビジネスになっていく。本講義では、とりわけ20世紀の音楽産業の発展に最大の影響をもたらした英米のポピュラー音楽史を、技術、経済、思想、政治、民族性、美学などの観点から、映像資料に基づいて概観していく。

●授業内容・授業計画

- (1) ポピュラー音楽の社会的背景
- (2～4) 初期音楽産業、ジャズ、ブルース
- (5) ロックンロールの誕生
- (6) 公民権運動とフォークロック
- (7) 60年代ソウル
- (8) 英国へのアメリカ黑人音楽の影響
- (9) サイケデリック文化とロック
- (10) 70年代ロックの拡大

(11) パンクロック

(12) 70年代黑人音楽の発展 (ファンク、ディスコ)

(13) 80年代のMTV文化とヒップホップ

(14) 90年代以降のテクノ/クラブカルチャーの展開

(15) MTV的な音楽/映像文法の諸相

内容が入れ替わったり、二つの主題を同じコマで行う可能性もある。

●評価方法

学期末レポートもしくは学期末試験

●受講生へのコメント

例年受講希望者が多く、受講の可否は抽選となる可能性が高い。単位取得ではなく、講義内容に関心を持つ学生の受講を希望する。時間割を埋めるための履修登録は講義内容に関心をもつ学生にとって迷惑となるので避けること。また、初回授業に欠席した学生の受講は認めない。

●教材

教科書として下記を指定する。通読したうえで必ず毎回授業に持参すること。

増田聡・谷口文和『音楽未来形—デジタル時代の音楽文化のゆくえ』(洋泉社)

文学と芸術へのいざない 演習

Introduction to the Literature and Art

(後期 火・4 全)

2単位

文学研究科 小林 直樹

●科目の主題と目標

日本の絵巻を鑑賞する。

古来、日本の物語は絵とともに享受される伝統があった。そうした文化伝統の中で生み出された絵巻は、書物としてのかたち自体が既に芸術品であると言ってよい。

美しい料紙に、流麗な書体で記された詞書(文章)を、活字ではなく、くずし字の形態のまま読み解き、絵とともに深く味わう経験を通して、日本文化の特質について学んでいく。

●授業内容・授業計画

日本中世につくられた、怪物退治、異界訪問の物語である『倭藤太物語』を素材として、まずはくずし字が読めるようになるようトレーニングを行う。しかるのちに、物語や絵の世界、さらにはそれらの背景にある日本文化の特質について、受講者の間で議論しながら理解を深めていくことにしたい。

授業の概略は以下の通り。ガイダンス(1回)、くずし字読解のトレーニング(5回程度)、絵巻の読解・鑑賞(8回程度)。

●評価方法

平常点による。仮名のくずし字がよめるようになったか、授業中の議論に積極的に参加できているか、などの点を中心に評価する。

●受講生へのコメント

1) 受講生は20名までとしたい。希望者多数の場合は、やむをえず選抜を行う。

2) 前近代の日本文化に関心を持っている人、お話・物語が好きの人、美術館の展示を見て、あのくずし字が読めるようになりたいと思ったことのある人、などにお勧め。

3) 教材とする物語の内容は平易なので、高校生程度の古文の知識があれば十分。

●教材

教科書：伊地知鐵男編『増補改訂 仮名変体集』(新泉社)

他はプリント配布

数学の考え方

Concepts of Mathematics

(後期① 月・3 全)

2単位

学研究科 伊達山 正人

●科目の主題と目標

数学には、人間の思考の自由さが現れている。

現実の問題には、さまざまな制限や複雑な状況があり、それらを考え合わせて解決することが求められる。しかし、物事を難しく考えて悩み、かえって思考が停止してしまうこともある。

数学は、現実の問題を抽象化し、問題を単純化して解決することを追及してきた。数学的な問題解決は、現実問題に適用するとき、単純すぎる解決となる場合もあるが、問題が抽象化されている分、多くの場面での適用が可能になる。

現実問題から離れて極限まで抽象化された数学の世界は、問題解決のために人類が獲得してきたさまざまなアイデアが凝縮された世界である。この世界に触れること

で、私たちは固定観念にとらわれない自由な発想を獲得することができる。

●授業内容・授業計画

毎回、数学的な問題解決の発想の一つを紹介するようにしていきたい。予備知識なく理解できる問題を提示して、それがどのような発想で解決されてきたのかを、できるだけ数式などを用いない形で伝えていきたい。

●評価方法

出席およびレポートによって評価する。

●受講生へのコメント

予備知識はあまり必要ない。高校までの数学で十分である。しかし、数学への興味は不可欠である。

●教材

教科書は用いない。授業で配布するプリントを用いる。

数学の考え方

Concepts of Mathematics

(前期② 月・1 全文)

2単位

理学研究科 高橋 太

●科目の主題と目標

数学は自然科学の基本的言語であることはもとより、人文科学・社会科学においても大切な概念・視点を供給し続けている重要な基礎科学である。

しかし現代数学はその豊富な歴史と研究対象の膨大さ・高度に専門化した研究手法の複雑さから、ともしればとても近寄りがたい対象のようにも見えるだろう。専門用語の複雑さ、その概念構成の厳密さのゆえに、現代数学の最先端の成果を平易に説明することはたいへん困難な状況になっているようにも見える。高度に専門化した数学的訓練を受けなければ、現代数学のもたらす豊かな実りを享受することは出来ないのだろうか。実際には決してそうではないと考える。数学は、もっと素朴な形で日常生活の様々な側面に、その本質を失うことなく静かに息づいていると思う。

この講義では、現代数学の中の重要なキーコンセプトを、様々な例を通して列伝的に紹介していく。その過程で、現代数学の取り扱っている問題や、『なぜそのように考えるのか』といった発想法にまで立ち入ったことが

らを学ぶことを目標とする。

●授業内容・授業計画

現代数学を語る上で重要な概念を、1-3回のオムニバス形式の講義で取り上げる。各話題の間には緩やかな関連があるが、基本的には各話題は独立である。数学関連の講義であるので、もちろん数式も使用する。また黒板を使用したオーソドックスな講義である。

●評価方法

毎回の小テスト（出席点）および課題レポートの提出による。

●受講生へのコメント

高校数学までの数学の知識は、十分にあったほうが望ましいし、また授業内容も楽しめると思われるが、予備知識は仮定しない。

ただし数学に対する強い興味を持って受講することを望む。

●教材

教科書は用いない。適宜プリントを配布する。

参考書は授業時間中に挙げる。

ニュートンからアインシュタインへ

History of Physical Concept from Newton to Einstein

(前期 木・2 全文、H (人)) 2単位

非常勤 内藤 清一

●科目の主題と目標

古典物理学から相対性理論や量子力学に代表される現代物理学に至る歴史的過程において、種々の自然現象を理解するために先人達により工夫、発見された種々の物理的思考方法を、できるだけ易しく理解できるように講義する。

●授業内容・授業計画

特に、力学的現象を中心に、ビデオ教材を利用しながら授業を進める。

1) ニュートンの法則 2) リンゴと月 3) 調和振動
4) 宇宙の航行 5) エネルギーの保存 6) 運動量の保存
7) 角運動量 8) 四つの力 9) 落体の法則
10) 慣性 11) 円運動 12) ミリカンの実験 13) ケプラーの法則
14) 波動 15) 温度と気体の法則 16) 曲がった空間とブラック・ホール更に、“物理学読本”

(朝永振一郎編、みずず書房)を準教科書として採用し、以下の項目より適宜説明する。

1) 月はなぜ地球に落ちてこないか。地球の重さはどうしてはかるか。 2) 光が波であるとはどういう意味か。
3) エネルギーの旅 4) 電気振動 5) 原子論の発展
6) 原子内部の構造 7) 量子の概念と物理学の将来

●評価方法

出席率、中間試験及びレポートなど。

●受講生へのコメント

講義内容が広範囲にわたるので欠席しないように心がける。また、講義項目は講義の進捗状況により変わることがある。数式は若干使用する。

●教材

教科書 朝永振一郎“物理学読本”(みずず書房)。

ニュートンからアインシュタインへ

History of Physical Concept from Newton to Einstein

(後期② 月・1 全)

2単位

非常勤 牲川 章

●科目の主題と目標

ガリレイ、ニュートンに始まる古典物理学からアインシュタインによる相対性理論の構築、ハイゼンベルクとシュレーディンガーによる量子力学の発見を経て現代物理学に至る物理学の発展の歴史を概観する。物理学の「革命」はそれまでに知られていた理論では説明のつかない現象の発見が契機となつてなされることが多い。相対性理論と量子力学はその好例である。又、それまでは別々の法則だと考えられていたものが実は1つのより根源的な法則に昇華されて「統一理論」が発見される場合がある。例えば、それ以前には地上界と天上界を支配する法則は別々のものだと考えられていたが、実はそうではなく同一の力学法則であることを発見したのがガリレイ、ニュートンであった。又、電気と磁気は別々の法則により支配されているというそれまでの考えを否定し、それらを「統一」して電磁気学を打ち立てたのがマックスウェルであった。更に最近、この電磁気学が更に原子核のベータ崩壊等と与っている「弱い力」と呼ばれる「相互作用」と統一され、「電弱理論」と呼ばれる統一理論が誕生した。本科目では、このような物理学の発展史をできるだけ数式を用いずに平易に解説する。

●授業内容・授業計画

以下の項目について原則として1授業1項目を概説す

る。

1 ケプラーの法則の発見
2 ガリレイの実験と洞察
3 ニュートン力学の完成
4 熱の科学の確立
5 電磁気学の完成
6 近代原子論
7 熱の分子運動論
8 相対性理論の誕生
9 量子物理学の世界
10 よりミクロの世界へ(素粒子論)
11 究極理論を目指して
12 宇宙の進化

●評価方法

レポート、出席率など。

●受講生へのコメント

積極的に出席することを望む。質問は歓迎する。尚、上記の講義項目は一部変更することがある。

●教材

教科書：なし

参考書：朝永振一郎「物理学とは何だろうか(上)

(下) (岩波新書)、

菅野礼司、市瀬和義「相対性理論」(PHP研究所)

物質の多様性

The Versatility of Matters

(後期 月・2 全文)

2単位

理学研究科 品田 哲郎

●科目の主題と目標

現代社会の利便性は、新しい物質を創造し、その機能を利用、追究しようとする人類の叡智によってもたらされてきた。本講義では、私たちを取り巻く物質について共に考えてみたい。具体的には、我々の生活と切り離すことができない関係にある「薬」を題材に取り上げる。

薬は「与えられるもの」ではあるが、「選んで使う」ものも徐々に増えつつある。その一方で「薬とは何か」を学ぶ機会は少ない。本講義では、薬の概論を講義し、ついで、Q&A（約50問）に示した具体的な事例を解説することで、薬に対する理解を深めていきたい。

●授業内容・授業計画

最初の5回は下記項目にそって概論を講義する。残りの時間を使い、Q&A50問について解説する。Q&A解説は1講義当たり6～7の問題を取り上げ解説する。

- 1) 薬の歴史：西洋、東洋における薬の発展。
- 2) 薬は体内でどうなるのか1：薬物の体内動態について。食べ物との違い。
- 3) 薬は体内でどうなるのか2：作用点に到達する過程と作用機構。
- 3) 薬はどのように作られていくのか。

4) 薬の安全性：その評価法と調べ方。

5) ～14) Q&A50問の解説。以下に一部を列挙する。誤飲を防ぐため薬は苦くしてある？；子供には大人の量の半分を与える目安がある？；漢方薬には副作用がない？；抗生物質は風邪に効く？；ビタミン剤には副作用がない？；薬は胎盤を通過できない？；注射剤、錠剤、座薬のうち効き目がもっとも遅いものは、座薬である？；食間とは食事中に飲むことである？；10秒で崩壊する錠剤がある？；他。

●評価方法

出席率、レポート、および試験によって評価する。

●受講生へのコメント

薬に関する幅広い内容を、物質の観点から捉えることに主眼をおく。授業は板書を中心として、パワーポイント、プリントを補助的に用いる。薬の歴史に始まり、体内から出て行くまでの過程や、体内での変化過程などを理解した上で、薬がどのように作られ、その安全性が評価されているのかを学んでゆく。

●教材

授業中に参考文献を示す。

物質の多様性

The Versatility of Matter

(前期② 木・1)

2単位

理学部研究科 吉野 治一

●科目の主題と目標

我々の身体や周囲の物質についてより深く理解するために、現代の物質観を構成する概念について解説する。題材として、敢えて1種類の物質「水」のみを取り上げる。水と他の物質の共通点および水の特殊性を学ぶことで、物質についての最新の知識を広く浅く習得する。

●授業内容・授業計画

教科書を1章ずつ読み進める。プレゼンテーション・ソフトを用いて解説する。以下、教科書の各章の内容。全14章。

1. 水分子1 原子・量子力学・素粒子
2. 水分子2 分子と原子・共有結合とイオン結合・水の分極
3. 水分子3 光量子・分子運動の量子化・物質の色
4. 水分子4 電子の運動と磁性・スピン・磁気共鳴
5. 液体の水1 分子が液体をつくる力・融解と沸騰・水の局所構造
6. 液体の水2 イオン・酸・塩基・水と電流
7. 液体の水3 表面張力・表面の効果・水と油

8. 水の相転移1 結晶・結晶構造・雪とフラクタル
9. 水の相転移2 水の相図・臨界点と超臨界水・氷の相転移
10. 水の相転移3 熱力学の第一法則・熱力学の第二法則・水の熱力学
11. 水の相転移4 凝固点降下・過冷却・ガラス
12. 重水 同位体1・同位体2・核反応と重水
13. 水の起源 水素の誕生・酸素の誕生・地球と水
14. 水蒸気 蒸発 理想気体 気体の液化

●評価方法

小テストおよびレポート

●その他詳細

<http://matr01.sci.osaka-cu.ac.jp/~yoshino/Lect/Lect.htm>

●教材

上記webサイトでpdfファイルとして配布予定。各セクションを指名して朗読してもらうので、各自印刷して講義に持参すること。

現代の分子科学

Progress in Molecular Chemistry

(前期① 月・3 全文、H(人)) 2単位

(後期② 水・1 全) 2単位

特任 工位 武治

●科目の主題と目標

新聞や雑誌に新素材や環境問題が毎日のように取り上げられている。これらの記事を分子や化学物質の知識をもって読めば、そこでの話題や問題の本質について、深い理解が得られる。ここではそのような立場から、我々にとって重要で身近な分子や化学物質を取り上げ、それらを解説すると共に、ユビキタス化学といってもよい。現代の分子科学の果たしている役割について考える。

●授業内容・授業計画

- ① 化学の基礎
- ② 生活と化学

③ 環境と化学

④ 生命と化学

⑤ 金属錯体の化学

⑥ 超分子の化学

各課題を2～3週間で消化する。

●評価方法

レポートと平常点を含む総合評価。

●受講生へのコメント

特になし

●教材

教科書の指定はない。教材は担当者が提供する。

生物学への招待

Introduction to Biology

(前期① 水・3 全文、H(人)) 2単位

(前期② 水・1 全) 2単位

理学研究科 田中 俊雄 他

●科目の主題と目標

地球上に生命が誕生して35億年ほどが経過した。この間、生物は遺伝子DNAを営々と子孫に伝え、そこに刻まれた暗号を弛まなく変化させながら進化した。本講義では、まず、動物を題材としたマクロな視点から生物進化をとらえ、進化における性の意義を解説する。ついで、肉眼では見ることのできないミクロの生命体、すなわち微生物を題材として、その多様性やヒトとの関わりについて論じる。さらに、遺伝子の実体やそこに暗号として刻まれた情報がどのように生命現象と関わっているか、また、遺伝子の不偏性を動物の胚を例にとって概説する。

[第1ターム] 当たり前と思っていることもよく考えると不思議なことが多い。動物にはなぜ雄と雌があるのだろうか。なぜ雄と雌の数はほぼ1対1なのか。動物には一夫一妻のものもいれば、ハレムを作るものもいるし、一妻多夫のものもいる。なぜだろう。中には性転換するものもいる。これら性にまつわるさまざまな現象も、現代の進化理論から統一的に説明できる。

[第2ターム] ヒトのゲノムが解読された今日においても、微生物はあいかわらず私たちにとって未知の存在であり、あるものは私たちの生命を脅かす存在である。多種多様な微生物の姿をとおして、その分類上の位置づけや生物界における意義、役割について学ぶ。

[第3ターム] 遺伝子の本体であるDNAはどのようなものであるか、精子と卵の融合による単一の細胞である受精卵からいかにして多様な細胞種からなる個体が発生し

うるのか、クローニングされた遺伝子の機能解析はどのように行われているのかを、アフリカツメガエルやマウスを材料にミクロな視点から概説する。

●授業内容・授業計画

[第1ターム] 担当：幸田正典

1. 生物進化とその機構-なぜ、雄と雌がいるのか？
2. 動物の多様な「婚姻形態」？なぜ、そうなるのか？
3. 性転換や環境により決まる性 4. ヒトの進化：「人種」とは何か？

[第2ターム] 担当：田中俊雄

1. 細胞とは何か 2. 微生物とは何か 3. 微生物の多様性 4. 微生物とヒトとの関わり 5. 微生物についての総括と小テスト

[第3ターム] 担当：池西厚之

1. DNAと遺伝子 2. 細胞分化 3. クローン動物 4. トランスジェニック動物の作成の意義 5. ノックアウトマウスによる遺伝子の機能解析

●評価方法

小テスト、レポート、出席点。

●教材

プリント：適宜配布

参考書等：桑村哲生『生命の意味』（裳華房）、幸田担当：長谷川真理子『クジャクの羽はなぜ美しい』（紀伊国屋書店）、田中 担当：村尾澤夫ら『くらしと微生物』（培風館）、池西 担当：石原勝敏『図解 発生生物学』（裳華房）

地球の科学

Earth system science

(後期 火・1 全)

2 単位

理学研究科 益田 晴恵・領木 邦浩

●科目の主題と目標

私たちは自分たちの住む惑星のことを普段意識して暮らすことはない。21世紀は「環境の世紀」と言われるが、微妙なバランスの上に成り立つこの星の姿を理解せずに、環境を考えることは難しい。本講義では、地球の誕生と歴史、現在の姿を概説する。また、生物と地球との関係、現在および将来の地球環境と人間との関係を汚染や地震などの自然災害を例に取りあげて考察する。これらに基づいて、人類の社会的選択についても考えていきたい。

●授業内容・授業計画

地球の姿を理解しようとしてきた科学史を織りまぜながら、最近の地球学的话题を取り上げて、地球の歴史と現在の姿、また将来予測を概説する。以下にその内容を示す。

- 1 地球誕生と初期進化。地球の階層構造と地球システム。
- 2 海洋と大気の世界
- 3 プレートテクトニクスとプレートテクトニクス。固体地球内部でのエネルギー循環と物質分化。
- 4 地球の表層循環。エネルギーと水の循環システム。
- 5 炭素循環と生物活動。

6 エルニーニョと南方振動。

7 人間の活動と循環システム 1。大気汚染：オゾンホール

8 人間の活動と循環システム 2。水循環と水質汚濁

9 生物と地球の共進化。全球凍結事件とカンブリア紀生物大爆発。大量絶滅事件。(以上、益田担当)

10 地震と震害

11 活断層と表層地質構造

12 構造探査と資源調査

13 都市地盤の特性と住環境

14 地磁気の変遷と地球中心核。(以上、領木担当)

●評価方法

出席点40点、レポートと期末試験各30点。出席点には、講義ごとに行う小テストを含む。

●受講生へのコメント

これまでに地学の授業を受けたことがないことを前提に授業を行う。自然災害を含む自然環境問題に興味を持っている人はもちろん、持たない人にも、「現状を知ること」の大切さがわかる講義を行いたい。

●教材

授業中に指定する。

実験で知る自然の世界

Expedition to Science World

(後期 水・3-4 全文、H(人)) 3 単位

理学研究科 飯尾 英夫 他

●科目の主題と目標

現代における自然科学の発達は著しく、私たちの身の周りのみならず、社会のあり方にまで大きな影響を及ぼしている。本科目は、文科系専攻(H・人間福祉を含む)の学生を対象に、身近なテーマの自然科学実験を通して自然の世界に親しみながら、現代人にとって必要な自然科学の知識を身につけてもらうことを目指す。

●授業内容・授業計画

第1回目はガイダンスおよび消火訓練を行い、第2回目からは以下の実験を行う。()内は各テーマの担当教員を示し、適宜、実験室の技術職員が加わる。

1. 「植物の形態とフラクタル」(伊東 明、名波 哲)
構内に生育する植物の形態を観察し、さらに樹形形成過程のコンピュータシミュレーションを行って、植物の形の多様性と生態学的意義を理解する。
2. 「DNAとRNAの抽出」(若林和幸、曾我康一)
生物の設計図である遺伝子の本体は核酸であり、DNAとRNAの2つの種類が存在する。植物組織から変性

剤等を用い、DNAとRNAをそれぞれ分けて抽出し観察する。

3. 「地球の重力加速度」(鐘本勝一)

ガリレオやニュートンの言うように物体の自由落下が等加速度的かどうかを確かめ、ボルダの振り子の周期から重力加速度を求めます。

4. 「楽器と声の音波」(小原 顕)

電子楽器や自分の声をマイクロホンで電気信号に変え、音を波としてとらえて、音の基本的な性質を理解する。

5. 「電卓であそぶ (1) 大きな数」(橋本義武)

8桁の電卓は 99999999までの数を計算することができるが、それより大きい数の計算には役に立たないかということ、そうではない。たとえば電卓を用いて2の100乗を計算することができる。電卓を持参すること。

6. 「電卓であそぶ (2) 素数のふしぎ」(橋本義武)

素数表を作成し、これを用いて $(Nの2乗) + 1$ 、 $(Nの2乗) - (素数)$ の素因数分解をする。その結果を見

て法則を見つけてみよう。電卓を持参すること。

7. 「おいしい水の話－陸水の化学成分形成」(益田晴恵、土江秀和)

ミネラルウォーターの分析を通して、水循環と水質について考える。

8. 「3Dで診る大阪の地形」(原口 強)

デジタル標高地形図「大阪」を立体視し、地形の凹凸を実感しながら地形図の読み方を学び、大阪の様々な地形を生みだした歴史や地質構造を考える。

9. 「医薬品の活性成分－解熱剤からアスピリンの単離」(館祥光)

身近な化学物質の一つである医薬品を通じて物質の性質を理解するとともに、医薬品に含まれる物質とその役割について考察する。

10. 「地球温暖化・温室効果ガス、二酸化炭素分子の秘密」(工位武治)

二酸化炭素は何故に地球温暖化の原因物質なのかを分子の世界の言葉で考え、この分子に隠された秘密を先端化学によって解き明かす。また、地球温暖化は日常生活に何をもたらしつつあるかを知る。

11. 「生物発光と化学発光」(品田哲郎、飯尾英夫)

生物発光および化学発光は熱を伴わない発光(冷光)である。ルミノールと過シュウ酸エステルを用いて、その発光現象を観察する。

12. 「運動方程式を解く：表計算でシミュレーション」(小栗 章)

Newtonの運動方程式を、表計算ソフトを用いて数値的に解き、例題を通して自然現象に見られる数学的な法則性について学ぶ。

●評価方法

毎回の平常点を総合して成績を付ける。また、最後にどれか1つの実験に関するレポートを出してもらい、平常点に加点する。

●受講者へのコメント

初心者歓迎。白衣貸与。定員48名。第1回目のガイダンス(基礎教育実験棟308室集合)時に受講者を定める。

『実験で知る自然環境と人間』(前期開講)と本科目をともに履修することはできない。

●教材

実験指導書を配布する

地球学入門

Introduction to Geosciences

(後期 火・1 全文、H(人)) 2単位

理学研究科 前島 渉

〔「地球の科学」の単位を修得した者は、本科目を履修することはできない。〕

●科目の主題と目標

現在の地球の姿は46億年にわたる地球の生成流転のほんのつかの間の姿にすぎない。地球の創生以来、幾多のできごとがあり、地球は変貌をとげてきた。そして現在の豊かな地球がつくりあげられてきた。人間社会と地球自然とのかかわりが問い直されているいま、かけがえのない地球について理解をより深めるために、そしてわれわれ人間が今後地球に対してどうあるべきかを考えていくために、惑星としての地球から身近な地域まで、さまざまなスケールで地球をとらえる。

●授業内容・授業計画

まず現在の地球の構成と構造を概観する。とくに、人間の様々な活動の場である地球表層部の構成と運動について、自然災害との関連を含めて解説する。ついで、太陽系における地球の特異性を理解するために、地球環境の生い立ちと変遷を、他の惑星との比較を含めて解説する。また、地層に残された記録から過去の地球環境を探る方法とその具体例を紹介し、地球史規模での環境変動とその背景要因を考える。

1. 地球の構成と構造：地球の形と大きさの認識、地球の内部を探る方法。(2回程度)

2. 地球の表層部：地球表層部の物質と構造、プレートテクトニクス(海洋底の拡大と大陸の移動)、日本列島周辺のプレート運動と地震活動。(4回程度)

3. 地球の生成と進化：隕石が語る原始太陽系、地球の大気・水の起源とその変遷、地球になれなかった金星と火星。(4回程度)

4. 地球の年齢を測る：地球の年齢を知るさまざまな試みとその社会背景、放射性同位体による岩石の年代測定。(2回程度)

5. 過去の地球環境を探る：地層に残された過去の地球環境の記録、地層から読みとる地球環境の変動リズム。(2回程度)

●評価方法

定期試験(70%)、レポートなど(30%)を総合して評価する。

●受講生へのコメント

高等学校で地学を履修しなかった学生を念頭において講義する。授業内容の講義項目は授業の進捗状況によって変わることがある。「地球の科学」の単位取得者は本科目を受講することはできない。

●教材

教科書は使用しない。授業に必要な資料をプリントと

して配付する。参考書は必要に応じて授業中に適宜指示する。

現代の理学 A

Modern Science A

(前期 火・2 全文)

2単位

理学研究科 平澤 栄次 他

●科目の主題と目標

高校で履修した数学・理科の内容のみでは、文科系学生が社会にでるまでに必要な理系の教養として十分とはいえない。この講義では、入学生が高校ではよく学べなかった数学・理科をもう一度学ぶとともに、その必要を理解する。そして講義の終了時には、大学生として社会に出るまでに必要な教養の理学とは何かを知り、大学在学中に理学を学ぶ心構えとする。

●授業内容・授業計画

下記の1講から14講までを授業14回で行なう。

- 1 講：地球システム：地球のエネルギー・物質循環（益田 晴恵）・4月8日
- 2 講：人間－自然相互作用：環境汚染の拡大と対策（益田 晴恵）・4月15日
- 3 講：宇宙の創生と、物質世界の成り立ちⅠ（唐沢力）・4月22日
- 4 講：宇宙の創生と、物質世界の成り立ちⅡ（唐沢力）・5月8日
- 5 講：宇宙の創生と、物質世界の成り立ちⅢ（村田 恵三）・5月13日
- 6 講：周期表「元素がいっぱい」（木下 勇）・5月20日
- 7 講：水「隠されたなぞ」（木下 勇）・5月27日

- 8 講：体内時計が発振する暮らしのリズム：見えてきた生物時計の謎（平澤 栄次）・6月3日
- 9 講：動物行動学：動物の行動の意味と仕組みを探る面白い学問（幸田 正典）・6月10日
- 10 講：現代化学のキーワード（築部 浩）・6月17日
- 11 講：地震の必然性：南海地震と大阪の直下型地震（塩野 清治）・6月24日
- 12 講：理学における、数学の考え方と方法（入門）（今吉 洋一）・7月1日
- 13 講：理学における、数学の考え方と方法（発展）（今吉 洋一）・7月8日
- 14 講：総合討論：（平澤 栄次 他）・7月15日

●評価方法

レポートを提出できる条件は、出席回数10回以上とする。点数は、レポートに100点を配点するが、質問票内容に加点する場合がある。ただし、出席の回数は採点の対象にしない。

●受講生へのコメント

出席・質問は授業毎に出席・質問票を配布して集約する。

●教材

必要に応じて資料を配布する

科学と社会

Science and Society

(前期 木・4 全)

2単位

非常勤 木野 茂

●科目の主題と目標

この授業では環境問題をテーマに、科学と社会のかかわりを人間を軸にして考える。さらに、授業を通して、他の人とコミュニケーションを取る力と自分で考える力をつけてもらうことを目標にしたい。

この授業は私（現在、立命館大学）が本学にいたときに始めた科目であるが、いつも授業を行う上で重視しているのは、①分かりやすく、②興味深く、③双方向型に（一方的な講義にならないように）、である。

●授業内容・授業計画

1. 環境問題とは何か？－アスベスト問題から
2. 公害の原点：水俣病から学ぶ
3. 水俣病は今も終わっていない

4. 公害と労災職業病：住民と労働者
5. 環境公害行政の現場から
(ゲスト：二木洋子さん・高槻市議員)
- 6～8. デイベート
(地球温暖化問題をテーマに全員参加型授業)
9. 薬害エイズは今・・・
(ゲスト：花井十伍さん・薬害H I V被害者)
10. 原子力の光と影
11. 環境問題と差別
(受講生による討論劇を予定)
12. 薬害を防いだ労働者
(ゲスト：四宮充普さん・大鵬薬品労組)
13. 環境問題と専門家の役割

14. まとめ (レポート提出)

●評価方法

レポート評価 7、授業への積極度 3 で総合評価する。レポートは自力で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。

●受講者へのコメント

環境問題に関心を持っている人はもちろん、聞くだけの授業に不満な人、生徒と学生の違いを体得したい人を歓迎する。

参考までに以前の受講生の感想を紹介しておく。

「この授業には来る度に何か気づかされたり、考えさせられたりした。授業が終わっても今後ずっと考えてい

かなくてはならないと思った。」(L1)

「先生からのメッセージ、"自分で考えて下さい"、絶対に頭の中に入れておきます。短い間でしたが、1つ1つの授業 + a、自分の目で確かめ、頭で考えること。一番大切なことを学びました。」(M1)

関連科目：「ドキュメンタリー・環境と生命」

問い合わせはe-mailで：skino@mae.osaka-cu.ac.jp

●教材

教科書：木野茂編『新版 環境と人間－公害に学ぶ』(東京教学社)。

参考文献やビデオは学術情報総合センターに多数揃えてもらっているので、自由に利用すること。

現代科学と人間

Today's Natural Sciences and Human Beings

(前期 木・4 全)

2 単位

理学研究科 宮田 真人

●科目の主題と目標

自然科学の最先端の知識を正確に理解した上で、現代の人間生活に及ぼす科学的成果の功罪を考察する。

●授業内容・授業計画

1. パンデミックへの警鐘－病原微生物の逆襲：1970年代、人類は抗生物質やワクチンなどによってすべての感染症を制圧したかに見えたが、それは一瞬の幻想にすぎなかった。今日、AIDS、O157、炭疽菌、プリオン、SARS、鳥インフルエンザなど、感染症が話題にあがらない日がめずらしいと言って過言ではない。現代社会は高度に発達した医療技術を有している反面で、グローバリゼーション、高齢化、テロリズムの横行といった、アウトブレイクを誘発しうる要因も多々有している。感染症を扱ったいろんなカテゴリーの映画を用いて、病原体とアウトブレイクの秘密に迫る。(宮田真人)

2. 幹細胞学について：近年、医療面での期待を含めて幹細胞移植やES細胞などに関するトピックスが新聞などをにぎわしている。これらの細胞は「未分化細胞」であると言われている。この未分化細胞の対局に位置するのが「分化した細胞」である。この違いは何なのだろうか？この違いを分子（遺伝子）の言葉を使って明らかにしたい。その後幹細胞について解説し、医療面での技術的・道徳的な問題点について意見交換を行

ないたい。(小宮 透)

3. 近代科学の研究手法：今日の物質文明の繁栄をもたらした近代科学、そこでは物理学における研究手法が原点となっている。自然現象の解明を目指す際の基本的アプローチの方法を、物理現象を例にとりて分かり易く解説する。同時に、そこで得られた成果を人類が賢く享受する為の方法を教える。(浜端広充)

4. グリーンケミストリー：地球規模での環境に対する視点無くしては社会的活動が極めて困難な時代が訪れた。物質を取り扱う科学としてどのような視点を持つことが必要だろうか？近年、持続可能な将来を目指す視点で、“グリーンケミストリー”が提唱されている。これを紹介することによって、環境に対する新しい考え方を提案する。(木下 勇)

5. 討論会：講義内容からテーマを選び、発表と討論を行う。

●評価方法

質問カード (毎時間提出) ・レポート・討論により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

積極的な発言を希望する。

●教材

教科書は使わないので、参考図書を各時間に指示する。また、ビデオを用いる。

近代科学の成立

The Development of Modern Science

(後期① 木・4 全) 2単位

(後期② 木・1 全) 2単位

非常勤 大久保 稔

●科目の主題と目標

今日の科学の進歩は止まることを知らず、日進月歩の勢いで発展している。科学の本質は究理であるが、はじめ哲学主導型科学から出発して、のちに技術と結びつき、また理論的な追究ともあいまって、技術支援型&理論主導型科学としての性格をつよめてきている。しかし巨大な自然力を解放した結果、強力な生産力だけでなく反社会的な破壊力さえも生み出してしまった。本講では近代科学の成立にいたる歴史的経緯を明らかにすると共に、その影響について考察する。

●授業内容・授業計画

近代科学がどのような経過をたどり成立してきたか、を要点をまとめて時系列的に話をする。また、単なる歴史の後追いに終わらせず、未来展望ともからめて、今後の科学のあり方についても触れる。

講義の項目は以下のように14回に分ける。

●授業内容・授業計画

- 1 科学とはなにか
労働の役割、科学の特徴、科学と技術
- 2 科学の歴史
 - 1) 科学のあけぼの期 疑似科学
 - 2) 古代ギリシアの自然哲学 論証の科学
 - 3) 中世、科学の低迷 神学のしもべ
 - 4) アラビアの錬金術 神秘的実験科学
 - 5) 科学と宗教のたたかい 科学の受難
 - 6) 近世、科学の復活 サロンの実験科学
 - 7) フランスでの科学発展 哲学と科学の分離

8) イギリスでの産業革命 科学と技術の接近

9) 近代、科学の躍進 技術支援型&理論主導型科学

3 我が国科学の推移 和魂洋才から和魂和才へ

4 個別科学の例 化学 質の変化の科学

5 近代科学の影響

1) 現代の科学 科学と技術の相互高揚

2) 科学の功罪 苦情、公害、環境破壊

●評価方法

「試験に代わるレポート」の出題によって行う。

出席率も考慮する。

●受講生へのコメント

- 1 事業開始5分前までに入室してほしい。
- 2 講義に先立ち約10分間、その時々話題について小話をする。
- 3 理系、文系を問わず、科学に強い関心を持ち、積極的に受講を希望する諸君を待つ。
- 4 参考書をざっと読んであらかじめ概要をつかんでおいてほしい。

参考書「例」

鈴木、馬場共著「科学・技術史概論」建帛社

藤村、他 「科学-その歩み」東京教学社

平田 寛 著 「図説 科学・技術の歴史」(上・下)

朝倉書店

●教材

教科書は使わない。図、表で要点をまとめたプリントを配布する。

心と脳

Mind and Brain

(後期 月・2 全)

2単位

文学研究科 川辺 光一

●科目の主題と目標

脳科学は今世紀における自然科学の最も重要な研究テーマの一つとされている。脳は、外界からの感覚情報を処理し、行動や運動の制御を行う生体の司令塔としての役割を果たしている器官であるといえるが、脳の構造はあまりに複雑であるため、その機能的役割については未だ不明な点が多い。しかしながら、生理学、解剖学、心理学、分子生物学、薬理学、医学、工学などさまざまな領域からアプローチが試みられ、数々の研究手法や方法論が開発された結果、20世紀後半に脳研究は飛躍的な発展を遂げた。現在でも数多くの精力的な研究がなされており、高次精神機能と脳の関係についても解明が進みつつある。

この講義は、脳研究においてこれまで得られている知見を概説することにより、脳や神経細胞の構造、神経系における情報伝達の仕組みや、脳と精神機能・行動との関係についての理解を深めることを目的とする。

●授業内容・授業計画

講義は概ね以下の内容で進められる。ただし、授業進度の関係上、講義の順番が変更されたり、一部を省略したりすることもあるということを付記しておく。

- 1) 行動神経科学とは
- 2) 行動神経科学における研究手法
- 3) 脳の構造と機能
- 4) 神経系を構成する細胞とその機能
- 5) 神経系における情報伝達機構

- 6) 脳と感覚・運動
- 7) 脳と睡眠・覚醒
- 8) 脳と生物時計
- 9) 脳と摂食
- 10) 脳と情動
- 11) 脳と学習・記憶
- 12) 脳と思考
- 13) 脳と精神疾患
- 14) 脳と薬物、薬物依存

●**評価方法**

試験の成績を基本とするが、これに出席点を加味する。試験は、授業内容についての深い理解が求められるので、講義には必ず出席すること。

●**受講生へのコメント**

授業を通して、脳と精神、行動の関係についての正し

い知識を得てもらいたい。

●**教材**

毎回、その日の講義に関する図表等をプリントとして配布する。

参考書：ブルーム，F.E. 他（中村克樹・久保田競 監訳）『新・脳の探検（上・下）』講談社ブルーバックス

カールソン，N.R.（泰羅雅登・中村克樹 監訳）『神経科学テキスト—脳と行動』第2版 丸善

ピネル，J.P.J.（佐藤敬他 訳）『バイオサイクロジ—：脳—一心と行動の神経科学』西村書店

ベアー，M.F. 他（加藤宏司他 監訳）『神経科学—脳の探求—』西村書店

ドキュメンタリー・環境と生命

Documentary・Environment and Life

（後期 水・4 全）

2単位

非常勤 木野 茂

●**科目の主題と目標**

いま、環境と生命に関わる問題は人々から大きな関心をもたれているテーマである。

この授業では環境と生命に関するテレビ・ドキュメンタリーの中から優れたものを教材にし、鑑賞後の意見交換を通じて、自分の意見を人に伝える力と自分の考えをまとめる力をつけることを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

教室では最初に30分～50分程度のテレビ・ドキュメンタリーを鑑賞する。ドキュメンタリーの作品は最近数年間に放映されたものが中心で、これまでに取り上げたテーマは、成人式、水俣病、サリドマイド、薬害ヤコブ病、誕生の風景、化学物質過敏症、SARS、原発と地震、割り箸、回転ドア事故、ハンセン病、福島智、湯布院、地球家族、差別体験授業、中村哲など、多岐に渡っている。毎年一部更新しながら番組表を編成しているが、今期の番組一覧は第1回目の授業で発表する。

鑑賞後は当日のドキュメンタリーに対する感想や意見を交換する。教室ではできるだけ自由に話し合えるように最初は6人程度のグループで始め、しだいに多人数でのディスカッションも行えるようにする。授業の後は、自分の感想や考えを400字程度にまとめ、メーリングリストでクラスメイトと交換する。

また、授業で取り上げたドキュメンタリーのテーマごとにグループ研究を行い、その成果を教室でプレゼンテーションする機会を最後に設ける。

●**評価方法**

毎週のメールによる感想意見7、番組要約1、レポート2の割合で総合評価する。

番組要約は各自1回ずつ担当する。

レポートの課題は、授業期間中に放送されるテレビ・ドキュメンタリーの中から一つを選び、その番組要約と感想意見をまとめることである。

●**受講者へのコメント**

ドキュメンタリーの好きな人、環境と生命に関心を持つ人、聞くだけではなく自分たちも参加できる授業を求めている人を歓迎する。

毎週のメーリングリストで最も良かったと思う意見を全員の投票で選び表彰するアトラクションもある。

この授業では、何事にも縛られずに自由に学ぶことの楽しさを味わってほしい。

関連科目：「科学と社会」

問い合わせはe-mailで：skino@mae.osaka-cu.ac.jp

●**教材**

毎回、プリントを配布する。

植物の機能と人間社会

Plant Function and Human Society

(後期 月・2 全)

2 単位

理学研究科 曾我 康一

●科目の主題と目標

植物の持つ機能には、有用で優れたものが多く存在する。植物の機能を利用したり、植物の機能を模倣するためには、まず、植物の持つ機能を理解する必要がある。この科目では、はじめに、植物の性質について概説し、次に、私たちの生活に植物の機能がどのように役立っているかを具体例を示して解説する。

●授業内容・授業計画

以下のテーマを14回の授業で解説する。

1. 植物の特徴
2. 環境要因に対する植物の反応
3. 植物の組織培養・遺伝子組換え (GM) 技術

4. GM植物と農業

5. 植物工場と宇宙農業

6. 植物を利用した有用物質の生産

7. 植物による環境浄化

●評価方法

試験を中心として、質問状況などを加味する。

●受講生へのコメント

授業毎に質問票を配布・回収し、次回以降の授業時に質問に答える。

●教材

プリントを適宜配布する。

実験で知る自然環境と人間

Exploration into our Natural Environment

(前期 水・3-4 全)

3 単位

理学研究科 飯尾 英夫 他

●科目の主題と目標

複雑な地球環境のもと私たち現代人が生きていく上では、私たちを取り巻く自然環境や私たち自身のことを深く理解することが要請されている。本科目では理系学生も含め全学の学生を対象に、地球環境や人間についての身近なテーマを取り上げる。実験・実習をつうじ幅広く体験し、自ら対応できる力をつちかい総合的に判断する力を養う。

●授業内容・授業計画

第1回目はガイダンスおよび消防訓練を行い、第2回目からは以下の実験を行う。()内は各テーマの担当教員を示し、適宜、実験室の技術職員が加わる。

1. 「動物のからだ」(水野寿朗)

自由生活をする動物には我々ヒトと同様に外皮、神経系、筋肉、消化管など基本的な器官が揃っている。小動物のすがたを実体顕微鏡で観察し、動物のからだの成立ちについて理解を深める。

2. 「色で見分ける殺菌パワー」(田中俊雄、藤田憲一)

メチレンブルーは細胞の酸化・還元力のインディケータであり、細胞の生死を簡便に判定できる。本課題では、酵母を用いて市販の抗菌剤、抗生物質の殺菌力を評価するとともに、身近な食品成分の殺菌力についても検討する。

3. 「花粉の形態と花粉管発芽」(平澤栄次、樽井 裕)

春になると大量に飛んでくる迷惑な花粉も、植物にとっては繁殖に欠かせない重要な器官である。この実験ではさまざまな植物の花粉の形態を顕微鏡と電子顕微鏡で観察するとともに、花粉が発芽する様子も調べる。

4. 「都市環境とセミの生活」(沼田英治)

近年大阪では、クマゼミが著しく増加した。都市環境とセミの生活の関係を考察するために、キャンパス内でクマゼミの観察を行うとともに、クマゼミの卵が雨に日に孵化するしくみについての実験を行う。

5. 「放射線を測る」(神田展行)

五感に感じない放射線を測定器を使って測る。また、霧箱を使って放射線の飛跡を観察したり、身の回りの自然放射線を測定してみる。

6. 「3Dで診る東京の地形」(原口 強)

デジタル標高地形図「東京」を立体視し、地形の凹凸を実感しながら地形図の読み方を学び、東京の様々な地形を生みだした歴史や地質構造を考える。

7. 「火山噴火と災害」(古山勝彦)

日本には多くの活火山が分布する。近年起こった火山噴火の様子から、火山の噴火のタイプや火山災害の種類を考察する。一回の噴火期に放出した火山噴出物量を、雲仙噴火を例にとり計測する。

8. 「分子の宝石-分子結晶をつくらうー」(中沢 浩)

分子を結晶にすると宝石のようにキラキラと美しい輝きを放つ。実験では、キノンとヒドロキノンを用いて、金属光沢をもつ結晶をつくり、分子の水素結合や電荷移動相互作用を考えていく。

9. 「地球温暖化・温室効果ガス、二酸化炭素分子の秘密 (工位武治)

二酸化炭素は何故に地球温暖化の原因物質なのかを分子の世界の言葉で考え、この分子に隠された秘密を先端化学によって解き明かす。また、地球温暖化は日常生活

に何をもたらしつつあるかを知る。

10. 「生物発光と化学発光」(品田哲郎、飯尾英夫)

生物発光および化学発光は熱を伴わない発光(冷光)である。ルミノールと過シュウ酸エステルを用いて、その発光現象を観察する。

11. 「身の回りにある色素の謎を探る」(臼杵克之助、飯尾英夫)

美しく華やかな花や果実の色素を抽出する。そして化学合成で手にした色素とその性質を比較することにより、物質の機能と分子構造との関連を考察する。

12. 「運動方程式を解く：表計算でシミュレーション」(小栗 章)

Newtonの運動方程式を、表計算ソフトを用いて数値

的に解き、例題を通して自然現象に見られる数学的な法則性について学ぶ。

●評価方法

毎回の平常点を総合して成績を付ける。また、最後にどれか1つの実験に関するレポートを出してもらい、平常点に加点する。

●受講者へのコメント

初心者歓迎。白衣貸与。定員48名。第1回目のガイダンス(基礎教育実験棟308室集合)時に受講者を決める。『実験で知る自然の世界』(後期開講)と本科目をともに履修することはできない。

●教材

実験指導書を配布する。

21世紀の植物科学と食糧・環境問題

Plant Biology for Addressing Societal Challenges of the 21st Century

(後期 火・3 全)

2単位

理学研究科 飯野 盛利、植松千代美、伊東 明

●科目の主題と目標

この世紀、人類はかつてない深刻な問題に直面することが予測されている。その一つは、増え続ける人口を支えるための食糧供給の問題(食糧問題)であり、もう一つは、人類の活動による環境破壊をもたらす諸問題(環境問題)である。植物の光合成によって固定される光エネルギーは、私たち人間を含めた全ての動物の生命活動を支えている。植物の機能を理解し、植物を基礎にする生態系を理解することは、食糧・環境問題の根本を理解し、その解決策を探るための重要な基盤である。本講義では、食糧・環境問題を植物科学の観点から考える。

●授業内容・授業計画

1. 食糧・環境問題の現状(飯野盛利 担当、1回分)
2. 生態学から見た地球環境問題(伊東明 担当、4回分)

環境問題のなかでも発生源や被害が一定の地域に限定できず、広範にわたるものを特に「地球環境問題」と呼ぶ。地球環境問題は、身近な現象ではないため、一見、つかみどころがない。地球環境問題を正しく理解するには、生態学についての多少の知識と生態学的な考え方を知っておくと役に立つ。そこで、以下の項目について、具体的なトピックスを紹介しながら、関連する生態学上の基本概念について解説し、地球環境問題に関する情報や報道を理解する時の助けとしたい。

- (1) 共有地の悲劇 (2) 生物多様性 (3) 森林破壊 (4) 地球温暖化

3. 食糧・環境問題と遺伝子組換え(植松千代美 担当、4回分)

食糧・環境問題解決の手段として遺伝子組換え技術を利用しようとする試みがある。一方、長い進化の歴史を経て構築されてきた生態系のバランスが遺伝子組換え植物の出現によって崩れることも懸念される。21

世紀は、これらの問題にどのように対処するのかを、一人一人が考えなければならない時代である。本講義では(1)環境問題と食糧問題の概要、(2)遺伝子組換え植物誕生の技術的背景と食糧・環境問題への貢献の可能性と問題点、(3)バイオマス燃料の功罪などについて紹介する。科学的な知識と正確な理解により、問題解決の方向性を探る一助となることを期待する。

4. 生物の進化および地球環境の変遷と食糧・環境問題(飯野盛利 担当、2回分)

誕生から現在までの生物の進化、およびそれと密接に関連する地球環境の変遷について、最近の研究成果も踏まえて概説する。これらの知見から現在の食糧・環境問題のもつ意味を探る。

5. 植物科学の発展と食糧・環境関係(飯野盛利 担当、2回分)

分子遺伝学・遺伝子工学の発展によって、人類は植物の遺伝子を操作し、その機能を改変することを可能にした。一方、分子遺伝学・遺伝子工学は植物の機能を明らかにするための強力な研究手段としても用いられている。後者の具体例を紹介し、植物科学の発展がもたらす可能性について、食糧・環境問題との関係から論じる。

●評価方法

授業で課す小テスト・レポートと各担当者が期末に課すレポート、ならびに出席率によって評価する。

●受講生へのコメント

食糧・環境問題は社会的な問題であり、解決策は一つとは限らない。受講生各自がこれらの問題にどう対処するかを考えるきっかけとなることを期待する。

●教材

教科書は使用しない。適宜、プリントを配布し、参考

図書を紹介する。

森林環境と人間社会

Forest environment and human society

(前期 火・3 全)

2 単位

大学教育研究センター 大久保 敦

●科目の主題と目標

この授業では科学的な視点で森林環境を観ることを通して、森林環境と人間社会の関わりを学習します。また特に、これまで取り上げられることのなかった、地球46億年の歴史の中で森林の生い立ちや森林存在の意義を考えます。

授業目標

半期の授業のみでは森林環境問題の全てを網羅することは不可能です。従って、この授業では森林環境問題を考える「きっかけ作り」を目指します。具体的には

- ① 森林に関する興味・関心を持つこと
- ② 森林に関する科学的な基礎知識を身につけること
- ③ 森林環境と人間社会の関わりについて高い意識を持つことの3点を目標とします。

●授業内容・授業計画

- ① 森と林の違いは？ (森林の基本概念)
- ② 身の回りの植物
- ③ 森林の恩恵1
- ④ 森林の恩恵2
- ⑤ 森林の恩恵3
- ⑥ 森林の恩恵4
- ⑦ 森林の生い立ち1 陸に上がった植物
- ⑧ 森林の生い立ち2 最初の森林の出現
- ⑨ 森林の生い立ち3 針葉樹の森林・広葉樹の森林の

出現

- ⑩ 日本の森林
- ⑪ 世界の森林
- ⑫ 人間社会と森林1 日本の森林問題
- ⑬ 人間社会と森林1 地球規模の森林問題
- ⑭ 人間社会と森林3 人間社会と森林問題

●評価方法

1. 平常点 (50点)
 - ・授業参加度：30点 (毎授業後提出の課題など)
 - ・小レポート：20点
 2. 最終レポート (50点)
 3. 出席 (10回の出席が単位修得最低要件)
 - ・欠席回数に応じて総合点から減点
- 1、2、3を総合的に評価

●受講生へのコメント

積極的に授業に参加しようとする人を期待しています (受身の授業を期待している人には不向き)。授業の内容は毎回完結していますが、それぞれリンクしているので授業目標を達成するために、出席を重視します (評価方法参照)。高校時代に生物を履修していない人を対象に授業内容を設定します。

●教材

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。

植物と人間 演習

Plants and human life

(前期 集中 全)

2 単位

理学研究科 岡田 博 他

●科目の主題と目標

植物園は世界各地から種子や苗を収集し、育成保存している。これらは様々な人間生活に活用する遺伝子資源として広く国内外の研究機関に提供し、生きた教材として教育にも利用されている。

本授業では植物園において育成している様々な植物を利用しながら、植物園が果たしている社会的役割を考え、そのことを通して植物と人間との関わりについてより深く理解することを目指す。

●授業内容・授業計画

岡田 博：近年の地球環境の悪化に伴って、日本の自生植物のかなりの種が絶滅を危惧されている。この原因の1つには植物の生態特性、特に繁殖様式が関係している。本授業では植物にみられるさまざまな生態特性や繁

殖様式を解説し (1.5回分)、人間活動と植物との共存について考察する (1回分)。植物園の取り組んでいる植物の保護についても園内に実際に育成している植物を見ながら説明する (1.5回分)。

飯野 盛利：植物は適した環境を求めて移動することができない。しかし、環境要因を情報として読み取り、成長と生理過程を調節することによって環境への適応を果たしている。エネルギー源である光はそのような情報源としても特に重要な役割をしている。本授業では植物のもつ環境適応能力を光環境との関係に注目して解説する (2回分)。21世紀には人口増に伴って食糧が不足すると推定されている (食糧問題)。植物の環境適応能力を食糧増産に結びつく課題としても論じる (1.5回分)。

田村 実：人間が植物と関わっていく上で、植物進化

を理解することは重要である。本講義では、植物進化の道筋をダイジェスト版で紹介する。植物はどのようにして起源し、陸上進出を果たし、花を創り上げて、被子植物にみられる多様性を獲得したのか、その謎に迫る（2回分）。分子生物学的アプローチによる仮説も盛り込み、最新情報を提供する（1.5回分）。

植松千代美：メンデルの遺伝の法則が再発見されて以来、わずか100年の間に私たちは遺伝子の本体であるDNAを操り遺伝子組換え植物を作り出すに至った。本授業ではバイオテクノロジーが21世紀の環境問題や食糧問題解決のためにどのように貢献できるのかを考察する。植物組織培養（1回分）、遺伝子組換え技術（1回分）、遺伝子組換え植物とその生態系への影響（1回分）、

バイオテクノロジーの可能性と限界（1回分）などを中心に最新の研究成果を交えて紹介する。

●**評価方法**

各担当教員が提示した課題へのレポートへの100点満点の評価を平均して評価する。また、授業内容について意見を述べるなどの積極的発言は評価し、加点する。

●**受講生へのコメント**

授業は附属植物園内で、各教員によるオムニバス方式で行う。

●**教材**

プリントを適宜配布する。スライド、OHP、ビデオを使用することがある。

情報基礎

2 単位

Introduction to Information Processing

(以下の科目の単位を修得した者は、この科目は履修できない。)

- ・平成17年度以前の「情報処理I」
- ・平成17年度以前の「コンピュータのシステムとその応用」
- ・平成10年度以前の「コンピュータのシステム」)

創造都市研究科

< 1 部 >

クラス	期・曜・時	担 当 者	クラス	期・曜・時	担 当 者
全文	前・月・3・4	村上 晴美	全理	前・金・1・2	中野 秀男
全文	前・火・1・2	安倍 広多	全 a	前・金・1・2	中野 潔
全 a	前・火・1・2	(豊田 博俊)	全 b	前・金・1・2	ペンカテッシュ・ラガワン
全 b	前・火・1・2	ペンカテッシュ・ラガワン	全理 a	前・金・3・4	中野 秀男
全文	前・木・3・4	大西 克実	全理 b	前・金・3・4	永田 好克
全	前・木・3・4	(豊田 博俊)	全	前・金・3・4	安倍 広多

クラス	期・曜・時	担 当 者	クラス	期・曜・時	担 当 者
全	後・金・1・2	村上 晴美	全	後・金・3・4	石橋 勇人

< 2 部 >

クラス	期・曜・時	担 当 者
全	前・金・1・2	永田 好克

●科目の主題と目標

日常の行動において行っているさまざまな情報処理の過程の中で、コンピュータを道具として使いこなすことをコンピュータリテラシと呼ぶ。研究や学習ばかりでなく、日常生活においてもコンピュータの利用が不可避になりつつある中で、将来も柔軟にコンピュータとかかわっていけるよう、リテラシの奥行きを深めることを目的とする。いくつかの代表的なツールに慣れ親しむことを交えながら、コンピュータの動作原理についてソフトウェア・ハードウェアの両面から理解を深める。また情報利用者・情報発信者として安全にかつ責任を持ってコンピュータを活用できる能力を涵養する。

担当者：安倍、石橋、豊田、中野潔、永田、村上

●授業内容・授業計画

①② コンピュータになじむ

この授業で採用しているシステムに慣れる。また電子メール、Webブラウザ、ワードプロセッサなどの初歩的なツールに慣れる。

③④ Webページの作成手始め

簡単なWebページを作成しながら、ファイルシステム、ソースファイルの編集、HTMLの基礎を理解する。

⑤ 画像と描画ツール

画像ファイルの取り扱いや、画像描画ツールの考え方を理解する。

⑥⑦ 情報の符号化

デジタルとアナログの違い、2進数や16進数の表現、

情報符号化の考え方、情報圧縮、文字コードなどを理解する。

⑧ コンピュータの仕組み

コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアについての基礎的な知識を習得する。

⑨ インターネット通信の仕組み

インターネット通信によって目的のコンピュータと情報を交換する仕組みを理解する。

⑩⑪ 洗練されたWebページを目指して

ソースファイル編集の視点から、また、Webページ閲覧者の視点から、洗練されたWebページとは何かを理解する。

⑫ 情報セキュリティ

通信の秘密と信憑性を確保する技術とその意味について理解する。

⑬ 情報システムの利用と社会的問題

情報システムの利用につきまとう社会的問題について、その事象と対処法を理解する。

⑭ 表計算、プレゼンテーションなど

表計算、プレゼンテーション、あるいはその他の基礎的内容や発展的内容を取り扱う。

なお、担当教員によって取り上げる順番や回数配分を変更することがある。

●評価方法

出席、レポート、期末試験により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

コンピュータに関する予備知識や経験がほとんどない学生は、特に前半に授業外でも積極的にコンピュータに慣れる機会を作り、経験者に追いつく努力をすることが望ましい。

●教材

講義メモやWebページなどを活用する。

参考書：

情報処理学会編集ITText一般教育シリーズ「情報とコンピューティング」

情報処理学会編集ITText一般教育シリーズ「情報と社会」

担当者：大西、中野秀男、ラガワン

●授業内容・授業計画

① コンピュータとその操作の基礎

② 電子メールとコミュニケーション

電子メールの作成で文書作成の基礎を修得し併せてコミュニケーションの便利さと問題点を覚える。

③④ リテラシと情報セキュリティ

コンピュータリテラシ、ネットワークリテラシ、メディアリテラシやリテラシのレベル等を学び、併せて情報セキュリティ、プライバシーや知的財産権／著作権などの考え方を知る。

⑤⑥ 情報発信－ホームページ作成

各自のホームページ作成を通して、インターネット世界での情報収集や情報発信の便利さと問題点を覚える。併せて、プライバシーや著作権の重要性も理解する。

⑦⑧ 調べ方－情報検索

インターネットでの検索エンジン等を使いながら、基

礎的な情報検索手法を学ぶ。併せて、インターネットでのセキュリティについても理解を深める。

⑨⑩ 考え方－アルゴリズム

コンピュータで考え方を実現するのはプログラミングであるが、その基本となるアルゴリズムを疑似言語等を使いながら修得する。論理的な考え方を身につけることも目的の一つである。

⑪⑫ 空間情報の利用

地球上の位置と直接・間接に関連づけられた対象物や現象に関する情報である空間情報の取扱い方法の理解を深める。

⑬⑭ 情報セキュリティ

ここまで修得した情報検索や学術情報総合センターの図書サービス等を使い、文章の組み立てを考えながら、表作成と文章作成を組み合わせたレポート作成を修得する。

講義の部分ではVOD (Video On Demand) 等の教材を使って自学自習が可能になるように配慮している。また、演習では各自の習熟度に応じた対応を考えている。

なお、担当者はそのクラスの採点責任者であるが、講義の内容に応じて、教材作成担当者がその時間の質問などを受ける場合もある。

●評価方法

出席、レポート、期末試験により総合的に評価する。

●教材

Webページを基本的に利用する。

プログラミング入門

Introduction to Programming

(前期 金・3－4 全)

2単位

創造都市研究科 石橋 勇人

●科目の主題と目標

この講義は、いわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通してコンピュータについての理解を深めることを目的とする。まず、どのプログラミング言語にも共通する概念を体験的に学ぶ。さらに、特定の言語 (Python もしくはJavaを用いる予定) を通してプログラミングを体験的に学び、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

(1) Introduction

授業の目的、評価方法、プログラムの実行方法など

(2) 基本的な制御構造

(3) 関数/サブルーチン/手続き

(4) 文字列処理と正規表現

(5) 様々なデータ構造

(6) 中間課題

(7) オブジェクト指向プログラミング

(8) ファイル入出力

(9) 画像処理

(10) 再帰呼び出し、非同期処理

(11) ネットワークプログラミング (1)

(12) ネットワークプログラミング (2)

(13) 最終課題 (1)

(14) 最終課題 (2)

(授業の進行状況によって順序や内容を一部変更する場合があります)

●評価方法

出席 (30%)、レポート (40%) および試験 (30%)

(割合は目安である)

●受講生へのコメント

エディタ、Webブラウザなどは自由に使えることを

前提とする。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

Webページなどを使用する

プログラミング入門

Introduction to Programming

(前期② 金・1-2 全) 2単位

(後期① 金・1-2 全) 2単位

創造都市研究科 松浦 敏雄

●科目の主題と目標

この講義はいわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通して、コンピュータについての理解を深めることを目的とする。まず、どのプログラミング言語にも共通する概念を体験的に学ぶ。さらに、特定の言語 (Java もしくはrubyを用いる予定) を通して、プログラミングを体験的に学び、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) プログラミングとは、変数、文、制御構造など、プログラミングの基本概念を学ぶ。
- (2) 条件分岐、条件文の書き方を学び実際に簡単なプログラムを作成する。
- (3) 繰り返し構造、配列等を学ぶ。
- (4) コマンドラインの使い方、XEmacsの使い方、コンパイル・実行、プログラムの実行方式などを学ぶ。
- (5) プログラムの構造、インデント、式、キーボードからの入力などを学ぶ。
- (6) while文、++と--演算子、break文。

- (7) 2重ループ、for文、変数の有効範囲、配列。
- (8) アルゴリズムとは、バグについて、配列を使った演習。
- (9) 文字列、オブジェクト指向の考え方、クラス、メソッド、コンストラクタ。
- (10) クラス(続き)、ファイルからの読み込み、ファイルへの書き込み。
- (11) クラスを作る方法、簡単なゲームの作成
- (12) クラスの継承。
- (13) 最終課題。

(それぞれが、1回の授業に対応するわけではない)

●評価方法

出席、レポートおよび試験

●受講生へのコメント

エディタ、Webブラウザなどは自由に使えることを前提とする。

演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

配布資料およびWebページなどを利用。

プログラミング入門

Introduction to Programming

(後期 金・3-4 全) 2単位

創造都市研究科 (兼) 学術情報総合センター 大西 克実

(平成17年度以前に「情報処理Ⅱ」の単位を修得した者は、この科目は履修できない。)

●科目の主題と目標

この講義はいわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通して、コンピュータについての理解を深めることを目的とする。まず、どのプログラミング言語にも共通する概念を体験的に学ぶ。さらに、特定の言語 (Javaを用いる予定) を通して、プログラミングを体験的に学び、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) プログラム言語の構成・ソースファイルの入力・コンパイル、ターミナル使用法
- (2) Java・形式、コメント・入力の扱い方・変数、演算子、型
- (3) 型の変換・制御構造 (if, for)
- (4) 制御構造 (while, do~while, continue, break) ・配列・アルゴリズム (1) [数列]

- (5) 参照型の特徴・アルゴリズム (2) [成績処理]
- (6) メソッド・クラス・オブジェクト指向プログラミング
- (7) データ構造・再帰呼出
- (8) 整列問題 (1)
- (9) 整列問題 (2)
- (10) ファイル入出力
- (11) アプレットプログラミング (1) GUI部品
- (12) アプレットプログラミング (2) イベント処理
- (13) ネットワーキング

(それぞれが、1回の授業に対応するわけではない)

●評価方法

出席とレポート

●受講生へのコメント

エディタ、Webブラウザなどは自由に使えること (「情報基礎」程度) を前提とする。演習を重視した授業

を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

Webページなどで提示する。

情報の探索と利用 - インターネットでレポート、論文作成の手引き - Information retrieval and it's application	(前期 月・3 全)	2単位
	(後期 月・3 全)	2単位
	創造都市研究科	北 克一 他

●科目の主題と目標

本講義では、インターネットを活用し、情報の探索と利用の「達人」をめざす。

このために、インターネットを使用したレポートや論文作成のステップを、段階的に取り上げる。また、「量の上の水練」にならないように、各ステップでは、実際にコンピュータを操作し、力が身につく実践的な授業を行う。

なお、対象とする情報源は、インターネット上の無料サイトと学内で無料使用ができる情報資源の範囲に限定する。

●授業内容・授業計画

- ①インターネットで、レポート、論文作成のステップ (概説)
- ②-⑦テーマを絞り込む：絞込みの3方法
 - ・ 辞典・事典・用語集の活用：インターネット上の資源
 - ・ 文献リストを読む：雑誌記事索引の利用
 - ・ 検索エンジンやリンク集、アーカイブサイトの活用
- ⑧-⑨資料・文献、情報を集める
 - ・ 図書を探す：OPAC、総合目録、横断検索など
 - ・ 雑誌論文を手に入れる：ILL：InterLibrary Loan、国立国会図書館複写サービスなど
 - ・ 新聞、統計、白書などを集める：各種のデータベ

- ースなど
 - ・ レファレンスサービスを活用する
- ⑩資料・文献、情報を見分ける - 騙されないためのコツ
 - ・ あやしい資料・文献、情報のタイプと見分け方
 - ・ あやしいレポート、論文を作らないための注意点
- ⑪-⑫レポート、論文を執筆する
 - ・ レポート、論文の執筆準備とデータ処理法
 - ・ Webデータ、PDFデータの活用等
 - ・ 評価されるレポート、論文の構造、そのコツ
 - ・ 引用の記述：資料および情報の引用
- ⑬レイアウトを工夫する、
 - ・ 読んでもらえるレポート、論文のレイアウト
 - ・ 図表などの挿入
 - ・ プレゼンテーションに強くなろう
 - ・ レポート、論文を電子提出する

電子提出のマナーと技術

●評価方法

演習課題の提出レポートを対象に評価する。

●受講生へのコメント

講義と実際の演習を組み合わせる進行する。

●教材

高嶽裕樹著『デジタル情報資源の検索』日本図書館協会発売、2007.

その他、適時にプリントを配布する。

地図と地理情報 Map and Geographic Information	(前期 火・2 全)	2単位
	文学研究科	森 洋久

●科目の主題と目標

ことさら地理学と呼ばれない諸分野においても、地理学的、空間的思考は重要である。地理、空間という視点からいろいろな分野を眺める。

●授業内容・授業計画

地理の一つは人間や人間社会の活動空間の構造（理-ことわり）を解くもの、もう一つは、自然界の空間的構造を解くもの、と考えたでしょう。地理情報はそれを情報化していく手段、方法、あるいは、対象である。周囲の処分やを眺めてみると、ことさら地理学と呼ばれない諸分野においても、地理は非常に重要である。本講

義では、地理、空間という切り口から様々な分野を眺める試みである。物理学や数学などの理系の分野においては空間という捉え方は一般的である。一方で、人類学、考古学、あるいは社会学においても地理学的な思考方法が存在する。音楽や絵画における空間や地理の要素も紹介する。無論、古地図や測量図の歴史といった地理学プロパーな話題にも触れる。

●評価方法

授業における各種課題と、期末レポート。

●教材

<http://www2.globalbase.org/osaka-cu/2008/>

情報化の光と影

Information Age : It's Bright and Dark Sid

(後期① 木・2 全) 2単位

(後期② 木・1 全) 2単位

文学研究科 増田 聡 他

●科目の主題と目標

21世紀の現代社会を「情報化社会」と呼ぶことはわれわれにとって当たり前のことになっている。インターネットや携帯電話に取り囲まれ、日々新たな情報技術とコンテンツが生み出されている現在は、まさしく情報に満ちあふれた社会と言えるだろう。しかし、日本で「情報化社会の到来」が叫ばれたのは1960年代の初頭からのことであり、既に「情報化社会」は半世紀に近い歴史を持つ、と考えることができる。つまり「情報化」されていない社会というもの、それ以降に生まれた人びとはうまく想像することができないのだ。身近な、あるいは最新の情報機器の氾濫だけが情報化社会の現れではない。本科目では、「情報化」という社会の状況について、人文学的、法学的、医学的、経営学的、経済学的な観点から多面的に光をあて、考えていく。

●授業内容・授業計画

文学研究科・増田聡（1、2、3）

音楽はかつて「自ら演奏し歌う行為」であり、続いて「鑑賞する作品」となり、いまや「消費するコンテンツ」となった。その変貌の背景には、時代ごとの芸術思想や文化思想、美学などといった観念と、楽器やレコードやラジオ、電子楽器やインターネットなどのメディア・テクノロジーの相互交渉が働いている。音楽配信事業が急速に普及しつつある現在、音楽はテキストや画像、映像などと横並びで「情報」と呼ばれるようになった。では、音楽が「情報化」されたということは何を意味しているのか。情報化社会論の概説を行うとともに、音楽文化の情報化の諸相について、メディア、観念、著作権制度などの観点から論じる。

法学研究科・和久井理子（4、5）

インターネットでは大量の情報がやりとりされています。そしてこの背後では、情報を創出するクリエイターやアーティスト、この活動をアレンジする出版社、レコード会社やゲームソフト制作会社、情報検索を助けるGoogleやYahoo!、通信網を保有し運営するNTT、KDDI、ソフトバンク、コンピュータ・携帯端末メーカーなどが存在します。情報化の「光」を多くの人々が享受できるためには、これら企業間、サービス提供者-利用者間で、情報・サービスの取引が適切な形で行なわれていなければなりません。本講義（2回）では、こうした目的をもって設計され運用されてきた、情報化社会を支えるルールや政策の内容と課題について検討します。

医学研究科・朴勤植（6、7）

コンピュータ技術・通信技術応用としてあらゆる分野

に情報システムが普及している。医学・医療分野においても種々の情報システムが実用化され日本のIT化戦略の重要な分野の一つとなっている。本学医学部の病院情報システムである電子カルテシステムや他の医療情報システムを通して現状の医療におけるIT化を紹介する。また、インターネットにおける医学医療情報に関する話題を提供し、情報化が我々の生活に与える影響を考察する。

経営学研究科・太田雅晴、テキ 林瑜、坂上学

（8、9、10）

情報システム及び情報ネットワークの進展は、企業経営だけではなく企業関係も変貌させつつあり、それは私たちの生活、価値観さえも変えさせようとしている。本講義では、次のような視点で、企業と情報、企業と情報システムの間を論じる。

- (1) 情報化と企業戦略、太田雅晴
- (2) 情報と企業行動、テキ林瑜
- (3) 企業評価と会計情報、坂上学

経済学研究科・中島義裕（11、12、13）

情報通信技術の進歩に伴いインターネットを通じた商取引が盛んに行われるようになった。これにより取引の簡便性や迅速性が増え、同時にサービスの利用者と供給者が扱える情報の量や質が飛躍的に向上した。またインターネットオークションに見られるように、価格形成プロセスも多様になった。

これらの効果が最も現れている市場の一つが株式市場である。近年インターネットを経由した注文を受け付ける証券会社が増え、デイトレーダーと呼ばれるリアルタイムに証券市場を観測し売買する個人投資家が増えた。アメリカなどでは、個人が自作の売買プログラムを用いて自動売買を行う例も出てきている。研究面でも自動プログラムからなる人工的な証券市場を利用して、株価の安定化策などを検証する人工市場という新しい手法が生まれつつある。

この講義では、マーケットマイクロストラクチャという分野で進められている市場制度についての研究を概説し、人工市場によって得られた証券市場に関する新しい知見を紹介する。

- (11) 株価の日中変動
- (12) 人工市場
- (13) 取引制度と価格形成

●評価方法

期末試験、出席、小テストなど（講義担当者による）

●受講生へのコメント

オムニバス方式で行われる授業なので、毎回出席することが望ましい。

●教材

必要があれば掲示します

社会と統計

Social Statistics

(後期①・水・3 全) 2単位

(後期②・水・1 全) 2単位

経営学研究科 藤井 輝明

●科目の主題と目標

統計資料の読み方、利用の仕方を、身近な領域を中心に習得する。社会をデータから客観的に観察する態度を身につけ、社会が単純な決定関係にはないことの理解を深め、統計的方法の理解の基礎とする。

●授業内容・授業計画

人間は「子供」時代には「偶然の遊び」を楽しむが、「大人」の人間は統計的思考に慣れていないだけでなく、生理学的に確率を理解しないようにできているとさえいわれる。また、自分の思いこみや考え方を覆す事実を突きつけられたときの「意図しないハプニングの驚き」はどのような人間にとってもさしあたり気持ちの良いものではない。この二つの意味での「偶然の思考」の学である統計学は、一方で、社会的要請としては大学時代に最も学んでほしい科目の一つにあげられ、他方で、自分で考えない限り多くの人にとって「おもしろい」ものではないようである。そこで、なるべく興味深い題材を取り上げる。

また社会のことを人よりよく理解できる「賢い人」になることを目指すならば、数理統計一般の知識に加えて、社会のなかで統計がどう作られ、自分たちがそれをどう利用するのかを考えることが必要である。この二つの側面を理解できるよう授業をするつもりである。

- ① イン트로ダクション
- ② 代表値と散らばりの尺度
- ③ 期待値の性質と変数の標準化
- ④ 共分散と相関
- ⑤ 相関と回帰
- ⑥ 統計的関係と因果関係

⑦ データの集計

⑧ 予備日

⑨ 公的統計制度 日本の統計制度改革を中心に

⑩ 人口統計 高齢化、少子化、人口移動などの把握

⑪ 労働統計 雇用や賃金の状態

⑫ 家計に関する統計 収入、支出、資産などについての統計の読み方と加工法

⑬ 企業活動に関する統計

⑭ 予備日

⑮ 期末試験

●評価方法

期末試験と授業時の中間テスト、レポート等を総合的に判断する。比率の決断自体が統計的決定問題であるので、複数の加重方式から自己責任で選択させる。

●受講生へのコメント

大学で授業をうける権利は他人に対する責任を伴う。私語、暴言等の妨害行為、授業中の遊興、交信、合理的理由のない帽子の着用等他人の学習意欲を減退させる外部効果のある行為、その他授業参加者の尊厳を踏みにじる行為を行うことは認められていないから、これらを行うものは参加できない。

この講義が自分の時間割にではなく、自分の目的に合うかどうか確認するように。

●教材

用意した資料に基づく。参考書としては以下の通り。

- ① 金子治平・上藤一郎（編）（2007）「よくわかる統計学 I基礎編」（ミネルヴァ書房）
- ② 御園謙吉・良永良平（編）（2007）「よくわかる統計学 II経済統計編」（ミネルヴァ書房）

1 回生セミナー

First Year Seminar

〔この科目は、1 回生を対象にした少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業である〕

(前期 1 回生のみ)

2 単位

大学1回生となった諸君、諸君は、これから始まるうとする大学生活というものに、きっと、胸をときめかせ、夢をふくらませておられることだろう。大学生活をどのようなものとして実現してゆくか、それは、諸君の思索と感性とによって、自由にデザインし、細心に・大胆に造型してゆけば、よい。型にはめられた無難より、新しい時代を拓こうとする混沌こそ、若い諸君には、ふさわしい。

しかし、それは、我流を通すということでは、必ずしも、ない。我流を通すことで新しい時代を拓いた、いわゆる天才と称される人々がいたことは、たぶん、確かである。しかし、天才は、大学で学んでなれるものではなく、大学もまた、天才を輩出することを任務とは考えていない。

大学は、学ぶこと・感じること・思索することを通して、諸君の中に潜んでいる可能性をそれぞれに発見するための場であり、その可能性を人類の幸福のために発揮する、その方策をとものにさぐろうとするところである。大学に入られた諸君の前に、共通教育科目・専門教育科目、さらに大学院前期博士課程・後期博士課程が用意されているのは、その目的の実現のためにほかならない。

共通教育では、幅広い教養を身につけることにより、多様な分野と関わりを持つことができる間口の広さを、専門教育では、選び取った専門分野に関する深い理解を、大学院においては、当該の専門分野の研究者・専門家の養成を、それぞれの目的としている。その、まさしく入口に、諸君は、いま立っているわけである。

果敢に・柔軟に、諸君がそれぞれの道程を進んで行くならば、必ずや、諸君は、みずから望む以上の可能性を諸君の中に見出されることであろう。だが、同時に、自分の立っている位置や向かうべき方向がわからず、文字どおり途方に暮れることがあるだろうことも予想される。その状況における真摯な模索こそが、諸君が、これまで形成してきた自分というものの殻から脱皮して、もうひとつ大きく成長するための、言わば生みの痛みというものであって、諸君の可能性を本物にするための、だれもが経験する試練なのだ。

存分に苦しみなさい。その試練に耐え抜こうとする意志があれば、道は開けるだろう。と同時に、学びの道における少しばかりの先達として、この大学では、「1 回生セミナー」と名づけられた、これから大学で学ぶにあたってまず身につけておくのが望ましい、言わば学び・考えるためのマナーについて、諸君とともに思索する時間を、以下のように用意している。もちろん、こういう趣旨だから、少人数のクラスで、講義を聴くだけという

のではなく、active learningをめざす時間であり、諸君がそれぞれの道程を拓いてゆくための底力を養成する、その介添えをすることができればとの大学の念願をかたちにしたものである。

これら「1 回生セミナー」では、通常の授業では必ずしもあらわではない、大学教員の、諸君と同様に迷い・苦しみ、それを克服しようとする姿にふれることもあるだろうし、同輩の人々の、同じ弱さや卓抜する力量に安堵したり発憤させられたりすることもあるだろう。その経験は、諸君がこれから大学生活を豊かなものとして実現してゆかれる際の、よき手引きとなるものであることを願って、今年度は、10名の教員による、10コマの「1 回生セミナー」をもって、諸君との道交（感応道交、心ばかりか魂まで結ばれること）をはかろうと目論んでいる。

「1 回生セミナー」

(前期 月・3) 大学教育研究センター 西垣順子

●科目の主題と目標

大学での学びを拡充させるための基本的な認識とスキルを身につけることを目指します。ひとりひとりの大阪市大での学習を考え直し、大阪市大で4年間（6年間）どのように学ぶか、さらにはこれから先の何十年かの人生を如何に生きるかをデザインしてみましょう。

●授業内容・授業計画

この授業では、上述の目的のために、頭と心と体を総動員して学習する経験を積んでもらいます。具体的なテーマは下記に示したとおりです。概ねこの順序で実施しますが、同時並行で行うものもあります。詳しいスケジュールは初回の授業で配布します。

- 1) ガイダンスと学士課程教育・単位制度の成り立ちに関する解説
- 2) 「わたしのカリキュラム」を再検討
- 3) 学術総合情報処理センターを活用しよう
- 4) “時間”について考えよう
- 5) 諸活動に参加しよう（スペシャルオリンピックに参加しよう）
- 6) レポートの書き方
- 7) プレゼンテーションと議論をする

●評価方法

レポート課題、プレゼンテーション、授業での発言状況をもとに評価します。比率は3：3：4です。

●受講生へのコメント

受講生数は15名程度以下に制限します。人数を超えた場合は抽選を行います。

受講生を学習重点組みと活動参加組みにわけます。活

動参加組は、知的障害者のスポーツの祭典であるスペシャルオリンピックスの日常プログラム（原則的に日曜日に開催）に3回以上参加してもらいます。学習重点組は、レポートや資料作成の課題を多くします（例えば、活動参加組は資料作成課題が1つだが、学習重点組は3つなど）

教員が教えることよりも、受講生の皆さんが行動したり考えたりすることが多い授業です。それがなければ授業が成り立ちませんので、積極的に参加してください。

●教材

溝上慎一（著）「大学生学び・入門－大学での学習は役に立つ」（有斐閣）を教科書として指定します。

「1回生セミナー」

（前期 月・4）文学研究科 松浦恆雄

●科目の主題と目標

「読み、考え、まとめる」

大学で自主的に学ぶために最低限必要なことは、本を読み、内容について考え、要旨をまとめる能力です。この能力は、鍛えればどんどん向上します。本授業は、そのための作業を中心的課題とします。

●授業内容・授業計画

授業内容：読んだ文章の要旨をまとめるというのは、一見、簡単なことのように見えるかも知れません。しかし、いざ決まった字数で要旨をまとめるとなると、結構大変な作業であることに気づかされます。著者が何を言いたいかを簡潔にまとめること、著者の言いたいことが複数ある場合、どれを優先するかなどは、文章の内容をどの程度理解しているのかに直接かかわります。極端な話、要旨を読めば、書いた人の理解度がわかるくらいです。

本や文章を読むことは、一般に、著者に考えてもらった結果を受け取ることを意味します。ただ、それだけでは、なかなか読書は活性化しません。単に受け取るだけでなく、自分の考える材料として活用するためには、必ず自分の言葉による咀嚼が必要です。要旨をまとめるのは、自分の言葉で咀嚼することも意味します。

要旨をまとめることのもう一つの重要性は、人の意見に注意深く耳を傾ける、ということです。それは、同じ問題について、自分の考えを整理する手助けになります。考えるというのは、思っているほど自由にできるものではありません。まず、人の考えやそこに至った道筋をしっかり理解することが大切です。

授業計画：資料調査の方法やわかりやすい文章の書き方などについてのガイダンスを終えた後、配布する課題に即して要旨を作り、事前に提出してもらいます。授業では、提出してもらった要旨を皆で比較、検討しながら、方法意識を高め、「読み、考え、まとめる」能力の向上を目指します。課題は、受講生の状況に合わせてながら、適宜選択してゆきます。

●評価方法

平常点

●受講生へのコメント

受講生は10名までとします。

●教材

適宜プリント配布、指示

「1回生セミナー」

（前期 火・2）文学研究科 小田中章浩

●科目の主題と目標

本講では大学でのレポート作成に必要な文章要約の方法、課題のみを与えられた場合の論理的な小論文（800字）の作成技法、PowerPointを使ったプレゼンテーション、ならびにゼミでの演習や将来の就職活動にも役立つと考えられるグループ・ディスカッションの方法について教える。

こうした練習によって大学ならびに社会において求められる実践的な技能の基本を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回～2回：文章を要約する

第3回～4回：課題のみを与えられて小論文を作成する

（1）アウトラインを作る

第5回：課題のみを与えられて小論文を作成する

（2）序論を書く

第6回：課題のみを与えられて小論文を作成する

（3）本論を書く

第7回：課題のみを与えられて小論文を作成する

（4）結論を書き、文章全体を推敲する。

第8回：PowerPointを用いてプレゼンテーションを行う（1）プレゼンテーションの構想を立てる

第9回：PowerPointを用いてプレゼンテーションを行う（2）実際にプレゼンテーションを行う／練習

第10回：PowerPointを用いてプレゼンテーションを行う（3）実際にプレゼンテーションを行う／本番

第11回：チームを作ってグループ・ディスカッションを行う（1）練習その1

第12回：チームを作ってグループ・ディスカッションを行う（2）練習その2

第13回：チームを作ってグループ・ディスカッションを行う（3）本番その1

第14回：チームを作ってグループ・ディスカッションを行う（4）本番その2

●評価方法

毎回の課題提出状況＝30%（ただしこの時点では練習なので課題の出来そのものは評価の対象とならない）、ならびに期末時に課せられる課題作成（小論文）＝40%、および最終的なプレゼンテーションおよび（または）グループ・ディスカッションの出来＝30%、合計100%によって評価する。

●受講生へのコメント

受講生はほぼ毎週与えられる課題を提出し（そのためにインターネットを利用する）、それらは教師によって添削された後、翌週の授業において返却される。当初は多少つらく感じられるかもしれないが、そのうちにこの種の練習は楽しく感じられるはずである。受講者は15名程度とする。

●教材

小田中章浩『文章の設計図を用いた「読ませる」小論文の作成技法』（丸善、2002）。また必要に応じて授業中にプリントを配布する。

「1回生セミナー」

（前期 火・3）大学教育研究センター 渡邊席子

●科目の主題と目標

渡邊が担当する1回生セミナーは、大学で学ぶための基本として、①クリティカル・シンキング（批判的かつ創造的にものを考えること）の基礎作り、および、②知的コミュニケーションの4スキル（読む・書く・聴く・話す）の確認を目標とする演習科目である。

本セミナーには、さまざまな学部で1回生が集うこととなる。自分とは異なる興味・関心・専攻分野をもつ他学部の学生と交流する機会を積極的に利用して相互理解を深めることも、セミナーの目標のひとつである。

●授業内容・授業計画

セミナーでは、個人またはグループで演習や課題に取り組む。演習および課題への取り組みを通じて、何が問題の本質であるのかをよく吟味しながら（クリティカル・シンキング）、資料調査を綿密に行い（読む）、受講者同士で創造的な議論を行い（聴く・話す）、レポートとしてまとめ（書く）、発表しあい（聴く・話す）、相互に評価しあうことによって、自分の強みを把握し、かつ、弱みのカバーを目指す。

第1回：1回生セミナーの進め方に関するガイダンス、受講者決定

第2～3回：クリティカル・シンキングと、コミュニケーションスキル 基礎編1

第4～9回：クリティカル・シンキングと、コミュニケーションスキル 課題への取り組み

第10～14回：クリティカル・シンキングと、コミュニケーションスキル 基礎編2

第15回：まとめと総合自己評価

※ 演習、および課題に関する詳細については、ガイダンスにて説明する。

●評価方法

教員からの評価だけでなく、学生同士による相互評価も加えて成績を決定する。

(1) 課題への取り組みに対する評価（教員・学生それぞれからの評価）：60点満点

(2) 参画への意思・態度・行動（積極的に意見を述べたか、報告書等の内容、タイムマネジメントができて

いたか等）：40点満点

→合計100点満点

●受講生へのコメント

・受講希望者は、第1回目のガイダンスに必ず出席すること。また、受講人数の上限を12名とし、全回出席を基本とする。

・レポートはワープロで作成すること。

・授業の進行に付随して宿題を随時提示し、宿題を解いてきていることを前提に授業を行う。

●教材

教材は授業時間中に適宜配布する。

「1回生セミナー」

（前期 火・4）大学教育研究センター 飯吉弘子

●科目の主題と目標

「大学での学び方の基本」を学び、「自ら」調べ・「自ら」考え、考えたことを他者に伝わるように表現するという、「大学生としての基本的な学びの姿勢」を身につけることを目指します。レポート作成の一連の流れ・プロセスに沿って、とくに「自分で考える」ことを重視し、また、「自分とは異なる考えを持つ他者とそれらを共有する経験」を重視して授業を進めていきます。

この授業の最終的な目標は、第1に「自ら課題を探し考える力・姿勢の基本を身につける」、第2に「資料・文献の調べ方、読み方やレポートの書き方の基本を学ぶ」、第3に「プレゼンテーションの仕方の基本を学ぶ」です。

「大学生として学び考えること」を学びましょう！

●授業内容・授業計画

具体的には、以下のプロセスを個人のペースにあわせて進めますが、授業進行の目安は以下の通りです。

1～2回：ガイダンスとテーマ選定

3～5回：文献検索、資料収集、テーマ・仮説の決定

6～8回：資料読解、アウトライン決定、レポート執筆と第1次提出

9～11回：資料読解、アウトライン調整、レポート執筆と第2次提出・発表準備

12～14回：発表と相互評価、最終レポート提出

毎回、各自の進行状況報告を行い、クラス全体で問題の共有化・意見交換を行います。

各プロセスの進め方の説明、学術情報総合センターの活用法のガイダンス、レポート執筆の個別指導も行いますが、大前提となるのは、授業時間内外における受講生個々人の自発的かつ積極的な取り組み・学びです。

●評価方法

授業への参加、プロセスへの真剣な取り組み、レポート・発表などを総合評価します。すなわち、最終レポートや発表の評価はもちろん、作業プロセスの記録・授業内提出物・資料やレポート作成の途中成果物（第1次草稿・第2次草稿ほか）等をすべてファイリング保存しておき、最終レポートと共に提出してもらい、それらの全

体の評価を行います。

成績評価の割合は、授業への参加と毎回の提出課題40%、最終発表の相互評価20%、最終レポート30%、途中資料・プロセス10%です。

●受講者へのコメント

1. 毎回の授業で報告や意見交換を行い、1人1人が「考える」プロセスに教員もじっくりつきあいながら個別指導を行うため、受講生は12名程度までとします。
2. 自分で考え・探っていくという作業は、途中プロセスは苦しい反面、それが最終的に形になっていくと楽しい作業でもあります。途中で投げ出さず最後までがんばって取り組んでみて欲しいと思います。
3. 全学共通のセミナーなので、様々な学部・分野の仲間とのコミュニケーションを存分に図り、多様な考え方やアプローチがあることを実感して下さい。

●教材

必要に応じて、授業中に資料等を紹介します。

「1回生セミナー」

(前期 火 4) 文学研究科 平田茂樹

●科目の主題と目標

福井憲彦『歴史学入門』を読む

歴史学は事実を探求する学問として過去、現代、未来を見つめる上で大きな意味を有している。最近の歴史教科書問題などに見られるような「物語性」を追求すべきだという一部の論調とは一線を画して考えなければならない。

授業に用いる当該書は現代の歴史学がどのように研究され、どのような成果を生み出してきたかについて、わかりやすく論じている。本書の内容を丹念に追いながら、歴史学を学ぶことの意味について受講者と共に考えていく。

なお、本授業は1回セミナーとして大学で初めて学ぶ学生を対象としており、基本的な学習術（課題の発見、資料の収集法、整理法、ディベート、プレゼンテーション、レポート作成法など）の習得を同時に進めていく。

●授業内容・授業計画

テキストを読み進めつつ、歴史とは何かについて受講生と意見を交換しながら考えていく。なお、毎回担当を決め、簡単な報告、ならびにその報告に基づいたディベートを行う。以下の順で講義を進めていく。

第1講～第2講 人文科学を学ぶことの意味

以下、テキストの章立てに従い

第3講：歴史への問い/歴史からの問い

第4講：証拠としての史料・資料

第5講：歴史の舞台としての環境

第6講：時間の認識と時代区分

第7講：歴史の重層性と地域からの視線

第8講：グローバルな歴史の捉え方

第9講：身体と病と「生死観」

第10講：歴史人口学が拓いた地平

第11講：人と人を結ぶもの

第12講：比較というまなざし

第13講：政治と文化の再考

第14講：歴史と記憶または歴史と現在

●評価方法

授業期間中、数度にわたる簡単な小レポートを課す。最後に、授業の理解度を問う最終レポートを課し、両者の成績を以て評価する。成績の内訳は最終レポート60点、小レポート40点。

●受講生へのコメント

この授業は歴史学の考え方を講義しますが、同時に広く現代の問題についても触れていきます。歴史を学ぶとともに、現代社会についても真剣に学んでいく姿勢を持ってください。

●教材

福井憲彦『歴史学入門』（岩波書店、2006）

「1回生セミナー」

(前期 火 4) 理学研究科 植松千代美

●科目の主題と目標

「環境問題」をキーワードに、「大学における学び方」を学ぶことを目標とする。すなわち大学で学ぶのに必要な基本的技術（資料を探す、読み解く、書く、聞く、話す）を身につけ、自らの考えをまとめ、議論し、発表できるようにすることをめざす。

●授業内容・授業計画

本セミナーにおいては「環境問題」を共通のキーワードとしつつも、受講生は自らの興味・関心にもとづいてテーマを選定する。具体的なスケジュール（案）を示す。

1回：ガイダンスと自己紹介。

2～4回：資料収集と要約の紹介：レジュメの作成方法ならびにプレゼンテーションの基本を学ぶ。

5～7回：ディベート：主張を伝え、異なる意見を聞き、反論を展開するための論理構築のトレーニングを行いながら、問題への理解を深める。

8～9回：レポートのテーマ決定と発表。

10～12回：レポートの草案検討と執筆：レポート作成の基礎を学ぶ。

13～14回：パワーポイントを使った効果的なプレゼンテーションをするためのポイントを学ぶ。

15回：発表会で学びの成果を披露する。

なおこれら講義時間のセミナーの他に調査・見学を実施予定であるが、日程等の詳細については受講生と相談のうえ調整する。

大学においては専門知識を身につけるだけでなく、多様なものの見方や考え方があることを知り、自分はどう考えるかを模索していただきたい。願わくば卒業までの間に、その後の人生を生きてゆく上での土台となる自らの世界観や価値観を構築していただきたい。その入り口に1回生セミナーがあるといえる。半期のセミナー

ーでは必ずしも十分ではないが、自分の生き方を考えるきっかけとなることを期待する。

●**評価方法**

セミナーに取り組む姿勢（準備、出席、発言など）を重視し、レジュメ、レポート等の提出物、発表会を含めて総合的に評価する。

●**受講者へのコメント**

(1) このセミナーが充実した時間となるか否かは、受講生の積極的な発言や議論にかかっている。そのためあらかじめ資料や文献を十分に読みこなし参加することを期待する。

(2) 受講生全員が意見発表や議論に加われるよう、受講人数は12名程度とする。

セミナーは杉本キャンパスで開講するが、担当教員の所属が遠隔地の理学部附属植物園であることから、円滑なセミナー運営のためにe-mailを連絡手段として使用する。

●**教材**

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布し、参考文献や資料を紹介する。

「1回生セミナー」

(前期 木 2) 大学教育研究センター 矢野裕俊

●**授業目標**

大学で学ぶうえでは、もちろん高等学校までの学習との連続性の点からも考えるべきですが、これまでの高等学校での学びとは違った学習を目指すことも同時に求められます。大学では、自ら問題を発見し、それについて自ら考え、調べ、答えを出す、という学び方を身につけ、さらに学んだことを共有しあうことが大事になります。それは大学卒業後にも求められる力です。

それを身につけるためには、学習者としての自分のこれまでの学習経験を振り返ること、大学とくに市大がもつ学習資源について知ること、また、自分でテーマを見つけてそれを実現可能な計画として具体化すること、それを実行して結果をレポートにまとめること、自分が学んだことを他の人たちに伝えること、他の人との対話やディスカッションにより学ぶこと、といった一連の経験が必要です。

このセミナーでは、そうしたことを経験することにより、みなさんが大学でこれから積極的に学んでいくために、また良いスタートを切れるように必要となる学習スキルの習得を目指します。

重視するのは、問題を見つける (20)、資料や文献を調べる (25)、レポートを書く (30)、発表により伝え合う・学び合う (25)、の3つです。

●**授業内容・授業計画**

以下の諸点を授業の内容とします。

1) 自分がこれまでどのように学んできたかを振り返り、今の自分に備わっている能力、これから身につけたい能力を明確にする

2) 市大にある学習資源のありかとその活用の方法を知り、それらを実際に使う

3) 学習・研究活動の計画を自ら立てる

4) 計画を実行に移す

5) 学んだ成果をレポートにまとめる

6) 学ぶプロセスでの協働や相互学習を大事にする

7) 学んだ成果を発表し、他の人と共有する

8) 自分がセミナーを通して何を身につけたのかを振り返る

●**評価方法**

授業への参加、発表、レポートを総合して評価します。

●**受講者へのコメント**

お互いに学びあうという関係を重視するので、履修者数は15名までとします。短期間の授業であり、随時発表や討論を行うので、欠席しないようにしてください。

●**教材**

齊山弥生・沖田弓子『研究発表の方法－留学生と日本人学生のためのレポート作成・口頭発表のための準備の手引き－ (第3版)』産能短期大学、2001年。

「1回生セミナー」

(前期 木・3) 大学教育研究センター 大久保敦

●**科目の主題と目標**

身近な自然（キャンパス内の植物）を対象としたフィールドワークを通して、①大学で学ぶための方法を身につけること、②効果的に自分の意志を伝える方法（主に映像と音声を用いて）を身につけること、および③円滑にチームワーク（小グループの作業中心）を行えるようになることを目標とします。

●**授業内容・授業計画**

① オリエンテーション

② 身近（キャンパス近辺）な自然に親しむ

③ 調査地域の分担、調査方法の基礎

④ プレ・プレゼンテーション

⑤ プレ・プレゼンテーション

⑥ 効果的なプレゼンテーション法（第4、5回のプレ・プレゼンテーションをもとに）

⑦ 観察法

⑧ 調査

⑨ 調査

⑩ 調査

⑪ 調査

⑫ プレゼンテーション準備

⑬ リハーサル

⑭ 最終プレゼンテーション

●**評価方法**

平常点（授業参加度（20%）、小レポート・中間発表（30%）及びレポート・発表（50%）を総合的に評価します。（ ）の数字はおおよその評価の割合を示します。

●**受講生へのコメント**

受講生は15名までとします。植物に興味があり、積

極的に授業に参加しようとする人を期待しています（受身の授業を期待している人には不向き）。

●教材

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。

「1回生セミナー」

（前期 木・3）文学研究科 津川廣行

●科目の主題と目標

「レポート・論文の書き方、発表の仕方を学ぶ」

●授業内容・授業計画

このゼミでは、レポート・論文の作成、発表の仕方の学習をつうじて、大学で普遍的に必要なスキルを身につけることを目標とします。

この授業では、テーマの設定、資料収集、レポート作成、議論・討論、発表の仕方について学びます。これと並行させて、ある3つのテーマのうちのどれか一つについて、口頭による発表の準備をしてもらいます。その3つのテーマとして、発表の仕方を学ぶという観点から、何が最も適切かは、参加者自身のあいだで、討論によって決めてもらいます。

最後に、その実践として、一人一人に、発表をしてもらい、全員でディスカッションをします。

以上をつうじて、学習スキルを身につけるだけでなく、広い視野で考えることができるようになることを期待します。

1 ガイダンス

2～3 レポート、論文、発表とは何か。

4～5 レポート、論文の書き方、発表の仕方。その文献紹介。

6～7 参加者の討論によって、口頭発表のテーマを決める。

8～9 文献検索の方法。また「文献検索の方法」についての文献紹介。

10 読者・聞き手というファクター

11～14 参加者による発表

15 まとめ

●評価方法

授業に取り組む姿勢（発言、質問、出席等）、および発表。

●受講生へのコメント

受講人数の上限を12名とします。

●教材

教科書は使いません。参考文献については授業中に指示します。

3. 基礎教育科目

線形代数 I

2 単位

Linear Algebra I

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I 数	前・木・1	古澤 昌秋(理)	T I 物(情)	前・木・1	兼田 正治(理)
S I (質)	前・木・1	河田 成人(理)	T I (基)	前・木・4	住岡 武(理)
S I (化地) H I (環)	前・木・1	加藤 信(理)	T I 機材	前・金・4	吉田 雅道(理)
T I 建(都)	前・木・1	加戸 次郎(理)	T I (電)	前・金・4	橋本 義武(理)

科目の目標

行列と行列式に関する基礎的概念と計算力の習得。

授業内容

1. 行列の演算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。
2. 行列式の定義とその基本的性質……行列式の基礎事項と計算練習。
3. 行列式の展開公式。
4. 正則行列の性質……行列の演算における除去の可能性について論じ、余因子行列を用いた逆行列の求め方を解説する。
5. 連立一次方程式の解法……未知数の個数と関係式の個数が同じであるような連立一次方程式の一般解の公式 (Cramerの公式) の解説。
6. 同次連立一次方程式の理論……非自明解を持つ条件の考察。
7. ベクトルの幾何学……空間のベクトルに関する基本事項、空間内の直線、あるいは平面のベクトル表示も

解説。

8. ベクトル積……ベクトル解析の基礎として、ベクトル積の定義とその特徴付けを解説する。

評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

クラスごとに授業内容あるいは、その重点の置き方が多少変わることがある。

高等学校の数学Cの知識を前提とする。

数学科の学生は、専門科目の代数学 I、II との接続の関係で、S I 数のクラスの線形代数 I の授業を必ず受講すること。

教科書等

津島行男『線形代数・ベクトル解析』(学術図書)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

線形代数 II

2 単位

Linear Algebra II

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I 数	後・木・1	加戸 次郎(理)	T I 建(都)	後・木・4	加戸 次郎(理)
S I 物(質)	後・木・1	河田 成人(理)	T I (基)	後・木・4	兼田 正治(理)
S I (化地) H I (環)	後・木・1	加藤 信(理)	T I 物(情)	後・木・4	古澤 昌秋(理)
T I 機材	後・木・4	住岡 武(理)	T I (電)	後・金・4	河田 成人(理)

科目の目標

数ベクトル空間を基盤にして、線形代数の基本的手法を解説する。

授業内容

1. 数ベクトル空間……ベクトルの線形従属、独立およびそれらの判定条件に関する解説。
2. 数ベクトル空間の基底……次元に関する基本事項の解説。
3. 行列の階数……基本変形による階数の計算と関連事項の解説。
4. 一般の連立方程式……掃き出し法による連立方程式の解法、特に、同次連立方程式の基本解の理論の解説。
5. 基底変換とその行列……基底変換の一般論、及び空

間における直交座標系の取り替えに関する具体例の計算。

6. 線形写像……線形写像の基礎概念と直交変換を素材にした、その図形面での応用。

7. 固有値問題……行列の固有値と固有ベクトルに関する基本事項、その応用としての行列の対角化 (特に対称行列の場合)、線形差分方程式の解法。

評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

クラスごとに授業内容の重点の置き方が多少変わることがある。

線形代数Ⅰの知識を前提とする。

数学科の学生は、専門科目の代数学Ⅰ、Ⅱとの接続の関係で、SⅠ数のクラスの線形代数Ⅱの授業を必ず受講

すること。

教科書等

線形代数Ⅰと同じものを使う。

解析Ⅰ 2単位

Analysis I

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
TⅠ機材	前・月・1	西尾 昌治(理)	SⅠ物	前・火・2	河内 明夫(理)
TⅠ(電)	前・月・1	金信 泰造(理)	SⅠ化(質地)	前・火・2	佐官 謙一(理)
TⅠ(基)	前・月・1	小森 洋平(理)	TⅠ建(都)HⅠ(環)	前・火・2	加藤 信(理)
SⅠ数	前・火・2	河田 成人(理)	TⅠ物(情)	前・火・2	伊達山 正人(理)

科目の目標

ニュートンやライプニッツによって基礎が造られて以来、自然科学を記述する言葉として発展してきた微分積分学は、現代科学技術においてもその土台となっている。それは力学と共に近代解析学へと進展し、理論的發展が現在も続いている。

この科目では、解析学の序章ともいえるべき極限概念や1変数関数の微積分法について、その知識や応用能力の習得を目指す。

その項目は高校での微分積分と重複する部分が多いが、総合性や理論水準からみて、その内容は高校でのものとは大きく異なるであろう。

本科目は理工系学生にとって必須である解析学への入門部分であるから、その理解度が後に続く多くの理系科目の習得に大きく影響すると考えられる。

授業内容

関数や写像の概念から始まり、初等関数の性質、平均値の定理、テイラーの定理、初等超越関数のべき級数展開、関数の極限值計算、リーマン積分、微積分法の基本定理、有理関数の不定積分、三角関数や無理関数の不定積分、広義積分、面積や曲線の長さの計算への応用の

項目について解説し演習も行う。

そして最後に、これらの極限計算や微積分法の基礎である、実数の完備性や連続関数の諸性質について解説し、解析Ⅱへの準備を整える。

評価方法

基本的には学期末試験の成績と授業の中で行われる演習によって評価する。

それだけでは評価が困難な場合には、レポートや授業出席回数を評価の参考に加えることもある。

コメント

高等学校の数学Ⅲ、数学Cの知識を前提とする。解析Ⅰと解析Ⅱの内容は、以前通年で授業が行われていたものであり、これらは解析Ⅲ、Ⅳの前提にもなっているため、合わせて履修することが望ましい。

数学科の学生は、専門科目の解析学Ⅰ、Ⅱとの接続の関係で、SⅠ数のクラスの解析Ⅰの授業を必ず受講すること。

教科書等

釜江哲朗／小松孝共著『解析学(上)』(学術図書)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

解析 II 2単位

Analysis II

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
T I 機材	後・月・1	西尾 昌治(理)	S I 化(質地)	後・火・2	佐官 謙一(理)
T I 物(電)	後・月・1	加戸 次郎(理)	T I 建H I (環)		
T I (基都)	後・月・1	小森 洋平(理)	S I 物T I (情)	後・火・2	小松 孝(特任)
S I 数	後・火・2	栢田 幹也(理)			

科目の目標

様々な物理量はベクトル場、すなわち時空の位置によって変化するベクトルで表される。

物理現象を記述する言葉として誕生した微分積分学は、もともとベクトル場という多変数の写像を対象としていた。多変数関数の微分とは、変数の微小変位に対する関数値の増分の線形近似のことであり、多変数関数の微積分に関する定理の多くは、線形代数学における定理と深く関係している。

微積分の考え方は1変数の場合で尽くされているとはいえ、自然科学への応用のためには、ベクトル場の微積分が必要となる。本科目では、線形代数学との対応に注意しながら、多変数関数の微積分やベクトル解析の中の積分定理について解説を行う。

理工系の学生は、本科目の中で、大学における解析学独特の内容に接することになる。

授業内容

多変数の連続写像、多変数関数の微分、合成関数の微分に関する連鎖律、ヤコビ行列、微分演算子とラプラシアン、テイラーの定理と極値問題、陰関数・逆関数定理、ラグランジュ乗数法、可測性と可積分性、累次積分、多

重積分の変数変換公式、広義積分とガンマ関数、線積分と面積分、ガウス・グリーン・ストークスの定理、ポテンシャルと微分形式が授業予定の項目である。ただし、授業の効率の点から、いくつかの項目については直観的説明に留め、詳細については学生の自習に委ねることもある。

評価方法

学期末試験の成績と演習による評価が基本であるが、授業担当者によっては、小テストを実施したり、レポート提出を課したり、授業出席回数を記録したりして評価の参考にすることもある。

コメント

予備知識としては解析 I や線形代数学の基本的内容を想定している。

数学科の学生は、専門科目の解析学 I、II との接続の関係で、S I 数のクラスの解析 II の授業を必ず受講すること。

教科書等

釜江哲朗／小松孝共著『解析学(上)』(学術図書)

担当者によって使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

解析 III 2単位

Analysis III

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
T II (建物) H II (環)	前・月・1	橋本 義武(理)	S II 物(質地化)	前・火・1	大仁田 義裕(理)
			T II (基都) [基: 401~420]		
T II (電情)	前・月・1	吉田 雅道(理)	T II (機基材) [基: 421~終]	前・火・1	高橋 太(理)

科目の目標

未知関数の微分や偏微分を含む関係式を微分方程式という。その方程式を解いて未知関数を求めるという微分方程式論は、理工学の多くの分野において、現象解析のために不可欠な手段を提供している。

微分方程式の理論の出発点は常微分方程式論である。その中でも基本となるものは、線形方程式に関するものであるが、計算機の普及に伴って、非線形方程式の定性

理論が重視されるようになった。

本科目では、線形方程式を中心とする常微分方程式の解法について議論を展開すると共に、非線形方程式の解の多様な挙動について解説し、理工系学生が、微分方程式に関して基本的知識を持ち、その初等解法を習得することを目標とする。

授業内容

2階齊次線形微分方程式、基本解と定数変化法、定数

係数線形微分方程式と演算子、行列の指数関数、Laplace変換による解法、常微分方程式の基本定理、Hamilton系と勾配系、不動点の安定性、解の極限軌道－以上が授業予定の項目である。授業の進度によっては、非線形微分方程式に関する詳しい解説は省略することもある。

評価方法

学期末試験の成績によるが、1回の試験での評価の不安定さを軽減するため、授業担当者によっては、小テス

トを行ったり、演習問題のレポート提出を求めたり、授業出席回数を記録したりすることもある。

コメント

予備知識としては、微積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）及び線形代数学の基本的内容を想定している。

教科書等

釜江哲朗／小松孝共著『解析学（下）』（学術図書）

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

解 析 Ⅳ 2単位

Analysis IV

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
TⅡ(建物電情) HⅡ(環) TⅣ(都)	後・月・1	佐官 謙一(理)	SⅡ物(質化地) TⅡ(機材) TⅣ(都)	後・火・1	伊達山 正人(理)

科目の目標

複素数が登場したのは高次方程式の解法研究の過程においてである。

変数の範囲を複素数にまで拡張した関数の微積分を論じるようになったのは、数学における必然的発展である。19世紀にCauchy, Riemannらによって基礎が造られた複素関数論は近代数学における中心課題となった。

複素関数は、2変数の実関数の組合せで表現できるが、複素関数論で取り扱うのはこのような広い意味の複素関数ではなく、正則関数と呼ばれる、複素変数に関して微分可能な関数である。

それは複素変数のべき級数に展開可能な関数であり、そのような関数は物理的にも重要な意味を持っている。純粋数学的な発足の経緯にもかかわらず複素関数論は理工学において、理論面からも応用面からも大変有用であることが明らかとなった。

線形常微分方程式の解の挙動の複雑さの理由も、複素数の指数関数を考えることにより理解出来るであろう。この科目では、理工系の学生が、専門基礎として複素関数論の基本的内容を習得し、今や解析学の古典となった複素関数論の理論的美しさを理解することを目標とす

る。

授業内容

複素平面と複素数の指数関数、正則関数、等角性と1次関数、整級数、Cauchyの積分定理、留数の定積分計算、Cauchyの積分公式とTaylor展開、最大値原理とLiouvilleの定理、Laurent展開－が予定の授業項目である。Riemann面、解析接続、調和関数、等は複素関数論の重要項目であるが、授業時間数の制約のため割愛する。

評価方法

学期末試験の成績による評価を基本とするが、授業担当者によっては、先行試験、レポート、授業出席回数、等を加えて総合的に評価することもある。

コメント

予備知識としては、微積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）の基本的内容を想定している。

教科書等

今吉洋一『複素関数概説』（サイエンス社）

釜江哲朗／小松孝共著『解析学（下）』（学術図書）

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

数学基礎 I

2 単位

Elements of Mathematics I

クラス	期・曜・時	担当者
SI 生(地) TI (化バ)	前・木・1	金信 泰造(理)

科目の目標

行列と行列式に関する基礎的概念と計算力の習得。

授業内容

1. 行列の計算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。
2. 行列式の定義とその基本的性質……行列式の基礎事項と計算練習。
3. 行列式の展開公式。
4. 正則行列の性質……行列の演算における除法の可能性について論じ、余因子行列を用いた逆行列の求め方を解説する。
5. 連立一次方程式の解法……未知数の個数と関係式の個数が同じであるような連立一次方程式の一般解の公式 (Cramerの公式) の解説。
6. 同次連立一次方程式の理論……非自明解を持つ条件の考察。

7. 数ベクトル空間……ベクトルの線形従属、独立、および、それらの判定条件に関する解説。
8. 行列の階数……行列の基本変形による階数の計算。
9. 数ベクトル空間の基底……次元に関連する基本事項の解説。
10. 固有値問題……行列の固有値と固有ベクトルに関する基本事項

評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

高等学校の数学Cの知識を前提とする。

教科書等

高学年次での便宜を考え、線形代数をテーマとした教科書を使用する。

数学基礎 II

2 単位

Elements of Mathematics II

クラス	期・曜・時	担当者
SI 生(地) TI (化バ)	後・木・1	柘田 幹也(理)

科目の目標

一変数関数に関する微積分の基礎理論を完成し、多変数関数の微分 (偏微分) の理論を展開する。

授業内容

1. 無限小……無限小の比較。
2. 逆関数とその微分法。
3. 微分の手法……対数微分法、高次の導関数。
4. テーラー展開……関数の多項式による近似の理論。
5. 有理関数および初等超越関数の積分法。
6. 多変数関数に関する基礎概念……多変数関数の意味と連続性の解説。
7. 偏導関数……偏微分の定義と関連事項の解説。
8. 全微分……多変数関数の全微分の定義とその図形的意味などの周辺の解説。

9. 高次の偏導関数……偏微分の順序に関する基本事項。
10. 合成関数の偏微分公式……chain ruleの解説。
11. 多変数関数のテーラー展開……多変数関数の多項式による近似とその応用としての極値問題の解説。

評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

高等学校の数学III、数学Cの知識を前提とする。

教科書等

高学年次での便宜を考え、微積分を主テーマとした教科書を使用する。

数学基礎Ⅲ

2単位

Elements of Mathematics Ⅲ

クラス	期・曜・時	担当者
SII(生地)TII(化バ)	前・月・1	小松 孝(特任)

科目の目標

多変数関数の積分（重積分）と、微分方程式の基礎と応用を解説する。

授業内容

1. 重積分の基礎概念……多変数関数の積分の定義と図形的意味。
2. 重積分の計算……反復積分による重積分の計算方法。
3. 変数変換とJacobian……重積分における変数変換の理論と計算練習。
4. 重積分の応用……1変数の積分では処理できない実際の応用例の計算、曲面積、重心などの計算公式。
5. 微分方程式の基礎……正規形の1階微分方程式の解

法を中心にして、微分方程式の基本的な解き方、考え方の解説。

6. 非正規形の1階微分方程式の解法。
7. 高階の微分方程式……2階微分方程式を中心とした、いくつかの代表的な高階微分方程式の解法。

評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

数学基礎Ⅰ、Ⅱの知識を前提とする。

教科書等

解析学全般を幅広く解説した教科書を使用する。

数学基礎Ⅳ

2単位

Elements of Mathematics Ⅳ

クラス	期・曜・時	担当者
SII(生地)TII(化バ)	後・月・1	高橋 太(理)

科目の目標

線形微分方程式と複素関数論の基礎理論を解説する。

授業内容

1. 線形微分方程式……2階線形同次微分方程式を中心とした、線形微分方程式の取り扱いに関する基本的な方法論の解説。
2. 微分方程式の応用。
3. 複素関数の基礎概念……複素数、複素平面、複素級数などの基本事項。
4. 正則関数……複素関数の微分と等角写像などの関連事項の解説。
5. Cauchy-Riemannの微分方程式……微分可能性に関するCauchy-Riemannの微分方程式。

6. 基本的な正則関数……指数関数、三角関数、双曲線関数などの代表的な正則関数。

7. 複素積分……複素積分に関する基礎概念の解説。
8. 線積分……基本概念とGreenの定理。
9. Cauchyの積分定理と積分公式。

評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

数学基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの知識を前提とする。

教科書等

数学基礎Ⅲと同一または同系統の教科書を使用する

応用数学 A

2 単位

Applied Mathematics A

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S II (物質化) T II 機材	前・月・1	伊達山 正人(理)	S II (生地) T II (化建バ) T III (基都)	前・火・1	藤井 準二(理)
			T II (電物情) H II (環)	前・火・1	竹内 敦司(理)

科目の目標

本科目のテーマは確率・統計である。

統計学の目的は、我々はその性質を知りたいものの集まりがあるが、その全てのものを調べることが不可能なとき、その集まりから一部を標本として取り出し、この標本から全体の性質を推測する方法を考えることである。一部のものから全体について客観的な判断をするために、統計学が用いられる。理工系の学生にとって、基本的な統計学の応用能力を持つことは必須であろう。

統計学は確率の考え方に基礎を置いているので、確率の理解なくして統計的手法の有効な利用は不可能である。無限の事象があるとき、それらの事象の確率は測度という概念を用いて定義される。

標本は確率測度の定義された空間上の関数として捉えられる。このような数学的定式化は、標本平均や標本分散等の、色々な統計量の確率分布を理解するのに不可欠であろう。

本科目では、確率論の基礎と統計学の基本的内容を解

説し、理工系学生が、有効な統計的推測能力を身につけることを目標とする。

授業内容

確率の定義、確率変数と期待値、典型的な確率分布、独立確率変数、大数の法則と中心極限定理、正規母集団と統計量、推定、仮説検定（適合度、独立性、分散分析）、回帰分析－以上が授業予定の項目である。

理論的内容についての解説は、統計学の応用に最低限必要な程度に留める。

評価方法

学期末試験の成績、レポート、授業出席回数、等によって総合的に評価する。

コメント

予備知識としては、微積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）および線形代数の基本的事柄を想定している。

教科書等

上記の授業内容に近い形式でまとめられている本を、各授業担当者が選んで使用する。

応用数学 B

2 単位

Applied Mathematics B

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S II (物質) T II (機材)	後・月・1	吉田 雅道(理)	S II (化生地) T II (電化情建物バ都) T III (基) H II (環)	後・火・1	藤井 準二(理)

科目の目標

本科目のテーマはFourier解析と偏微分方程式である。

関数をFourier級数やFourier積分に展開することの意義は、その関数によって表現される物理量を、三角関数が表す基本的な量に分解することによって、もとの物理量の性質を調べることを可能にすることにある。

Fourier解析は偏微分方程式論と強い関わりがある。古典的応用数学は、偏微分方程式の境界値問題と、それを処理するのに必要な特殊関数の研究を中心としていた。本科目では、物理学や工学においてしばしば登場する基礎方程式である、熱伝導方程式、波動方程式、Laplace

方程式の、初期値・境界値問題について解説する。

初期値問題の解はFourier変換によって見出すことができる。変数分離法は解の具体的な表現を求める有力な方法であり、固有関数展開が行われる。その際、Fourier級数や特殊関数による展開が用いられる。

授業内容

複素形式の、Fourier級数、Fourier正弦、余弦展開、Fourier変換、Delta関数、物理学における基礎方程式、矩形領域での初期値・境界値問題、Helmholtz方程式とBessel関数・Legendre関数、円筒領域での初期値・境界値問題、Greenの積分公式とLaplace方程式－以上が授

業予定の項目である。

評価方法

学期末試験の成績、レポート、授業出席回数、等によって総合的に評価する。

コメント

予備知識としては、解析Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び線形代数学の

基本的事柄を想定している。

教科書等

上記の授業内容を含む記述がされている本を参考書として用いる方針である。

応用数学C

2単位

Applied Mathematics C

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
TⅡ(材物情バ)	後・金・4	吉田 雅道(理)	SⅡ(物質化生地) HⅡ(環) TⅡ(機電化建) TⅢ(都)	後・金・4	伊達山 正人(理)

科目の目標

コンピュータの、個人レベルでの利用が容易になり、実験系・理論系を問わず理科系全般に、さらに幅広い分野で、利用されるようになってきた。また、各方面で利用できるソフトウェアの充実によって、プログラムを自分で組むことなしに、それまで困難だった多くの計算を要する思考実験や、データの統計的な取り扱いも可能になってきた。

しかし、一方踏み込んだ使用を考えるとときには、用意された機能だけでは、役に立たなくなってくる。誤差の累積などにより、計算結果に疑問が生じたとき、あるいは誤差の範囲を厳密に知る必要があるとき、また計算にあまりに多くの時間を要すると思われるときには、その計算がどのような計算手順(アルゴリズム)でなされているかを知る必要がでてくる。そして、必要によっては、自分でプログラムを組まなければならない。その際に、問題解決のためのアルゴリズムの基本的な知識は不可欠である。

この授業では、問題解決のための基本的なアルゴリズムを学ぶ。そのことによって、使用するプログラム言語

によらずに存在する不動小数点演算の誤差の問題、問題解決のための計算量の問題等、アルゴリズム固有のことがらを正確に認識できる知識と判断力を養うことが、本講の目的である。

授業内容

コンピュータ関連の入門コースの多くは、プログラム言語の修得と簡単なプログラミングとなっている。本講義では、応用数学A(確率・統計)、応用数学B(偏微分方程式)に現われる数学的事実からトピックスを選び、コンピュータでの数値計算の数学的側面を講義する。したがって、上記2つの講義単位取得者が望ましく、あくまで数学である事に留意されたい。

もちろん、線形代数、微積分学の知識は前提とされている。

トピックスは正規方程式、モンテカルロ法、偏微分方程式の差分近似法などである。

評価方法

定期試験の成績で決定する。

教科書等

特に指定しない。

基礎数学 A

2 単位

Fundamental Mathematics A

〈第 1 部〉

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
CEIa (CI001~050) (EI001~050)	前・月・4	小松 孝(特任)	(H I)	前・火・4	藤井 準二(理)
CEIb (CI051~100) (EI051~100)	前・月・4	金信 泰造(理)			
CEIc (CI101~150) (EI101~150)	前・月・4	古澤 昌秋(理)			
CEId (CI151~200) (EI151~200)	前・月・4	竹内 敦司(理)			

〈第 2 部〉

クラス	期・曜・時	担当者
CE	前・金・1	兼田 正治(理)

科目の目標

関数の微分法を中心にして、数学的手法の基礎理論を展開する。

授業内容

1. 初等関数の定義とその性質……三角関数、指数関数、対数関数などの代表的な初等関数の定義とその性質を解説。
2. 極限の概念。
3. 微分の基礎理論……積の微分、合成関数の微分公式。
4. 初等関数の微分……有理関数、三角関数、指数関数、対数関数などの微分法。
5. テーラー展開……関数の多項式による近似の理論。
6. 数値計算の基礎……近似計算の手法と誤差の考察。
7. 積分法の基礎
8. 2変数関数に関する基礎概念……2変数関数の極限と連続性の解説。

9. 偏導関数……2変数関数における偏微分の定義と関連事項の解説。
10. 全微分……2変数関数の全微分の定義とその図形的意味などの解説。
11. 簡単な微分方程式の解法。
12. 極値問題（条件付き極値問題、ラグランジュの未定係数法）

評価方法

定期試験・レポート・小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

経済学部・商学部においては、基礎数学 A における授業内容の 1 から 7 の項目を講義する。

教科書等

線形代数と微積分を主テーマとした教科書を使用する。

基礎数学 B

2 単位

Fundamental Mathematics B

〈第 1 部〉

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
CEIa (CI001~050) (EI001~050)	後・月・4	住岡 武(理)	(H I)	後・火・4	藤井 準二(理)
CEIb (CI051~100) (EI051~100)	後・月・4	金信 泰造(理)			
CEIc (CI101~150) (EI101~150)	後・月・4	古澤 昌秋(理)			
CEId (CI151~200) (EI151~200)	後・月・4	竹内 敦司(理)			

〈第2部〉

クラス	期・曜・時	担当者
CE	後・金・1	藤井 準二(理)

科目の目標

線形数学を素材とした数学的手法の基礎理論を展開する。

授業内容

1. 行列の演算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。
2. 行列式の定義とその基本的性質。
3. 正則行列の性質……行列の演算における除法の可能性についての解説。
4. 連立一次方程式の解法……未知数の個数と関係式の個数が同じであるような連立一次方程式の一般解の公式 (Cramerの公式)
5. 数ベクトル空間……ベクトルの線形従属、独立、および、それらの判定条件に関する解説。
6. 数ベクトル空間の基底……次元に関連する基本事項

の解説。

7. 行列の階数……行列の基本変形による階数の計算。
8. 一般の連立方程式……掃き出し法による連立方程式の解法。

評価方法

定期試験・レポート・小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

経済学部・商学部においては、基礎数学Aにおける授業内容の8から12の項目を講義する。

また必要に応じて基礎数学Bにおける授業内容の1から4の項目についても解説する。

教科書等

基礎数学Aと同じ教科書を使う予定。

統計学 A

2単位

Statistics A

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	前・木・3	福井 充(医)

科目の目標

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。

本講義では統計的考察を行なう上での基礎的な概念と、実際の問題に対する手法としての推定・検定の考え方の習得を目標とする。

授業内容

統計学の基礎として記述統計・確率分布、応用としての推定・検定法について講義を行なう。

1. 記述統計：ヒストグラム、平均・分散・標準偏差
2. 確率分布：確率変数・確率分布の概念
3. 統計量の分布・標本分布
4. 推定の考え方：点推定、区間推定
5. 検定の考え方：帰無仮説、有意水準と検出力

6. 検定・推定の実例 (1) : 1母集団の母平均・母分散の検定・推定
講義時間内に適時、演習も行なう。

評価方法

定期試験を行なう。必要に応じてレポートを加味する。

コメント

解析学(微積分)・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。

関数電卓を用意すること(詳細は授業時に指示)

教科書等

教科書：丹後俊郎『新版医学への統計学』(朝倉書店)

注) この教科書は統計学B、3・4年生での推計学でも使用する。

統計学 B

2 単位

Statistics B

クラス	期・曜・時	担当者
MI 医	後・木・3	福井 充(医)

科目の目標

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。本講義では、実際の問題に対する手法としての推定・検定の適用の習得を目標とする。

授業内容

統計学の応用としての推定・検定についての講義を行なう。

1. 検定・推定の実際 (2) : 2母集団の母平均・母分散の検定・推定
2. 検定・推定の実際 (3) : 母比率の検定・推定
3. 検定の実際 (4) : 分割表の検定
4. 有意水準・検出力、サンプルサイズについての詳細

講義時間内に適時、演習も行なう。

評価方法

定期試験を行なう。必要に応じてレポートを加味する。

コメント

解析学 (微積分) ・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。

関数電卓を各自で用意すること (詳細は授業時に指示)

教科書等

丹後俊郎著「新版 医学への統計学」(朝倉書店)

注) この教科書は統計学 A、3・4 年生での推計学でも使用する。

基礎物理学 I

4 単位

Basic Physics I

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I 物(数質地)	前・月1・金4	糸山 浩(理)	T I 建(都)	前・月1・木4	神田 展行(理)
S I (化生) T I 物	前・月1・金4	川上 三郎(非常勤)			
T I 材(機)	前・火2・木1	牲川 章(非常勤)			
T I (電基)	前・火2・木1	河合 俊治(特任)			

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、「力学」を講義する。最も身近に起こる力学現象を対象として、基本方程式からその発展形への拡張を講義し、演習により理解を深めると共に応用力をつける。

授業内容

1. 運動：空間と時間、速度
2. 運動の法則：慣性、運動法則、作用・反作用の法則、運動量と力積
3. 運動とエネルギー：1次元の運動、1次元の運動とエネルギー、2次元の運動、仕事と運動エネルギー、力のポテンシャルとエネルギーの保存
4. 惑星の運動と中心力：ケプラーの法則、クーロン力

による散乱

5. 角運動量：角運動量と力のモーメント
6. 質点系の力学：運動量保存の法則、2体問題、運動エネルギー、角運動量
7. 剛体の簡単な運動：剛体の運動方程式、固定軸をもつ剛体の運動、剛体の慣性モーメント
8. 相対運動：回転しない座標系、重心系と実験室系、座標変換、回転座標系

評価方法

授業で行う演習、レポート課題、定期試験などを総合して評価する。

教科書等

戸田盛和著『力学』(岩波書店) を用いる。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。

基礎物理学Ⅱ

4 単位

Basic Physics II

クラス	期・曜・時	担当者
S I 物(数質化生地)	後・月1・金4	浜端 広充(理)
T I (機材)	後・火2・木1	石原 秀樹(理)
T I 物(電)	後・火2・木1	飯田 武(非常勤)

科目の目標

理数系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象とする電磁気学を学習する。講義とともに演習を行い、より深い理解と応用力をつけることを目標とする。

授業内容

1. 静電場
 - ・クーロンの法則，・電場，・ガウスの法則，
 - ・静電ポテンシャル，・電気双極子，
 - ・コンデンサー，・誘電率
2. 定常電流
 - ・オームの法則，・抵抗，・キルヒホッフの法則
3. 電流と磁場
 - ・磁場，・磁場に関するガウスの法則，
 - ・アンペールの法則，・ビオ・サバールの法則，

・ローレンツ力，・磁気双極子，・透磁率，・変位電流

4. 電磁誘導と準定常電流

- ・ファラデーの法則，・自己および相互誘導，
- ・過渡現象

5. 電磁気学の基本法則

- ・マクスウェルの方程式，・電磁波

評価方法

通常授業で行う演習、レポート課題、定期試験により評価する。

教科書等

教科書として「砂川重信著『電磁気学 [改訂版] 初めで学ぶ人のために』(培風館)」を用いる。副読本として「砂川重信著『物理テキストシリーズ4 電磁気学』(岩波書店)」を使用する。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。

基礎物理学Ⅰ－A

2 単位

Basic Physics I - A

クラス	期・曜・時	担当者
S I 物 T I 物	後・水・1	安井 幸則(理)

科目の目標

理数系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、基礎物理学の範囲内で、基礎物理学ⅠのAdvanced Courseとして設けられた力学の講義である。ここでは基礎物理学Ⅰと同様、マクロな身近に起こる現象を対象にしている。授業では例題をなるべく多くとり入れて、理解し易いよう解説する。

授業内容

1. 振動：単振動、減衰振動、強制振動、連成振動
2. 波動：波動方程式、重ね合わせ、反射、透過と定常波、波の運ぶエネルギー、有限個の自由度をもった媒

質

3. 弾性体：弾性体、応力、歪み、弾性エネルギー、塑性変形

評価方法

主として、レポートや期末試験などによって評価する。

コメント

基礎物理学Ⅰの履修がされていることが前提である。主として授業内容は1. と2. について行う。

教科書等

長岡洋介著『振動と波』(裳華房)を用いる。

基礎物理学Ⅱ－A

2単位

Basic Physics Ⅱ－A

クラス	期・曜・時	担当者
SⅡ物 TⅡ(物)	前・水・3	安井 幸則(理)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、基礎物理学の範囲内で、基礎物理学ⅡのAdvanced Courseとして設けられた電磁気学の講義で、マクスウェル方程式の微分形を使いこなせるようになることを目標とする。そのために必要なベクトル解析をも学習する。また、理解を深めると共に応用力をつけるために演習を行う。

授業内容

- ベクトル解析の基礎
 - ベクトル場、ベクトルの発散・回転、線積分、面積分、体積積分、ガウスの定理、ストークスの定理
- マクスウェル方程式の微分形
 - マクスウェル方程式の微分形、電磁場のエネルギーと運動量、電磁ポテンシャル

3. 電磁波と放射

- 自由空間における電磁場、電磁場の放射

4. ローレンツ変換

- 物理法則の不変性、電磁気学とローレンツ変換、4元ベクトル

評価方法

期末試験、レポートなど。

コメント

基礎物理学Ⅱの履修を前提として講義を行う。

教科書等

教科書として砂川重信著『物理テキストシリーズ4電磁気学』（岩波書店）、を使用する。また、副読本として砂川重信著『理論電磁気学』（紀伊国屋書店）を使用し、戸田盛和著『理工系の数学入門コース3ベクトル解析』（岩波書店）を参考書とする。他の参考書や演習書は適宜紹介する。

基礎物理学Ⅰ－E

2単位

Basic Physics Ⅰ－E

クラス	期・曜・時	担当者
SⅠ(数質化生)	前・月・1	有馬 正樹(理)
S低(地)H低(食環)		
TⅠ(化情バ)	前・月・1	中川 道夫(非常勤)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は「力学」を講義する。最も身近に起こる力学現象を対象に、基本方程式からその発展形への拡張を講義し、例題により理解を深めると共に応用力をつける。

授業内容

- 力のつりあい：変位とベクトル、力のベクトル、力のつりあい、いろいろな力
- 速度と加速度：直線上の運動、2次元、3次元の運動、円運動の速度と加速度
- 運動の法則：慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則
- いろいろな運動：落体の運動、単振動、等速円運動、抵抗力をうけた物体の運動

5. 力学的エネルギー：仕事、運動エネルギー、ポテンシャルエネルギー、力学的エネルギーの保存

6. 運動量と角運動量：運動量と力積、2物体の運動、角運動量

7. 慣性の力：慣性系と慣性の力、回転系における運動

8. 剛体のつりあいと回転

評価方法

授業で行う演習、レポート課題、定期試験などを総合して評価する。

コメント

高等学校で物理を履修した学生を対象とする。

教科書等

長岡洋介著『物理の基礎』（東京教学社）を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

基礎物理学Ⅱ－E

2単位

Basic Physics II - E

クラス	期・曜・時	担当者
S I (数質化生) S低(地) H I (食環)	後・月・1	寺本 吉輝(理)
T I (化建情バ) T IV (都)	後・月・1	牲川 章(非常勤)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象にする電磁気学を学習する。

授業内容

1. 電荷と静電場
・クーロンの法則、・電場、・ガウスの法則、
・静電ポテンシャル、・電気双極子、
・コンデンサー
2. 定常電流と静磁場
・オームの法則、・抵抗、・キルヒホッフの法則、

- ・磁場、・ローレンツ力、・ビオ・サバールの法則、
・磁気双極子、・アンペールの法則、

3. 電磁誘導

- ・ファラデーの法則、・自己および相互誘導、

4. 電磁気学の基本法則

- ・変位電流、・マクスウェルの方程式、・電磁波

評価方法

レポート課題、定期試験により評価する。

教科書等

教科書として「長岡洋介著『物理の基礎』（東京教学社）」を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

基礎物理学F

4単位

Basic Physics F

クラス	期・曜・時	担当者
T I (基都)	後・火2・木1	河合 俊治(特任)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、身近にある流動体を対象とした力学を講義する。流体力学は物理以外に気象、地球、天体から機械、航空、土木など広い分野の応用面でも重要である。授業では、流体力学に必要な数学的知識と、流体の物理的扱いの基礎を理解させる。

授業内容

1. 静止流体の圧力、浮力
2. 質量：質量と密度、連続の式
3. 速度：速度と流線、渦度と渦線、速度の展開、速度ポテンシャル、流れの関数、複素速度ポテンシャル
4. 加速度：加速度
5. 力：力、物体が流体より受ける力

6. 理想流体の力学：オイラーの運動方程式、オイラーの運動方程式の変形

7. 粘性流体の力学：ナビエ・ストークスの方程式、ナビエ・ストークスの方程式の変形、レイノルズの相似則

評価方法

レポート課題、小テスト、定期試験など。

コメント

基礎物理学 I と高等学校での微分積分学の履修を前提にする。

教科書等

教科書として、大亀衛著「やさしくわかる流体の力学」（内田老鶴圃）を用いる。また適宜参考図書を紹介する。

基礎物理学Ⅲ

2 単位

Basic Physics III

クラス	期・曜・時	担当者
S II 物(数質化生地) T II 物	前・水・1	飯田 武(非常勤)
T II (機電化材)	前・水・1	河合 俊治(特任)
T II (建情バ都)	前・水・1	丸山 稔(理)

科目の目標

理料系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、日常生活で体感される熱現象を基に築かれた現象論としての熱力学を学習する。熱力学は物理学のみならず工学の分野においても実用的な面から非常に有用である。

授業内容

- 熱現象と熱力学
 - 熱平衡と温度, ・状態量, ・理想気体の状態方程式
 - ファンデルワールの状態方程式
- 熱力学第1法則
 - 準静的過程, ・熱力学第1法則, ・内部エネルギー,
 - 熱容量と比熱, ・等温過程, ・断熱過程, ・カルノーサイクル
- 熱力学の第2法則
 - 可逆と不可逆過程, ・熱力学の第2法則, ・熱機関

の効率, ・熱力学温度, ・クラジウスの不等式

- エントロピー
 - エントロピー, ・エントロピー増大の法則, 不可逆性と確率論的意味, ・微視的状态
- 熱力学関数
 - エンタルピー, ・自由エネルギー, ・熱平衡
- 気体分子運動論
 - エネルギー等分配の法則, ・速度の分布則

評価方法

主として期末試験により評価する。

教科書等

教科書として「國友正和著、基礎熱力学 (共立出版)」を使用する。また、副読本として「R.A.Serway著、松村訳『科学者と技術者のための物理学II熱力学』(学術図書出版社)」を使用する。演習書を指定する場合がある。また、参考図書を適宜紹介する。

基礎物理学Ⅳ－A

2 単位

Basic Physics IV - A

クラス	期・曜・時	担当者
S II 物(数質化生地) T II (機電材) T IV (建都)	後・水・1	奥沢 徹(理)

科目の目標

理料系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、現代物理学の根幹をなし、物質、生命、化学、工学、宇宙など自然科学のあらゆる分野において、ミクロな自然現象を理解するための基礎となっている量子力学の基本的事項を学ぶ。特に、量子力学特有の新しい概念や考え方をしっかり理解すると共に、簡単な数式・例題を通してその本質の理解を深め、より専門的な科目を学習するための基礎を身につけることを目的とする。

授業内容

- 古典物理学の限界：光の粒子性、電子の波動性、粒子性と波動性の二重性、ド・ブロイの関係式
- シュレディンガー方程式：古典的波動方程式、自由粒子のシュレディンガー方程式と平面波、物理量と演

算子、時間に依存するシュレディンガー方程式、波動関数と確率解釈、確率の保存則、波束とフーリエ変換、ディラックのデルタ関数

- 定常状態のシュレディンガー方程式：演算子の固有値と固有関数、時間に依存しないシュレディンガー方程式、束縛状態と非束縛状態
- 1次元問題1 (束縛状態)：変数分離と1次元のシュレディンガー方程式、井戸型ポテンシャル、調和振動子ポテンシャル
- 1次元問題2 (反射と透過)：1次元の自由運動、階段型ポテンシャルによる反射と透過、ポテンシャル障壁の透過 (トンネル効果)
- 3次元問題：球対称ポテンシャル中での粒子の運動、球座標によるシュレディンガー方程式、球面調和関数と軌道角運動量、動径方向のシュレディンガー方程式

評価方法

期末試験を行う。また、適宜レポート課題を課す。

コメント

基礎物理学 I および解析学の基礎が理解されていることを前提に講義をすすめる。特に振動・波動の学習を推

奨する。

教科書等

原康夫著『量子力学』（岩波基礎物理学シリーズ⑤、岩波書店）。また、参考図書・演習書等を適宜紹介する。

基礎物理学Ⅳ－B

2 単位

Basic Physics IV－B

クラス	期・曜・時	担当者
S II (教質化生地)		
T II (化情バ)	後・水・1	飯田 武(非常勤)
T IV (建都)		

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、特に現代物理学が解明したミクロの世界における重要な物理現象や、そこから基礎法則を導出した量子論の概略と、その物質系への応用例を概説する。さらに研究の最前線のトピックスのいくつかを紹介する。授業は下記の項目の中から適宜選択しておこなう。

授業内容

1. 光の粒子性：熱放射とエネルギー量子、光電効果、コンプトン効果
2. 電子の波動性：ド・ブロイ波、アインシュタイン－ド・ブロイの関係式
3. 粒子性と波動性の二重性
4. 量子力学入門：シュレーディンガー方程式、波動関

数の解釈、エネルギー固有状態、多粒子系（フェルミ統計とボーズ統計）

5. 物質の構造：原子、分子、固体の成り立ちと電子状態
6. 物理学最前線：量子現象の幾つかのトピックス

評価方法

期末試験、レポートなど。

コメント

基礎物理学 I および II が履修されていることを前提に講義を進める。高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理 I、II の履修者のため、適宜補足的説明を行う。

講義は基本的にはプリントに沿って行う。

教科書等

参考書：長岡洋介著『基礎物理学シリーズ 現代物理学』（東京教学社）

物理学 I

2 単位

Introduction to Physics I

クラス	期・曜・時	担当者
M I 医	前・木・1	櫻木 弘之(理)

科目の目標

近年種々の自然科学は目ざましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理IIを履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学Iでは、主に、力学と波動の分野を中心に学ぶ。

授業内容

1. 物理学とは
 - ・物理学の学び方、・物理量の表し方
2. 運動の記述
 - ・速度、・加速度、・等速円運動
3. 運動の法則と力の法則
 - ・運動の第 1, 2, 3 法則

4. 力と運動

- ・運動方程式とその解

5. 振動

- ・単振動、・減衰振動、・強制振動

6. 仕事とエネルギー

- ・仕事、・エネルギー、・保存力、・エネルギー保存則

7. 回転運動

- ・角運動量、・回転運動の法則

8. 剛体の力学

- ・剛体の運動方程式、慣性モーメント

9. 見かけの力

- ・加速度系からみた運動

10. 波動と光

評価方法

中間試験と期末試験の結果を総合して評価する。

教科書等

原 康夫著『(第 3 版) 物理学基礎』(学術図書出版社)

物理学 II

2 単位

Introduction to Physics II

クラス	期・曜・時	担当者
M I 医	後・木・1	高橋 保(非常勤)

科目の目標

近年種々の自然科学は目ざましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理IIを履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学IIでは、主に、電磁気学と現代物理学の分野を中心に学ぶ。

授業内容

1. 真空中の静電場
 - ・電荷、・クーロンの法則、・電場のガウスの法則
2. 導体・誘電体と静電場
 - ・導体、・誘電体、・キャパシター

3. 電流と回路

- ・オームの法則、・キルヒホッフの法則、・CR回路

4. 電流と磁場

- ・電流のつくる磁場、・ローレンツ力、
・ビオサバールの法則、・磁場のガウスの法則
・アンペールの法則

5. 電磁誘導

- ・電磁誘導の法則、・自己誘導、・相互誘導

6. マクスウェル方程式と電磁波

7. 現代物理学の概要

- ・相対性理論、・ミクロの世界と量子論、
・原子核と素粒子

評価方法

中間試験と期末試験の結果を総合して評価する。

教科書等

原 康夫著『(第 3 版) 物理学基礎』(学術図書出版社)

物理学 A

2 単位

Physics A

クラス	期・曜・時	担当者
MI 医	前・火・3	木村 政継(医)

科目の目標

物理学的な「自然観」或いは「世界観」は自然科学の分野だけでなく、広い領域に採り入れられているが、医学部においては総合化の視点に立ってとらえなければならない。物理学 I（理学部担当）において力学の基礎を学び、それと並列に行う物理学 A は熱力学を中心に学ぶことになる。熱力学は、直感的概念からスタートしながら量子力学によって初めて理解される内容まで含み、一般に分かりにくいとされているが、生化学反応や種々の物理現象の理解の基礎となる分野であることに留意しつつ、分かりやすい講義を心がける。

授業内容

1. 数学的補足：微分方程式に慣れる 2. ファンデルワールスの状態方程式 3. 熱学 4. 熱力学第一法則 5. 熱機関の効率 6. エントロピー 7. 熱力学第

二法則 8. 分子運動論 9. 等重率の原理とカノニカル分布 10. エンタルピーと反応熱 11. 自由エネルギー 12. 相平衡 13. 化学平衡 14. 質量作用の法則と生化学反応 15. 電気化学的応用

評価方法

試験の成績に、平常の演習及び出席点を加味して評価する。

コメント

高等学校で微・積分学をある程度学んでいることを前提とするが、熱力学を学ぶうえで十分とは言えないので、補足する。

教科書等

教科書として、医歯系の物理学（赤野松太郎他著、東京教学社）を使用し、適宜、プリント教材で補う。

物理学 B

2 単位

Physics A

クラス	期・曜・時	担当者
MI 医	後・火・4	木村 政継(医)

科目の目標

原子と原子核の物理は、医学的診断や癌治療に広く利用されている放射線をはじめとして医学的重要性が高い。医学系物理の締めくくりとして、近代物理学的な視点から医学的応用も含めて幅広く解説する。

授業内容

1. 特殊相対性理論 (1) 2. 特殊相対性理論 (2) 3. 熱放射と光子 4. 原子の構造 5. 量子力学の成立 6. 磁場の中の電子 7. ESRとNMR 8. 磁気共鳴イメージング 9. 原子核と加速器 10. X線の発生 11. X線の物理 12. 放射線の物理 13. 放射線の管理 (1) 14. 放射線の管理 (2)

評価方法

試験の成績に、演習と出席状況を多少加味して評価する。

コメント

この分野は医療や医学的研究の基礎としてきわめて重要である。

教科書等

プリント教材をメインとしつつ、教科書として医歯系の物理学（赤野松太郎他著、東京教学社）を使用する。

参考書：アイソトープ手帳（日本アイソトープ協会編、丸善）。

入門物理学 I

2 単位

Introduction to Physics I

クラス	期・曜・時	担当者
S I (数質生化) S 低(地) T I (化バ)	前・月・1	奥沢 徹 (理)
H 低(食環) M I 看	前・月・1	林 嘉夫 (理)

科目の目標

近年種々の自然科学は目ざましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本の理解が得られることを目指す。

授業内容

最も身近にある物理現象を記述する力学を中心に講義を行う。始めに物理学の学び方をのべ、項目として、

- 1) 速度と加速度
速度、加速度、等速直線運動、等加速度運動
- 2) 運動の法則 (ニュートンの運動の法則)
座標系、ベクトル、運動の法則、力、放物運動
- 3) 周期運動
周期運動、単振動、単振り子、等速円運動

- 4) 力と運動、エネルギー
力と仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存則、運動量、運動量保存則
- 5) 剛体の運動
剛体、慣性モーメント、重心の運動、回転運動
- 6) 熱と温度
熱、温度、状態方程式、プランクの法則、熱力学の法則
などの内容で講義を行う。
この授業では、講義を聞くだけでなく、各項目毎に演習を行いながら、理解を深める。

評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評価する。

コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、基礎物理学 I-Eを履修すること。

教科書等

原 康夫著『基礎からの物理学』(学術図書出版社)

入門物理学 II

2 単位

Introduction to Physics II

クラス	期・曜・時	担当者
S I (数質生化) S 低(地) T I (化バ)	後・月・1	橋本 秀樹(理)
H 低(食環)	後・月・1	河合 俊治(特任)

科目の目標

近年種々の自然科学は目ざましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本の理解が得られることを目指す。

授業内容

電氣的・磁氣的現象の基礎となる、電磁気学を中心に学び、現代物理学と呼ばれているミクロな世界の物理、相対性理論、原子核・素粒子論などの新しい物理学の展開の概略についても講義する。項目として、

- 1) 電荷と電気力
電荷と電気力、電荷の保存則、静電誘導、クーロンの法則
- 2) 電場
電場、ガウスの法則
- 3) 電位

- 位置エネルギー、電位と電位差、
- 4) 誘電体とキャパシタ
キャパシタ、電気容量、電場のエネルギー、誘電体と電場
 - 5) 電流とオームの法則
電流、起電力、オームの法則
 - 6) 電流と磁場
磁場、アンペールの法則、磁気力
 - 7) 電磁誘導
電磁誘導、誘導起電力、磁場のエネルギー
 - 8) 新しい物理学の展開
光・電子の二重性、不確定原理、相対性理論、原子核

などの内容で講義を行う。

この授業では、講義を聞くだけでなく、各項目毎に演習を行いながら、理解を深める。

評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評価する。

コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、基礎物理学Ⅱ-Eを履修すること。

教科書等

原 康夫著『基礎からの物理学』（学術図書出版社）

入門物理学実験

2単位

Introductory Physics Experiments

クラス	期・曜・時	担当者
S低(数化生地)	後・金・3~4	鐘本 勝一(理)
H I食(環)		山本 和弘(理)
		小松 晃雄(特任)

科目の目標

高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

授業内容

入門物理学実験は、高校で物理学を履修してこなかった場合でも理解できるように、解説・講義を交えて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスをする。実験は2回1テーマ、原則として2名1組で行う。各テーマとも、1週目に実験の説明・諸注意の後、測定を行い、2週目に解析・実験結果に関して討論し、レポートを作成する。テーマは次の予定である。

「重力加速度」：ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「音波の振動数と波形」：電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。「ニュートンリング」：ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「気柱の共鳴・プリズム分光」：スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「ダイオードによる整流」：ダイオードの電圧・電流特性を測定

し、その整流作用を観測する。「電気素量」：電場中での油滴の運動を観察して電荷の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 γ 線の吸収」：GM計数管を用い、物質による γ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは2週目終了時に提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、基礎物理学実験Ⅰを履修すること。本科目を修得したものは基礎物理学実験Ⅱおよび物理学実験S Bを受講することができる。また、本科目を履修した者は、基礎物理学実験Ⅰおよび物理学実験S Aを履修することはできない。必要な場合は基礎物理学実験Ⅱもしくは物理学実験S Bを履修すること。

教科書等

本理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第3版』（東京教学社）

基礎物理学実験 I

3 単位

Basic Physics Experiments I

クラス	期・曜・時	担当者
S I 物 S 低(質) T I 物	前・火・3~5	清矢 良浩(理) 小原 颯(理) 小松 晃雄(特任)
T I 電(機材)	前・木・3~5	杉崎 満(理) 山本 和弘(理) 小松 晃雄(特任)
S 低(数化生地) T I (化建情バ都) H I (環)	後・火・3~5	小原 颯(理) 小松 晃雄(特任)

科目の目標

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

授業内容

基礎物理学実験 I は高校で物理学を履修した学生を対象とする。1 回目は履修に当たってのガイダンスと、実験全体に共通の事柄について講義を行う。2 回目以降は、前半・後半各 6 テーマとして、1 回 1 テーマ、原則として 2 名 1 組で実験を行い、レポートを作成する。

前半テーマ

「剛体の等加速度運動」：斜面を転がる剛体の運動を調べ、剛体の慣性モーメントを求める。「重力加速度」：ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「気柱の共鳴・プリズム分光」：スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「熱の仕事当量」：電流による発熱と水温上昇の関係から熱の仕事当量を求める。「ニュートンリング」：ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「ダイオードによる整流」：ダイオードの電圧・電流特性を測定し、その整流作用を観測する。

後半テーマ

「ヤング率・剛性率」：力による金属の伸びや曲がり

からヤング率を測定する。また、ねじれ振り子の周期から針金の剛性率を求める。「音波の振動数と波形」：電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。「固体の線膨張」：金属棒の熱による膨張を観測し、線膨張率を測定する。「トランジスタの特性」：トランジスタの静特性と動特性を測定し、動作原理・増幅作用を理解する。「電気素量」：電場中での油滴の運動を観察して電荷の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 γ 線の吸収」：GM計数管を用い、物質による γ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは当日時間内、あるいは 1 週間以内に提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

コメント

本科目を修得したものは基礎物理学実験 II あるいは物理学実験 S B を受講することができる。

高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理 I, II の履修者のため、適宜補足的説明を行う。

教科書等

本学理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第3版』(東京教学社)

基礎物理学実験Ⅱ

3単位

Basic Physics Experiments II

クラス	期・曜・時	担当者
TⅡ電(材)	前・月・3~5	中野 英一(理) 小松 晃雄(特任)
SⅡ物(数質化生地) TⅡ物(機情)	後・月・3~5	杉崎 満(理) 荻尾 彰一(理) 小松 晃雄(特任)

科目の目標

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

授業内容

基礎物理学実験Ⅱは、入門物理学実験又は基礎物理学実験Ⅰを修得した学生を対象に、より高いレベルのテーマを、より高度な測定機器を用いて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスを行う。2回目以降は、次のテーマの中から、原則として2名1組で実験を行う。

「万有引力定数」：大球と小球の間に働く力をねじれ秤を用いて測定し、万有引力定数を求める。「合金の熱分析」：Sn-Zn二元合金について熱分析を行い、合金の状態変化を調べる。「光の速度」：パルス化したレーザー光を用い、空気中の光速を直接測定する。「光の回折」：レーザーの平行単色光を用い、1次元および2次元格子による光の回折現象を調べる。「過渡現象と交流回路」：抵抗・コンデンサー・コイルを含む回路を用いて過渡現象を観測し、交流についての理解を深める。「差動増幅器」：OPアンプを用いて簡単な差動増幅器を実際に作り、その動作を調べる。「電磁波」：波長約3cmのマイクロ波を用い、電磁波の反射や干渉などの基本現象を学ぶ。「磁化曲線」：強磁性体の磁化曲線を測定し、磁性の基礎を学ぶ。「電子の比電荷」：電磁場中の荷電粒子の運動を観察し、電子の比電荷を測定する。

「真空」：低圧気体の熱伝導の圧力依存性を調べる。「熱放射」：黒体から放射される電磁波のエネルギーおよび強度の波長依存性を測定し、温度との関係を調べる。「原子スペクトル」：水素原子の輝線スペクトルを観測する。「 γ 線スペクトル」：シンチレーション検出器と波高分析器を用い、 γ 線のエネルギースペクトルを測定する。

各実験終了後、レポートを1週間以内に提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては、補充実験を追加して行う。

評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

コメント

本科目を履修するためには、入門物理学実験又は基礎物理学実験Ⅰ（それに相当したもの）を修得していなければならない。また、本科目を履修した者は、原則として、物理学実験S Bの履修を認めない。

高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理Ⅰ、Ⅱの履修者のため、適宜補足的説明を行う。

教科書等

本理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第3版』（東京教学社）

基礎物質科学

2単位

Introduction to Material Science

クラス	期・曜・時	担当者
SI質(数物化生地) TI(機材物) HI(環)	前・金・3	小栗 章(理)

科目の目標

物質の持つ様々な性質は、電子と原子核の運動によって決まる。これらの粒子は、量子力学的な波動性を示し、複雑に相互作用にしながら、集団として振る舞う。この講義では、物質科学への導入として、振動・波動、量子力学、熱・統計などの基本法則の概要を学び、物質の性

質を微視的に理解することを目指す。

授業内容

1. 運動の法則：
Newtonの運動方程式
エネルギーの保存
単振動の基本的性質

2. 巨視系のダイナミクス：
 - 多自由度の振動と基準モード
 - 分子および固体の格子振動から波動へ
 - Maxwell方程式と電磁波・光
3. 統計的なアプローチ：
 - 2項分布、正規分布、ランダムウォーク
 - 気体分子運動論とMaxwellの速度分布
 - 統計力学における集団平均
 - 固体の比熱、黒体放射
4. 量子力学の基本概念：
 - 光の粒子性、粒子の波動性

Schrödinger方程式と波動関数
調和振動子、スピン
Fermi粒子とBose粒子

評価方法

試験、レポート等を総合的に評価する。

コメント

高校程度の物理、数学に関する知識を前提とする。

教科書等

参考書：長岡洋介著『基礎物理学シリーズ 現代物理学』（東京教学社）

基礎機能性物質科学 2単位

Introduction to Functionality Material Science

クラス	期・曜・時	担当者
S I 質(数物化生地)	後・金・3	手木 芳男(理)
T I (機材物)		
H I (環)		

科目の目標

前期の基礎物質学に続いて物質科学の基礎を学ぶ。基礎物質科学の講義内容を基礎にして、物質の物性と機能を理解する基礎として元素の周期律、混成軌道、化学結合、原子・分子の電子状態、分子集合体についての基礎的な理解を習得することを目標とする。

授業内容

1. 一次元の箱の中の粒子
 - 一次元の箱の中に閉じ込められた粒子の問題を通じて量子化について学ぶ。
2. 水素原子と原子軌道
 - 水素原子のシュレディンガー方程式とその解として出てくる原子軌道について学ぶ。
3. 元素の周期律と原子価
 - 元素の周期律と原子価および混成軌道の概念について学ぶ。また、周期律を理解するためにも重要な電子のスピンとパウリの排他律という概念を学ぶ。
4. 電子の波動性と共有結合
 - 水素分子はなぜ形成されるかを電子の波動性を基に理解し、共有結合の基礎を学ぶ。

5. 原子、分子の電子軌道

様々な元素の原子軌道と、元素から作られる分子の電子軌道の基礎を学ぶ。

6. 物質の機能と物性の基礎

固体や分子集合体中の電子軌道についての初歩的講義を基に、原子や分子が集合体となった場合に生じる構造と機能（電気伝導性、磁性、光学的性質等）について概観する。

評価方法

試験等を総合的に評価する。

(試験の成績を中心に評価を行うが、場合により試験に加えてレポートを提出させ、それを加味して評価する事もある。)

コメント

前期の基礎物質科学を受講しておくことが望ましい。

教科書等

資料等を配布する。

参考書：アトキンス「物理化学（上）」（東京化学同人）

基礎生体物質学 2単位

Material Science of Life, Fundamentals

クラス	期・曜・時	担当者
S I 質(数物化生地) T I (化物)	後・火・1	飯尾 英夫(理)

科目の目標

生命現象を科学的に理解するために、生体物質の基礎知識を修得することを目標とする。生体構成物質の有機化学的基礎、および生体における役割あるいは生体機能発現と調節の機能等について学習する。

授業内容

1. 生体分子の立体化学 (1回)
2. 糖質の化学 (3回)
3. 脂質の化学 (2回)
4. タンパク質の化学 (4回)
5. 核酸の化学 (3回)
6. 生体分子の反応 (1回)

基本的な生命現象に関与している各種の生体物質群の構造、および生体機能発現との関係について重点的に解

説し、十分な理解が得られるようにする。

演習問題もできるだけ取り上げ理解の徹底を図る。

評価方法

期末試験 (85点) と、毎回宿題として課す演習問題のレポート (15点) により評価する。

コメント

基礎有機化学 I および II の履修が望ましい。

関連するホームページを紹介するので、あわせて学習してほしい。

教科書等

教科書：相本三郎、赤路健一著『生体分子の化学』(化学同人)

参考書：H. ハート著／秋葉欣哉、奥彬訳『ハート／基礎有機化学』(培風館)

基礎物質科学実験 3単位

Fundamental Experiments in Material Science

クラス	期・曜・時	担当者
S II 質(物化生地) T II (機物材)	前・月・3~5	寺岡 淳二(理) 塩見 大輔(理) 他

科目の目標

実験を通して、分子、巨大分子、分子集合体、微粒子などの持つ性質を調べ、それらを統計的な手法や分子レベルにおける考察によって理解する。また、物質科学の研究において必要な基本的実験操作を修得する。さらにはコンピュータを活用した研究手法にも馴れ親しむ。

授業内容

第1週 [ガイダンス1] 実験内容の説明と安全指導。
第2~4週 [実験1：物質の色と分子] いくつかの色素を合成し、その吸収スペクトルを測定し、吸収する光の波長と分子構造との関係を調べる。また、コンピュータによる電子状態の計算から、望みの色を示す分子の設計を行う。第5~7週 [実験2：金属錯イオンのつくる電荷移動錯体] 錯体の集合体としての電荷移動型錯体を合成し、それらの酸化還元電位や電子スペクトルを反射法で測定することによって、錯体間の相互作用を調べる。

第8~10週 [実験3：DNA] DNAの融解温度の測定

と電気泳動法、高速液体クロマトグラフィー法による分析によって、DNAの性質を分子レベルで観る。また、生体物質を使った実験に特有な基本操作を学ぶ。第11~13週 [実験4：ブラウン運動] 微粒子の溶液中でのランダムな運動を観察し、移動距離の時間経過を測定する。ブラウン運動は拡散の法則に従っていることを理解し、拡散定数とアボガドロ定数を求める。データ処理の基礎についても学ぶ。第14週以降 [ガイダンス2] データ処理方法の説明とレポート作成法及び口頭発表の仕方を指導する。

評価方法

実験テーマごとのレポート。

コメント

基礎教育科目として提供されている実験科目を1年次に履修していること。

教科書等

基礎物質科学実験書

基礎物理化学 A

2 単位

Basic Physical Chemistry A

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I (質) T I (機材) H I (食環)	前・水・1	佐藤 和信(理)	M I 医	前・水・1	神谷 信夫(理)
S I 化 T I (化)	前・木・3	宮原 郁子(理)	S I (数物生地) T I (建情都) T III (電)	後・木・3	麻田 俊雄 (非常勤)

科目の目標

我々の身の回りは、さまざまな物質で溢れている。物質の構造、機能、反応を扱う化学が現代社会の中で果たしている重要性は非常に大きい。本科目では、量子の法則に基づく原子、分子の構造と化学結合の基礎を理解することを目標として、ミクロな視点から物質を理解するために必要な化学の基本概念を学ぶ。

授業内容

1～4. 原子の構造と量子論の基礎 5～7. 二原子

分子の化学結合－共有結合とイオン結合 8～9. 三原子分子と結合角－分子を曲げる力の謎 10～12. 分子軌道法と混成－多原子分子の構造 13～14. 分子間に働く力

評価方法

試験の成績に平常点を加味して評価する。

教科書等

担当者が選定し推薦する。

基礎物理化学 B

2 単位

Basic Physical Chemistry B

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I (数物生地) T I (建情都) T III (電)	前・木・3	田中 礼二(非常勤)	S I (質) T I (機) H I (食)	後・水・1	八ツ橋和幸(理)
			S I 化 T I (材) H I (環)	後・水・2	豊田 和男(理)

科目の目標

自然は「物質の拡散」と「エネルギーの拡散」を伴いながら、「自ずから然り」の言葉通り自発的に変化して現在の姿となっている。いかなる拡散過程もそっくりには後戻りできない「不可逆過程」である。自然を支配している不可逆の法則を表したのが熱力学第2法則であり、エントロピー増大則である。エントロピー概念を正しく理解して、循環過程が成立する条件を学ぶ。また、自由エネルギー概念を導入して、定められた環境の中に置かれた系が自発的に変化して平衡状態に達する法則を学ぶ。

授業内容

高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように、熱、仕事、温度、状態量、可逆過程と不可逆過程、エントロピー、自由エネルギーなど、熱力学における基本的な概念を分かり易く解説しながら、論理的な思考力を養う。

1. 系と環境 2. 熱力学第1法則 (内部エネルギー、熱、仕事) 3. 熱平衡と温度 4. 状態の記述 (熱力学的平衡、状態量、可逆過程と不可逆過程) 5. 蒸気機関の改良とカルノー・サイクル 6. 熱力学第2法則 7. エントロピー概念と熱力学温度の確立 8. 不可逆過程とエントロピー 9. 循環過程の成立条件 10. 閉じた系の熱力学 (エンタルピー、熱容量、自由エネルギー) 11. 熱力学的平衡の成立条件 12. 開いた系の熱力学 (部分モル量、ケミカルポテンシャル) 13. 拡散平衡と相律 14. まとめ

評価方法

宿題、小テスト、試験、欠席率等により総合的に評価する。

教科書等

指定または推薦する。

(前・木・3) と (後・水・2) のテキスト: 田中礼二 著、『熱力学の基礎と考え方』(市大生協書籍部発行)

基礎有機化学Ⅰ

2単位

Basic Organic Chemistry I

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I 化(数物質生地)	前・月・2	岡田 恵次(理)	T I (機建基物材都) T III (電)	前・水・2	古市 公彬 (非常勤)

科目の目標

我々の体は主として炭素、窒素、酸素、水素からなる有機化合物で成り立っている。また、身の回りにも、天然および人工の有機化合物が溢れている。これらの化合物はどのような形や働きを持っているのであろうか。また、これらの化合物はどのように作られるのであろうか。そのような疑問を解くためには、有機分子の結合の性質や構造、さらには反応性などの基礎的性質を知ることが必須である。本科目および基礎有機化学IIでは、有機化学の基礎概念の修得を目標として、有機分子の結合論、構造論、および反応論、さらには有機化合物における官能基とその反応性について、系統的に解説を行い、有機分子についての理解を深める。

授業内容

1. 結合と構造異性
2. アルカンとシクロアルカン
3. アルケンとアルキン
4. 芳香族化合物

5. 立体異性 6. 有機ハロゲン化合物 などの各論を統計的に講義する。各章をそれぞれ2回程度の講義で消化する。

評価方法

試験の成績、授業中の小テストや演習レポート、出席点等を総合的に評価する。

コメント

有機化学の最初の章で学ぶ1) 形式電荷を理解し構造式を正しく書くこと、2) 反応式における矢印の意味を理解すること、3) 紙と鉛筆を用いてそれらを書けるようにすることは、その後の章の内容を理解する上で極めて大切である。また、演習問題を解くことによって知識を自分のものとするができる。

教科書等

H. ハート/L. E. クレーン/D. J. ハート共著・秋葉欣哉・奥彬共訳 「ハート基礎有機化学」(培風館)

基礎有機化学Ⅱ

2単位

Basic Organic Chemistry I

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I 化(数物質生地)	後・月・2	小寄 正敏(理)	T I (機建基物材都) T III (電)	後・水・2	古市 公彬 (非常勤)

科目の目標

基礎有機化学Ⅰに継続する科目であり、Ⅰ、Ⅱを連続して受講することにより、有機化学全体の基礎概念を修得することができる。種々の官能基をもつ化合物の構造、性質、反応について系統的に学び、有機化学の理解を深める。

授業内容

1. アルコール、エーテル
2. カルボニル化合物
3. カルボン酸とその誘導体
4. アミン
5. 分子の構造決定
6. 生体関連化学) などの各論を系統的に講義する。各章を2回程度の講義で消化する。

評価方法

試験の成績、授業中の小テストや演習レポート、出席点等を総合的に評価する。

コメント

基礎有機化学Ⅰを受講しておくこと。生体関連化合物については「基礎生体物質学(後・火・1)を受講することを強く薦める。

教科書等

H. ハート/L. E. クレーン/D. J. ハート共著・秋葉欣哉・奥彬共訳 「ハート基礎有機化学」(培風館)

基礎無機化学

2 単位

Basic Inorganic Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S II 化 T II (化)	前・水・2	杉本 秀樹(理)	MI 医	後・水・1	築部 浩(理)
S II (数物質生地) T II (機材建基物都情) T III (電)	前・水・2	板崎 真澄(理)			

科目の目標

無機化学は、多彩な分子や化合物、錯体の合成、構造、性質を系統的に理解することを目的とする化学の一分野である。基礎無機化学では、化学系・非化学系・医学系の3コースについて、それぞれがより高度な化学および関連領域を理解するために必要な基本的な考え方を習得する。

授業内容

S II 化 T II (化バ) クラス：

無機化学の基礎を理解するため、原子構造と分子構造、分子の形と対称性、固体の構造、配位化合物（金属錯体）などを中心に講義する。原子を取り扱うための考え方を分子や固体にどのように応用できるかを、電子構造や幾何学的な形と関連させながら理解し、さまざまな化学的な性質や反応性を説明できることを示す。分子化合物、錯体の構造や物性を、電子のレベルから解き明かし、化学的な現象と理論的な取り扱いとを関連付けながら解説する。

MI 医クラス：

無機化学の基本を理解するために、まず周期表と各元素の関係について概観する。次に原子の電子構造と性質、そして分子の構造を決める要因と結合について解説する。また、酸および塩基の概念、酸化と還元について理解を深める。生体内で様々な代謝過程、呼吸、シグナル伝達などに重要な役割を担う金属錯体についても学ぶ。

コメント：毎回小テストを行い理解度をチェックしながら進める。

S II (数物質生地) T II (機材建基物都情) T III (電) クラス：

無機化学の基礎をまず原子や電子の構造および元素の性質と周期性から理解する。次に無機分子の結合、構造、反応性の特徴ならびに身近に存在する典型元素（非金属元素）や遷移金属を含む化合物の性質や反応を系統的に講義する。また、酸、塩基の概念や酸化と還元についても学ぶ。さらに遷移金属錯体や無機材料、生体材料などに焦点をあてた今日的なトピックスも取り上げながら、電子や原子のレベルから無機化合物の特徴を系統的に理解できることを解説する。

評価方法

出席状況、レポート、試験などの成績を総合的に評価する。

教科書

(S II 化 T II (化)) シュライバー著「無機化学(上)」(東京化学同人)

(MI 医) 三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

参考書

(S II (数物質生地) T II (機材建基物都情) T III (電)) 三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

基礎分析化学

2 単位

Basic Analytical Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S II 化(質) T II (化バ)	前・金・3	市村 彰男(理)	S II (数物生地) T II (建基物都) H II (食環)	後・金・3	土江 秀和(理)

科目の目標

分析化学は環境、生体、材料などに存在するあらゆる天然や人工の物質の化学的組成を定性的および定量的に識別するための方法を確立することを目的とする化学の一分野である。現在の化学分析および機器分析法の多く

は、選択性を有しているため、定量分析が定性分析にもなりうる。従って分析化学反応を定量的に取り扱う方法を学び取る。さらに、自然の認識を深め、また物質系の挙動を予測するために、各種分析法の基本となる理論や反応を理解する。

授業内容

SII化(質) TII(化バ) クラス:

溶液内反応に基づく分析法の基礎理論と平衡計算: 酸・塩基平衡、錯形成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡を含む、溶液内平衡を理解する。そしてこれら平衡の問題を解くために、近似法、図的法、数値法、コンピュータ法などの各種の解法を学ぶ。また、それぞれの平衡反応を用いる滴定(中和滴定、キレート滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定)を定量的に取り扱う。

SII(数物生地) TII(基物都) HII(食環) クラス:

機器分析概論: 環境試料や生体試料などの最新の分析法も含め、各種機器分析法の原理、特徴および測定方法について概観する。

始めの2回分で、機器分析概論と分析値の信頼性や統計処理、次の2回分で、電磁波を利用する分析法の基礎と歴史、次の2回分で、紫外・可視吸光度法と蛍光・りん光分析法、次の2回分で、赤外吸収分光法とラマン分光法、次の2回分で、核磁気共鳴分光法、次の4回分

で、クロマトグラフィーやキャピラリー電気泳動法などの分離分析法について講義する。

評価方法

定期試験

教科書等

教科書:

SII化(質) TII(化バ) クラス: 姫野貞之、市村彰男著『溶液内イオン平衡に基づく分析化学』(化学同人)
SII(数物生地) TII(基物都) HII(食環) クラス: 保母敏行、他著『理工系・機器分析の基礎』(朝倉書店)
参考書:

土屋正彦、他監訳『クリスチャン分析化学I基礎』(丸善)

H. Freiser, "Concepts and Calculation in Analytical Chemistry" (CRC)

渡辺邦洋、他著『分析化学-検出・濃縮・分離法』(宣協社)

基礎有機化学M

2単位

Fundamental Organic Chemistry M

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	後・火・3	古市 公彬(非常勤)

科目の目標

生体成分であるタンパク質、遺伝子、脂肪、糖、その他低分子の有機化合物が複雑に絡み合い調和され、生命現象を営んでいる。従って、医学においては、最も基本単位であるアミノ酸や脂質などの生体機能分子の生体化学を学ぶことは大変重要である。また、医薬品や内分泌攪乱物質は生体に作用する低分子有機化合物である。これらの構造と機能を学ぶことにより、より生命現象を深く理解することができる。

授業内容

1. 有機化合物の基本概念
2. 脂肪族有機化合物

3. 芳香族化合物
- 4-5. 立体異性 (2コマ)
- 6-8. ハロゲン化合物, 含酸素化合物 (3コマ)
- 9-10. 含窒素化合物 (3コマ)
11. アミノ酸,
12. ペプチド, 13. 脂質, 14. 生体内での有機化合物の作用

評価方法

試験の成績、授業中の小テストや演習レポート、出席点等を総合的に評価する。

教科書等

参考書: 秋葉欣也・奥彬共訳「ハート基礎有機化学」(培風館), その他必要に応じ資料を配布する。

入門化学

2単位

Introduction to Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者
MI看 SI(数物質生地)	前・月・2	松下 叔夫(理)

科目の目標

化学を専門としない理系学生を対象にした科目である。高校時代に化学を学んでいない学生にも理解できるように、高校程度の基礎から講義し、生活や医療等の身近な例を含め、化学のおもしろさ、重要性について理解

を深める。

授業内容

1. 原子と分子
2. 物質の三状態
3. 溶液と濃度, 水素イオン濃度

4. 酸と塩基，酸化と還元
5. 化学反応のエネルギー
6. 有機化合物の反応

評価方法

出席率，小テスト，演習，定期試験など

教科書等

担当者が選定し推薦する．資料等を配布する．

基礎化学実験Ⅰ 3単位

Basic Chemistry Experiments I

クラス	期・曜・時	担当者
T I 化(建バ)	前・火・3～5	杉本 秀樹(理) 市村 彰男(理) 小寄 正敏(理) 品田 哲郎(理) 豊田 和男(理)
T II (情) H I 食(環)	前・木・3～5	同上
S 低(数物生地) T I (物都電)	後・火・3～5	同上
S I 化(質) T II (機材)	後・木・3～5	同上

科目の目標

身近の物質変化を基にした基礎的な実験を通して、現代科学および技術にとって必須の化学的知識を理解する。実験に際しては注意深く観察し、種々の現象を理論的に考える。また実験結果を整理して、自然の摂理を理解する能力を養う。

授業内容

1～6. 陽イオンの定性分析実験：(1) 銀、銅、スズ族イオン混合試料の分離分析と各イオンの確認 (2) 沈殿反応、炎色反応を利用した未知試料の分析等

7. 原子スペクトル分析実験：原子固有のスペクトル線の吸収および発光を利用した分光分析法による微量金属の定性および定量分析

8～11. 有機化合物の合成実験：(1) 有機実験基本操作法 (2) 純物質の単離・精製実験“アスピリン錠剤からアセチルサリチル酸の抽出” (3) 機能性物質の合成実験“メチルオレンジの合成” (4) 酢酸イソアミルの合成

12～14. 物理化学実験：(1)「時計反応」と名付けられた反応を利用して、反応する物質の濃度や温度が反応速度に及ぼす効果を調べる (2) 酸化還元反応を利用した滴定により溶液中の溶質濃度を決定する (3) 実験結果のまとめ方、レポート作成上の注意等に関する講義

評価方法

毎回出欠の確認をとり、実験後は口頭試問やレポートの提出を義務づけている。

コメント

各実験のはじめに指導教員から実験内容の説明や注意事項が与えられるので定刻までに必ず入室しなければならない。実験の内容は予習しておき、操作の意味を十分理解して実験にのぞむべきである。分からないことは、積極的に担当者に質問し、あいまいな理解のままにしておかないこと。

教科書等

『基礎化学実験』(大阪市立大学理学研究科・基礎教育実験棟化学実験室編、2006、ふくろう出版)

基礎化学実験Ⅱ 3単位

Basic Chemistry Experiments II

クラス	期・曜・時	担当者
S II 化(質) T II 化	後・月・3～5	篠田 哲史(理)・松下 叔夫(理)・鈴木 修一(理) 他

科目の目標

自然科学は実験によって明らかとなった事を積み重ね

て組み立てられている。特に化学は実験が重要な役割を果たしている。講義を聴いただけでは分かりにくいこと

も、自ら実験することによって鮮明に理解することができる。科学的方法に従って自然と対話しながら、自分にとって多くの新しいことを発見する。また、実際のプロセスを通じて実験を推し進める方法を学ぶ。

授業内容

初回に、実験に際しての基礎的事項や注意事項についてガイダンスを行う。

「有機化学」：次の1～5課題を実施する。1. 有機化学実験法 2. アジピン酸の合成 3. 安息香酸メチルの合成 4. ジベンザルアセトンの合成、5. 口頭試問

これらの合成実験を通して得られた化合物のスペクトル測定を行い、分子構造を推定する。

「無機化学」：2回の実験を実施する。1. 赤外吸収スペクトルおよびイオンクロマトグラフィーを活用した陰イオンの定性分析 2. 遷移金属錯体の合成（ニッケル（Ⅱ）およびコバルト（Ⅲ）アンミン錯体）と配位子置換反応

「物理化学」：6回の実験を実施する。1. 凝固点降

下 2. 界面活性剤水溶液の表面張力とミセル形成 3. 分子の振動回転 4. 分子力学法による炭化水素化合物の構造とエネルギー 5. 分子発光－電子的励起状態の描像 6. 核磁気共鳴 7. 分子の対称性と量子力学的縮重

初回にレポートの作成、国際単位系、測定誤差と有効数字、天秤の扱いについて解説する。

評価方法

レポート、口頭試問および実験に対する姿勢等を総合的に評価する。

コメント

基礎化学実験Iを履修した学生に対して提供される基礎科目である。また、基礎教育科目の「基礎有機化学I、II」、「基礎無機化学」、「基礎物理化学A、B」を履修していることが望ましい。

教科書等

『基礎化学実験』（大阪市立大学理学研究科・基礎教育実験棟化学実験室編、2006、ふくろう出版）

化学実験

2単位

Laboratory Work in Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者
H II 食	後・木・3～4	古澤 直人(生)・菊崎 泰枝(生)・市川 直樹(生)・金 東浩(生)

科目の目標

基礎化学実験Iを履修した食品栄養科学科2年次の学生が、実験を通してさらに化学的知識・技術を深めるとともに、3年次からの学生実験の基礎を習得することを目的とする。

授業内容

- 1) 有機化合物の同定 3週 ①結晶性有機化合物の融点測定、②脂肪族および芳香族化合物のスペクトル(IR,NMR)測定を行う。IR,NMRの原理とスペクトル解析法を解説し、さらに有機化合物の同定法全般について概説する。
- 2) 精密機器 - HPLCの実際 4週 分析化学分野で汎用されているHPLCの原理とその有用性を知ingことを目的に、HPLCを用いて食品中に残存する数種抗菌性物質の定量を行う。
- 3) 分光光度計によるブロムフェノールブルーのpKa決定 3週 ブロムフェノールブルー (BPB) は水素イ

オン濃度 (pH) の変化に伴い、変色する酸塩基指示薬である。

本実験では、種々なpHのBPB溶液の吸光度を測定し、BPBの解離平衡方程式を用いてBPBの酸解離定数(pKa)を求めることにより、pH滴定法および吸光度測定による酸解離定数の測定法を学ぶ。

- 4) 生物化学 4週 タンパク質、アミノ酸の定性分析、SDS-PAGEによるタンパク質の分離、コウシ胸腺からのDNAの抽出、DNAとタンパク質の紫外吸収曲線の比較などを行う。

評価方法

各課題レポート25点×4で評価する。

コメント

補講に相当する追加実験は提供しない。

教科書等

実験指導書を配布する。

生物学概論 A

2 単位

General Biology A

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I (全) T I (建物) T II (機材) T III (都)	前・水・1	山倉 拓夫(理) 幸田 正典(理)	T I (バ) H I (食環)	後・金・2	高木 正興(理) 伊東 明(理)

科目の目標

生物界は階層構造をなす。ミクロの階層を扱い、生物の物質的側面に迫る分子生物学は、現代生物学の一方の極であるが、それのみでは生物の本質を全体的に理解することはできない。本科目では、生物の個体以上の階層(レベル)を対象とし、生物がどのような相互作用を営み、それがどのように進化してきたのかを学ぶ。

授業内容

授業の前半(山倉・伊東)では、身の回りの環境問題と関連してしばしば耳にする、生態系のしくみ(構造)と働き(機能)について考える。生態(エコ)系(システム)とは、地域に住むすべての生物と地域の物理的環境をひとまとめにして、物質の循環やエネルギーの流れを主要な変数として、生物集団の機能を解析するためのシステムである。このシステムは水域にも陸域にも存在するが、授業では、主に陸域の生態系を取り上げる。

授業の後半(幸田・高木)では、行動生態学の視点か

ら、様々な動物の行動や形質とその意味について考える。また、生物進化の実態としての生命の歴史と進化の理論を学ぶ。

評価方法

試験の成績に、平常の小テストやレポートの成績を加味して評価する。

コメント

資料を多数用意し配布する予定である。また、スライドを使用し、動物行動についてはビデオも見せる。

教科書等

参考書(前半): 四手井綱英、吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』(人文書院)、岩坪五郎編『森林生態学』(文永堂)

(後半): クレブス・デービス著『行動生態学』(蒼樹書房)、ドーキンス著『利己的な遺伝子』(紀伊国屋書店)

生物学概論 B

2 単位

General Biology B

クラス	期・曜・時	担当者
S I (全) H I (食環) T I (建基物情都)	後・水・2	保尊 隆享(理) 藤田 憲一(理)

科目の目標

生物は、外部環境から隔てられた体内で、生体分子による複雑な物質代謝・エネルギー代謝を行っている。また、環境の情報を捉え、それに様々な形で反応し、適応している。このような生命を維持するしくみについて生化学的および生理学的に理解する。

授業内容

前半担当: 藤田

まず、外部環境と内部環境を区切っている生体膜の役割について概説する。ついで、生体内で活躍する基本的な低分子、炭水化物や脂質、アミノ酸などの生体分子の構造とその生体内における役割について紹介し、それら分子が相互変換する代謝とその調節について触れる。さらに生体膜を挟んだ生体分子の輸送や環境シグナルの受容についても話題を提供する。

1. 生体膜の役割(1週目)
2. 生体分子(2、3週目)

3. エネルギー獲得系の代謝(4週目)
4. 生体膜の内外での物質輸送(5週目)
5. 膜蛋白質の構造と機能(6週目)
6. 環境シグナルの受容体(7週目)

後半担当: 保尊

環境への反応に関しては、主に植物を対象として、生命活動に影響する環境要因の種類、環境シグナルの受容のしくみ、そして、受容されたシグナルに対する応答や適応の機構について概説する。

1. 環境要因の種類と反応の概要(1週目)
2. 光に対する反応(2、3週目)
3. 重力に対する反応(4週目)
4. 温度に対する反応(5週目)
5. 水分に対する反応(6週目)
6. シグナル変換・伝達に関わる分子(7週目)

評価方法

試験を中心として、レポートや質問状況等を加味する。

コメント

高校生物・高校化学の基礎知識の習得が望ましい。

教科書等

参考書：生化学及び植物生理学の入門書。

生物学概論C

2単位

General Biology C

クラス	期・曜・時	担当者
S II (全)	後・水・2	寺北 明久(理)
T II (建基物) T IV (都)		後藤 慎介(理)

科目の目標

代謝生物学・調節生物学：生物はいろいろな代謝系を有し、外界から取り入れた養分を用いて、エネルギーや生体構成物質を生成している。また、一方では貯蔵物質として蓄えたり不要となったものを分解再利用したり排出したりしている。本講義では、代謝とそれを調節する機構について学習する。

授業内容

代謝の流れには酸素が必ず関与し幾多の化学反応が進行している。まず、生体構成上の高分子物質（生体高分子）の生合成と反応調節のメカニズムについて、酵素の役割を中心に概説する（寺北担当）。続いて、さまざまな動物を例に食物を摂取してエネルギーを獲得するしくみとその調節機構について解説を加える（後藤担当）。

1. 酵素による代謝調節
2. 核酸の生合成
5. 摂食
6. 消化

3. タンパク質の生合成
4. 遺伝子発現の調整
7. 栄養
8. エネルギー代謝

評価方法

評価は試験を中心に、レポートや平常点を加味する。

コメント

高校程度の生物と化学を習得していることが望ましい。

教科書等

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書

寺北担当分：ブルース・アルバーツ他著Essential細胞生物学 原書第2版（南江堂）

後藤担当分：クヌート・シュミット=ニールセン著『動物生理学 [原書第5版] 環境への適応』（東京大学出版会）

生物学概論D

2単位

General Biology D

クラス	期・曜・時	担当者
S II (全)	前・水・2	樽井 裕(理) 名波 哲(理)
T II (機化物材情)		
H II (食) T III (電)		
T IV (建都)		

科目の目標

DNA研究の爆発的な発展により、遺伝子が生命の営みにどのように関わっているかが明らかになりつつある。細胞レベル、個体レベル、そして集団レベルまで、さまざまな生命現象を明らかにするために、DNA解析が用いられている。また、遺伝子組換え植物や遺伝子治療に代表されるように、遺伝子研究は私たちの生活とも密接なつながりを持つ。本講義では、遺伝子の構造と機能や遺伝子組換え技術をやさしく解説したあと、主として植物について、野生集団を対象とした最先端の遺伝子研究がもたらした成果を紹介する。遺伝子の働きの理解を通して、統一的生命観の確立を目指す。

授業内容

1. 遺伝子とは何か：DNAの構造と複製
 2. 遺伝子発現のしくみ：遺伝情報と発現
 3. 遺伝子研究を支えるさまざまな技術
 4. DNA研究の応用
 5. さまざまなDNAマーカー
 6. 生物集団の遺伝的多様性
 7. 生物集団における遺伝子の流れ
 8. DNAから生命の歴史を探る
- 1から4は樽井が、5から8は名波が担当する。

評価方法

試験を行なう。

教科書等

参考書：ワトソン他著 『組換えDNAの分子生物学』

種生物学会編 『森の分子生態学』

(教科書は用いない。)

生物学概論 I

2 単位

An Introduction to Biology I

クラス	期・曜・時	担当者
MI 医	前・水・2	沼田 英治(理) 志賀 向子(理)

科目の目標

動物たちは、地球上のさまざまな環境に適応して生きている。本講義では、環境に対する適応のしくみに注意を払いながら、動物の生理的調節機構について学習する。

授業内容

- 1) 動物の生理的調節機構において、主要な役割を果たしている神経系と内分泌系について概説する(志賀)。
 - 1 制御と統合、2 ホルモン制御、3 情報と感覚(講義回数 6-7 回)
- 2) 動物の生理的調節機構の例として、温度適応機構と体液の恒常性を維持するしくみを概説する(沼田)。
 - 4 温度効果、5 体温調節、6 水と浸透調節(講義回数 6-7 回)

動物の生活の多様性に配慮し、ヒトをはじめとする脊椎動物はもとより、無脊椎動物も含むさまざまな実例を提示する。

評価方法

2 回の試験(中間試験50%と定期試験50%)で評価する。

コメント

高等学校で生物、化学、物理を履修したことを前提とする。

教科書等

教科書：クヌート・シュミット=ニールセン「動物生理学—環境への適応」(東京大学出版会) 11~13章(志賀)、6~8章(沼田)

生物学概論 II

2 単位

An Introduction to Biology II

クラス	期・曜・時	担当者
MI 医	後・水・2	宮田 真人(理) 水野 寿朗(理)

科目の目標

一見多様に見える生命現象も、必要な情報は全て遺伝子として細胞中に保持されている。遺伝情報の機能を理解するためには、ミクロからマクロに至る多様な生命現象についての素養が求められる。本講義では、(I) 遺伝子がどの様に維持され発現するかを、細胞と生体高分子の構造に対する考察と共に解説する。また、(II) 多細胞動物の発生過程に注目し、組織・器官・形態を構築する仕組みについて、さまざまな視点から概観する。以上を通じ、ヒトのからだと様々な疾病を理解するための生物学的なバックグラウンドを養う。

授業内容

- (I) 1. 細胞構造、2. タンパク質、3. 核酸、4. セントラルドグマ、5. DNA複製、6. 遺伝子発現の制御
- (II) 1. 多細胞体制と生活史、2. パターン形成、3. 体軸と胚葉、4. 細胞質因子と細胞間相互作用、5.

形態学史、6. 個体発生と系統発生

評価方法

小テスト、講義中のレポート、定期試験の総合点により評価する。再試は行わない。

コメント

積極的な受講姿勢を期待する。

教科書等

参考書：アルバート他「細胞の分子生物学」(教育社)、ストライヤー「生化学」(東京化学同人)、ギルバート「発生生物学 分子から形態進化まで(上中下)」(トッパン)

※ギルバート発生生物学は絶版、英語版原著は入手可能

啓蒙書：本多久夫「シートからの身体づくり」(中央公論社)、山名清隆「カエルの体づくり」(共立出版)、八杉貞雄「発生と誘導現象」(東京大学出版会)、団まりな「動物の系統と個体発生」(東京大学出版会)

生物学概論Ⅲ

2単位

An Introduction to Biology Ⅲ

クラス	期・曜・時	担当者
MI看	前・火・4	福永 昭廣(医)

科目の目標

近年の生物科学研究の発展はめざましく、その研究成果をもとに医療分野や農業分野における遺伝子治療・クローン動物・ES細胞などの新しい技術の開発が行われており、看護・医療に携わる者にも、生命現象に関する幅広い知識が求められるようになってきた。本講義では、生物の基本単位である細胞の構造と機能を中心に、生体を構成する高分子物質、生体の成り立ち、細胞分裂と配偶子形成について解説し、生命現象に関する理解を深める。

授業内容

1. 生体を構成する物質

2. 原核細胞と真核細胞

3. 細胞の構造と機能

4. 生体の構成

5. 体細胞分裂

6. 減数分裂と配偶子形成

評価方法

試験により評価する。

教科書等

教科書：渡部強三他「人の生命科学」(医歯薬出版)

参考書：アルバート他「細胞の分子生物学」

(Newton Press)、中村運著「基礎生物学」(媒風館)

生物学 A

2単位

Biology A

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	前・木・4	原田 正史(医)

科目の目標

ヒトは生物の一員であり、医学はヒトの生物学を基礎とする。近年の生物学の進展はめざましく、細胞の構造やその機能はいうにおよばず、遺伝情報の伝達の機構についても分子レベルで理解できるようになってきた。生物学Aでは、生命の基本単位である細胞を中心に、生物学の基礎を学ぶ。

授業内容

1. 細胞の概念 2. 遺伝子の構造 3. 細胞膜の構造と機能 4. 小胞体・ゴルジ体の構造と機能 5. リボソームの構造と機能 6. 細胞骨格構造と機能 7. ミトコンドリアの構造と機能 8. リソソームの構造と機能 9. 体細胞分裂の過程 10. 減数分裂の過程と多様性 11. 細胞周期の各過程 12. 染色体の概説と

分裂時の挙動 13. 性の決定と伴性遺伝 14. 染色体異常

評価方法

試験の成績で評価する。

教科書等

講義に必要な教材は配布する。

参考書：アルバート他『細胞の分子生物学』(Newton Press)、ストラチャンおよびリード『ヒトの分子遺伝学』(メディカル・サイエンス・インターナショナル)、中村運著『基礎生物学』(媒風館)、岡山繁樹著『生物学入門』(媒風館)、今泉洋子著『人間の遺伝学入門』(媒風館)、Cambell et al., 『Biology; Concept & Connections』(Pearson Education)、和田勝著『生物学・細胞生物学』(羊土社)

生物学B

2単位

Biology B

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	後・木・4	福永 昭廣(医)

科目の目標

脊椎動物における諸器官の構造と機能の変化を系統的に学び、ヒトとヒト以外の脊椎動物との類似性について考え、医学を志す学生が今後集中的に学ぶことになるヒトについての理解を深めることを目的とする。

授業内容

1. 脊椎動物の系譜 2. 脊索動物の特徴 3. 脊椎動物の特徴 4. 脊椎動物の構造と機能 1と2では、脊椎動物に最も近いと考えられている動物群（尾索類と頭索類）について学び、脊椎動物との類似性を考える。3では脊椎動物の特徴について他の動物群の構造と比較しながら学ぶ。授業の中心は4. 脊椎動物の構造と機能

であり、循環器系、泌尿生殖器系、消化器系などについて、脊椎動物各綱の構造と機能の変化を学び、人体の構造と機能との関連について考察する。

評価方法

試験の成績で評価する。

教科書等

講義に必要な教材は配布する。

参考書：A. S. Romer and T. S. Parsons著 平光訳『脊椎動物のからだ』（法政大学出版局）、M. Fingerman著 青戸訳『比較動物学』（媒風館）、B. M. Carlson著 白井敏夫監訳『パッテン発生学』（西村書店）

生物学実験A

2単位

Biological Laboratory A

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S低(質) TⅡ(機建材バ) TⅢ(都)	前・木・3~4	水野 寿朗(理) 他	S低生(数物化地)	前・金・3~4	水野 寿朗(理) 他

科目の目標

本実習では、以下の実習テーマを通じ、生物学研究の方法を広く体験し、生物学の実験方法を理解・修得することを目的としている。生命の持つ多様な側面を把握するため、分子生物学、生化学、生理学、形態学、分類学、生態学までの広範な分野の実習を行う。1. 植物の成長生理 2. 遺伝子の構造 3. 動物の行動 4. 動物の発生 5. 植物の形態と分類 6. 生化学反応の特性(酵素の性質) 7. 植物の生態と個体群動態

授業内容

1. ガイダンス。 2. 気孔の開閉運動と環境応答機能の解析。 3. 植物の成長過程での細胞伸長の観察と浸透圧の測定。 4. 植物からの核酸(DNA・RNA)の抽出と同定。 5. 昆虫を用いた行動観察による学習

能力の解析。6. 細胞分裂と染色体の観察。 7. 脊椎動物の胚発生の観察。 8. 植物体を形づくる諸器官の形態観察と花の色素の分析、植物種の系統類縁関係についての考察(2回)。 9. 酵素活性の測定(他物質の共存下での酵素の働きと、同じ基質に作用する複数の酵素の作用)、および反応生成物の比較検討などの生化学的解析など(3回)。 10. コンピュータを用いた植物個体群動態のシミュレーション(2回)。

評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

コメント

受講人数は70名以下とする。

教科書等

各実習ごとに、実験方法等のプリントを配布する。

生物学実験B

2単位

Biological Laboratory B

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
T I (バ) H I 食	後・木・3~4	水野 寿朗(理) 他	S 低生(数物質化 地)	後・金・3~4	水野 寿朗(理) 他

科目の目標

生物学実験Aと同様に、本実習では、以下の実習テーマを通じ、生物学研究の方法を広く体験し、生物学の実験方法を理解・修得することを目的としている。生命の持つ多様な側面を把握するため、分子生物学、生化学、生理学、形態学、分類学、生態学までの広範な分野の実習を行う。1. 植物の環境応答 2. 昆虫の分類 3. 動物の形態および生態(コンピュータ操作を含む) 4. 遺伝子操作法 5. 微生物の形態と生理 6. 高分子の研究法 7. 原生動物の生理

授業内容

1. ガイダンス。 2. 植物の環境応答の解析(2回) 3. 昆虫の形態観察と同定、標本作製。 4. 動物の形態の観察、スケッチ、および生態学的研究における実験

計画法など(2回)。 5. PCR(遺伝子増幅)、プラスミド精製、制限酵素処理、電気泳動の手法を用いた遺伝子操作(3回)。 6. 細菌からカビ・酵母にいたる種々の微生物の形態観察、細菌のグラム染色による分類および、酵母のアルコール発酵能の測定(2回)。 7. 生体高分子のin vitro, in silico検出(2回)。 8. ゴウリムシを用いた細胞器官の形態観察とその機能の解析。

評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

コメント

受講人数は70名以下とする。

教科書等

各実習ごとに、実験方法等のプリントを配布する。

生物学実験M

1単位

Biological Laboratory M

クラス	期・曜・時	担当者
M II 医	前・水・3~5	原田 正史(医) 福永 昭廣(医)
M I 医	後・金・3~5	原田 正史(医) 福永 昭廣(医)

科目の目標

医学を志す学生にとって、動物の基本構造についての知識は、将来、人体の構造と機能を学ぶために必要なものである。ここでは、下等脊椎動物である軟骨魚類、高等脊椎動物である哺乳類、その間に位置する両生類の解剖を行い、脊椎動物の諸器官の構造変化を系統的に理解することを目的とする。

授業内容

第1週:ウニの発生観察 第2週:サメの解剖(消化器・泌尿器・循環器の観察) 第3週:カエルの解剖(消化器・泌尿器・循環器の観察) 第4週:ラットの解剖(消化器・泌尿器・循環器の観察) 第5週:サメ・カエルの脳解剖 第6週:ラットの脳解剖 第7週:試験

第1週はウニの受精卵からブルテウス期までの顕微鏡観察を行い、動物の初期発生を学ぶと共に、顕微鏡の使用方法についても習熟する。第2週から7週では脊椎動物の構造を系統的に理解するため、軟骨魚類・両生類・哺乳類の解剖実習を行い、消化器系・泌尿器系・脳神経系などの諸器官の構造を観察する。また、解剖用メス、ハサミなどの使用方法についても習熟する。

評価方法

出席率とレポートの内容により評価する。

コメント

先に講義を行い、引き続き実習に移るので、1時までに講義室に集合のこと。

教科書等

実験書は配布する。

一般地球学A-I

2単位

General Geosciences A-I

クラス	期・曜・時	担当者
S I 地S低(数物質化生)H低(環)	前・水・2	升本 眞二(理)

科目の目標

地球とはどういうものか、現在の地球はどのような状態にあるのか、また、どのような過程を経て現在のようになったかの理解を目標とする。とくに、地球の過去を解明するための基本として必要な年代測定法とそれらに基づく地球・生物の変遷史、および地球上で起こる様々な地学現象を理解するためのプレートテクトニクスなどを重点的に学ぶ。

授業内容

1. 地球を解明するための視点(時間と空間のスケール)
2. 岩石・地層等の年代(放射年代と化石; 3回)
3. 地球・生物の歴史と環境変遷(2回)
4. 地球の形と地図(2回)
5. 地球表層部の形態(陸地と海洋の形)
6. 地球の物理学的特性(重力・磁力・熱)
7. プレートテクトニクス(生成から消滅, 運動学; 3回)

8. 岩石の種類とその成因

9. 地震と活断層

(教材に基づいた講義を主として、演習等を毎回行う。)

評価方法

地球の形や地球の過去の歴史とそれらを解明するための手法、プレートテクトニクスの考え方などの理解度を演習・小テスト・レポートによる平常点(40%)と期末試験の成績(60%)で評価する。

コメント

高等学校での地学の履修の有無は問わない。なお、理学部地球学科の必修科目である。

教科書等

教科書は使用しない。講義に関係する教材を適宜配布する。

参考書: A.ホームズ著『一般地質学I・II・III』(東京大学出版会)。上田誠也著『新しい地球観』(岩波新書)など。

一般地球学A-II

2単位

General Geosciences A-I

クラス	期・曜・時	担当者
S I 地 S低(数物質化生)H低(環)	後・水・2	篠田 圭司(理)

科目の目標

地球は様々な物質から構成され、温度・圧力の変化にともない状態変化を起こす。また、地球誕生以来、時間の経過に伴って地球は様々な変遷を経てきた。地球物質の多様性と時間的経過の観点から地球を理解するために、地球を構成する物質の特徴と年代の決定法、それに伴う地球の活動を概説する。

授業内容

1. 固体地球の構造: 地震波による地球内部構造の推定法。地球内部構成物質の特徴。
2. 岩石と鉱物: 化学組成による岩石・鉱物の分類、鉱物の同定法など。
3. 地球の歴史: 放射性同位体を用いた絶対年代決定法。
4. 水惑星としての地球: 水の化学的特徴と環境に及ぼ

す影響。海洋と大気形成、地球の平均気温と温室効果。

5. 地球の活動: 火成作用、変成作用など、地殻における物質の変遷。地球物質の温度・圧力による状態変化の基本的な考え方。

評価方法

主として期末試験により評価する。

コメント

高等学校での地学の履修の有無を問わないが、高等学校の地学の未履修者には、地学の基礎的事項の自習を期待する。高校の理科の基礎的な知識を前提とする。

地球学科の必修科目である。

教科書等

図説地球科学(岩波書店)。他の参考書等は授業中に適宜指示する。授業内容に関連した印刷物を配布する。

一般地球学B-I

2単位

General Geosciences B-I

クラス	期・曜・時	担当者
S低(数物質) T I (機建物材都) T III (電) H低(環)	前・水・2	江崎 洋一(理)

科目の目標

これからの人類には、生存の基盤である地球をよりよく理解することが求められる。本科目では、地球学の基礎概念、基本的な地球の構成と歴史、及びそれらの研究方法をおさえつつ、最近次々と明らかになってきている大規模な地球環境の変遷に焦点をあわせ、これからの地球に対して人類はどうあるべきかを考える。

授業内容

1. 地球の構成：地球システムにおける様々なサブシステム、地球ダイナミクス（物質循環）
2. 原始地球の発達過程：マグマオーシャンの形成、コア・マンツルの分離。
3. 地殻の発達過程：大陸・超大陸の出現と離合集散、

プレートテクトニクス。

4. 生物の進化過程：生命の誕生、カンブリア紀大爆発(爆発的多様化)、5大生物大量絶滅事件。
5. 地球環境の変遷：大気・海洋の出現と変遷、全球凍結事件、氷期・間氷期、地球環境問題。

評価方法

定期試験により評価する。

コメント

高等学校での地学の履修の有無を問わない。

教科書等

特に指定しない。必要な資料は適宜プリントにて配付する。

一般地球学B-II

2単位

General Geosciences B-II

クラス	期・曜・時	担当者
S低(数物質) T I (機建物材都) T III (電) H低(環)	後・水・2	井上 淳(特任)

科目の目標

地球上に起こってきた、そして現在も起こっている様々な地学現象を鉱物・岩石・岩体の形成過程をとおして理解することを目標とする。

授業内容

1. ガイダンス・地球の構造
2. 地殻の構成物質：鉱物の性質
3. 地殻の構成物質：ケイ酸塩鉱物
4. 地球の内部構造の探求
5. プレート・テクトニクス
6. プレートテクトニクス・プレュームテクトニクス
7. 火成作用：火成岩、火山の噴火様式

8. 火成作用：火山活動と火山災害
9. 火成作用：マグマの生成とマグマの結晶作用
10. 変成作用：変成岩、変成相、変成帯
11. 積成作用：堆積岩、風化・浸食・移動・堆積・続成
12. 地震：活断層、兵庫県南部地震
13. 地質と災害：マスムーブメント
14. 日本列島の地史

評価方法

試験成績で評価する。

教科書等

指定しない。副読本「地球学へのいざない」（大阪公立大学共同出版会）

建設地学

2 単位

Geology for Engineers

クラス	期・曜・時	担当者
T II (基都)	後期・月・3	升本 眞二(理) 他
T IV (建)		
H II (環)		

科目の目標

固体地球に関わる諸現象の理解は、建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって不可欠な素養である。本科目は、地球に直接携わる技術者となる学生を対象とし、地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、人為的環境変化、自然災害と防止に関する基礎的知識を習得する。

授業内容

1. 地球の形と内部構造：地球の大きさ、地球の成層構造、プレート運動
2. 岩石を構成する鉱物：鉱物の定義、X線回折による同定法
3. 火山活動と火山災害：火山の噴火様式、火山災害の種類、ハザードマップ
4. 岩石の構成鉱物と分類：岩石の成因、分類、命名法
5. 地層を読む：地層の記録された過去の地球環境、環境変遷、環境変動リズム
6. 地球の歴史：地球の成り立ちと生き立ち、地球史の研究手法
7. 日本列島の地史：付加体の形成過程、日本列島の誕生、第四紀堆積盆地の成り立ち
8. 第四紀の自然環境変遷：第四紀の堆積物・地層から自然環境を解説する研究方法
9. GISとリモートセンシング：地球の情報を処理するためのGISの基礎概念と応用、リモートセンシングによる地球科学解析

10. 地球表層の水：河川水・地下水の化学組成、水質獲得、水資源問題
11. 脆弱な日本の国土と災害：災害列島日本の特徴とヒューマンインパクトとの関係
12. 地震と災害：地震の発生と地盤災害・津波災害との関係
13. 都市の地盤構造と地盤災害：地盤沈下・地震時の地盤挙動、平野の地層構成との関係

評価方法

地球に関する基礎概念（地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、環境変化、自然災害と防止）に対する理解の程度を定期試験の成績（50%）と小テスト・レポートの成績（50%）で評価する。

コメント

高等学校における「地学」を履修していないことを前提に授業を行う。「建設地学実習」と連動した講義を行うので、原則として同時に受講すること。時間割等の都合で、講義のみを受講したい場合は担当者に相談すること。

教科書等

授業で用いる参考図表は、その都度配布する。

参考書：藤田和夫他著『改稿 新地学』（学術図書出版）、アーサー・ホームズ著上田誠也他訳『一般地質学I、II、III』（東京大学出版）、Skinner and Porter “The Dynamic Earth”（Wiley）

建設地学実習

1 単位

Geology, Laboratory Exercises for Engineers

クラス	期・曜・時	担当者
T II (基都)	後期・月・4	升本 眞二(理) 他
T IV (建)		
H II (環)		

科目の目標

現在の建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって、地球に対する基礎知識が不可欠である。具体的な実験および実習を通じて、地球物質の特性、地球の進化および地球環境についての認識を深める。

授業内容

下記の項目について、実習・実験を行う。

1. 歩測による距離の測定：複歩の数え方、歩幅の算定、歩数による距離の算定、歩測の精度
2. 鉱物の特徴、結晶によるX線の回折：回折格子によるレーザーの回折、粉末X線回折による鉱物同定
3. 火山活動の様式：火山噴出物の観察、火山地形・火山地質図の読み方
4. 岩石の構成鉱物と内部構造：岩石の分類、肉眼・顕

5. 水流による砂床形：水路実験による水流特性と砂床形の関係の観察
6. 古生物から知る地球の歴史：地球史における生物変遷と化石観察法
7. 地質図の書き方と読み方：地層の走向傾斜の測り方、地質図の作図法の基礎
8. 堆積物の分類と粒度組成：堆積物の分類、粒度分析
9. GISとリモートセンシング：GISによる地球情報の処理・可視化およびリモートセンシングによる植生指標の抽出
10. 都市の水環境：大和川の水質汚染
11. 地形変化と災害：地形図による都市の災害地形判読

12. 地震と活断層：空中写真による活断層の地形判読
13. 都市の地盤特性と地震動被害：データベースで見る大阪の地盤特性

評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

コメント

高等学校における「地学」を履修していないことを前提に授業を行う。「建設地学」と連動した実習・実験を行うので、原則として同時に受講すること。時間割等の都合で、「建設地学実習」のみを受講したい場合は担当者にご相談すること。

教科書等

テキストを配布する。

地球学実験A

2単位

Geology for Engineers

クラス	期・曜・時	担当者
S I 地S低(数物質化生) T II (機材)	前・木・3~4	前島 渉(理) 他

科目の目標

地球の大部分は我々が直接見たり触れたりすることができない。しかし、多くの場合、これをある程度の確かさで知ることができる。この解析のためには、広範な知識や、やや特殊な技術が必要となる。これらの基本的な事項について、具体的な実験および演習を通して幅広く習熟する。

授業内容

- (1) 地質図の描き方と読み方
- (2) 岩石の構成鉱物と内部構造：岩石の分類および命名法
- (3) 岩石の構成鉱物と内部構造：肉眼・顕微鏡による観察法・火山噴出物・火山噴火の様式
- (4) 堆積岩の構成と分類：碎屑粒子の観察、粒度特性
- (5) 堆積岩の構成と分類：堆積環境と地層内部構造の形

成過程、礫の形状・水流による砂床形

- (6) 地震波による地球内部の構造解析：地震波の計測方法、走時曲線と速度構造解析・地球内部の速度分布と物性分布
- (7) パソコンによるデータ処理：測定値の基本処理

評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

コメント

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学」を受講しておくか、同時に受講する方が望ましい。

教科書等

テキストを配布する。

地球学実験B

2 単位

Geosciences, Laboratory Exercises B

クラス	期・曜・時	担当者
S I 地S低(数物質化生) T II (建) T III (都)	後・木・3~4	篠田 圭司(理) 他

科目の目標

地球が形成されて以来、地球全体は幾多の変遷を繰り返して長い時間を経過して現在の姿になった。場の状態と地球物質の挙動、生物の進化、人間の活動と地球環境などから基本的な事項を取り出して、具体的な解析を進めながら、地球の進化と地球環境についての認識を深める。

授業内容

- (1) 鉱物の同定法：鉱物によるX線の回折（回折格子によるレーザーの回折）、粉末X線回折による鉱物の同定
- (2) パソコンによるデジタル地形図の作成と3次元可視化
- (3) 地層形成と平野地盤の特性：平野地盤の物理的特性・平野地盤情報のコンピュータによるデータ処理
- (4) 地球表層部の構造解析：地形図・空中写真による地

形判読と災害

- (5) 地球史における生物変遷と化石記録
- (6) 化石の摘出・観察・解析
- (7) 地球表層の水：河川水・地下水の化学組成、鉱物と水の反応

評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

コメント

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学」を受講しておくか、同時に受講の方が望ましい。

教科書等

テキストを配布する。

図形科学 I

2 単位

Graphic Science I

クラス	期・曜・時	担当者
T I (物) T II (情) H I 環	前・月・2	鈴木 広隆(工)
T I 建都	前・金・3	鈴木 広隆(工)
T I (基)※	前・木・5	鈴木 広隆(工)

全学基礎教育科目図形科学 I・II は、設計製図の基礎としてではなく、図を介してコミュニケーションを円滑に行う能力を養成するデザイン言語教育として開講されている。図形科学 I は、必修・選択科目として提供している学科・学部以外の学生の皆さんにも履修が可能となるよう木曜日の5限に開講しているので、積極的に履修して欲しい。ただし、卒業に必要な単位に認められるかどうかは、所属学科・学部にお問い合わせ確認しておくこと。

科目の目標

図形科学 I では、デザイン言語教育の一環として、図法幾何学における投影法、及び図形解析を学ぶ。投影法は、3次元の図形・空間情報を2次元に変換する理論・技術を学ぶことを目的としている。図形解析は、様々な図形・空間情報の状態を定量的に評価する理論・技術を学ぶことを目的としている。図形解析の実践的な理解のため、地理情報システム (GIS) を用いた演習形式の授

業も取り入れている。

授業内容

- 第1週 ガイダンス（講義の目的、計画、用意するもの）
- 第2週 投影法の分類、平行投影、正投影（第三角法）
- 第3週 直軸測投影法（等測投影）、斜軸測投影法
- 第4週 中心投影、透視投影1（直接法1）
- 第5週 透視投影2（直接法2）
- 第6週 中間試験
- 第7週 透視投影3（消点法1）
- 第8週 透視投影4（消点法2）
- 第9週 透視投影5（距離点法1）
- 第9週 透視投影6（距離点法2）
- 第10週 透視投影7（簡易消点法）
- 第12週 図形の分析評価1（地理情報システムイントロダクション）
- 第13週 図形の分析評価1（形の複雑さを測る）
- 第14週 図形の分析評価1（点の分布及び線分のネッ

トワークの特性を測る)

評価方法

中間試験の結果(10%)及び学期末試験の結果(90%)により評価を行う。なお、出席は、評価の上で点数としては考慮しないが、出席が4/5に満たない場合は単位を認めない。

コメント

授業の中で作図の演習を行うため、直定規(透明30cm以上)・三角定規(斜辺25cm以上)・コンパス(足の開きをコマでコントロールするタイプ)などの作図用

具が必要となる。詳細は、初回の授業のガイダンスの際に指示を行う。

なお、※の授業については、該当学部学科以外の学生でも希望者は受講することができる。ただし、卒業単位としての認定の可否については、所属学部・学科へ各自確認すること。

教科書等

鈴木広隆「図形科学Ⅰ」(大阪市立大学生協で販売)を使用。演習課題については適宜配布する。

図形科学Ⅱ

2単位

Graphic Science II

クラス	期・曜・時	担当者
TⅠ(物)TⅡ(情) HI環	後・月・2	鈴木 広隆(工)
TⅠ建都	後・金・3	鈴木 広隆(工)
TⅠ(基)	後・火・4	鈴木 広隆(工)

科目の目標

図形科学Ⅱでは、図を介してコミュニケーションを行う能力を養成するデザイン言語教育の一環として、コンピュータグラフィクス(CG)に関する講義・演習を行う。図形科学Ⅰでの作図は、線画によるものが中心であったが、図形科学Ⅱでは、光や色による効果なども学び、その上で自分で新たな図形を生み出すデザイン力を身に付けることを目標としている。

授業内容

- 第1週 Introduction
- 第2週 POV-Rayの基礎
- 第3週 オブジェクトの記述方法
- 第4週 回転、拡大・縮小、移動、繰り返し
- 第5週 条件分岐、定義済みの色の利用、ブロックパターンの利用
- 第6週 CSGモデル
- 第7週 光の取り扱い(光源、反射、透過)
- 第8週 中間試験
- 第9週 テクスチャの利用、グループの利用、角柱、回転体
- 第10週 その他知っておくと良いこと
- 第11週 CGアニメーションの作り方1

- 第12週 CGアニメーションの作り方2
- 第13週 CGアニメーションの作り方3
- 第14週 GUI型モデラーを用いた図形デザイン

評価方法

2つの小課題の提出作品(20%)、最終課題の提出作品(44%)、中間試験の結果(10%)及び学期末試験の結果(26%)により評価を行う。なお、課題の提出と学期末試験は必須であるので、どれか1つでも不足がある場合には単位を認めない。

コメント

手書きによる図の描き方、投影法の知識などが必要となるので、図形科学Ⅰを事前に履修しておくことが望ましいが、必須条件ではない。

授業中に演習の時間を確保するが、作品を完成させるためには授業時間を超える取り組みが必要となる。このため、履修学生自身が所有するコンピューターか学術情報センターの端末を利用することとなる。

教科書等

鈴木広隆、三木信博「図形科学Ⅱ」(大阪市立大学生協で販売)を使用。過去の提出作品や履修学生へのメッセージは、次のURLのホームページに掲載されている。
<http://graphics.arch.eng.osaka-cu.ac.jp/zukeikagaku/>

4. 外国語科目

(1) 第 1 部

- 外国語科目のクラス分け
- 外国語の科目の履修について
- シラバス

英 語
ド イ ツ 語
フ ラ ン ス 語
中 国 語
ロ シ ア 語
朝 鮮 語
日 本 語

○外国語のクラス分け

英語のクラス分け表 *別途掲示によること。

新修外国語クラス分け表 *クラス内の数字は、各所属学部 of 学籍番号下 3 桁を表す。

学部	科目 クラス	ド イ ツ 語					フ ラ ン ス 語						
		基礎 1・2 基礎 3、4	応用 1 A 応用 2 A	応用 1 B 応用 2 B	中級 1、2 上級 1	特修 (12科目)	基礎 1・2 基礎 3、4	応用 1 A 応用 2 A	応用 1 B 応用 2 B	中級 1、2 上級 1	特修 (10科目)		
商学部		1 クラス	/	1 クラス			1 クラス	/	1 クラス				
経済学部		1 クラス	/	/			1 クラス	/	/				
法学部	a	001～085	001～085	/			1 クラス	1 クラス	/				
	b	086～終	086～終	/									
文学部		1 クラス	1 クラス	/			1 クラス	1 クラス	/				
理学部	a	数学・化学	※下記参照			1 クラス	1 クラス	1 クラス	※下記参照			1 クラス	1 クラス
	b	物理・物質											
	c	生物・地球											
工学部	a	機械工学	1 クラス			1 クラス	1 クラス	工学部T、生活科学部H (T,H)クラス					
	b	電気工学											
	c	応用化学 建築											
	d	都市基盤 応用物理											
	e	情報工学 バイオ工学 知的材料 環境都市											
医学部		1 クラス	/	/			1 クラス	/	/				
生活科学部		1 クラス	/	1 クラス			1 クラス	/	工学部T、生活科学部H (T,H)クラス				

※ このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、当該科目の授業担当者に履修についての相談をすること。

新修外国語クラス分け表 *クラス内の数字は、各所属学部の学籍番号下3桁を表す。

学部	科目 クラス	中 国 語					ロ シ ア 語			朝 鮮 語			
		基礎1・2 基礎3、4	応用1A 応用2A	応用1B 応用2B	中級1、2 上級1	特修 (10科目)	基礎1・2 基礎3、4	応用1A、2A 応用1B、2B 中級1、上級1	特修 (2科目)	基礎1・2 基礎3、4	応用1A、2A 応用1B、2B 中級1、上級1	特修 (2科目)	
商学部	a	001~065	/	001~065	/	/	/	/	/	/	/	/	
	b	066~130		066~130									
	c	131~終		131~終									
経済学部	a	001~075	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	b	076~150											
	c	151~終											
法学部	a	001~085	001~085	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	b	086~終	086~終										
文学部	a	001~075	001~075	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	b	076~終	076~終										
理学部		※下記参照			1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	
工学部	a	機械工学 電気工学 応用化学	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	b	建 築 都市基盤 応用物理											1クラス
	c	情報工学 バイオ工学 知的材料 環境都市											1クラス
医学部	a	医 学 部 居住環境	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
生活科学部	b	食品栄養 人間福祉											2クラス 学内 クラス選択

※ このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、当該科目の授業担当者に履修についての相談をすること。

○ 外国語科目の履修について

(1) 提供科目

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語の6か国語を提供している。なお、外国人留学生を対象に日本語も提供している。

(2) 科目の構成及び履修方法

ア. 英語

① 必須科目

[平成19年度以降入学学生の場合]

学部別提供英語として、1年次は「College English (CE) I・II・III・IV」が、2年次には「College English (CE) V・VI」が提供されている。クラス指定制とする。

[平成18年度入学学生の場合]

「英語1 A・1 B」「英語2 A・2 B」「上級英語A・B」用に再履修科目が提供されている。

[平成17年度以前入学学生の場合]

「英語1 A・1 B」「英語2 A・2 B」「英語3 A・3 B」「英語4 A・4 B」用に再履修科目が提供されている

② 選択科目

Advanced College English (ACE)

☆受講希望者は、「ACEの履修方法について」(P.181~182)を参照すること。

イ. 新修外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語)

[平成18年度以前入学学生の場合]

新修外国語では、コア科目である「基礎1・2」「基礎3」「基礎4」の他に、Aパターンの学部向けに「応用1 A」「応用2 A」が、Bパターンの学部向けに「応用1 B」「応用2 B」が提供されている。また、全学向けに「特修」が提供されている。

前期に「基礎1・2」「応用1 A」および「応用1 B」が、後期に「基礎3」「基礎4」「応用2 A」および「応用2 B」が提供される。「特修」は、前期ならびに後期に提供される。

なお、「新修外国語履修の仕方について」(P.183)を参照すること。

[平成17年度以前入学学生の場合]

前期に「中級1」「上級1」が、後期に「中級2」が提供される(ただし、「ロシア語」については、前期に「中級」が、後期に「上級」が提供される。また、「朝鮮語」については、前期にのみ「中級」「上級」が提供される)。「入門1・2」「入門3」「初級1」「初級2」「初級3」は提供されないため、平成18年度以降入学学生向けの科目をもって読み替えること。詳しくは、「新修外国語履修の仕方について」(P.185)を参照すること。

ウ. 日本語 (外国人留学生向け)

日本語は「1 A、1 B」「2 A、2 B」「3 A、3 B」「4 A、4 B」「5 A、5 B」(Aは前期、Bは後期)が提供されている。なお、「新修外国語履修の仕方について」(P.183・P185)を参照すること。

(3) 単 位

新修外国語の「特修」および、ペア科目の「基礎1・2」は各セメスターで2単位である。他は、各セメスターで1単位である。

★ 出席日数が実授業日数の3/4に満たない場合は、単位を与えないことがある。

○ シ ラ バ ス

英 語 English

カリキュラム概要

日本の中学校・高等学校における英語教育は、単に技能の習熟にとどまらず、全人教育を目指すものである。本学では、これをさらに発展させ、生きたことばとしての英語の習得を目的とする。生きたことばとは、自分の考えを表現し、相手の意図を理解するために自然に使われることばを指す。そこには、コミュニケーションの道具としてだけでなく、思考の手段としてのことばも含まれる。本学において、生きたことばとしての英語の習得を達成するために、母語獲得の場合と同様に、必要以上に文法を意識することなく、ごく普通に意味を理解する英語運用能力の養成と強化を目指す。

この考えに基づき、昨年、英語カリキュラムが大幅に変更された。1年生、2年生ともに25名ほどの少人数・習熟度別クラス編制で、必修科目のCollege English (CE) が、1年生で4時間、2年生で2時間の合計6時間提供される。本カリキュラムに基づき、先述の英語運用能力の習得を目指す。

1年生の授業は、英語が母語の教員が主に担当し、学生のレベルに合わせた英語教育を行う。前・後期ともに、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランスよく伸ばすことを目標とし、リスニングとスピーキング中心のクラスと、リーディングとライティング中心のクラスをそれぞれ1時間ずつ、合計週2時間の授業を行う。前期の授業では、中学校・高等学校で習得した基本的な英語の運用能力に基づき、大学生の知的レベルにあった話題を扱い、4技能の基礎力の育成と強化を目指す。後期の授業では、前期と同レベルで、大学生の知的好奇心を満たす話題を扱いながら、授業で扱う英語の量を前期と比較して1.5倍ほどに増やし、それに比例して英語の理解と表現に費やす時間を増やすことにより、4技能の基礎力の定着を図るとともに応用力を養成する。

2年生の授業では、1年生で培った英語運用能力の強化、即ち、基礎力のアップと応用力の習得を目的とする。前期の目標は、CE I～IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることにある。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。後期の授業目標は、所属学部の専門性を考慮し、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることにある。具体的には、専門に近い内容を扱い、リーディングとライティングに重点を置いた授業を行う。これにより、専門科目で使用される英語に対処できる応用力の習得を目指す。

さらに高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、理解力を磨くことを目的とした自由選択科目のAdvanced College English (ACE) を開講する。

英語カリキュラム編制表

必修科目				選択科目
1年	前期	CE I	CE II	
	後期	CE III	CE IV	
2年	前期	CE V		ACE
	後期	CE VI		

履修科目内容

< 1 年 >

(1) College English I (CE I)

目標：中学・高校で習得した基本的な英語のリスニング・スピーキングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語を聞いて大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英語で表現しようとする力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の担当教員の評価と共通テストの結果を合算する。担当教員の評価と共通テストの比率は、60：40とする。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リスニングからスピーキングへ段階的に移行する。
- (2) リスニングとスピーキングの双方向で言語運用を行う。
- (3) スピーキングを通してリスニングを強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I a	月・1	(Fenstermaker)	TN I a	月・3	[David]
CL I b	月・1	(Beresford)	TN I b	月・3	(Campbell)
CL I c	月・1	(Nuspliger)	TN I c	月・3	(Quinn)
CL I d	月・1	(Rice)	TN I d	月・3	(Feldman)
CL I e	月・1	(Feugas)	TN I e	月・3	(Jacobs)
CL I f	月・1	(Mercier)	TN I f	月・3	(Fenstermaker)
CL I g	月・1	(Thorson)	TN I g	月・3	(Beresford)
CL I h	月・1	[Leigh]	TN I h	月・3	(Nuspliger)
CL I i	月・1	[David]	TN I i	月・3	(Rice)
CL I j	月・1	(Campbell)	TN I j	月・3	(Feugas)
CL I k	月・1	(Quinn)	TN I k	月・3	(Mercier)
CL I l	月・1	(Feldman)	TN I l	月・3	(Thorson)
CL I m	月・1	Ikari	TN I m	月・3	(Sievert)
CL I n	月・1	Richards	TN I n	月・3	[Yamamoto]
EJ I a	月・2	(Quinn)	SMH I a	月・4	(Mercier)
EJ I b	月・2	(Feldman)	SMH I b	月・4	(Thorson)
EJ I c	月・2	(Jacobs)	SMH I c	月・4	(Sievert)
EJ I d	月・2	(Fenstermaker)	SMH I d	月・4	[David]
EJ I e	月・2	(Beresford)	SMH I e	月・4	(Campbell)
EJ I f	月・2	(Nuspliger)	SMH I f	月・4	(Quinn)
EJ I g	月・2	(Rice)	SMH I g	月・4	(Feldman)
EJ I h	月・2	(Feugas)	SMH I h	月・4	(Jacobs)
EJ I i	月・2	(Mercier)	SMH I i	月・4	(Fenstermaker)
EJ I j	月・2	(Thorson)	SMH I j	月・4	(Beresford)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
EJ I k	月・2	[Leigh]	SMH I k	月・4	(Nuspliger)
EJ I l	月・2	[David]	SMH I l	月・4	(Rice)
EJ I m	月・2	(Campbell)	SMH I m	月・4	(Feugas)
EJ I n	月・2	[Yamamoto]	SMH I n	月・4	[Leigh]
EJ I o	月・2	Richards			

(2) College English II (CE II)

目標：中学・高校で習得した基本的な英語のリーディング・ライティングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。

授業では大学生の知的レベルに合った話題を扱い、英語で書かれた文章の大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英文で表現する力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の担当教員の評価と共通テストの結果を合算する。担当教員の評価と共通テストの比率は、70：30とする。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リーディングからライティングへ段階的に移行する。
- (2) リーディングとライティングの双方向で言語運用を行う。
- (3) ライティングを通してリーディングを強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
EJ I a	水・1	(Nuspliger)	SMH I a	水・3	(Quinn)
EJ I b	水・1	(Rice)	SMH I b	水・3	(Feldman)
EJ I c	水・1	(Feugas)	SMH I c	水・3	(Jacobs)
EJ I d	水・1	(Mercier)	SMH I d	水・3	(Micklas)
EJ I e	水・1	(Thorson)	SMH I e	水・3	(Fenstermaker)
EJ I f	水・1	(Sievert)	SMH I f	水・3	(Beresford)
EJ I g	水・1	(Campbell)	SMH I g	水・3	(Nuspliger)
EJ I h	水・1	(Quinn)	SMH I h	水・3	(Rice)
EJ I i	水・1	(Feldman)	SMH I i	水・3	(Feugas)
EJ I j	水・1	(Micklas)	SMH I j	水・3	(Mercier)
EJ I k	水・1	(Fenstermaker)	SMH I k	水・3	(Thorson)
EJ I l	水・1	[Ohno]	SMH I l	水・3	(Sievert)
EJ I m	水・1	Tanaka	SMH I m	水・3	(Campbell)
EJ I n	水・1	(Beresford)	SMH I n	水・3	[Leigh]
EJ I o	水・1	[Leigh]	TN I a	水・4	(Thorosn)
CL I a	水・2	(Micklas)	TN I b	水・4	(Sievert)
CL I b	水・2	(Fenstermaker)	TN I c	水・4	(Campbell)
CL I c	水・2	(Beresford)	TN I d	水・4	(Quinn)
CL I d	水・2	(Nuspliger)	TN I e	水・4	(Feldman)
CL I e	水・2	(Rice)	TN I f	水・4	(Jacobs)
CL I f	水・2	(Feugas)	TN I g	水・4	(Micklas)
CL I g	水・2	(Mercier)	TN I h	水・4	(Fenstermaker)
CL I h	水・2	(Thorson)	TN I i	水・4	(Beresford)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I i	水・2	(Campbell)	TN I j	水・4	(Nusplinger)
CL I j	水・2	(Quinn)	TN I k	水・4	(Rice)
CL I k	水・2	(Feldman)	TN I l	水・4	(Feugas)
CL I l	水・2	Richards	TN I m	水・4	(Mercier)
CL I m	水・2	[Ohno]	TN I n	水・4	[Ohno]
CL I n	水・2	(Jacobs)			

(3) College English III (CE III)

目標：前期の授業を発展させ、リスニング・スピーキングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語を聞いて正確に理解する力、並びに、自分の考えを英語で適切に表現する力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の担当教員の評価の評価と共通テストの結果を合算する。担当教員の評価と共通テストの比率は、60：40とする。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。前期と比べ、扱う言語データ量（音声）を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリスニングに重点を置きながら、段階的にスピーキングに移行する。
- (2) リスニングとスピーキングを強化しながら、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) スピーキング力を向上させることにより、リスニング力をさらに強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I a	月・1	(Thorson)	TN I a	月・3	(Jacobs)
CL I b	月・1	(Rice)	TN I b	月・3	(Feldman)
CL I c	月・1	(Feugas)	TN I c	月・3	(Fenstermaker)
CL I d	月・1	(Beresford)	TN I d	月・3	(Mercier)
CL I e	月・1	(Campbell)	TN I e	月・3	(Quinn)
CL I f	月・1	(Nusplinger)	TN I f	月・3	(Sievert)
CL I g	月・1	(Feldman)	TN I g	月・3	[David]
CL I h	月・1	(Fenstermaker)	TN I h	月・3	(Thorson)
CL I i	月・1	(Mercier)	TN I i	月・3	(Rice)
CL I j	月・1	(Quinn)	TN I j	月・3	(Feugas)
CL I k	月・1	[Leigh]	TN I k	月・3	(Beresford)
CL I l	月・1	Ikari	TN I l	月・3	(Campbell)
CL I m	月・1	Richards	TN I m	月・3	(Nusplinger)
CL I n	月・1	[David]	TN I n	月・3	(Yamamoto)
EJ I a	月・2	(Mercier)	SMH I a	月・4	(Beresford)
EJ I b	月・2	(Quinn)	SMH I b	月・4	(Campbell)
EJ I c	月・2	[Leigh]	SMH I c	月・4	(Nusplinger)
EJ I d	月・2	[David]	SMH I d	月・4	(Jacobs)
EJ I e	月・2	(Thorson)	SMH I e	月・4	(Feldman)
EJ I f	月・2	(Rice)	SMH I f	月・4	(Fenstermaker)
EJ I g	月・2	(Feugas)	SMH I g	月・4	(Mercier)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
EJ I h	月・2	(Beresford)	SMH I h	月・4	(Quinn)
EJ I i	月・2	(Campbell)	SMH I i	月・4	(Sievert)
EJ I j	月・2	(Nuspliger)	SMH I j	月・4	[David]
EJ I k	月・2	(Jacobs)	SMH I k	月・4	(Thorson)
EJ I l	月・2	(Feldman)	SMH I l	月・4	(Rice)
EJ I m	月・2	(Fenstermaker)	SMH I m	月・4	(Feugas)
EJ I n	月・2	[Yamamoto]	SMH I n	月・4	[Leigh]
EJ I o	月・2	Richards			

(4) College English IV (CE IV)

目標：前期の授業を発展させ、リーディング・ライティングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語で書かれた文章を正確に理解する力、並びに、自分の考えを英文で適切に表現する力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の担当教員の評価と共通テストの結果を合算する。担当教員の評価と共通テストの比率は、70：30とする。

段階別到達度：前期と比べ、扱う言語データ量（文字）を1.5倍ほどに増やす。前期と比べ、扱う言語データ量（音声）を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリスニングに重点を置きながら、段階的にライティングに移行する。
- (2) リーディングとライティングを強化しつつ、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) ライティング力を向上させることにより、リーディング力をさらに強化する。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
EJ I a	水・1	(Rice)	SMH I a	水・3	(Mercier)
EJ I b	水・1	(Feugas)	SMH I b	水・3	(Micklas)
EJ I c	水・1	(Beresford)	SMH I c	水・3	(Quinn)
EJ I d	水・1	(Campbell)	SMH I d	水・3	(Sievert)
EJ I e	水・1	(Nuspliger)	SMH I e	水・3	(Thorson)
EJ I f	水・1	(Feldman)	SMH I f	水・3	(Rice)
EJ I g	水・1	(Fenstermaker)	SMH I g	水・3	(Feugas)
EJ I h	水・1	(Mercier)	SMH I h	水・3	(Beresford)
EJ I i	水・1	(Micklas)	SMH I i	水・3	(Campbell)
EJ I j	水・1	(Quinn)	SMH I j	水・3	(Nuspliger)
EJ I k	水・1	(Sievert)	SMH I k	水・3	(Jacobs)
EJ I l	水・1	[Ohno]	SMH I l	水・3	(Feldman)
EJ I m	水・1	Tanaka	SMH I m	水・3	[Leigh]
EJ I n	水・1	(Thorson)	SMH I n	水・3	(Fenstermaker)
EJ I o	水・2	[Leigh]	TN I a	水・4	(Feldman)
CL I a	水・2	(Quinn)	TN I b	水・4	(Fenstermaker)
CL I b	水・2	(Thorson)	TN I c	水・4	(Mercier)
CL I c	水・2	(Rice)	TN I d	水・4	(Micklas)
CL I d	水・2	(Feugas)	TN I e	水・4	(Quinn)

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I e	水・2	(Beresford)	TN I f	水・4	(Sievert)
CL I f	水・2	(Campbell)	TN I g	水・4	(Thorson)
CL I g	水・2	(Nuspliger)	TN I h	水・4	(Rice)
CL I h	水・2	(Jacobs)	TN I i	水・4	(Feugas)
CL I i	水・2	(Feldman)	TN I j	水・4	(Beresford)
CL I j	水・2	(Fenstermaker)	TN I k	水・4	(Campbell)
CL I k	水・2	(Mercier)	TN I l	水・4	(Nuspliger)
CL I l	水・2	Richards	TN I m	水・4	[Ohno]
CL I m	水・2	(Micklas)	TN I n	水・4	(Jacobs)
CL I n	水・2	[Ohno]			

再履修クラス (CE I・II・III・IV)

目標：平成19年度以降の入学で再度履修者を対象とし、CE I・II・III・IVの再習熟をはかる。

履修条件：受講を希望する者は、どの科目とも、必ず、各学期の最初の授業に出席して担当者に申込みこと。

CE I・II (後期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	Tanaka	全「再」	水・5	[Yamamoto]

CE III・IV (前期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	Tanaka	全「再」	水・5	[Yamamoto]

< 2年 >

(5) College English V (CE V)

目標：1年生で培った英語運用能力の基礎力アップを目指す。CE I～IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることを目標とする。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の担当教員の評価と共通テストの結果を合算する。担当教員の評価と共通テストの比率は、70：30とする。

段階別到達度：4技能に関して、インプットとアウトプットのバランスを考慮し、以下の段階を踏まえた授業を行う。

- (1) リスニングとリーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リスニングとリーディングに、それぞれスピーキングとライティングの要素を取り入れた授業を行う。
- (3) スピーキングとライティングに重点を置いた授業を行う。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
CIIa	火・1	(高 基秀)	HIIc	木・1	(笠巻 知子)
CIIb	火・1	(倉恒 澄子)	HII d	木・1	(藤井 佳子)
CIIc	火・1	古賀 哲男	HII e	木・1	(中村 裕子)
CII d	火・1	(筒井 香代子)	SII a	木・2	(要 素子)
CII e	火・1	(野田 三貴)	SII b	木・2	(山口 徳一)
CII f	火・1	(山澤 園子)	SII c	木・2	(藤井 佳子)
CII g	火・1	(山崎 雅人)	SII d	木・2	(高橋 章夫)
CII h	火・1	関 茂樹	SII e	木・2	(川端 淳司)
JII a	火・2	(高 基秀)	SII f	木・2	高島 葉子
JII b	火・2	(倉恒 澄子)	EII a	木・3	(中村 裕子)
JII c	火・2	(野田 三貴)	EII b	木・3	(丹羽 靖子)
JII d	火・2	(山澤 園子)	EII c	木・3	(坂田 智恵子)
JII e	火・2	(須賀 昭代)	EII d	木・3	(高橋 章夫)
JII f	火・2	(伊原 紀子)	EII e	木・3	山崎 雅人
TII a	火・3	荒木 映子	EII f	木・3	野末 紀之
TII b	火・3	岩田 彩志	EII g	木・3	高島 葉子
TII c	火・3	(名和 俊彦)	EII h	木・3	古賀 哲男
TII d	火・3	古賀 哲男	EII i	木・3	杉井 正史
TII e	火・3	田中 孝信	MII a	木・3	廣田 麻子
TII f	火・3	関 茂樹	MII b	木・3	(川越 栄子)
TII g	火・3	杉井 正史	MII c	木・3	(長嶺 圭子)
TII h	火・3	(須賀 昭代)	LII a	木・4	(中村 裕子)
TII i	火・3	(山澤 園子)	LII b	木・4	(丹羽 靖子)
TII j	火・3	(筒井 香代子)	LII c	木・4	(坂田 智恵子)
TII k	火・3	(平出 則子)	LII d	木・4	杉井 正史
TII l	火・3	(伊原 紀子)	LII e	木・4	山崎 雅人
HII a	木・1	(要 素子)	LII f	木・4	岩田 彩志
HII b	木・1	(山口 徳一)			

(6) College English VI (CE VI)

目標：1年生の時に学んだCE I～IV、及び、CE Vで培った基本的な英語運用能力の上に、応用力を習得することを目的とする。所属学部専門性を考慮し、専門に近い内容を扱うリーディングとライティングに重点を置いた授業を行うことにより、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることを目指す。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を基に評価する。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した授業を行う。

- (1) リーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リーディングの中にライティングを取り入れた授業を行う。
- (3) ライティングに重点を置いた授業を行う。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
CIIa	火・1	岩田 彩志	HIIa	木・1	(中村 裕子)
CIIb	火・1	野末 紀之	HIIb	木・1	(要素子)
CIIc	火・1	(高 基秀)	HIIc	木・1	(山口 徳一)
CII d	火・1	衣笠 忠司	HIId	木・1	(川端 淳司)
CIIe	火・1	(山澤 園子)	HIIE	木・1	(藤井 佳子)
CII f	火・1	(倉恒 澄子)	SIIa	木・2	廣田 麻子
CII g	火・1	(筒井 香代子)	SIIb	木・2	(要素子)
CII h	火・1	(野田 三貴)	SIIc	木・2	(山口 徳一)
JIIa	火・2	(伊原 紀子)	SII d	木・2	(藤井 佳子)
JIIb	火・2	(高 基秀)	SIIe	木・2	(高橋 章夫)
JIIc	火・2	(倉恒 澄子)	SII f	木・2	(笠巻 知子)
JII d	火・2	(野田 三貴)	EIIa	木・3	瀬戸 賢一
JIIe	火・2	(山澤 園子)	EIIb	木・3	杉井 正史
JII f	火・2	(須賀 昭代)	EIIc	木・3	岩田 彩志
TIIa	火・3	(名和 俊彦)	EII d	木・3	高島 葉子
TIIb	火・3	(須賀 昭代)	EIIe	木・3	廣田 麻子
TIIc	火・3	(山澤 園子)	EII f	木・3	(坂田 智恵子)
TII d	火・3	(筒井 香代子)	EII g	木・3	(中村 裕子)
TIIe	火・3	(平出 則子)	EII h	木・3	(丹羽 靖子)
TII f	火・3	(伊原 紀子)	EII i	木・3	(高橋 章夫)
TII g	火・3	関 茂樹	LIIa	木・4	杉井 正史
TII h	火・3	古賀 哲男	LIIb	木・4	(高橋 章夫)
TII i	火・3	衣笠 忠司	LIIc	木・4	(長嶺 圭子)
TII j	火・3	荒木 映子	LII d	木・4	(中村 裕子)
TII k	火・3	田中 孝信	LIIe	木・4	(丹羽 靖子)
TII l	火・3	野末 紀之	LII f	木・4	(坂田 智恵子)

CEVI (前期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
MIIa	木・4	(川越 栄子)	MIIc	木・4	廣田 麻子
MIIb	木・4	(長嶺 圭子)			

Advanced College English (ACE)

Advanced College EnglishはCollege English (CE) で培った英語運用能力よりもさらに高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、文章構成力、理解力などを磨くことを目的とした自由選択科目である。提供内容は科目ごとに異なるので、各自の目的に応じて適切な科目を選択することが大切である。

Advanced College English (ACE) の履修方法について

(1) ACEの履修制限について

1年生は受講できない。

1 Semester 1科目とする。

前期にACE科目の受講を希望する者は、学生支援課共通教育担当に申込むこと。「用紙交付」および「受付」は4月3日(木)・4日(金)9時から17時まで。提出できる枚数は、前期・後期ともそれぞれ1枚である。希望者多数の場合は抽選を行う。受講確定者名を4月8日(火)10時に掲示で発表する。

前期の授業は、受講者確定後から行う。後期の受講については、7月中旬に掲示するので見ておくこと。

(2) クラス規模について

各科目とも30名程度とする。

「ACE: TOEFL80」(前期・後期)(全学提供 1単位)

目標: 本講座では、米国及びカナダの主要大学入学の基準である80点(従来のCBTの213点に相当)を取得することを目標とした訓練を行う。ドリル等の演習形式の授業を通して、読解能力・聴解能力の向上、並びに、語彙・文法に関する知識の増強を目指す。

評価方法: 出席回数の要件を満たした学生を対象に、試験・平常点で評価

「ACE: TOEIC650」(前期・後期)(全学提供 1単位)

目標: 企業で海外出張の対象となる基準点突破を目標とした様々な訓練を行う。データやグラフの読み取りはもちろん、リスニング、語彙の強化および文法・構文の知識の整理も行う。ドリルを数多くこなすことによって慣れを養う。

評価方法: 出席回数の要件を満たした学生を対象に、試験・平常点で評価

「ACE: Critical Writing」(前期・後期)(全学提供 1単位)

目標: ある問題やトピックを主體的に設定し、知的探求に値するかを検証し、資料を検索、収集、分析、統合し、問題提起や問題解決策の提示、新たな説の展開等という形で自らの考えを表現する力を養成する

評価方法: 出席回数の要件を満たした学生を対象に、試験・平常点で評価

「ACE: Media English」(前期・後期)(全学提供 1単位)

目標: 現代のような情報化社会においては、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアから日々英語で配信される多量の情報を効率的に収集し、分析・活用するための能力が必要になってくる。本講座では、特に、ジャーナリスト的な英語の読解力、聴解力の強化を目的とする。

評価方法: 出席回数の要件を満たした学生を対象に、試験・平常点で評価

「ACE: Literature」(前期)(全学提供 1単位)

目標: 英米の文学作品を教材に取り上げ、英語の表現の理解だけにとどまらず、その作品をとりまくさまざまな要因(時代背景、作家自身のこと)を考慮に入れながら、その作品を読み解く力を養成する。

評価方法: 出席回数の要件を満たした学生を対象に、試験・平常点で評価

「ACE: Public Speaking」(後期)

目標: 日常英会話とは異なるパブリック・スピーキングの理論的枠組を学ぶとともに、その方法を実際の発表を通して実践的に学び、人前で効率的に英語スピーチが出来る力を養う

評価方法: 出席回数の要件を満たした学生を対象に、試験・平常点で評価

「ACE : Films」(前期)

目標：必ずしも英語そのものの理解だけでなく、作品の背景や、登場人物あるいは作者の思いなども含め、映画を教材にして、総合的な英語力の養成を目指す。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に、試験・平常点で評価

「ACE : Debate」(後期)

目標：我々の身近な問題をさまざまな角度から考え、自分の意見を形成し、他の人と英語で議論することが出来る、日常英会話とは異なる発信能力を養成する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に、試験・平常点で評価

前期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
TOEFL80	全	木・2	(Kasamaki)
TOEIC 650	全	木・1	(Kawabata)
Critical Writing	全	木・4	[David]
Films	全	木・3	[Ohno]
Literature	全	火・4	Tanaka
Media English	全	木・3	Iwata

後期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
TOEFL80	全	木・2	(Kawabata)
TOEIC 650	全	木・1	(Kasamaki)
Critical Writing	全	火・2	Yamazaki
Debate	全	水・4	[Leigh]
Public Speaking	全	木・4	[David]
Media English	全	木・3	(Nagamine)

再度履修者向けクラス (英語1A・B、2A・B、3・4A、上級英語A・B、CEV、経済専修)

目標：平成18年度までの入学者で再度履修者を対象とし、英語1A・B、2A・B、3A・B、4A・B、上級英語A・B、CEV、経済専修の再習熟をはかる。

履修条件：受講を希望する者は、どの科目とも、必ず、各学期の最初の授業に出席して担当者に申込みこと。ただし、1クラスの受講者の上限を40名、それを越えた場合は抽選とする。各クラスとも複数の時間帯で提供されているので、空きがある方のクラスにまわること。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点・レポート等で評価

英語1AB/2AB(前期)

クラス	曜・時限	担当者
全「再」	金・1	(荒木 康裕)

英語 3AB/4AB (前期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	高島 葉子	全「再」	金・2	(荒木 康裕)
全「再」	水・5	田中 孝信			

上級英語 AB (前期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	荒木 映子	全「再」	水・5	瀬戸 賢一
全「再」	火・4	(名和 俊彦)	全「再」	木・4	野末 紀之

上級英語 A(後期)

クラス	曜・時限	担当者			
全「再」	金・1	(荒木 康裕)			

上級英語 B(後期)

クラス	曜・時限	担当者			
全「再」	金・2	(荒木 康裕)			

英語 3AB/4AB(後期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	火・4	(名和 俊彦)	全「再」	木・4	山崎 雅人

上級英語 AB (後期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	高島 葉子	全「再」	水・5	田中 孝信
全「再」	火・4	関 茂樹	全「再」	水・5	古賀 哲男

CE V (後期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	荒木 映子	全「再」	水・5	瀬戸 賢一

経済専修 (前期)

クラス	曜・時限	担当者			
経済	火・4	(平出 則子)			

経済専修 (後期)

クラス	曜 時限	担当者			
経済	火・4	(平出 則子)			

新 修 外 国 語

(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、日本語)

新入生諸君のほとんどは、中学、高校を通じて英語を学んで来たことと思う。そのため、外国語といえば英語と考えがちだが、もちろん外国語は英語だけではない。世界には実にさまざまな言語が存在し、それぞれの言語は、それぞれ固有の文化を生み出してきた。世界的な交流がますます活発になるにつれ、世界の諸地域の言語と文化を理解することは、いよいよ重要度を増しつつある。英語だけでは十分な国際交流、国際理解は達成できないのである。大学ではこのような観点から、広く世界への視野を開くために、さまざまな外国語の授業を開講している。

新修外国語（英語以外の外国語）を学ぶことは、新しい言語を読み、書き、聞き、話す実際的能力を身につけることを意味するが、同時に、英語とは異なった外国語の仕組みを学ぶことにより、言語そのものに対する新たな認識を得ることをも意味する。すなわち、英語に加えて新たな外国語を学ぶことで、日本語や英語を新たな視点から眺め、諸言語に共通の要素や、あるいはそれぞれの独自性を理解し、また諸言語の差異が何に由来するかということについても学ぶであろう。また、それぞれの言語には、地球上のその言語を話す地域の人々のものの見方、考え方が現れているので、各言語を学ぶことによって、その地域の人々の真の姿を理解する道も開けてくるのである。言語のこのような学習を通じて、学問に必要な知性も、自然に錬磨されていくことになるだろう。諸君は大学生となったのだから、二つ以上の外国語を修得し、言語に対するもっと能動的で自由な姿勢を養っていくべきであろう。そのことが、外国語コンプレックスから抜け出させ、ひいては英語学習にも好結果をもたらすことになるだろう。

外国語の学習は、若いときほど容易に身につくものである。将来諸君が外国に行き、あるいは外国人と接触し、あるいは外国語のテキストを読む必要にせまられてから、当該の言語を学ばなかったことを悔やんでも遅いのである。語学は、かりに目先の実用の場がない場合も、基礎を修得しておけば、必要なときに自力での学習が可能である。大学で新修外国語を学び、知的財産を蓄え、幅の広い豊かな人間として、自らをつくりあげることを諸君に期待する。

第 1 部 新修外国語履修の仕方について

(平成18年度以降入学学生用)

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

新修外国語の履修には、学部により、「基礎」をコアとした次のA、B二つのパターンがある。
提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

(履修方法は、各学部で異なるので、所属学部の履修規程に基づくこと)

A.

1 年次前期	基礎 1・2 Basic 1・2		応用 1 A Applied 1 A
1 年次後期	基礎 3 Basic 3	基礎 4 Basic 4	応用 2 A Applied 2 A
2 年次以降	特修 1 Specialized 1 特修 2 Specialized 2 特修 3 Specialized 3 ・ ・ ・		

B.

1 年次前期	基礎 1・2 Basic 1・2		
1 年次後期	基礎 3 Basic 3	基礎 4 Basic 4	
2 年次前期	応用 1 B Applied 1 B	特修 1 Specialized 1 特修 2 Specialized 2 特修 3 Specialized 3 ・ ・ ・	2 年 次 以 降
2 年次後期	応用 2 B Applied 2 B		

三重線で囲まれた部分は必修科目

二重線で囲まれた部分は学部によって必修科目

単線で囲まれた部分は自由選択科目

日本語教育編成表 (留学生対象)

1 年 次		2 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期
1 A	1 B	3 A	3 B
2 A	2 B	4 A	4 B
		5 A	5 B

§ 1. 標準的履修の場合

I. ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

1. 1年次前期で、Aパターンの学部の学生は「基礎1・2」(2単位)および「応用1A」(1単位)を、Bパターンの学部の学生は「基礎1・2」を履修すること。なお、「基礎1・2」はペア科目になっているので、月曜日と水曜日に提供されている両方とも履修しなければならない、どちらか片方だけを履修することはできない。したがって、単位の認定も両方合わせて行われ、合格すれば2単位、不合格の場合は0単位となる。
2. 1年次後期で、Aパターンの学部の学生は「基礎3」「基礎4」および「応用2A」(各1単位)を、Bパターンの学部の学生は「基礎3」「基礎4」を履修すること。
なお、新修外国語では、グレード制を採用しており、「基礎1・2」の単位を修得していないと、Aパターンの場合は「基礎3」「基礎4」ならびに「応用2A」を、Bパターンの場合は「基礎3」「基礎4」を履修することができないので、十分注意すること。
3. Bパターンの学部の学生は、2年次前期で「応用1B」(1単位)を、2年次後期で「応用2B」(1単位)を履修すること。
なお、「基礎3」「基礎4」の受講後でなければ「応用1B」「応用2B」を履修することができないので、十分注意すること。
4. さらに学びたいという意欲のある2年次以上の学生のために、「特修」(2単位)が提供されている。各学生は、複数提供される科目を複数回、選択することができる。
なお、「基礎3」「基礎4」のいずれかの単位を修得していないと「特修」を履修することができないので、注意すること。

備考

高校での既修者ならびに帰国生徒の履修に関しては、所属学部事務室に願い出、当該外国語カリキュラム担当者に相談すること。

II. 日本語

「日本語」は留学生を対象とする新修外国語である。

A：新修外国語として、「日本語」だけを履修する場合

1. 1年次前期で1A、2Aの2科目、1年次後期で1B、2Bの2科目をそれぞれセットで登録・履修することが望ましい。
2年次も同じで、前期に3A、4Aを、後期に3B、4Bをセットで登録・履修することが望ましい。
2. さらに、非漢字文化圏の留学生のために、2年次前期で「5A」が、後期で「5B」が提供されている。
3. 学部によっては、必修の単位数が異なる。
8単位の場合は、「1A、1B、2A、2B、3A、3B、4A、4B」
6単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」+「3A～4Bから2科目」
4単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」

B：「日本語」と「他の新修外国語」を同時に履修する場合

1. まず、日本語「1A、1B、2A、2B」を優先的に登録すること。
2. 学部指定の新修外国語のクラスと重なる場合には、他学部指定の新修外国語クラスに登録すること。

§ 2. 再度履修の場合

1年次提供の「基礎1・2」「基礎3」「基礎4」「応用1A」「応用2A」の不合格者は、2年次で、不合格であった科目を再度履修すること。2年次提供の「応用1B」「応用2B」の不合格者は、3年次で、不合格であった科目を再度履修すること。

第 1 部

新修外国語履修の仕方について

(平成17年度以前入学学生用)

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

	基 本 科 目		特 修 科 目	
	前 期	後 期	前 期	後 期
ステージⅠ (入門・初級)	入門1・2 Introductory 1・2	初級1 Elementary 1 初級2 Elementary 2	入門3 Introductory 3	初級3 Elementary 3
ステージⅡ (中 級)	中級1 Intermediate 1 中級2 Intermediate 2	中級3 Intermediate 3 中級4 Intermediate 4		
ステージⅢ (上 級)			上級1 Advanced 1	上級2 Advanced 2

※ステージⅠ、Ⅱ、Ⅲは概ね1年次、2年次、3年次の履修に対応する。(ただし、「上級」に関しては、特例措置により、「入門」「初級」「中級」から6単位以上を修得した者には、2年次後期から、さらに、1年次提供の「入門1～3」「初級1～3」の6単位を完全に修得した者には、2年次前期からの履修を特別に認める。

※※「基本科目」とは、まずは優先して履修すべき科目のことであり、具体的には、「入門1・2」「初級1、2」と「中級1、2、3、4」がこれに当たる。このうち、二重線で囲まれた「入門1・2」「初級1、2」は、新修外国語を学ぶ以上、必ず履修しなければならない「必修科目」である。修得すべき単位数が8単位以下となっている学部・学科の学生は、「基本科目」から履修することが望ましい。「特修科目」とは、「基本科目」にプラスして、運用能力向上のためにさらに履修することのできる、関連科目のことであり、具体的には、「入門3」、「初級3」、「上級1、2」がこれに当たる。

日本語教育編成表 (留学生対象)

1 年 次		2 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期
1 A	1 B	3 A	3 B
2 A	2 B	4 A	4 B
		5 A	5 B

§ 1. 標準的履修の場合

I. ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

1. まず、1年次前期で、「入門1・2」を履修すること。「入門1・2」はペア科目になっているので、月曜日と水曜日に提供されている両方とも履修しなければならない、どちらか片方だけを履修することはできない。したがって、単位の認定も両方合わせて行われ、合格すれば2単位、不合格の場合は0単位となる。なお、新修外国語では「入門」から「初級」へ、「初級」から「中級」へと、「グレード制」を採用していて、したがって、「入門1・2」の単位を修得していないと、「初級」を履修することができないので、十分注意すること。なお、平成18年度から「入門1・2」は提供されていない。次の「§ 2.再度履修の場合」を参照すること。
2. ひきつづき、1年次後期で、「初級1」、「初級2」を履修すること。「入門1・2」、「初級1」、「初級2」は、新修外国語の習得に最低限必要な「必修科目」となっているので、「入門1・2」を修得したからといって、受講を取りやめてはいけな。 「初級1」、「初級2」はペア科目になっていないので、単位もそれぞれ1単位ずつ認定される。「初級1」、「初級2」のいずれかの単位さえ修得できていれば、「中級」を履修することはできるが、**両科目とも不合格の場合は、「中級」の履修はできないので、注意すること。**なお平成19年度から「初級1」「初級2」は提供されていない。次の「§ 2.再度履修の場合」を参照すること。
3. さらに、余裕と意欲のある学生のために、1年次前期で「入門3」（1単位）が、ひきつづき後期で「初級3」（1単位）が、提供されている。「初級3」は、「入門1・2」の単位さえ修得していれば、履修できる。修得すべき単位数が12単位となっている文学部学生は、必ず履修しなければならない。なお、平成18年度から「初級3」は提供されていない。次の「§ 2.再度履修の場合」を参照すること。
4. 2年次前期では「中級1」（1単位）、「中級2」（1単位）が、後期には「中級3」（1単位）、「中級4」（1単位）が提供されている。「中級」は、「初級1」か「初級2」のいずれかが合格であれば、履修できる。また、前期の「中級」の単位を修得できなくても、後期の「中級」を履修することができる。なお平成19年度から「中級」の提供は、各外国語とも編成され、かつ全学向けとなっている。次の「§ 2.再度履修の場合」を参照すること。
5. その上、余裕と意欲のある学生のために、3年次前期で「上級1」（1単位）が、後期で「上級2」（1単位）が提供されている。ただし、特例措置により、「入門」「初級」「中級」から6単位以上を修得した者については、2年次後期から、さらに、1年次提供の「入門1～3」「初級1～3」の6単位を完全に修得した者については、2年次前期からの履修が特別に認められている。「上級」の各科目も「グレード」を設けていないので、「上級1」の単位を修得できなくても、「上級2」を履修することができる。履修条件が12単位となっている文学部学生は、必ず履修しなければならない。なお平成19年度から「上級」の提供は、各外国語とも編成され、かつ全学向けとなっている。次の「§ 2.再度履修の場合」を参照すること。

II. 日本語

「日本語」は留学生を対象とする新修外国語である。

A：新修外国語として、「日本語」だけを履修する場合

1. 1年次前期で1A、2Aの2科目、1年次後期で1B、2Bの2科目をそれぞれセットで登録・履修することが望ましい。
2年次も同じで、前期に3A、4Aを、後期に3B、4Bをセットで登録・履修することが望ましい。
2. さらに、非漢字文化圏の留学生のために、2年次前期で「5A」が、後期で「5B」が提供されている。
3. 学部によっては、必修の単位数が異なる。
8単位の場合は、「1A、1B、2A、2B、3A、3B」+「4A～5Bから2科目」
6単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」+「3A～4Bから2科目」
4単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」

B：「日本語」と「他の新修外国語」を同時に履修する場合

1. まず、日本語「1A、1B、2A、2B」を優先的に登録すること。
2. 学部指定の新修外国語のクラスと重なる場合には、他学部指定の新修外国語クラスに登録すること。

§ 2. 再度履修の場合

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

1. 「入門1・2」の不合格者は「基礎1・2」を履修し、「入門1・2」に読み替えること。
2. 「入門3」の不合格者は「応用1A」または「応用1B」を履修し、「入門3」に読み替えること。
3. 「初級1」の不合格者は「基礎3」を履修し、「初級1」に読み替えること。
4. 「初級2」の不合格者は「基礎4」を履修し、「初級2」に読み替えること。
5. 「初級3」の不合格者は「応用2A」または「応用2B」を履修し、「初級3」に読み替えること。
6. 「中級1」「中級2」「中級3」「中級4」の不合格者は、科目のナンバーがいずれであっても、必要単位に見合うだけの「中級」を再度履修すること。
ただし、今年度開講の「中級1」または「中級2」の受講が他の卒業要件科目と重なって不可能である場合、もしくは、今年度開講の「中級1」と「中級2」の両方を履修しても、なお今年度中に「中級」の必要単位数を充たし得ない場合は、その外国語の「特修」科目で読み替えることができる。その場合、「特修」科目のナンバーは、いずれであっても構わない。また、「特修」は2単位の科目であるが、「中級」に読み替える場合は、1単位を与えるものとする。
7. 「上級1」「上級2」の単位を必要とする者は、科目のナンバーがいずれであっても、必要単位に見合うだけの「上級」を再度履修すること。
ただし、今年度開講の「上級1」の受講が他の卒業要件科目と重なって不可能である場合、もしくは、今年度開講の「上級1」を履修しても、なお今年度中に「上級」の必要単位数を充たし得ない場合は、その外国語の「特修」科目で読み替えることができる。その場合「特修」科目のナンバーは、いずれであっても構わない。また、「特修」は2単位の科目であるが、「上級」に読み替える場合は、1単位を与えるものとする。

ドイツ語 German

学習の意義

ドイツ語は、今日、一億人以上の人々によって話され、ドイツはもとより、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインで公用語となっている。ドイツ語は、英語と同じ系統に属する言語であり、とりわけすでに英語を学んだ諸君には習得が容易である。発音はほぼローマ字読みに近く、簡単な原則になじめば、短期間で正確に発音できるようになる。文の構造も英語以上に理論的であり、明快である。このような言語を学ぶことは、それ自身が新鮮な体験であると同時に、すでに学んだ英語や、ひいては日本語に対しても新たな視点をもたらし、その理解をいっそう深めてくれることであろう。

すでに東西ドイツが統一され、ヨーロッパ全体が一つに統合されつつある現在、ドイツ語は、政治・経済をはじめとするあらゆる分野で、ますます重要な役割を果たすことが予想される。従って、諸君が将来社会で幅広く活動する際に、身につけたドイツ語の能力はさまざまな局面で有効性を発揮するであろう。またドイツはこれまで、自然科学や社会科学の分野で多くの卓越した成果を生み、哲学・文学・音楽・映画など、豊かな文化を实らせてきた。相対性理論のアインシュタインやロケット工学のフォン・ブラウン、あるいは精神分析学のフロイト、ユングなど、例をあげてゆけばきりが無い。ドイツ語を学ぶことは、現在も盛んなこれらの学術・文化の实相に直接触れることでもあり、これから諸君が専門課程でさまざまな分野の学問を学ぶ上で大きな刺激となることであろう。

外国語の学習は、世界に向けて新しい窓を開くことである。諸君が、ドイツ語の学習を通して、より広い視野と国際性を身につけることを願ってやまない。

目標と評価方法

「ドイツ語基礎1・2」(前期)(学部別提供 クラス指定 2単位)

目標： 連続した、もしくは密接に連携した週2回の授業を行う。ドイツ語のアルファベットと発音の基礎から始めて、単一文、単純時称などの基本的なしくみを把握する。AV機器なども用いて、ドイツ語を「話し」、「聞き」、「読み」、「書く」ためのバランスの取れた基礎能力を身につけることをめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門1・2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション(ドイツ語・ドイツ文化への導入)

第2週～第3週：ドイツ語の文字と発音

第4週～第8週：ドイツ語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：ドイツ語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法： 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標： 「基礎1・2」での学習をふまえて、複合文、複合時称、接続法など、より複雑なドイツ語の構文を学習し、ドイツ語の基礎的な知識をひとつおりに身につけることをめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ドイツ語の基礎的な文法知識の拡充

第6週～第10週：ドイツ語の基礎的な文法知識の強化

第11週～第14週：ドイツ語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法： 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題な

どを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎4」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標: 「基礎3」での学習と並行して、比較的複雑なドイツ語文を「話し」、「聞き」、「読み」、「書く」練習を行い、基礎的なドイツ語能力の定着をはかる。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

- 第1週: 〈基礎1・2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週: ドイツ語の基礎的な実践能力の拡充
- 第6週～第10週: ドイツ語の基礎的な実践能力の強化
- 第11週～第14週: ドイツ語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用1A」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標: AV機器なども用いて実践的な練習を行い、基礎的なドイツ語の応用能力を養成する。また、ドイツ語の文化的背景にも触れ、ドイツ語の多面的な理解をめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

- 第1週: イントロダクション(ドイツ語・ドイツ文化への導入)
- 第2週～第3週: ドイツ語の文字と発音—補強
- 第4週～第9週: ドイツ語応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週: ドイツ語応用能力の発展的養成

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用2A」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標: AV機器なども用いて実践的な練習を行い、やや高度なドイツ語の応用能力を養成する。多様なシチュエーションに対応できるドイツ語の理解能力と表現能力の習得をめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

- 第1週: 〈応用1A〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週: ドイツ語応用能力の拡充
- 第6週～第10週: ドイツ語応用能力の強化
- 第11週～第14週: ドイツ語応用能力の仕上げ

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用1B」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標: 1年次で習得した基礎に立って、テキスト精読や実践的練習を通してドイツ語の応用能力を養成する。また、ドイツ語の文化的背景にも触れ、ドイツ語の多面的な理解をめざす。

なお、平成17年度以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

- 第1週: 既習事項の確認
- 第2週～第3週: ドイツ語応用能力への導入
- 第6週～第10週: ドイツ語応用能力の初歩的養成
- 第11週～第14週: ドイツ語応用能力の発展的養成

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用 2 B」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標： テキスト精読や実践的練習を通して、やや高度なドイツ語の応用能力を養成し、ドイツ語の理解能力と表現能力の向上をめざす。

なお、平成17年度以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門 3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈応用 1 B〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ドイツ語応用能力の拡充
- 第6週～第10週：ドイツ語応用能力の強化
- 第11週～第14週：ドイツ語応用能力の仕上げ

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語特修」(前・後期)(全学提供 各2単位)

目標： 「ドイツ語基礎 3」「ドイツ語基礎 4」のいずれかの単位を修得した学生で、さらにドイツ語を学ぶ意欲のある者を対象に、クラスごとに特定のテーマを設定し、適切なクラス規模での授業によって、より高度なドイツ語能力の習得をめざす。

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

各クラスの授業内容は以下のとおり。

「ドイツ語特修 1 a / 1 b」(前期)「ドイツ語特修 2」(後期)(ドイツ語会話)

ネイティブ教員の担当により、ドイツ語のヒアリングおよび会話能力の養成を目的とする。ドイツ語の日常的な会話表現を実践的な練習により習得する。

「ドイツ語特修 3 a / 3 b」(前期)「ドイツ語特修 4」(後期)(映像で学ぶドイツ語)

ドイツの映画・ドラマ・アニメなどを教材を使用して、聞き取りなどの練習を行う一方、そこに使われているドイツ語の表現を学ぶことによって、ドイツ語の実践的な能力を養成する。

「ドイツ語特修 5」(前期)「ドイツ語特修 6」(後期)(独検対策)

ドイツ語技能検定(独検)受験希望者を対象に、過去の出題問題をふまえて、合格をめざした練習を行う。独検においてはバランスの取れたドイツ語能力が求められるが、これで十分対応できる総合的な能力を身につけるよう授業を行う。

「ドイツ語特修 7」(前期)「ドイツ語特修 8」(後期)(ドイツ語を読むⅠ)

新聞・雑誌記事・ホームページなど、リアルタイムのドイツ語テキストを読む練習を通して、現在の生きたドイツ語の読解力を身につけるとともに、現在のドイツ語圏の社会・文化について認識を深める。

「ドイツ語特修 9」(前期)「ドイツ語特修 10」(後期)(ドイツ語を読むⅡ)

ドイツの小説・童話・エッセイなど、文学的・文化的なテキストを原語で精読し、ドイツ語の読解力を身につけるとともに、ドイツ語圏の文学・文化について理解を深める。

「ドイツ語中級 1」「ドイツ語中級 2」(前期)(全学提供 各1単位)

「ドイツ語中級 3」「ドイツ語中級 4」(後期)(全学提供 各1単位)

目標： 平成17年度以前に入学した学生を対象に、テキスト精読や実践的練習などにより、ドイツ語の理解能力や表現能力を高めることをめざす。

なお、本科目の履修をもって、「中級 1」「中級 2」「中級 3」「中級 4」のうちいずれの未履修の科目の履修にもあてることができる。

評価方法：原則的に平常の学習態度(出席状況、発表、レポート、小テストなど)と定期試験の成績とに基づく総合的評価。

「ドイツ語上級」(前期) (全学提供〔文学部必修〕 1単位)

目標：平成17年度以前に入学した学生を対象に、基礎的段階の学習をふまえ、ドイツ語のさらに高度な総合能力の養成をめざす。

なお、本科目の履修をもって、「上級1」「上級2」のうちいずれの未履修の科目の履修にもあてることができる。

評価方法：原則的に平常の学習態度(出席状況、発表、レポート、小テストなど)と定期試験の成績とに基づく総合的評価。

基礎1・2 (前期)

CI (月・2) 竹内 一高 (非常勤)、(水・1) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：岡田朝雄/岩崎英二郎『岡田・岩崎 ドイツ文法』(朝日出版社)

EI (月・1) 林田 陽子 (非常勤)、(水・2) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：①清野智昭：『ドイツ語の時間〈話すための文法〉改訂版』(朝日出版社)、②清野智昭：『ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン] DVD付き』(朝日出版社)

J Ia (月・1) 竹内 一高 (非常勤)、(水・2) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：大岩信太郎：『新正書法による快速ドイツ文法 (14課)』(朝日出版社)

J Ib (月・1) 神野 ゆみこ (非常勤)、(水・2) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：①大岩信太郎：『純・初級ドイツ文法 (新正書法版)』(同学社) ②山口祐子/Ute Schmidt：『ドイツ語案内版』(同学社)

LI (月・2) 神竹 道士 (文)、(水・1) クラウス・ブレックス (文)

・テキスト：①新田春夫 他：『エレメンテードイツ語の文法と表現』(郁文堂)、②『Passwort Deutsch 1. Kurs-und Übungsbuch』(Klett Verlag)

SI a (月・3) 神野 ゆみこ (非常勤)、(水・4) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：①斉藤佑史/荒木詳二：『若草のドイツ語』(三修社)、②小野寿美子 他：『ドイチュ ブラウヴォ! プラスアルファ』(朝日出版社)

SI b (月・3) 三上 雅子 (文)、(水・4) 國光 圭子 (非常勤)

・テキスト：①在間進：『新生ドイツ語V4』(朝日出版社)、②小野寿美子 他『Deutsch Fantastisch! ドイツ語ファンタステイッシュ!』(朝日出版社)

SI c (月・3) 竹内 一高 (非常勤)、(水・4) 高井 絹子 (特任)

・テキスト：斉藤佑史 他『若草のドイツ語文法』(三修社)

TI a (月・4) 神野 ゆみこ (非常勤)、(水・3) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：①小島/瀬戸：『基礎ドイツ文法 [第2版]』(白水社)、②E.シュミット・須澤通・浜泰子：『はじめよう ドイツ語』(郁文堂)

TI b (月・4) 田島 昭洋 (非常勤)、(水・3) 國光 圭子 (非常勤)

・テキスト：①在間進：『新生ドイツ語文法V4』(朝日出版社)、②酒井明子 他：『新ドイツ語の泉』(郁文堂)

TI c (月・4) 林田 陽子 (非常勤)、(水・3) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：①清水薫：『改訂版ドイツ文法・100語の世界』(同学社)、②荻野蔵平・Andrea Raab：『ベルリン・キャンパスライフ』(朝日出版社)

TI d (月・4) 三上 雅子 (文)、(水・3) 神野 ゆみこ (非常勤)

・テキスト：①在間進：『わかって楽しいドイツ語【改訂版】』(三修社)、②三室次雄：『ドイチュ・アトラク

ティーフ』(三修社)

TIe (月・4) 寺井 俊正 (文)、(水・3) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：①西本美彦 他：『文法システム15-新改訂版』(同学社)、②Angelika Werner・吉田卓・三浦哲夫：『ヴァインズベルクー私の郷里の町ー』(朝日出版社)

MI (月・3) 田島 昭洋 (非常勤)、(水・4) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：①Wolfgang Schlecht・三室次雄：『ドイツ・プラクティッシュ〈ロート〉』(三修社)、②西本美彦 他：『文法システム』-新改訂版- (同学社)

HI (月・3) 林田 陽子 (非常勤)、(水・4) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：①小野寿美子・中川明博・西巻丈児：『ドイツ ブラヴォー! プラスアルファ』(朝日出版社)、②大岩信太郎：『新正書法による快速ドイツ文法 (14課)』(朝日出版社)

応用 1 A (前期)

J Ia (金・3) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：酒井明子、佐藤俊郎、清水薫、石原竹彦：『新ドイツ語の泉』(郁文堂)

J Ib (金・3) 江川 英明 (非常勤)

・テキスト：小林俊明：『はじめての独作文 - Version 2 -』(同学社)

LI (金・4) 高井 絹子 (特任)

・テキスト：長谷川つとむ 他：『わーくわくドイツ語文法読本』(三修社)

応用 1 B (前期)

C II (火・2) 海老根 剛 (文)

・テキスト：『Schritte international Niveau A1/1』(Hueber)

T II (木・1) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：橋本政義・Bernhard Neuberger・橋本淑恵
『グレードアップドイツ語 初級から中級へ [新訂版]』(郁文堂)

H II (木・2) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：宇佐美幸彦・佐藤裕子、D.F.Schauwecker：『ドイツめぐり (ユーロ版)』(朝日出版社)

特修 1 a (前期)

全 (火・4) クラウス・ブレックス (文)

授業内容：授業内容は受講生の希望とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

・テキスト：プリント使用

特修 1 b (前期)

全 (木・2) クラウス・ブレックス (文)

授業内容：授業内容は受講生の希望とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

・テキスト：プリント使用

特修 3 a (前期)

全(火・3) 海老根 剛(文)

授業内容: 映画の対話場面を実際に演じてみることを通して、意味を単に頭で理解するだけでなく、より具体的に外国語に触れることを目指す。受講者の主体的な参加が求められる。また、昨年度からのリピーターも歓迎する。

・テキスト: プリントなどを使用

特修 3 b (前期)

全(金・4) 長谷川 健一(非常勤)

授業内容: 映画・ニュース・CM等を教材に生きたドイツ語を学ぶ。毎回プリントを配布する。内容理解や表現の学習に加えて、発音練習や文法事項の復習も行う。評価は、平常点やテストなどによる。

・テキスト: プリントなどを使用

特修 5 (前期)

全(木・3) 太城 桂子(非常勤)

授業内容: ドイツ語検定3・4級合格を目指して中級文法を習得することがこの講義の目標。まず、最初の復習を兼ねて4級の模擬テストをする。発音、文法、語彙、読解及び聞き取り等につき、練習問題を通じて力をつけてゆく。

・テキスト: 毎回プリントを配布する。

特修 7 (前期)

全(金・3) 長谷川 健一(非常勤)

授業内容: 最近のドイツの話題を集めた教科書を使用して、ドイツ語力を鍛える。また、テーマに即して、適宜、補助プリントを配布し、文化的な背景の説明も行う。評価は、平常点とテストなどによる。

・テキスト: Andrea Raab, Toshiko Ishii: 『Neuigkeiten aus Deutschland '07』(朝日出版社)

特修 9 (前期)

全(火・2) 中村 恵(非常勤)

授業内容: ドイツの詩人・作家の言語に関する発言や主張を彼らの作品、日記、自伝、書簡等の中から拾い上げたアンソロジーを読む。言葉の起源・本質・不思議等が詩人・作家の鋭い感性で洞察されている。

・テキスト: 西本美彦: 『ふしぎな言葉の世界』(郁文堂)

中級 1 (前期)

全(月・5) 田島 昭洋(非常勤)

授業内容: モーツァルト歌劇『魔笛』や歌曲(クラシック、ロック)を中心に、楽しくドイツ語文化に触れたい。文化紹介にあたっては、テキストは指定せず、主に映像・音響機材の使用、担当者による歌唱実演などを予定している。

上級 1 (前期)

全Ⅱa(金・4) 江川 英明(非常勤)

授業内容: エンデの短いエッセーを精読する。文法的に正確に読み取るのはもちろん、文章の意味を的確に把握しなければならない。そのためには、エンデの文化批判的思想を考慮しつつテキストに向かい合う態度が必要である。

・テキスト: ミヒャエル・エンデ: 『エンデのメモ猫』(朝日出版社)

基礎 3 (後期)

CI (月・2) 竹内 一高 (非常勤)

・テキスト：岡田朝雄・岩崎英二郎：『岡田・岩崎 ドイツ文法』(朝日出版社)

EI (月・1) 長谷川 健一 (非常勤)

・テキスト：清野智昭：『ドイツ語の時間〈話すための文法〉』(朝日出版社)

J Ia (月・1) 竹内 一高 (非常勤)

・テキスト：大岩信太郎：『新正書法による快速ドイツ語文法 (14課)』(朝日出版社)

J Ib (月・1) 神野 ゆみこ (非常勤)

・テキスト：大岩信太郎：『純・初級ドイツ文法 (新正書法版)』(同学社)

LI (月・2) 神竹 道士 (文)

・テキスト：新田春夫・福間具子・Michael Feldt：『エレメンテードイツ語の文法と表現』(郁文堂)

SI a (月・3) 神野 ゆみこ (非常勤)

・テキスト：斉藤祐史 他：『若草のドイツ語』(三修社)

SI b (月・3) 三上 雅子 (文)

・テキスト：在間進『新生ドイツ語V4』(朝日出版社)

SI c (月・3) 神竹 道士 (文)

・テキスト：斉藤祐史：『若草のドイツ語文法』(三修社)

TI a (月・4) 神野 ゆみこ (非常勤)

・テキスト：小島／瀬戸：『基礎ドイツ文法〔第2版)』(白水社)

TI b (月・4) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：在間進：『新生ドイツ文法V4』(朝日出版社)

TI c (月・4) 林田 陽子 (非常勤)

・テキスト：清水薫：『改訂版／ドイツ語文法・100語の世界』(同学社)

TI d (月・4) 三上 雅子 (文)

・テキスト：在間進：『わかって楽しいドイツ語【改訂版)』(三修社)

TI e (月・4) 寺井 俊正 (文)

・テキスト：西本美彦 他：『文法システム15-新改訂版)』(同学社)

MI (月・3) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：Wolfgang Schlecht・三室 次雄：『ドイツ語・プロクティッシュ〈ロート)』(三修社)

HI (月・3) 林田 陽子 (非常勤)

・テキスト：小野寿美子・中川明博・西巻丈見：『ドイツ語 プラーク・ヴォ! プラスアルファ)』(朝日出版社)

基礎 4 (後期)

CI (水・1) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：岡田朝雄・岩崎英二郎：『岡田・岩崎 ドイツ文法』(朝日出版社)

E I (水・2) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：清野智昭：『ドイツ語の時間【ビデオ教材 恋するベルリン】DVD付き』（朝日出版社）

J I a (水・2) 磯部 美穂 (非常勤)

・テキスト：大岩信太郎：『新正書法による快速ドイツ語文法（14課）』（朝日出版社）

J I b (水・2) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：山口祐子 他：『ドイツ語案内版』（同学社）

L I (水・1) クラウス・ブレックス (文)

・テキスト：Passwort Deutsch 1. Kurs-und Übungsbuch (Klett Verlay)

S I a (水・4) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：小野寿美子・中川明博・西巻丈児：『ドイチュ ブラーヴォ！プラスアルファ』（朝日出版社）

S I b (水・4) 磯部 美穂 (非常勤)

・テキスト：小野寿美子・中川明博・西巻丈児
『Deutsch Fantastisch！ドイツ語ファンタステイッシュ！』（朝日出版社）

S I c (水・4) 高井 絹子 (特任)

・テキスト：斉藤祐史 他：『若草のドイツ語文法』（三修社）

T I a (水・3) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：E. シュミット・須澤通・浜泰子：『はじめよう ドイツ語』（郁文堂）

T I b (水・3) 高井 絹子 (特任)

・テキスト：酒井明子 他：『新ドイツ語の泉』（郁文堂）

T I c (水・3) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：荻野蔵平・Andrea Raab：『ベルリン・キャンパスライフ』（朝日出版社）

T I d (水・3) 神野 ゆみこ (非常勤)

・テキスト：三室次雄：『ドイチュ・アトラクティブ』（三修社）

T I e (水・3) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：Angelike Werner・吉田卓・三浦哲夫：『ヴァインスベルクー私の郷里の町ー』（朝日出版社）

M I (水・4) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：西本 美彦 他：『文法システム－新改訂版』（同学社）

H I (水・4) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：大岩信太郎：『新正書法による快速ドイツ文法（14課）』（朝日出版社）

応用 2 A (後期)

J I a (金・3) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：小林俊明：『はじめての独作文－Version 2－』（同学社）

J I b (金・3) 江川 英明 (非常勤)

・テキスト：小林俊明：『はじめての独作文－Version 2－』（同学社）

LI (金・4) 高井 絹子 (特任)

・テキスト：長谷川つとむ 他：『わーくわくドイツ語文法読本』(三修社)

応用2B (後期)

CII (火・2) 海老根 剛 (文)

・テキスト：『Schritte international Niveau A1/1』(Hueber)

TII (木・1) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：橋本 政義・Bernhard Neuberger・橋本 淑恵
『グレードアップドイツ語 初級から中級へ [新訂版]』(郁文堂)

HII (木・2) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：宇佐美幸彦・佐藤裕子・D.F.Schauwecker：『ドイツめぐり (ユーロ版)』(朝日出版社)

特修2 (後期)

全 (火・3) クラウス・ブレックス (文)

授業内容：授業内容は受講生の希望とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

・テキスト：プリント使用

特修4 (後期)

全 (金・4) 江川 英明 (非常勤)

授業内容：テキストとしては、カフカの『審判』の冒頭場面を読む。オーソン・ウェルズの映画化作品を比較参照する。いわゆるカフカの世界が文章と映像とで、どのように異なって表象されているかを考察する。

・テキスト：フランツ・カフカ：『Verhaftung (逮捕)』(同学社)

特修6 (後期)

全 (木・2) 磯部 美穂 (非常勤)

授業内容：本講義では、ドイツ語検定試験4級～3級を受験する学生のための効果的な受験対策を行う。受験必須単語と熟語を土台に、単一文からやさしい複合文へと無理なく学習できるように、演習形式で丁寧に指導する。

・テキスト：資料・教材は授業中配布

特修8 (後期)

全 (金・3) 國光 圭子 (非常勤)

授業内容：わかりやすいドイツ語で書かれたドイツの最新ニュースや雑誌を読む。文化、経済からスポーツなど、さまざまな時事テーマを扱う。補助プリントも適宜配布の予定。評価は平常点とテストによる。

・テキスト：Andrea Raab・Toshiko Ishii：『Neuigkeiten aus Deutschland '07』(朝日出版社)

特修10 (後期)

全 (火・4) 海老根 剛 (文)

授業内容：映像音響素材を用いて、聞き取りと発話の実践的能力の向上を目指す。大雑把な内容の把握から精密な聞き取りまで、ディクテーションを集中的に行う。また、内容について簡単に報告する練習を行う予定。

・テキスト：プリント配布

中級2 (後期)

全(月・5) 田島 昭洋(非常勤)

授業内容：モーツァルト歌劇『魔笛』や歌曲(クラシック、ロック)を中心に、楽しくドイツ語文化に触れたい。文化紹介にあたっては、テキストは指定せず、主に映像・音響機材の使用、担当者による歌唱実演などを予定している。

フランス語 French

学習の意義

郵便、料理、オリンピック、ファッション、欧州会議、美術……。これらの分野では、伝統的にフランス語が重要なコトバであり続けてきました。もちろん、映画、文学、音楽といったジャンルでも大きな役割を果たしてきましたし、その使用範囲（フランス語圏会議参加は53ヶ国・地域）、使用人口（第1言語+第2言語使用者2億6千万人）、使用機関（国連作業語、欧州議会公用語）を加味した有用度において、英語につぐ国際語の地位を占めています。「ノルマンディー侵攻」によって250年間イングランドのことばがフランス語だったせいで、英語語彙の30%はフランス語から流入したものですし、文法にも影響を残しました。

また最近のフランスにおける「ニッポン」には、アニメや漫画、自動車、精密機器のほかに、伝統文化、ファッション、さらには文学までも進出しているのですが、フランス語を学ぶみなさんは、新たな日本文化紹介者になる可能性も持つことになるわけです。

目標と評価方法

「フランス語基礎1・2」（前期）（学部別提供 クラス指定 2単位）

目標：「基礎1・2」では、フランス語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造、フランス語圏の文化について学ぶ。授業ではCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門1・2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション（フランス語・フランス文化への導入）

第2週～第3週：フランス語の発音と文字

第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語基礎3」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎1・2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎4」との連携のもと、流暢な発音、動詞の時称・叙法、関係節等について学ぶとともに、フランス語圏文化についての学習も継続する。授業ではCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認

第2週～第5週：フランス語の基礎的な文法知識の拡充

第6週～第10週：フランス語の基礎的な文法知識の強化

第11週～第14週：フランス語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎1・2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、流暢な発

音、動詞の時称・叙法、関係節等について学ぶとともに、フランス語圏文化についての学習も継続する。授業ではCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語の基礎的な実践能力の拡充
- 第6週～第10週：フランス語の基礎的な実践能力の強化
- 第11週～第14週：フランス語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語応用1A」（前期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎1・2」履修中の者を対象として、「基礎1・2」と連携しながら、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、「基礎1・2」で学習した内容を自由に活用できることをめざす。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション（フランス語・フランス文化への導入）
- 第2週～第3週：フランス語の発音と文字―補強
- 第4週～第9週：フランス語応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：フランス語応用力能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語応用2A」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語応用1A」履修者を対象として、「基礎3」「基礎4」と連携しながら、さらに深い文法事項や表現について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話・訳読などをおこなうことで、簡単なコミュニケーションや長文読解ができるようになることをめざす。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈応用1A〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語応用能力の拡充
- 第6週～第10週：フランス語応用能力の強化
- 第11週～第14週：フランス語応用力能力の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語応用1B」（前期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎3」「フランス語基礎4」を受講した者を対象として、さらに深い発音の仕組み、文の構造を学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、「基礎1・2」で学習した内容を自由に活用できることをめざす。

なお、平成17年（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：既習事項の確認

- 第2週～第3週：フランス語応用能力への導入
- 第4週～第9週：フランス語応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：フランス語応用能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席を含む）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語応用2B」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎3」「フランス語基礎4」を受講した者を対象として、さらに深い文法事項や表現について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話・訳読などをおこなうことで、簡単なコミュニケーションや長文読解ができるようになることをめざす。

なお、平成17年（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈応用1B〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語応用能力の拡充
- 第6週～第10週：フランス語応用能力の強化
- 第11週～第14週：フランス語応用能力の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席を含む）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語特修1～10」（前期・後期）（全学提供 2単位）

目標：「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。具体的には、映画、料理、インターネット、新聞、雑誌、マンガ、仏検準備などを通じて、フランス語の会話力、読解力を発展させることを目的とする。

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席を含む）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語中級1」（前期）（全学提供 1単位）

「フランス語中級2」（後期）（全学提供 1単位）

目標：受信型のクラスでは、「入門」「初級」の成果をふまえ、読解や聞き取りを通して、理解力一般を養い、感受性を高めることを目指す。具体的には、新聞・小説・論文などにとどまらず、シナリオ・雑誌・広告など、さまざまな種類のフランス語の講読や、AV機器を利用した聞き取りの訓練を行なう。

発信型のクラスでは、「入門」「初級」の成果をふまえ、表現力一般を養い、積極性を高めることを目指す。具体的には、日常生活から国際社会にいたるまで、いろいろなテーマによる仏作文や、さまざまなシチュエーションにおける日常会話から、日本文化の説明、さらにはレポートの口頭発表などの発話の訓練を行なう。

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語上級」（前期）（全学提供 [文学部必修] 1単位）

目標：「中級」2単位以上取得を履修条件とする「上級」では、語学学習の継続と深化を目標とする。具体的には、長い作文・複雑な会話・高度なテキスト読解などをつうじて、「読み・書き・聞き・話す」の一層の充実をはかり、あわせて深い思考力を養う。特に、口頭表現にたいする指導がおこなわれる。

評価方法：平常点、授業中のミニテストなどでトータルに評価する。

基礎1・2（前期）

CI（月・2）白田 由樹（非常勤）、（水・1）鈴木田 研二（非常勤）

・テキスト：金子美都子他『プチポワソン』（白水社）

E I (月・1) 藤田 あゆみ (非常勤)、(水・2) 藤本 智成 (非常勤)

・テキスト：澤田直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学『アミカルマン〈ビス〉－フランス語・フランス文化への誘い－』（駿河台出版社）

J I (月・1) 久後 貴行 (非常勤)、(水・2) 鈴木田 研二 (非常勤)

・テキスト：金子美都子他『プチボワソン』（白水社）

L I (月・2) 中島 廣子 (文)、(水・1) 福島 祥行 (文)

・テキスト：中山真彦『ミニ・ボンジュール・パリ 改訂版』（白水社）

S I (月・3) 安田 晋也 (非常勤)、(水・4) 馬場加通子 (非常勤)

・テキスト：金子美都子他『プチボワソン』（白水社）

M I (月・3) 津川 廣行 (文)、(水・4) 小田中 章浩 (文)

・テキスト：藤田裕二、藤田知子、シルヴィー・ジレ『新・東京－パリ, 初飛行』新訂版（駿河台出版社）

H I (月・3) 酒井 美貴 (非常勤)、(水・4) 秋吉 孝浩 (非常勤)

・テキスト：東松秀雄・加藤晴久『アントレ』（朝日出版社）

T I (月・4) 安田 晋也 (非常勤)、(水・3) 馬場加通子 (非常勤)

・テキスト：金子美都子他『プチボワソン』（白水社）

応用 1 A (前期)

J I (金・3) 藤澤 秀平 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二『彼女は食いしん坊 1』（朝日出版社）

L I (金・4) 久後 貴行 (非常勤)

・テキスト：岩間直文『話したくなるフランス語（全面改訂版）』（朝日出版社）

応用 1 B (前期)

TH II (木・2) 小林 裕史 (非常勤)

・テキスト：石野好一、大久保政憲、山崎吉朗『どこにいるの？』（朝日出版社）

C II (火・2) 岩本 篤子 (非常勤)

・テキスト：中井珠子『コミュニケーションのためのフランス語リスニング入門（教科書版）』（白水社）

中級 1 (前期)

全 (水・5) ピエール・ラヴェル (文)

授業内容：授業は基礎フランス語、とくに一番難しい動詞の活用の習得を強調します。なお、日常生活ですぐ役立つ基本語彙の習得をめざします。評価方法として、毎週の小テストと、1時間20分の大きな試験を2回実施します。

・テキスト：藤井史郎・清田リディア『ユヌ・アヴァンチュール』（早美出版社）

特修 1 (前期)

全 (火・3) 中島 廣子 (文)

授業内容：【フランス絵画の世界】ルーヴル美術館やオルセー美術館に所蔵されている名作をビデオやDVDを用いつつ眺めながら、フランス語でなされる解説を読んだり聞いたりして、読解力や聴き取り能力の訓練をおこなう。

・テキスト：プリントを配布します。

特修 3 (前期)

全 (火・4) 小田中 章浩 (文)

授業内容：【フランス映画の世界】クロード・ミレー監督の映画『リリィ』を見ながら、そのシナリオを教科書化したものをテキストとして用いる。それによって中級レベルのフランス語の能力向上を目指す。

・テキスト：Noriko Nakamura, Didier Chiche, Patrice Boiteau 『La Petite Lili: un film de Claude Miller』(早美出版社)

特修 5 (前期)

全 (木・3) 小林 裕史 (非常勤)

授業内容：【フランス音楽の世界】歌曲を中心にフランス音楽史を辿りつつ、音楽および歌詞を味わうことで、フランス語力の向上を図るとともにフランス文化への理解を深めることを目指します。

・テキスト：プリントを配布します。

特修 7 (前期)

全 (金・3) クリストフ・ベルグ (非常勤)

授業内容：基礎を復習した後で、コミュニケーションの能力を高める為、日常生活で知識を実践する。聴解力と読解力を学習し、自己表現力を身につける。授業内容は教科書の対話の聞き取りと理解、テープを活用した口頭練習、ビデオによる実践的な練習を主とする。

・テキスト：Christophe BERGUE, 『VITAMINES F』, POINT VIRGULE- ISBN 2-9525345-3-5

特修 9 (前期)

全 (金・4) 藤田 あゆみ (非常勤)

授業内容：【フランス服飾の世界】中世から現代までのフランスの服飾の歴史を、フランス語の文献や視覚教材などを通して学びます。同時にルイ14世はなぜタイトツをはくのか? 「シャネルの黒」はいかにして生み出されたのか? など服飾の文化的なコードや背景を考察し、フランス語力とフランス文化への理解の深めることを目指します。

上級 (前期)

全 (金・1) ピエール・ラヴェル (文)

授業内容：授業は基礎フランス語の習得に重視をおきます。日常生活ですぐ役立つ基本語彙の習得をめざします。ただし、文法を知らずにはフランス語で表現できないので、その復習も行います。評価方法として、毎週の小テストと、1時間20分の大きな試験を2回実施します。

・テキスト：藤井史郎・清田リディア『ユヌ・アヴァンチュール』(早美出版社)

基礎 3 (後期)

CI (月・2) 白田 由樹 (非常勤)

・テキスト：金子美都子他『プチポワソン』(白水社)

EI (月・1) 藤田 あゆみ (非常勤)

・テキスト：プリント配布

JI (月・1) 久後 貴行 (非常勤)

・テキスト：金子美都子他『プチポワソン』(白水社)

LI (月・2) 中島 廣子 (文)

・テキスト：中山真彦『ミニ・ボンジュール・パリ 改訂版』(白水社)

SI (月・3) 安田 晋也 (非常勤)

・テキスト：金子美都子他『プチボワソン』(白水社)

TI (月・4) 酒井 美貴 (非常勤)

・テキスト：金子美都子他『プチボワソン』(白水社)

MI (月・3) 白田 由樹 (非常勤)

・テキスト：金子美都子他『プチボワソン』(白水社)

HI (月・3) 酒井 美貴 (非常勤)

・テキスト：東松秀雄・加藤晴久『アントレ』(朝日出版社)

基礎 4 (後期)

CI (水・1) 藤本 智成 (非常勤)

・テキスト：藤田裕二『彼女は食いしん坊! 2』(朝日出版社)

EI (水・2) 藤本 智成 (非常勤)

・テキスト：澤田直之、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学『アミカルマン〈ビス〉－フランス語・フランス文化への誘い－』(駿河台出版社)

JI (水・2) 鈴木田 研二 (非常勤)

・テキスト：福島祥行・鈴木田研二『マルチイコロール』(青山社)

LI (水・1) 福島 祥行 (文)

・テキスト：福島祥行編『さ、やくフランス語』(プリント配布)

SI (水・4) 馬場 加通子 (非常勤)

・テキスト：中山真彦『新デパール』(白水社)

TI (水・3) 秋吉 孝浩 (非常勤)

・テキスト：プリント配布

MI (水・4) 小田中 章浩 (文)

・テキスト：藤田裕二、藤田知子、シルヴィー・ジレ『新・東京ーパリ，初飛行』新訂版 (駿河台出版社)

HI (水・4) 秋吉 孝浩 (非常勤)

・テキスト：プリント配布

応用 2 A (後期)

JI (金・3) 藤澤 秀平 (非常勤)

・テキスト：藤澤秀平『彼女は食いしん坊 1』(朝日出版社)

LI (金・4) 藤澤 秀平 (非常勤)

・テキスト：斎藤広信『シチュアション 2』(早美出版社)

応用 2 B (後期)

THII (木・2) 小林 裕史 (非常勤)

・テキスト：石野好一、大久保政憲、山崎吉朗『どこにいるの?』(朝日出版社)

CII (火・2) 岩本 篤子 (非常勤)

・テキスト：中井珠子『コミュニケーションのためのフランス語リスニング入門 (教科書版)』(白水社)

特修 2 (後期)

全 (火・3) 岩本 篤子 (非常勤)

授業内容：【フランス歌の世界】フランス語の歌 (童謡から流行歌まで) の鑑賞・歌唱・訳詩を通してフランス文化への理解を深めます。

・テキスト：プリントを配布します。

特修 4 (後期)

全 (火・4) 福島 祥行 (文)

授業内容：【漫画フランス語の世界】羽海野チカ『ハチミツとクローバー』の仏訳版を読むことで、現代フランスの会話表現を学ぶ。また、学んだ表現をもちいて、スピーキングにたいする訓練もおこなう。

・テキスト：プリント使用

特修 6 (後期)

全 (木・3) 津川 廣行 (文)

授業内容：【フランス語検定試験の世界】一回生レベルのフランス語の復習もかねながら、仏検 (正式名：実用フランス語技能検定試験) 4級受験のための準備をおこないます。

・テキスト：富田正二『ニヴォー・カトルー教室で学ぶ仏検4級-』(駿河台出版社)

特修 8 (後期)

全 (金・3) クリストフ・ベルグ (非常勤)

授業内容：基礎を復習した後で、コミュニケーションの能力を高める為、日常生活で知識を実践する。聴解力と読解力を学習し、自己表現力を身につける。授業内容は教科書の対話の聞き取りと理解、テープを活用した口頭練習、ビデオによる実践的な練習を主とする。

・テキスト：Marie-Josée YABUUCHI『MEMO』(POINT VIRGULE- ISBN 2-9525345-4-3)

特修10 (後期)

全 (金・4) 久後 貴行 (非常勤)

授業内容：【フランス料理の世界】フランス各地の特産物や名物料理について学び、料理に関するビデオDVD教材を視聴しながら、フランス語で料理のレシピ (ルセット) を読みます。フランスの地理的広がりや料理文化に対する理解を深めつつ、フランス語力の向上を目指します。

中級 2 (後期)

全 (水・5) ピエール・ラヴェル (文)

授業内容：授業は基礎フランス語の習得に重視をおきます。日常生活ですぐ役立つ基本語彙の習得をめざします。ただし、文法を知らずにはフランス語で表現できないので、その復習も行います。評価方法として、毎週の小テストと、1時間20分の大きな試験を2回実施します。

・テキスト：藤井史郎・清田リディア『ユヌ・アヴァンチュール』(早美出版社)

中国語 Chinese

学習の意義

中国は全欧州の面積に匹敵する国土に、十三億を超える人口を擁している。近年、急速な経済発展をとげており、アジアの隣人として、我々の生活とも密接な関係を持つ存在となっている。中国との関係は今後ますます深まってくだろう。より良い関係を築いていくためには、お互いを知ることが不可欠だが、それにはまず言葉—中国語を学ぶことが第一歩となる。

大学で新たな外国語を学ぶことは、言葉を通してその国の文化、社会のあり方を理解し、国際的視野を広げることにつながっている。中国語を学ぶことによって、長い歴史と様々な文化を持つ中国を理解する糸口として欲しい。

目標と評価方法

「中国語基礎1・2」(前期)(学部別提供 クラス指定制 1単位)

目標：中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に对应できる表現力を養っていく。「中国語基礎1・2」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。ただし、法・文のクラスでは「応用1A」ともリレー式によって授業を進めるので注意すること。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語入門1・2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション(中国語の特徴や背景となる中国社会、文化について簡単に説明する。)

第2週～第4週：発音の基礎練習

第5集～第14週：統一教科書上冊の第1課から順に学習を進める。概ね1課を3回の授業で終わるように進めて行く。前期では上冊の第6課が終了することを目処とする。

なお、応用1Aクラスが設けられている法、文の二学部は、週3回の授業が可能なので、上冊をすべて学習する。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定制 1単位)

目標：様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に对应できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。ただし、法・文のクラスでは「応用2A」ともリレー式によって授業を進めるので注意すること。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語初級1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：前期の復習

第2週～第14週：統一教科書に従い、上冊の第7課から、前期と同様に授業を進める。上冊は第10課までなので、続いて下冊に入り、第6課を目処に進める。

なお、応用2Aクラスが設けられている法、文の二学部は下冊の第1課から始め、下冊をすべて学習する。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語基礎4」(後期)(学部別提供 クラス指定制 1単位)

目標：様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用し進めていく。ただし、法・文のクラスでは「応用2A」ともリレー式によって授業を進めるので注意すること。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：前期の復習

第2週～第14週：統一教科書に従い、上冊の第7課から、前期と同様に授業を進める。上冊は第10課までなので、続いて下冊に入り、第6課を目処に進める。

なお、応用2Aクラスが設けられている法、文の二学部は下冊の第1課から始め、下冊をすべて学習する。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語応用1A」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：「中国語基礎1・2」と連動させリレー式に授業を進める。ネイティブスピーカーの教員が担当し、早い段階から応用練習に取りくむ。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることに留意する。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

〈基礎クラス〉と連動して授業を行う。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語応用2A」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：「中国語基礎3」「中国語基礎4」と連動させてリレー式に授業を進める。ネイティブスピーカーの教員が担当し、応用練習にも積極的に取り組む。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることに留意する。後半には、ピンインのついていない短篇の読解にも取り組む予定。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

〈基礎3〉〈基礎4〉クラスと連動して授業を行う。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語応用1B」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：前年度後期の「基礎3・4」に続いて中国語を学ぶ学生のために提供する。様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れるさまざまな構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週～第2週：1年次の復習を行う。

第3週～第14週：統一教科書に従い、下冊の第7課から順次授業を進める。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語応用2B」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：プリントを使って様々な文章を読みながら、補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れるさまざまな構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：前期の復習

第2週～第14週：統一教科書に従い、前期に続いて下冊の第12課までを修了する。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「特修1」(前期)(全学提供 2単位)

「特修2」(後期)(全学提供 2単位)

目標：1回生の基礎1～4で身につけた正確な発音を基に、自由に会話ができることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらう。「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行う。また口頭作文、言い換え、暗誦などを通して「話す」力も高め、会話でよく用いられる表現を習得し、自然な抑揚・リズムで話せることを目指す。

評価方法：成績は、出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

「特修3」(前期)(全学提供 2単位)

「特修4」(後期)(全学提供 2単位)

目標：中国語の検定試験に合格する能力を身につけることを目標とする。現在行われている中国語の検定には、主に国内で実施される中国語検定と中国政府主催のHSK(漢語水平考試)とがあるが、今年度は中国語検定3級の取得をめざして訓練する。授業は、リスニング、文法、読解から構成されるが、特にリスニングの比重を大きくする。暗誦や長文読解(ピンインが付いていない文章の多読、速読)などにも一定時間を割き、バランスの取れた語学力の向上をめざす。月に一度は模擬試験の形式により、定着度を測る。また問題の解答・解説だけに終始するのではなく、日本人学習者のウィークポイントに絞って、その克服に努める。

評価方法：成績は、出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

「特修5」(前期)(全学提供 2単位)

「特修6」(後期)(全学提供 2単位)

目標：中国語を読む力、聴く力を鍛え、中国語の基礎的文献を理解する力を養成すると同時に、そのテキスト内容を通して、急速な成長を遂げる現在の中国を多面的に理解することを目的とする。テキストは、最近の新聞、雑誌、書籍などから、ふさわしい話題性、問題性に富むものを選び、また必要に応じて書き下ろした。この授業で、中国語を身につけながら、すでにあるステレオタイプな「中国」像ではなく、歴史的、文化的背景に基づいた新しい「中国」像を、自らの手で作り上げてもらいたい。この授業は、テキストの講読を中心とし、文の構造の分析や解釈に重点を置く他、適宜リスニングも取り入れる。また、テキストの内容に関わる報告やレポートの提出も求める。

評価方法：成績は、出席を前提とし、その上で平常点(報告・レポートなど)、学期末試験を総合的に判定する。

「特修7」(前期)(全学提供 各2単位)

「特修8」(後期)(全学提供 各2単位)

目標：視聴覚教材を用いて、聞き取りと会話の能力を高めることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらうようにする。

評価方法：出席を前提とし、平常点、学期末試験を総合して判定する。

「特修9」(前期)(全学提供 各2単位)

「特修10」(後期)(全学提供 各2単位)

目標：一回生で習った事柄を中心に、日常的な会話の能力を高めることを目標とする。中国人教員が担当しできるだけ中国語を多く使って授業を行う。自然な中国語に近づけるよう訓練する。

評価方法：出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

「中国語中級1」「中国語中級2」(前期)(全学提供 各1単位)

「中国語中級3」「中国語中級4」(後期)(全学提供 各1単位)

目標：「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」能力を総合的に向上させることを目標とする。確実につかいこなせる語彙や表現を増やし、多様な場面に即応できるよう訓練を重ねる。また、ビデオ教材や、最近の映画を教材として取り入れることで、文化的な背景や社会の様々な側面への理解を深めていく。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語上級1」（前期）（全学提供〔文学部17年度以前の入学者は必修〕1単位）

目標：「入門」「初級」「中級」から6単位以上を修得、もしくは1年次提供の「入門1～3」「初級1～3」の6単位完全習得を履修条件とする。中国人教員が担当し、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」能力の総合的なレベルアップを図る。具体的には、より複雑な構文に習熟しつつ、微妙なニュアンスの使い分けにも配慮した練習を行う。また、作文も重視する方針である。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

基礎 1・2 （前期）

C I a (月・2) 豊田 周子 (非常勤)、(水・1) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

C I b (月・2) 秋岡 英行 (非常勤)、(水・1) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

C I c (月・2) 福田知可志 (非常勤)、(水・1) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

E I a (月・1) 秋岡 英行 (非常勤)、(水・2) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

E I b (月・1) 福田知可志 (非常勤)、(水・2) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

E I c (月・1) 韓 艶玲 (非常勤)、(水・2) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

J I a (月・1) 山口 久和 (文)、(水・2) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

J I b (月・1) 豊田 周子 (非常勤)、(水・2) 齋藤 茂 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

L I a (月・2) 大岩本 幸次 (文)、(水・1) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

L I b (月・2) 韓 艶玲 (非常勤)、(水・1) 松浦 恒雄 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

M I H I a (月・3) 長谷川 慎 (非常勤)、(水・4) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

H I b (月・3) 秋岡 英行 (非常勤)、(水・4) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

T I a (月・4) 豊田 周子 (非常勤)、(水・3) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

T I b (月・4) 長谷川 慎 (非常勤)、(水・3) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

T I c (月・4) 岩本 真理 (文)、(水・3) 大野 洋介 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

応用 1 A (前期)

J I a (金・3) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

J I b (金・3) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

L I a (金・4) 范 紫江 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

L I b (金・4) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

応用 1 B (前期)

C II a (火・2) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

C II b (火・2) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

C II c (火・2) 張 新民 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

T II (木・1) 穴沢 彰子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

H II a (木・2) 穴沢 彰子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

H II b (木・2) 齋藤 茂 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

特修 1 (前期)

全 (月・3) 韓 艶玲 (非常勤)

講義内容：基礎 1～4 で身につけた正確な発音を基に、自由な会話ができることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらう。聞く力、話す力の向上を目指す。

・テキスト：塚本慶一・劉穎：『2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

特修 3 (前期)

全 (火・3) 岩本 真理 (文)

講義内容: 授業の前半で「中検 4 級レベル」のリスニング、文法問題に取り組む。後半で指定テキストにより、読解力の向上と語彙力の強化に努める。暗唱、応用作文にも取り組み、総合的な語学力の定着をはかる。

・テキスト: 豊島裕子: 『やさしい中国語中級 会話・読み物』(中検 4 級・3 級対応) (光生館)

特修 5 (前期)

全 (水・3) 井出 克子 (非常勤)

講義内容: 中国語を読む力、聴く力を鍛え、基本的文献を理解する力を養成する。また教材を通じて、急速に成長を遂げる現在の中国を多面的に理解することも目的とする。

・テキスト: プリント配布

特修 7 (前期)

全 (木・3) 張 新民 (文)

講義内容: 視聴覚教材を用いて聞き取り練習、会話練習を中心に授業を進め、「聞く」、「話す」力を高めることを目標とする。

・テキスト: プリント配布

特修 9 (前期)

全 (金・3) 范 紫江 (非常勤)

講義内容: 実践的な会話力を養うことを目標とする。聞く力、話す力を高めるため、授業はできるだけ中国語によって行う。会話でよく用いられる表現を習得し、自然なリズムで話すことを目指す。

・テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『2 年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

中級 1 (前期)

全 (月・5) 大岩本 幸次 (文)

講義内容: 聞く、話す、読む、書くの四つの能力を総合的に向上させることを目標とする。確実に使いこなせる語彙、表現を増やし、多様な場面に即応できるよう訓練を重ねる。文化的な背景に対する理解も深めてゆきたい。

・テキスト: プリント配布

上級 (前期)

全 (金・2) 范 紫江 (非常勤)

講義内容: 中国語教員が担当し、聞く、話す、読む、書くの四つの能力の総合的なレベルアップをはかる。複雑な構文にも習熟し、微妙なニュアンスの使い分けができるよう、訓練を重ねる。

・テキスト: 劉山・李培元: 『最新中国語教本 (下)』(中華書店)

基礎 3 (後期)

C I a (月・2) 豊田 周子 (非常勤)

・テキスト: 清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏: 『一步一步学漢語』下 (白帝社)

C I b (月・2) 秋岡 英行 (非常勤)

・テキスト: 清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏: 『一步一步学漢語』下 (白帝社)

C I c (月・2) 福田知可志 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

E I a (月・1) 秋岡 英行 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

E I b (月・1) 福田知可志 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

E I c (月・1) 韓 艶玲 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

J I a (月・1) 山口 久和 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

J I b (月・1) 豊田 周子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

L I a (月・2) 大岩本幸次 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

L I b (月・2) 韓 艶玲 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

M I H I a (月・3) 長谷川 慎 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

H I b (月・3) 秋岡 英行 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

T I a (月・4) 豊田 周子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

T I b (月・4) 長谷川 慎 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

T I c (月・4) 岩本 真理 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

基礎 4 (後期)

C I a (水・1) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

C I b (水・1) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

C I c (水・1) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

E I a (水・2) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

E I b (水・2) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

E I c (水・2) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

J I a (水・2) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

J I b (水・2) 齋藤 茂 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

L I a (水・1) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

L I b (水・1) 松浦 恒雄 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

M I H I a (水・4) 大野 洋平 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

H I b (水・4) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

T I a (水・3) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

T I b (水・3) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

T I c (水・3) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

応用 2 A (後期)

J I a (金・3) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

J I b (金・3) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

L I a (金・4) 范 紫江 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

L I b (金・4) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

応用 2 B (前期)

C II a (火・2) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

C II b (火・2) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

C II c (火・2) 張 新民 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

T II (木・1) 穴沢 彰子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

H II a (木・2) 穴沢 彰子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

H II b (木・2) 松浦 恒雄 (文)

・テキスト：プリント配布

特修 2 (後期)

全 (月・3) 韓 艶玲 (非常勤)

講義内容：基礎 1～4 で身につけた正確な発音を基に、自由な会話ができることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらう。聞く力、話す力の向上を目指す。

・テキスト：塚本慶一・劉穎：『2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

特修 4 (後期)

全 (火・3) 岩本 真理 (文)

講義内容：授業の前半で「中検 3 級レベル」のリスニング、文法問題に取り組み、特に学習者の犯しやすい誤りは重点的に練習を繰り返す。後半で指定テキストを使用し、長文読解力の養成を目標とする。

・テキスト：豊島裕子：『やさしい中国語中級 会話・読み物』〈中検 4 級・3 級対応〉(光生館)

特修 6 (後期)

全 (水・3) 井出 克子 (非常勤)

講義内容：中国語を読む力、聴く力を鍛え、基本的文献を理解する力を養成する。また教材を通じて、急速に成長を遂げる現在の中国を多面的に理解することも目的とする。

・テキスト：プリント配布

特修 8 (後期)

全 (木・3) 張 新民 (文)

講義内容：視聴覚教材を用いて聞き取り練習、会話練習を中心に授業を進め、「聞く」、「話す」力を高めることを目標とする。

・テキスト：プリント配布

特修10 (後期)

全(金・3) 范 紫江(非常勤)

講義内容: 実践的な会話力を養うことを目標とする。聞く力、話す力を高めるため、授業はできるだけ中国語によって行う。会話でよく用いられる表現を習得し、自然なリズムで話すことを目指す。

・テキスト: 塚本慶一・劉穎: 『2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

中級2 (後期)

全1(月・5) 大岩本 幸次(文)

講義内容: 聞く、話す、読む、書くの四つの能力を総合的に向上させることを目標とする。確実に使いこなせる語彙、表現を増やし、多様な場面に即応できるよう訓練を重ねる。文化的な背景に対する理解も深めてゆきたい。

・テキスト: プリント配布

ロシア語 Russian

学習の意義

国内の経済格差は解消されていないが、ロシアの経済は好調である。かつての「暗い、寒い、貧しい」というロシアのイメージは完全に払拭された感がある。国章の双頭の鷲のように、今ロシアはヨーロッパだけでなく、アジア、特に極東アジアに目を向けている。村上春樹など日本の作家が読まれ、三島由紀夫の研究者ボリス・アクーニン（悪人からとったペンネーム）の推理小説が爆発的な人気を呼んだのもかなり以前の話だ。長寿国日本の食生活への関心は高く、「すし屋」(?)の看板がやたらと目に付く。ペテルブルグ（大阪市の姉妹都市）に正式に日本語学校が開かれたのは1736年、日本でロシア語を教えるようになったのは1873年（明治6年）。この130年以上の開きは今も両国の関心度の差になってはいないだろうか。ロシアの魅力は何か、と問われたら、昔は、文学（ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイ、チェーホフ、ゴーリキイなど）、という答えが多かった。延々と続くロシアの白樺の林、幻想的な白夜の夕暮れ、チャイコフスキイ、ムソルグスキイ、ラフマーニノフなどの音楽、世界最高峰のロシア・バレエ、伝統的なロシア演劇、ロシア語で接すると心から打ち解けてくる素朴な人々など、ロシアの魅力は尽きない。ロシア語は国連の公用語のひとつ。世界一広い国土（地球上の六分の一）を有する隣国の言葉です。ロシア語を学んで、新しい世界への扉を開きましょう。ロシア民謡の一節を口ずさみながら。（雪の白樺並木、夕日が映える、走れトロイカ朗らかに、鈴の音高く）

目標と評価方法

「ロシア語基礎1・2」(前期) (2クラス提供 2単位)

目標：担当者は異なるが、それぞれ創意をこらした教材を用いて、週2回の授業を行う。ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章が発音記号なしで読めるようにする。適宜、視聴覚教材を利用し、ロシアの文化（歌、映画など）を紹介する。この「基礎1・2」だけでは不十分なので、少なくとも「基礎3」「基礎4」まで継続することが望ましい。

なお、平成17年（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門1・2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）
- 第2週～第3週：ロシア語の文字と発音
- 第4週～第8週：ロシア語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：ロシア語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：出席状態など平常点、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」(後期) (各2クラス提供 各1単位)

目標：ビデオなど視聴覚教材を活用して、やさしい日常の表現と基本的な文法事項を学習する。文化など多方面にわたるロシア事情も随時紹介していく。「基礎3」「基礎4」は、原則として「基礎1・2」と同じ担当者が授業を行う。やさしい日常の表現と、また辞書をひきこなすために最低限必要な文法事項の習得を目標におく。さらに「読む」力の養成にも重点をおき、文化の背景を理解してもらうための視聴覚教材も採用する。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級1」「ロシア語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

〈基礎3〉

- 第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語基礎的な実践能力の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語の基礎的な実践能力の強化
- 第11週～第14週：ロシア語の基礎的な実践能力の仕上げ

〈基礎4〉

第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語基礎的な文法知識の拡充

第6週～第10週：ロシア語の基礎的な文法知識の強化

第11週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：出席状態など平常点を加味し、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語応用1A」（前期）（全学提供「文学部必修」1単位）

目標：ロシア語をより確実に学習するためのクラスで、ネイティブの教員が担当する。発音が主として中心になるが、学習に参加する学生との「ふれあい」を大切に授業を行う。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音—補強

第4週～第9週：ロシア語応用能力の初歩的養成

第10週～第14週：ロシア語応用能力の発展的養成

評価方法：平常点を加味して、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語応用2A」（後期）（全学提供「文学部必修」1単位）

目標：ロシア語の日常用いる平易な表現を使って、役に立つ会話を実践する。生きたロシア語の表現を学ぶクラスで、ネイティブの教員が担当する。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：〈応用1A〉の既習事項の確認

第1週～第5週：ロシア語応用能力の拡充

第6週～第10週：ロシア語応用能力の強化

第11週～第14週：ロシア語応用能力の仕上げ

評価方法：平常点を加味して定期試験で総合的に行う。

「ロシア語応用1B」（前期）「ロシア語応用2B」（後期）（全学提供 各1単位）

目標：1年次に修得した事項をより確かなものにするため、役に立つ会話を中心に、会話と読解の基礎を構築する。ネイティブの教員が担当する。

授業内容・授業計画：

〈応用1B〉

第1週：既習事項の確認

第2週～第3週：ロシア語応用能力の導入

第4週～第9週：ロシア語応用能力の初歩的養成

第10週～第14週：ロシア語応用能力の発展的養成

〈応用2B〉

第1週：〈応用1B〉既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語応用能力の拡充

第6週～第10週：ロシア語応用能力の強化

第11週～第14週：ロシア語応用能力の仕上げ

評価方法：出席状況など平常点、および定期試験で総合的に行う。

「ロシア語特修1」（前期）「ロシア語特修2」（後期）（全学提供 各2単位）

目標：「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得し、さらに学びたいという意欲のある学生を対象に、様々な映像を活用してロシアの文化（音楽、演劇、映画など）を学びながらロシア語の知識を習得し、ロシア語の運用能力の向上を目指す。

評価方法：平常点を加味し定期試験で行う。

「ロシア語中級」(前期) (全学提供 1 単位)

目標：基本的文法事項の復習をしつつ、会話と読解の力の向上を目指す。ネイティブの教員が担当し、ロシアの風俗・習慣やロシア人の暮らし振りなどを紹介する。

評価方法：平常点を加味して、定期試験で判断する。

「ロシア語上級」(後期) (全学提供 1 単位)

目標：会話にとどまらず、ロシア語の学習をさらに深める。ネイティブの教師が担当する。高度のコミュニケーション能力を身につけることが中心になる。

評価方法：平常点を加味して、定期試験で判断する。

基礎 1・2 (前期)

商・経・法・文・理 I (月・3) エレーナ・キリーロワ (非常勤)

授業内容：「聞く・話す・読む・書く」能力を身につけることを目指す。各テーマに沿って練習を行う。文字と発音、これは何ですか？私の家族、あなたは何をしていますか？私はロシア語が好きです。ボルシチをください！何時ですか？あなたはどこにいますか？

・テキスト：『ロシア語へのパスポート』(白水社) 改訂版

工・医・生科 I (月・2) 浅岡 宣彦 (特任)、商・経・法・文・理 I (水・4) 浅岡 宣彦 (特任)

授業内容：少し骨のある教科書を用いて、ロシア語に親しみながら学習を進め、同時にロシア語の骨組みを理解してもらう。ロシアの歌、映画などを紹介しつつ、ロシアおよびロシア文化への理解を深めてもらう。

・テキスト：佐々木照央『速修ロシア語 (増補版)』(白水社)

工・医・生科 I (水・1) 木寺 律子 (非常勤)

授業内容：キリル文字の読み方から始めて、基礎的な文法を学習する。特に、ロシア語の音読に力を注ぎ、ロシア語の基本的な表現と語彙の修得を目指す。ロシアの歌、アニメの歌、アニメや映画にも触れて、ロシアの習慣や生活の様子を取り上げ、ロシアを身近に感じてもらう。

・テキスト：黒田龍之介『ロシア語文法への旅』(大学書林) 他に適時プリントを配布する。

応用 1 A (前期)

全 I (金・4) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)

授業内容：文字と発音に慣れ、簡単な表現を修得する事を目標とする。アルファベット・発音・基本的語彙の習得、人称代名詞、動詞の現在形、過去形、格変化、前置格・前置詞、対格、命令形、生格、所有代名詞、形容詞の性と数を取り扱う。

・テキスト：『ロシア語習字ノート』(ナカウ)、プリント配布

応用 1 B (前期)

全 II (月・4) エレーナ・キリーロワ (非常勤)

授業内容：基礎的な会話能力の修得を目指す。各テーマに沿って会話と聞き取りを中心とした練習を丁寧に行う。自己紹介、私の家族、天気、私の一日、私の町、店にて、国と言語、まとめ、を取り扱う。

・テキスト：プリント配布

中級 1 (前期)

全 II (金・3) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)

授業内容：教科書「ロシア語教程 1」の第12課まで復習しつつ学ぶことを目標とする。関係代名詞の用法、無人称文(副詞と述語)、数詞(40-2000)、動詞の体(その3)、出発と到着の表現、形容詞、所有代名詞の前置格、所有代名詞、指示代名詞の与格、動詞の体(その4)、体調の表現、西暦年代、を取り扱う。

・テキスト：『ロシア語教程1』（東京ロシア語学院）

特修1（前期）

全Ⅱ（水・3）浅岡 宣彦（特任）

授業内容：映画やオペラの映像を用いてロシアの文化を紹介し、特に民謡、ロマンスなどのテキストを通して、復習を兼ねながらロシア語の知識を確実なものにしていく。

・テキスト：適宜、プリントを配布する。

基礎3（後期）

商・経・法・文・理Ⅰ（月・3）エレナ・キリーロワ（非常勤）

授業内容：前期の教科書を継続し、基本的な文法事項の習得と読みの習熟を計る。ビデオ教材を用いてロシアの魅力を多方面から紹介する。

・テキスト：佐々木照央『速修ロシア語（増補版）』（白水社）

工・医・生科Ⅰ（月・2）浅岡 宣彦（特任）

授業内容：教科書の残りを仕上げ、運用能力を高めることが目標となる。各テーマに沿って練習を行う。私は車を持っています、何曜日ですか？私は日本に住んでいます、昨日は何をしましたか？お誕生日おめでとう！まだ本を読み終えていません、何月ですか？どこから来ましたか？

・テキスト：『ロシア語へのパスポート』（白水社）改訂版

基礎4（後期）

商・経・法・文・理Ⅰ（水・4）浅岡 宣彦（特任）

授業内容：前期の教科書を継続し、基礎文法を学習する。習得した文法事項を活用して簡単な会話ができるように応用の機会を設け、また読解力の向上を目指す。ビデオ教材などを活用して、ロシア文化に親しんでもらう。

・テキスト：黒田龍之介『ロシア語文法への旅』（大学書林）、プリントを配布。

工・医・生科Ⅰ（水・1）木寺 律子（非常勤）

授業内容：前期教科書を継続し、基本的な文法事項の習得と読みの習熟を計る。ビデオ教材を用いてロシアの魅力を多方面から紹介する。

・テキスト：佐々木照央『速修ロシア語（増補版）』（白水社）

応用2A（後期）

全Ⅰ（金・4）ズマグロワ・アイヌーラ（非常勤）

授業内容：「聞く・話す・読む・書く」力の基礎力を養う。運動の動詞、与格、動詞の未来形、数字と名詞の結びつき、造格、完了体、不完了体、指示代名詞の性と数、動詞・副詞・活動体・不活動体(対格)、総合練習、を取り扱う。

・テキスト：プリントを配布

応用2B（後期）

全Ⅱ（月・4）エレナ・キリーロワ（非常勤）

授業内容：授業はロシア語で進め、表現能力の幅を広げることを目標とする。各テーマに沿って会話と聞き取りを中心とした練習を継続する。交通機関、旅行、ホテルにて、レストランにて、過去と未来の出来事、年齢、通話、まとめ、を取り扱う。

・テキスト：プリントを配布

上級 1 (後期)

全Ⅱ (金・3) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)

授業内容：「ロシア語教程 1」の残りを仕上げ、コミュニケーティブ・アプローチによる運用能力の向上を目指す。数量の表現、複数生格、数詞 (3000-5000000)、動詞の体 (その 5)、活動体対格 (複数)、複数与格、造格、前置格、形容詞短語尾、形容詞、比較級、副動詞、を取り扱う。

・テキスト：『ロシア語教程 1』 (東京ロシア語学院)

特修 2 (後期)

全 (水・3) 浅岡 宣彦 (特任)

授業内容：「ロシア語特修 1」を継続する。後期はロシアの文芸映画を中心に素材を集め、文法と会話の習熟度を高めることに留意する。並行して、ロシアの歴史と文化を紹介し、ロシアへの関心と理解を深めてもらう。

・テキスト：プリントを配布する。

朝鮮語 Korean

学習の意義

朝鮮語は構造や語彙の成り立ちにおいてもっとも日本語に近い言語後です。また、文化的にもともに漢文化の強い影響のもとに発展してきました。今日、政治・経済をはじめ、様々な分野の結びつきは高まる一方であり、年間三百万以上の人々が日韓を往来していることはよく知られています。このような時代において、朝鮮語の実用性とニーズは著しく高まりました。正しい相互理解は言葉から始まります。ひとり立ちできる語学力をめざしましょう。

目標と評価方法

「朝鮮語基礎1・2」(前期)(学部別提供 クラス指定 2単位)

目標：ハングル文字の発音からはじめて、朝鮮語の基礎的な構造と活用形(連体形・連用形・過去形など)や、日常生活でよく用いられる主な語法(仮定法や比喩表現など)と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解までにはまだ至りません。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門1・2」に読み替えることができます。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション(朝鮮語・朝鮮文化への導入)

第2週～第3週：朝鮮語の文字と発音

第4週～第8週：朝鮮語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：朝鮮語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：「朝鮮語基礎1・2」を履修した人を対象に、同時に開講される「基礎4」との連携のもと、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級1」に読み替えることができます。

授業内容・授業計画：

第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認

第2週～第5週：朝鮮語の基礎的な総合能力の拡充

第6週～第10週：朝鮮語の基礎的な総合能力の強化

第11週～第14週：朝鮮語の基礎的な総合能力の仕上げ

評価方法：定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語基礎4」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：「朝鮮語基礎1・2」を履修した人を対象に、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

す。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級2」に読み替えることができます。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：朝鮮語の基礎的な総合能力の拡充
- 第6週～第10週：朝鮮語の基礎的な総合能力の強化
- 第11週～第14週：朝鮮語の基礎的な総合能力の仕上げ

評価方法：定期試験と小テスト（中間テスト、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語応用1A」（前期）（全学提供 1単位）

目標：「朝鮮語基礎1・2」を履修中の人を対象に、「基礎1・2」と連携しながら、ハングル文字の発音からはじめ、朝鮮語の基礎的な構造と活用形（連体形・連用形・過去形など）や、日常生活でよく用いられる主な語法（假定法や比喩表現など）と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざすのは基礎クラスと同じですが、それに加えて、ビデオ教材なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解の十分なまでにはまだ至りません。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門3」に読み替えることができます。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション（朝鮮語・朝鮮文化への導入）
- 第2週～第3週：朝鮮語の文字と発音—補強
- 第4週～第9週：朝鮮語応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：朝鮮語応用能力の発展的養成

評価方法：定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語応用2A」（後期）（全学提供 1単位）

目標：「朝鮮語応用1A」を履修した人を対象に、「基礎3」「基礎4」と連携しながら、日常生活で頻出する主な語法（可能表現や婉曲語法など）や活用（不規則活用など）や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力を養成するとともに、ビデオ教材を活用し、ニュースや映画などの生き生きした言葉に触れ、朝鮮語の感覚に慣れるようつとめます。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級3」に読み替えることができます。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈応用1A〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：朝鮮語応用能力の拡充
- 第6週～第10週：朝鮮語応用能力の強化
- 第11週～第14週：朝鮮語応用能力の仕上げ

評価方法：定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語応用1B」（前期）（全学提供 1単位）

目標：「朝鮮語基礎1・2」の履修を終えた人を対象に、「基礎1・2」で学んだ事柄の復習と、それらに加え、新たに日常生活でよく用いられる語法や語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。辞書を活用し、作文や読解などが独力でできる、いわゆる独り立ちできる語学力が目的です。また、ビデオ教材（ニュース・映画など）なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、やや高度な会話や構文を理解できるようになります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門3」に読み替えることができます。

授業内容・授業計画：

- 第1週：既習事項の確認

- 第2週～第3週：朝鮮語応用能力への導入
- 第4週～第9週：朝鮮語応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：朝鮮語応用能力の発展的養成

評価方法：定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語応用2B」（後期）（全学提供 1単位）

目標：「朝鮮語応用1B」の履修を終えた人を対象に、「応用1B」で学んだ事柄の復習と、それらに加え、より高度な語法や語彙を習得し、日常会話や読解に使える実践的な語学力の養成をめざします。辞書を活用し、作文や読解などのスピードアップが独力が目的です。また、ビデオ教材（ニュース・映画など）なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、比較的高度な会話や構文を理解できるようになります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門3」に読み替えることができます。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈応用1B〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：朝鮮語応用能力の拡充
- 第6週～第10週：朝鮮語応用能力の強化
- 第11週～第14週：朝鮮語応用能力の仕上げ

評価方法：定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語特修1」（前期）（全学提供 1単位）

「朝鮮語特修2」（後期）（全学提供 1単位）

目標：語学学習は語法や語彙を学んだだけでは不十分で、それらを活用し、自分の伝えたいことが伝わる形で発信したり、また相手のメッセージを正確に受信するトレーニングが何よりも大切です。そのためにネイティブの教師が少人数クラスで集中的な授業を行い、正確な発音と作文力や読解力・語彙力を養成しながら、自然な表現の獲得を目指します。また、受講生の要望に応じ、検定試験対策も試みます。

評価方法：定期試験のほか、何よりも課題や授業時の積極的な発表が重視されます。

「朝鮮語中級」（前期）（学部別提供 各1単位）

目標：語学学習は語法や語彙を学んだだけでは不十分で、それらを活用し、自分の伝えたいことが伝わる形で発信したり、また相手のメッセージを正確に受信するトレーニングが何よりも大切です。中級ではより実践的な内容に重点を置きながら、基礎クラスで習得した事柄を確実に使いこなせるようになるとともに、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。

評価方法：定期試験や小テストは無論のこと、授業時の質疑応答が重要視されます。

「朝鮮語上級」（前期）（全学提供 1単位）

目標：旧カリキュラム「中級」2単位以上の取得を履修条件とする「上級」では、それまで培ってきた語法や語彙の実践的な使い方に習熟するとともに、様々なスタイルの言葉や表現に触れ、生きた朝鮮語の世界に親しむことをめざします。

評価方法：何よりも授業時の質疑応答が重視される。その他、小テストなども随時実施され、その結果も考慮します。

基礎1・2（前期）

CTI（月・2）野崎充彦（文学部）、（水・3）金宝英（特任）

授業内容：ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

EMH I (月・3) 河廷龍 (特任)、(水・4) 金宝英 (特任)

授業内容：ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

JL I (月・4) 河廷龍 (特任)、(水・4) 高秀賢 (特任)

授業内容：ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

応用 1 A (前期)

全 I (木 3) 野崎充彦 (文学部)

授業内容：基礎 1・2 と並行して朝鮮語の文字発音や基礎文法、主な語法などを習得していきますが、特に、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：生越直樹・曹喜徹『ことばの架け橋』(白帝社)

応用 1 B (前期)

全 II (木 4) 野崎充彦 (文学部)

授業内容：基礎クラスで学び残した語法をマスターして確実に使いこなせるようにトレーニングし、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。具体的シチュエーションに適した会話を通じ、短い作文や簡単な読解を練習します。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：生越直樹・曹喜徹『ことばの架け橋』(白帝社)

特修 1 (前期)

全 II (水・3) 高秀賢 (特任)

授業内容：少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：プリント

中級 1 (前期)

全 (月 5) 野崎充彦 (文学部)

授業内容：より実践的な内容に重点を置きながら、基礎クラスで習得した事柄を確実に使いこなせるように、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。具体的には読解や語法練習、および作文や会話の練習に重点が置かれます。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：プリント

上級 1 (前期)

全 II (木 5) 野崎充彦 (文学部)

授業内容：すでに学習してきた基礎文法をもとに、会話表現を中心としながらも、新聞や雑誌などの論説文の読解にも取り組みます。また、ニュースや映画などの映像媒体にも触れ、生きた言葉に親しむことを目標とします。定期試験・小テスト・課題により評価します。

テキスト： プリント

基礎 3 (後期)

CTI (月・2) 野崎充彦 (文学部)

授業内容：基礎1・2で学んだ事柄を復習しながらさらに学習を進め、規則活用や不規則活用、および日常生活でよく用いられる語法(可能・不可能表現や婉曲語法など)を習得していきます。また、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題などにより評価します。

・テキスト：生越直樹・曹喜徹『ことばの架け橋』(白帝社)

EMHI (月・3) 河延龍 (特任)

授業内容：前期で学んだことをもとに、さらに重要な文法と主な語法の活用と会話を中心に学習します。特に、辞書の使い方などを熟知させ、自習能力を極めます。また、教材に出るいろいろな場面についての紹介をしつつ、文化的な理解にも重点をおきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します

・テキスト：油谷利・コヨンジン『実用韓国語』(白水社)

JLI (月・4) 河延龍 (特任)

授業内容：前期で学んだことをもとに、さらに重要な文法と主な語法の活用と会話を中心に学習します。特に、辞書の使い方などを熟知させ、自習能力を極めます。また、教材に出るいろいろな場面についての紹介をしつつ、文化的な理解にも重点をおきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します

・テキスト：油谷利・コヨンジン『実用韓国語』(白水社)

基礎 4 (後期)

CTI (水・3) 金宝英 (特任)

授業内容：前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

EMHI (水・4) 金宝英 (特任)

授業内容：前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：生越直樹・曹喜徹『ことばの架け橋』(白帝社)

JLI (水・4) 高秀賢 (特任)

授業内容：前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

応用 2 A (後期)

全I (木3) 野崎充彦 (文学部)

授業内容：基礎3・4と並行して朝鮮語の基礎文法、主な語法などを習得していきますが、特に、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：生越直樹・曹喜徹『ことばの架け橋』(白帝社)

応用 2 B (後期)

全II (木4) 野崎充彦 (文学部)

授業内容：基礎クラスで習得した事柄を復習しながら、確実に使いこなせるようにトレーニングし、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。具体的には日常会話でよく用いられる語法を中心に短い作文や簡単な読解を

練習します。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：プリント

特修 2 (後期)

全Ⅱ (水・3) 高秀賢 (特任)

授業内容：少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：プリント

日本語 Japanese

学習の意義

留学生にとって日本語の習得がいかに大切なものであるかは、いうまでもない。ただ、日本語の習得といっても、その内容はさまざまである。日常生活に必要な会話から、手紙や役所の届け出の書類を書くこと、テレビなどのメディアによる日本語の言葉を通しての娯楽など。しかし、ここでは大学生活にとって必要な日本語の習得である。大学生活をより豊かにするために学習・研究活動のための十分な日本語能力を身につけることが肝要である。学習活動に必要な日本語能力とは講義を聞き、理解する、ノートを取る、自分の疑問点を日本語で表現する能力などである。研究活動に必要な能力とは、専門書を読んで、要約し、ゼミなどで発表する、あるいはレポートをまとめたり、論文を書く能力である。「日本語1～4」ではそのような能力の養成につとめる。なお、それぞれ内容や目的が異なるので、留学生は順次全てを履修することが望まれる。なお、「日本語5」は短期留学や交換留学生を対象とした科目である。

目標と評価方法

「日本語1A・1B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。具体的には①高度な論説文の読解力をつける。②むずかしい言葉・漢字を習得する。③内容を要約する力をつける。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション(授業方針の説明)
- 第2週～第3週：日本語・読解力への導入
- 第4週～第8週：大学での学習活動に必要な日本語読解能力の養成
- 第9週～第14週：日本文化の読解能力の発展的養成

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

「日本語2A・2B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、日本語を口頭で、あるいは文章で表現する能力をつける。①論文などを要約・説明・発表する。②レポートの執筆や論述試験に対応できるような作文力を身につける。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション(授業方針の説明)
- 第2週～第3週：日本語・作文力への導入
- 第4週～第8週：大学での学習活動に必要な日本語作文能力の養成
- 第9週～第14週：日本語の作文能力の発展的養成

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

「日本語3A・3B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、さまざまな文献を読みこなす力を養う。①高度な論説文を読み、論点を整理する。②多彩な文献の速読能力を養う。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション(授業方針の説明)
- 第2週～第3週：日本文化への導入
- 第4週～第8週：日本文化の理解
- 第9週～第14週：日本文化の発展的考察

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

「日本語4 A・4 B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、日本語で議論する能力を養う。①いくつかの文献を読み、論点を整理して発表する。②ゼミなどにおいて、文献の内容や自分の研究についてわかりやすく口頭発表できるようにすることを目指す。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション(授業方針の説明)
- 第2週～第3週：日本語でのディスカッションの導入
- 第4週～第8週：大学での研究活動に必要な討議能力の養成
- 第9週～第14週：日本語でのディスカッション力の発展的養成

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

「日本語5 A・5 B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での学習活動に要する日本語能力を身につける。短期留学や交換留学の学生、とくに非漢字文化圏の学習者に対応した学習内容とする。履修に関しては担当者の許可を必要とする。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

1 A (前期)

全(月・3)高坂 史朗(文)

授業内容：その日の新聞を読む。政治・経済・社会・文化・生活などさまざまな新聞記事を速読する。それによって日本の現在を知る。

・テキスト：授業時にプリント配布。

1 B (後期)

全(月・3)高坂 史朗(文)

授業内容：日本語に関する文章を読む。それによって、日本の特色を知る。速読形式で行う。

・テキスト：授業時にプリント配布。

2 A・2 B (前期・後期)

全I(火・3)坂本 美加(非常勤)

授業内容：簡単な作文を通じて、レポート・論文といった論理的な文章を書くために必要な基礎的事項について学ぶ。

・テキスト：『留学生のための論理的な文章の書き方』他

3 A (前期)

全II(月・2)高坂 史朗(文)

授業内容：日本の文学作品を読む。川端康成「伊豆の踊り子」・三島由紀夫「潮騒」など前もって読み、章ごとに発表・鑑賞する。

・テキスト：授業時に指示する。

3 B (後期)

全II(月・2)高坂 史朗(文)

授業内容：司馬遼太郎・ドナルドキーン「日本人と日本文化」(中公新書)を読み、日本の歴史と文化を考察する。

・テキスト：授業時に指示する。

4 A (前期)

全Ⅱ (火・4) 坂本 美加 (非常勤)

授業内容：口頭発表技術を高める活動を中心に行う。各自が設定したテーマで発表を行い、クラスで討論する。
・テキスト：授業時に指示する。

4 B (後期)

全Ⅱ (火・4) 坂本 美加 (非常勤)

授業内容：基本的な文法事項を復習し、様々な状況で使われる日本語表現の修得を目指す。
・テキスト：授業時に指示する。

5 A (前期)

全Ⅱ (水・4) 高坂 史朗 (文)

授業内容：大阪・京都・奈良・神戸の歴史と文化を学ぶ。この授業は非漢字圏の交換留学生を対象とする授業である。
・テキスト：授業時に指示する。

5 B (後期)

全Ⅱ (水・4) 高坂 史朗 (文)

授業内容：この授業は非漢字圏の交換留学生を対象とする授業である。内容はその日の新聞を読み、日本の現在を知る。
熟読し、漢字を覚えることを主眼とする。
・テキスト：授業時に指示する。

(2) 第 2 部

英 語

ド イ ツ 語

フ ラ ン ス 語

中 国 語

ロ シ ア 語

朝 鮮 語

英語 English

カリキュラム概要

日本の中学校・高等学校における英語教育は、単に技能の習熟にとどまらず、全人教育を目指すものである。本学では、これをさらに発展させ、生きたことばとしての英語の習得を目的とする。生きたことばとは、自分の考えを表現し、相手の意図を理解するために自然に使われることばを指す。そこには、コミュニケーションの道具としてだけでなく、思考の手段としてのことばも含まれる。本学において、生きたことばとしての英語の習得を達成するために、母語獲得の場合と同様に、必要以上に文法を意識することなく、ごく普通に意味を理解する英語運用能力の養成と強化を目指す。

この考えに基づき、昨年、英語カリキュラムが改編された。きめ細かな指導を行うため、1年、2年共に、従来のクラスサイズより少人数のクラス編制とする。また、必修科目としてCollege English (CE) が1年で4時間、2年で2時間の合計6時間提供される。本カリキュラムに基づき、先述の英語運用能力の習得を目指す。

1年は、前・後期の授業を通して、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランスよく伸ばすことを目標としている。CE IとCE IIIは、リスニング・リーディング中心、CE IIとCE IVは、スピーキング・ライティング中心のクラスである。前期の目標は、中学・高校で習得した基本的な英語の運用能力に基づきながら、大学生の知的レベルに合った話題を扱い、4技能の基礎的能力を育成・強化することにある。後期は前期の授業を発展させ、大学生の知的好奇心を満足させる話題を扱いながら、4技能の応用力を培うことにより、英語で大意を把握し、同時に表現する能力の開発を目指す。

2年では、1年に培った英語力に基づき、応用力・実践力を身につけることを目的とする。1年に習得した英語運用能力をさらに発展させ、専門教育につながる高度なレベルのリーディング・ライティング能力の習得に重点を置いた授業を行う。CEVでは、1年次のCE I～IVの成果を踏まえ、多読とパラグラフ・ライティングを取り入れた授業を行う。CEVIは、専門に近い英文の読解力、並びに、表現力の養成を目標とする。

また、意欲的な学生を対象に、プレゼンテーションのような高度な英語運用能力の習得を目指した自由選択科目のAdvanced College English (ACE) を開講する。

英語カリキュラム編制表

必修科目				
1年	前期	CE I	CE II	
	後期	CE III	CE IV	
2年	前期	CE V		ACE
	後期	CE VI		

履修科目内容

<1年>

(1) College English I (CE I)

目標：中学・高校で習得した英語のリスニング・リーディングに関する基本的運用能力をさらに伸ばすことを目指す。

授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語を聞いて理解する際に必要な基礎的な聴解力、並びに、英語を読んで理解する際に求められる基礎的な読解力を習得することを目的とする。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を基に評価する。

段階別到達度：半期授業の前半と後半でリスニングとリーディングの比重を変える。

(1) 前半はリスニングよりもリーディングに重点を置き、基本的な読解力を養成する。

(2) 後半はリーディングよりもリスニングに重点を置き、基本的な聴解力を養成する。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
J/L I a	月・2	高島 葉子	C/E I a	火・1	田中 孝信
J/L I b	月・2	田中 一彦	C/E I b	火・1	荒木 映子
J/L I c	月・2	[山本 修]	C/E I c	火・1	山崎 雅人

(2) College English II (CE II)

目標：中学・高校で習得した英語のスピーキング・ライティングに関する基本的運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語の音声と文字で自分の考えを表現する際に必要な基本的発信能力の習得を目的とする。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を基に評価する。

段階別到達度：半期授業の前半と後半でスピーキングとライティングの比重を変える。

- (1) 前半はスピーキングよりもライティングに重点を置き、基本的表現力を養成する。
- (2) 後半はライティングよりもスピーキングに重点を置き、基本的表現力を養成する。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
J/L I a	水・1	(ジョーンズ)	C/E I a	木・2	関 茂樹
J/L I b	水・1	リチャーズ	C/E I b	木・2	岩田 彩志
J/L I c	水・1	井狩 幸男	C/E I c	木・2	[大野 裕之]

(3) College English III (CE III)

目標：前期の授業を発展させ、リスニング・リーディングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語を聞いて正確に理解するための聴解力、並びに、英語の文章を読み的確に理解するための読解力の養成を目的とする。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を基に評価する。

段階別到達度：前期と比べ、扱う言語データ量（音声）を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 前半は、前期培った基本的な読解力を基に、さらなる向上を目指す。
- (2) 後半は、前期培った基本的な聴解力を基に、さらなる向上を目指す。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
J/L I a	月・2	[山本 修]	C/E I a	火・1	関 茂樹
J/L I b	月・2	荒木 映子	C/E I b	火・1	山崎 雅人
J/L I c	月・2	高島 葉子	C/E I c	火・1	古賀 哲男

(4) College English IV (CE IV)

目標：前期の授業を発展させ、スピーキング・ライティングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語で文章を正確に書く能力、並びに、自分の考えを英語で適切に話す能力を養うことを目的とする。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を基に評価する。

段階別到達度：前期と比べ、扱う言語データ量（文字）を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 前半は、前期で培った基本的な書く能力を基に、さらなる表現力の向上を目指す。
- (2) 後半は、前期で培った基本的な話す能力を基に、さらなる表現力の向上を目指す。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
J/L I a	水・1	田中 一彦	C/E I a	木・2	衣笠 忠司
J/L I b	水・1	井狩 幸男	C/E I b	木・2	[大野 裕之]
J/L I c	水・1	(ジョーンズ)	C/E I c	木・2	瀬戸 賢一

< 2年 >

(5) College English V (CE V)

目標：1年生で培った英語運用能力の基礎力アップを目指す。CE I～IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることを目標とする。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点を基に評価する。

段階別到達度：4技能に関して、インプットとアウトプットのバランスを考慮し、以下の段階を踏まえた授業を行う。

- (1) リスニングとリーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リスニングとリーディングに、それぞれスピーキングとライティングの要素を取り入れた授業を行う。
- (3) スピーキングとライティングに重点を置いた授業を行う。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
L II	月・1	[山本 修]	C/E II b	木・1	[大野 裕之]
C/E II a	木・1	古賀 哲男			

(6) College English VI (CE VI)

目標：1年生の時に学んだCE I～IV、及びCE Vで培った基本的な英語運用能力の上に、応用力を習得することを目的とする。所属学部の専門性を考慮し、専門に近い内容を扱うリーディングとライティングに重点を置いた授業を行うことにより、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることを目指す。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

別段階到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した授業を行う。

- (1) リーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リーディングの中にライティングを取り入れた授業を行う。
- (3) ライティングに重点を置いた授業を行う。

CE VI(後期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
L II	月・1	[山本 修]	C/E II b	木・1	野末 紀之
C/E II a	木・1	[大野 裕之]			

Advanced College English (ACE) < 2部 >

Advanced College EnglishはCollege English (CE) で培った英語運用能力よりもさらに高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、文章構成力、理解力などを磨くことを目的とした自由選択科目である。提供内容は科目ごとに異なるので、各自の目的に応じて適切な科目を選択することが大切である。

Advanced College English (ACE) の履修方法について

ACEの履修については、各学部の要覧等で確認すること。

(1) 履修の受付について

ACE科目の受講を希望する者は、第2部事務室で「指定用紙」を受け取り、記入して、前期については4月8日(火)午後9時15分までに第2部事務室内のボックスに入れること。「指定用紙」を提出していない者の履修は認めない。

希望者多数の場合は抽選を行う。受講確定者は、前期については4月9日(水)午後3時に、第2部事務室前に掲示する。

ただし、

- ① 1年生は受講できない。
 - ② 上回生優先とする。
 - ③ 10年度以降の入学者は、1セメスター1科目とする。
- 後期の受講については、7月中旬に掲示するので見ておくこと。

(1) 9年度以前入学者の単位読み替えについて

ACEは、9年度以前開講の特修英語の単位として読み替える。

(2) クラス規模について

各科目とも30名程度とする。

「ACE : TOEIC650」(前期) (全学提供 1単位)

目標：企業で海外出張の対象となる基準点突破を目標とした様々な訓練を行う。データやグラフの読み取りはもちろん、リスニング、語彙の強化および文法・構文の知識の整理も行う。ドリルを数多くこなすことによって慣れを養う。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Critical Writing」(後期) (全学提供 1単位)

目標：ある問題やトピックを主体的に設定し、知的探求に値するかを検証し、資料を検索、収集し、分析し、統合し、問題提起や問題解決策の提示、新たな説の展開等という形で自らの考えを表現する力を養成する

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Media English」(前期) (全学提供 1単位)

目標：現代のような情報化社会においては、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアから日々英語で配信される多量の情報を効率的に収集し、分析・活用するための能力が必要になってくる。本講座では、特に、ジャーナリスティックな英語の読解力、聴解力の強化を目的としている。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Discussion」(後期) (全学提供 1単位)

目標：筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める基本的なコミュニケーション能力を養成する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

第2部外国語

前期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
TOEIC 650	全	木・1	[デイヴィッド]
Media English	全	水・2	(ジョーンズ)

後期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
Critical Writing	全	木・1	[デイヴィッド]
Discussion	全	水・2	(ジョーンズ)

新修外国語

(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語)

新入生諸君のほとんどは、中学、高校を通じて英語を学んで来たことと思う。そのため、外国語といえば英語と考えがちだが、もちろん外国語は英語だけではない。世界には実にさまざまな言語が存在し、それぞれの言語は、それぞれ固有の文化を生み出してきた。世界的な交流がますます活発になるにつれ、世界の諸地域の言語と文化を理解することは、いよいよ重要度を増しつつある。英語だけでは十分な国際交流、国際理解は達成できないのである。大学ではこのような観点から、広く世界への視野を開くために、さまざまな外国語の授業を開講している。

新修外国語（英語以外の外国語）を学ぶことは、新しい言語を読み、書き、聞き、話す実際的能力を身につけることを意味するが、同時に、英語とは異なった外国語の仕組みを学ぶことにより、言語そのものに対する新たな認識を得ることをも意味する。すなわち、英語に加えて新たな外国語を学ぶことで、日本語や英語を新たな視点から眺め、諸言語に共通の要素や、あるいはそれぞれの独自性を理解し、また諸言語の差異が何に由来するかということについても学ぶであろう。また、それぞれの言語には、地球上のその言語を話す地域の人々のものの見方、考え方が現れているので、各言語を学ぶことによって、その地域の人々の真の姿を理解する道も開けてくるのである。言語のこのような学習を通じて、学問に必要な知性も、自然に錬磨されていくことになるだろう。諸君は大学生となったのだから、二つ以上の外国語を修得し、言語に対するもっと能動的で自由な姿勢を養っていくべきであろう。そのことが、外国語コンプレックスから抜け出させ、ひいては英語学習にも好結果をもたらすことになるだろう。

外国語の学習は、若いときほど容易に身につくものである。将来諸君が外国に行き、あるいは外国人と接触し、あるいは外国語のテキストを読む必要にせまられてから、当該の言語を学ばなかったことを悔やんでも遅いのである。語学は、かりに目先の実用の場がない場合も、基礎を修得しておけば、必要なときに自力での学習が可能である。大学で新修外国語を学び、知的財産を蓄え、幅の広い豊かな人間として、自らをつくりあげることを諸君に期待する。

新修外国語履修の仕方について

(平成17年度以降入学学生用)

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

1年次前期	基礎1 Basic 1	基礎2 Basic 2
1年次後期	基礎3 Basic 3	基礎4 Basic 4
2年次以降	特修1 Specialized 1 特修2 Specialized 2	

(詳細は各学部で異なるので、所属学部の履修規定を参照すること)

§ 1. 標準的履修の場合

1. まず、1年次前期で、「基礎1」(1単位)、「基礎2」(1単位)を履修すること。
2. 原則として、「基礎1」「基礎2」を受講したのち、1年次後期で、「基礎3」「基礎4」を受講すること。
3. さらに学習したい者は、2年次以降で「特修1」(2単位)、「特修2」(2単位)を履修することができる。「特修1」「特修2」は毎年開講されるが、これは重複履修してよい。なお、「基礎」を受講したうえで不合格だった者も、「特修」を履修することができる。

§ 2. 再度履修の場合

1年次提供の「基礎1」、「基礎2」、「基礎3」、「基礎4」の不合格者は、2年次で、不合格であったのと同じ番号の「基礎」を再度履修すること。

新修外国語履修の仕方について

(平成16年度以前入学学生用)

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

1 年 次		2 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期
入門1 Introductory 1	初級1 Elementary 1	中級1 Intermediate 1	中級3 Intermediate 3
入門2 Introductory 2	初級2 Elementary 2	中級2 Intermediate 2	中級4 Intermediate 4

§ 1. 標準的履修の場合

1. まず、1年次前期で、「入門1」（1単位）、「入門2」（1単位）を履修すること。「入門」の単位を修得できなくても、「初級」を履修することはできる。
2. 「入門1」「入門2」の受講者は、ひきつづき、1年次後期で、「初級1」（1単位）、「初級2」（1単位）を受講すること。「初級」の単位を修得できなくても、「中級」を履修することはできる。
3. さらに、2年次前期で「中級1」（1単位）、「中級2」（1単位）を、2年次後期で「中級3」（1単位）、「中級4」（1単位）を履修すること。前期の「中級」の単位を修得できなくても、後期の「中級」を履修することができる。

なお、平成19年度から「中級」の提供は年に1コマとなっている。次の「§ 2.再度履修の場合」を参照すること。

§ 2. 再度履修の場合

1. 「入門1」の不合格者は「基礎1」を履修し、「入門1」に読み替えること。
2. 「入門2」の不合格者は「基礎2」を履修し、「入門2」に読み替えること。
3. 「初級1」の不合格者は「基礎3」を履修し、「初級1」に読み替えること。
4. 「初級2」の不合格者は「基礎4」を履修し、「初級2」に読み替えること。
5. 「中級1」「中級2」「中級3」「中級4」の不合格者は、ナンバーがいずれであっても、必要単位に見合うだけの「中級」を再度履修すること。

ただし、今年度開講の「中級」の受講が他の卒業要件科目と重なって不可能である場合、もしくは、今年度開講の「中級」を履修しても、なお今年度中に「中級」の必要単位数を充たし得ない場合は、その外国語の「特修」科目で読み替えることができる。その場合「特修」科目のナンバーは、いずれであっても構わない。また、「特修」は2単位の科目であるが、「中級」に読み替える場合は、1単位を与えるものとする。

ドイツ語 German

学習の意義

ドイツ語は、今日、一億人以上の人々によって話され、ドイツはもとより、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインで公用語となっている。ドイツ語は、英語と同じ系統に属する言語であり、とりわけすでに英語を学んだ諸君には習得が容易である。発音はほぼローマ字読みに近く、簡単な原則になじめば、短期間で正確に発音できるようになる。文の構造も英語以上に理論的であり、明快である。このような言語を学ぶことは、それ自体が新鮮な体験であると同時に、すでに学んだ英語や、ひいては日本語に対しても新たな視点をもたらす、その理解をいっそう深めてくれることであろう。

すでに東西ドイツが統一され、ヨーロッパ全体が一つに統合されつつある現在、ドイツ語は、政治・経済をはじめとするあらゆる分野で、ますます重要な役割を果たすことが予想される。従って、諸君が将来社会で幅広く活動する際に、身につけたドイツ語の能力はさまざまな局面で有効性を発揮するであろう。またドイツはこれまで、自然科学や社会科学の分野で多くの卓越した成果を生み、哲学・文学・音楽・映画など、豊かな文化を实らせてきた。相対性理論のアインシュタインやロケット工学のフォン・ブラウン、あるいは精神分析学のフロイト、ユングなど、例をあげてゆけばきりが無い。ドイツ語を学ぶことは、現在も盛んなこれらの学術・文化の实相に直接触れることでもあり、これから諸君が専門課程でさまざまな分野の学問を学ぶ上で大きな刺激となることであろう。

外国語の学習は、世界に向けて新しい窓を開くことである。諸君が、ドイツ語の学習を通して、より広い視野と国際性を身につけることを願ってやまない。

目標と評価方法

「ドイツ語基礎1」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:「基礎1」では、ドイツ語を初めて学ぶ人のために、発音の基礎から始めて、ドイツ語のしくみ、単純な文の構造などを体系的に学び、ドイツ語の輪郭を知ることがめざす。ドイツ語の単文を理解し、それによる表現ができるようにする。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

- 第1週: イントロダクション (ドイツ語・ドイツ文化への導入)
- 第2週~第3週: ドイツ語の文字と発音
- 第4週~第8週: ドイツ語の基礎的な文法知識の初歩的養成
- 第9週~第14週: ドイツ語の基礎的な文法知識の発展的養成

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎2」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:「基礎2」では、「基礎1」と平行して、ドイツ語を初めて学ぶ人のために、AV機器なども併用しながら、発音の基礎から始めて、背景となる文化をも学びながら、ドイツ語の総合的な基礎能力を身につけることをめざす。ドイツ語の輪郭と広がりを知るとともに、ドイツ語による初歩的なコミュニケーションがおこなえるようにする。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

- 第1週: イントロダクション (ドイツ語・ドイツ文化への導入)
- 第2週~第3週: ドイツ語の文字と発音
- 第4週~第8週: ドイツ語の基礎的な実践能力の初歩的養成
- 第9週~第14週: ドイツ語の基礎的な実践能力の発展的養成

評価方法: 平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：「基礎3」では「基礎1」で学んだ内容をもとに、やや高度なドイツ語のしくみ、複合文の構造などを体系的に学び、ドイツ語の基礎をひとつお知り知ることをめざす。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈基礎1〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ドイツ語の基礎的な文法知識の拡充
- 第6週～第10週：ドイツ語の基礎的な文法知識の強化
- 第11週～第14週：ドイツ語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎4」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：「基礎4」では、「基礎3」と平行しつつ、「基礎2」で学んだ内容をもとに、AV機器なども併用しながら、やや高度なドイツ語を、背景の文化も含めて総合的に理解するとともに、基本的なコミュニケーションがおこなえるようにする。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈基礎2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ドイツ語の基礎的な実践能力の拡充
- 第6週～第10週：ドイツ語の基礎的な実践能力の強化
- 第11週～第14週：ドイツ語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語特修1」(前期)(全学提供 2単位)

「ドイツ語特修2」(後期)(全学提供 2単位)

目標：基礎段階を履修した学生を対象に、クラスごとに特定のテーマを設定し、少人数授業によって、充実したドイツ語能力を身につけることをめざす。

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語中級1」(前期)(全学提供 1単位)

「ドイツ語中級2」(後期)(全学提供 1単位)

目標：「基礎」で身につけた知識を基礎に、全部できるだけ幅広い範囲からテキストを選び、多彩な内容の標準的ドイツ語の読解力を養成することができるように授業がなされる。もちろん、日常的なことばの側面にも配慮し、テープを使つての授業もある。

評価方法：原則的に、平常の学習態度(出席状況、発表、レポート、小テストなど)と定期試験の成績とに基づく総合的評価。

基礎1 (前期)

CIE(月・1)海老根 剛(文)

・テキスト：三室次雄：『ドイツ語・プラクティッシュ 〈グリーン〉』(三修社)

JL I(火・2)海老根 剛(文)

・テキスト：三室次雄：『対話で学ぶドイツ文法』(郁文堂)

基礎 2 (前期)

CIE (水・2) 神竹 道士 (文)

・テキスト：三室次雄：『CD付 ドイチュ・アトラクティブ』(三修社)

JL I (木・1) 三上 雅子 (文)

・テキスト：西村／ベトリック：『改訂版・ドイツ語へようこそ!』(同学社)

特修 1 (前期)

全II (火・1) クラウス・ブレックス (文)

授業内容：授業内容は受講生の希望とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

・テキスト：プリントを使用

中級 1 (前期)

全II (木・2) 三上 雅子 (文)

授業内容：初級文法を復習しながらドイツの社会や生活を取り扱った様々な文章を読み会話練習を重ねて、総合的なドイツ語運用能力の育成を目指す。評価は平常点を加味して、定期テストで行う。DVD等も使用する。

・テキスト：近藤・小林・新倉・松尾：『Dialogステップアップ版』(郁文堂)

基礎 3 (後期)

CIE (月・1) 三上 雅子 (文)

・テキスト：三室次雄 他：『ドイチュ・プラクティッシュ グリューン』(三修社)

JL I (火・2) 海老根 剛 (文)

・テキスト：三室次雄：『対話で学ぶドイツ文法』(郁文堂)

基礎 4 (後期)

CIE (水・2) 神竹 道士 (文)

・テキスト：三室次雄：『CD付 ドイチュ・アトラクティブ』(三修者)

JL I (木・1) 寺井 俊正 (文)

・テキスト：西村／ベトリック：『改訂版・ドイツ語へようこそ!』(同学社)

特修 2 (後期)

全II (火・1) クラウス・ブレックス (文)

授業内容：授業内容は受講生の希望とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

フランス語 French

学習の意義

郵便、料理、オリンピック、ファッション、欧州会議、美術……。これらの分野では、伝統的にフランス語が重要なコトバであり続けてきました。もちろん、映画、文学、音楽といったジャンルでも大きな役割を果たしてきましたし、その使用範囲（フランス語圏会議参加は53ヶ国・地域）、使用人口（第1言語+第2言語使用者2億6千万人）、使用機関（国連作業語、欧州議会公用語）を加味した有用度において、英語につぐ国際語の地位を占めています。「ノルマンディー侵攻」によって250年間イングランドのことばがフランス語だったせいで、英語語彙の30%はフランス語から流入したものですし、文法にも影響を残しました。

また最近のフランスにおける「ニッポン」には、アニメや漫画、自動車、精密機器のほかに、伝統文化、ファッション、さらには文学までも進出しているのですが、フランス語を学ぶみなさんは、新たな日本文化紹介者になる可能性も持つことになるわけです。

目標と評価方法

〔フランス語基礎1〕（前期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

目標：「基礎1」では、フランス語を初めて学ぶ人のために、CD や Video, DVD などを用いながら、フランス語の発音のしくみ、文の構造、背景となる文化などをトータルに示すことによって、フランス語という言語の輪郭を知るとともに、単文を理解・発信できるようにする。

なお、平成16（2004）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション（フランス語・フランス文化への導入）

第2週～第3週：フランス語の発音と文字

第4週～第8週：フランス語の基礎的な文法知識の初歩的養成

第9週～第14週：フランス語の基礎的な文法知識の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

〔フランス語基礎2〕（前期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

目標：「基礎2」では、「基礎1」とともに、フランス語を初めて学ぶ人むけに、CD や Video, DVD 機器などを用いながら、フランス語の基本的な文法要素、音韻要素、背景となる文化などをトータルに示すことによって、フランス語という言語の輪郭を知るとともに、初歩的なコミュニケーションがおこなえるようにする。

なお、平成16（2004）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション（フランス語・フランス文化への導入）

第2週～第3週：フランス語の発音と文字

第4週～第8週：フランス語の基礎的な実践能力の初歩的養成

第9週～第14週：フランス語の基礎的な実践能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

〔フランス語基礎3〕（後期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

目標：「基礎3」では、「基礎1」によって学んだ内容を基とし、さらに進んだ言語のしくみを教授することによって、まとまった文章を理解・発信できるようにする。

第2部外国語

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス初級1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈基礎1〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語の基礎的な文法知識の拡充
- 第6週～第10週：フランス語の基礎的な文法知識の強化
- 第11週～第14週：フランス語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

目標：「基礎4」では、「基礎2」によって学んだ内容を基として、フランス語の時称システムや叙法などの進んだ文法事項や発音訓練を、コミュニケーションな面を深めた教授法により、平易なコミュニケーションがおこなえるようにする。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈基礎2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語の基礎的な実践能力の拡充
- 第6週～第10週：フランス語の基礎的な実践能力の強化
- 第11週～第14週：フランス語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語特修1」（前期）（全学提供 2単位）

「フランス語特修2」（後期）（全学提供 2単位）

目標：「基礎」や「応用」を修得したのち、もっと学びたいという、意欲ある学生のために提供される「特修」では、年度ごと、クラスごとにそれぞれ特色ある内容が提供される。具体的には、口頭表現、長文読解、仏検準備などであり、いずれのクラスもテーマに特化した授業がおこなわれる。

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語中級1」（前期）（全学提供 1単位）

目標：「入門」「初級」の成果をふまえ、より高度な読解力、聴解力、作文力、口頭表現力を陶冶する。具体的には、新聞・小説・論文などにとどまらず、シナリオ・雑誌・広告など、さまざまな種類のフランス語の講読や、AV機器を利用した聞き取りの訓練をおこなったり、いろいろなテーマによる仏作文や、さまざまなシチュエーションにおける日常会話の訓練をおこなう。

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

基礎1（前期）

CIE（月・1）津川 廣行（文）

・テキスト：林田 遼右『パリ散歩-DVD付テキスト版-』（朝日出版社）

JL I（火・2）中島 廣子（文）

・テキスト：添田・後藤『プティ・フランセ』（早美出版社）

基礎2（前期）

CE I（水・2）小田中 章浩（文）

・テキスト：藤田裕二・藤田知子・シルヴィー・ジレ『新・東京-パリ、初飛行』新訂版（駿河台出版社）

JL I (木・1) 津川 廣行 (文)

・テキスト：大津・滝川・藤井『世界遺産で学ぶフランス語』（朝日出版社）

特修 1 (前期)

全 (火・1) 福島 祥行 (文)

授業内容：【フランス若者雑誌の世界】フランスのギャル雑誌を中心に、さまざまなテキストや映像により、現代フランスの若者文化と若者ことばを学ぶ。また、学んだ口頭表現をもちいて、スピーキングに対する訓練も行う。

・テキスト：プリント配布

中級 (前期)

全 (木・2) ピエール・ラヴェル (文)

授業内容：授業は基礎フランス語の習得に重視をおきます。日常生活ですぐ役に立つ基本語彙の習得を目指します。ただし、文法を知らずにはフランス語で表現できないので、その復習も行います。評価方法として、毎週の小テストと、1時間20分の大きな試験を2回実施します。

・テキスト：藤田史朗・清田リディア『ユヌ・アヴァンチュール』（早美出版社）

基礎 3 (後期)

CIE (月・1) 小田中 章浩 (文)

・テキスト：林田 遼右『パリ散歩－DVD付テキスト版－』（朝日出版社）

JL I (火・2) 中島 廣子 (文)

・テキスト：添田・後藤『プティ・フランセ』（早美出版社）

基礎 4 (後期)

CIE (水・2) 小田中 章浩 (文)

・テキスト：藤田裕二・藤田知子・シルヴィー・ジレ『新・東京－パリ、初飛行』新訂版（駿河台出版社）

JL I (木・1) 津川 廣行 (文)

・テキスト：大津・滝川・藤井『世界遺産で学ぶフランス語』（朝日出版社）

特修 2 (後期)

全 (火・1) ピエール・ラヴェル (文)

授業内容：授業は基礎フランス語の習得を強調します。会話、作文、聞き取り、新聞、シャンソンなど、さまざまなテキストを教材に、日常生活ですぐ役立つ基本語彙の習得を目指します。評価方法として、毎週の小テストと、1時間20分の大きな試験を2回実施します。

・テキスト：高橋 秀雄、セルジュ・ジュンタ『ヌヴォ・ク・ド・クール』（第三書房）

中国語 Chinese

学習の意義

中国は全欧州の面積に匹敵する国土に、十三億を超える人口を擁している。近年、急速な経済発展をとげており、アジアの隣人として、我々の生活とも密接な関係を持つ存在となっている。中国との関係は今後ますます深まってくだろう。より良い関係を築いていくためには、お互いを知ることが不可欠だが、それにはまず言葉—中国語を学ぶことが第一歩となる。

大学で新たな外国語を学ぶことは、言葉を通してその国の文化、社会のあり方を理解し、国際的視野を広げることにつながっている。中国語を学ぶことによって、長い歴史と様々な文化を持つ中国を理解する糸口として欲しい。

目標と評価方法

「中国語基礎1」(前期) (学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。法文クラスでは「中国語基礎2」と連動して授業を進めるので注意すること。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション (中国語の特徴や背景となる中国社会・文化について簡単に説明する。)

第2週～第4週：発音の基礎練習

第5週～第14週：教科書に従って学習を進める。概ね1課を2回の授業で学習する。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語基礎2」(前期) (学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。法文クラスでは「中国語基礎1」と連動して授業を進めるので注意すること。

授業内容・授業計画：

〈基礎1〉と同様に授業を進める。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語基礎3」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。法文クラスでは「中国語基礎4」と連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

授業内容・授業計画：

第1週：前期の復習

第2週～第14週：教科書に従って学習を進める。概ね1課を2回の授業で学習する。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語基礎4」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあ

わせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。法文クラスでは「中国語基礎3」と連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

授業内容・授業計画：

〈基礎3〉と同様に授業を進める。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語特修1」（前期）（全学提供 2単位）

「中国語特修2」（後期）（全学提供 2単位）

目標：特に意欲のある学生のために開設する科目である。「基礎1～4」での既習事項を基礎として、より複雑な構文や、多様な文体にふれ、理解を深めていく。また、ナチュラルスピードで語られる録音教材や、最近の映画なども教材として使用する予定で、より高度なコミュニケーションに適応しうる能力を養成する。また、中国社会における様々な側面、文化的背景に習熟することも目指している。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語中級」（前期）（全学提供 1単位）

目標：「入門」「初級」で修得した基礎的知識を確認しながら、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」四方面での能力を総合的に向上させることを目標とする。具体的には、確実につかいこなせる語彙や表現を増やし、多様な場面に即応できるよう訓練を重ねる。なお、文化的な背景や社会の様々な側面への理解を深めていくことも重視していきたい。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

基礎1（前期）

CIE（月・1）山口 久和（文）

・テキスト：梁維国・大森真理：『中国語の時間』（朝日出版社）

JLI（火・2）張 新民（文）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

基礎2（前期）

CIE（水・2）齋藤 茂（文）

・テキスト：瀬戸口 律子：『中国語はじめました』（駿河台出版）

JLI（木・1）松浦 恒雄（文）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

中級1（前期）

全II（木・2）大岩本幸次（文）

授業内容：聞く、話す、読む、書くの四つの能力を総合的に向上させることを目標とする。確実に使いこなせる語彙、表現を増やし、多様な場面に即応できるよう訓練を重ねる。文化的な背景に対する理解も深めてゆきたい。

・テキスト：プリント配布

特修1（前期）

全II（火・1）岩本 真理（文）

授業内容：授業の前半で「中級4級レベル」のリスニング、文法問題に取り組む。後半で指定テキストにより、読解力

第2部外国語

の向上と語彙力の強化に努める。暗唱、応用作文にも取り組み、総合的な語学力の定着をはかる。
・テキスト：豊島裕子：『やさしい中国語中級 会話・読み物』〈中検4級・3級対応〉（光生館）

基礎3（後期）

CIE（月・1）山口 久和（文）

・テキスト：梁維国・大森真理：『中国語の時間』（朝日出版社）

JLI（火・2）張 新民（文）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

基礎4（後期）

CIE（水・2）齋藤 茂（文）

・テキスト：瀬戸口 律子：『中国語はじめました』（駿河台出版）

JLI（木・1）松浦 恒雄（文）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

特修2（後期）

全II（火・1）岩本 真理（文）

授業内容：授業前半で「中検3級レベル」のリスニング、文法問題に取り組み、特に学習者の犯しやすい誤りは重点的に練習を繰り返す。後半で指定テキストを使用し、長文読解力の養成を目標とする。

・テキスト：豊島裕子：『やさしい中国語中級 会話・読み物』〈中検4級・3級対応〉（光生館）

ロシア語 Russian

学習の意義

国内の経済格差は解消されていないが、ロシアの経済は好調である。かつての「暗い、寒い、貧しい」というロシアのイメージは完全に払拭された感がある。国章の双頭の鷲のように、今ロシアはヨーロッパだけでなく、アジア、特に極東アジアに目を向けている。村上春樹など日本の作家が読まれ、三島由紀夫の研究者ボリス・アクーニン（悪人からとったペンネーム）の推理小説が爆発的な人気を呼んだのもかなり以前の話だ。長寿国日本の食生活への関心は高く、「すし屋」(?)の看板がやたらと目に付く。ペテルブルグ（大阪市の姉妹都市）に正式に日本語学校が開かれたのは1736年、日本でロシア語を教えるようになったのは1873年（明治6年）。この130年以上の開きは今も両国の関心度の差になってはいないだろうか。ロシアの魅力は何か、と問われたら、昔は、文学（ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイ、チェーホフ、ゴーリキイなど）、という答えが多かった。延々と続くロシアの白樺の林、幻想的な白夜の夕暮れ、チャイコフスキイ、ムソルグスキイ、ラフマーニノフなどの音楽、世界最高峰のロシア・バレエ、伝統的なロシア演劇、ロシア語で接すると心から打ち解けてくる素朴な人々など、ロシアの魅力は尽きない。ロシア語は国連の公用語のひとつ。世界一広い国土（地球上の六分の一）を有する隣国の言葉です。ロシア語を学んで、新しい世界への扉を開きましょう。ロシア民謡の一節を口ずさみながら。（雪の白樺並木、夕日が映える、走れトロイカ朗らかに、鈴の音高く）

目標と評価方法

「ロシア語基礎1」(前期) (全学提供 1単位)

「ロシア語基礎2」(前期) (全学提供 1単位)

目標：担当者は異なるが、それぞれ創意をこらした教材を用いて、週2回の授業を行う。ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章が発音記号なしで読めるようにする。適宜、視聴覚教材を利用し、ロシアの文化（歌、映画など）を紹介する。この「基礎1・2」だけでは不十分なので、少なくとも「基礎3」「基礎4」まで継続することが望ましい。

授業内容・授業計画：

〈基礎1〉

第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音

第4週～第8週：ロシア語の基礎的な文法知識の初歩的養成

第9週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の発展的養成

〈基礎2〉

第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音

第4週～第8週：ロシア語の基礎的な実践能力の初歩的養成

第9週～第14週：ロシア語の基礎的な実践能力の発展的養成

評価方法：出席状態など平常点、定期試験で総合的に行う。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門1・2」に読み替えることができる。

「ロシア語基礎3」(後期) (全学提供 1単位)

「ロシア語基礎4」(後期) (全学提供 1単位)

目標：ビデオなど視聴覚教材を活用して、やさしい日常の表現と基本的な文法事項を学習する。文化など多方面にわたるロシア事情も随時紹介していく。「基礎3」「基礎4」は、原則として「基礎1」「基礎2」と同じ担当者が授業を行う。やさしい日常の表現と、また辞書をひきこなすために最低限必要な文法事項の習得を目標におく。さらに「読む」力の養成にも重点をおき、文化の背景を理解してもらうための視聴覚教材も援用する。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級1」「ロシア語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

〈基礎3〉

第1週：〈基礎1〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語基礎的な文法知識の拡充

第6週～第10週：ロシア語の基礎的な文法知識の強化

第9週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の仕上げ

〈基礎4〉

第1週：〈基礎2〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語基礎的な実践能力の拡充

第6週～第10週：ロシア語の基礎的な実践能力の強化

第9週～第14週：ロシア語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法：出席状態など平常点を加味し、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語特修1」（前期）（全学提供 2単位）

「ロシア語特修2」（後期）（全学提供 2単位）

目標：「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得し、さらに学びたいという意欲ある学生を対象に、主として会話力を中心としたロシア語運用能力の向上を計る。

「ロシア語中級」（前期）（全学提供 1単位）

目標：簡単なテキストを用いて文法事項の習得を確かなものにし、さらに文章の構造をあらゆる角度から分析して、読解の力を高めていく。視聴覚教材を用いて、ロシアへの理解も深めていく。

評価方法：平常点および定期試験で総合的に判断する。

基礎1（前期）

全I（火・2）加藤 純子（非常勤）

講義内容：日本からロシアへの研修旅行を想定し、都市ごとにテーマを決めて、話す、聴く、文書を作る練習をする。

教科書と配布資料で文法の基礎を学び、CDやビデオを練習に使う。復習、応用練習用のWEBページも紹介する。

成績評価の方法 平常点、定期試験で総合的に行う。

テキスト 中島 由美ほか『ロシア語へのパスポート』（白水社）改訂版

基礎2（前期）

全I（木・1）角 信明（文）

講義内容：文字の読み方から始めて、基礎文法をゆっくり、楽しく学習していく。また、歌を覚えたり、ビデオ教材を用いてロシア文化（アニメ、映画、歴史的建築等）の紹介も行う。

成績評価の方法 平常点、定期試験で総合的に行う。

テキスト 黒田龍之介『ロシア文法への旅』（大学書林）

特修1（前期）

全II（火・1）加藤 純子（非常勤）

講義内容：インターネット、映像、ニュース、読み物、音楽、スポーツなどの話題で、（1）音声聴いて内容を伝える、（2）資料を参照して内容をまとめる、などの簡単な練習をする。配布資料のほかVTRやDVDなどを参照する。

成績評価の方法 平常点、定期試験で総合的に行う。

テキスト プリント（資料）を配布。

基礎3 (後期)

全I (火・2) 加藤 純子 (非常勤)

講義内容: 文法の基礎 (後半) を学習する。ロシア語での読み物 (配布資料) を参照し、食生活、スポーツ、音楽、ニュースなどの話題で話す練習をする。『罪と罰』を題材としたゲームで動詞、名詞、数詞の応用練習も行う。

成績評価の方法 平常点、定期試験で総合的に行う。

テキスト 中島由美ほか『ロシア語へのパスポート』(白水社) 改訂版

基礎4 (後期)

全I (木・1) 角 伸明 (文)

講義内容: 前期の教科書を継続し、基礎文法をゆっくり、楽しく学習していく。また、カードを使って日常に使用する語彙やフレーズを覚えていく。歌も唄い、ロシア文化の紹介も積極的に行う。

成績評価の方法 平常点、定期試験で総合的に行う。

テキスト 黒田龍之介『ロシア文法への旅』(大学書林)

特修2 (後期)

全II (火・1) 加藤 純子 (非常勤)

授業内容: 仕事、観光、名作をテーマとする。日本やロシアのどんな場面でどんなロシア語が使われているのかを知り、例文を聴いたり読んだりする。VTRや資料を参照し、世の中の動きや人々のたくましさなどをかいまみてゆく。

成績評価の方法 平常点、定期試験で総合的に行う。

テキスト プリント配布 (資料) を配布

中級1 (前期)

全II (木・2) 浅岡 宣彦 (特任)

講義内容: 含蓄に富む易しい教材を用い、文法事項を復習しながらロシア語の読む能力を高め、同時に会話の基礎を培う。映画や音楽を鑑賞しつつ、ロシア語会話の聞き取りやロシアの文化事情を紹介する。

成績評価の方法 平常点、定期試験で総合的に行う。

テキスト 適宜、プリントを配布する。

朝鮮語 Korean

学習の意義

朝鮮語は構造や語彙の成り立ちにおいてもっとも日本語に近い言語後です。また、文化的にもともに漢文化の強い影響のもとに発展してきました。今日、政治・経済をはじめ、様々な分野の結びつきは高まる一方であり、年間三百万以上の人々が日韓を往来していることはよく知られています。このような時代において、朝鮮語の実用性とニーズは著しく高まりました。正しい相互理解は言葉から始まります。ひとり立ちできる語学力をめざしましょう。

目標と評価方法

「朝鮮語基礎1」(前期) (全学 1単位)

目標：ハングル文字の発音からはじめて、朝鮮語の基礎的な構造と活用形(連体形・連用形・過去形など)や、日常生活でよく用いられる主な語法(仮定法や比喩表現など)と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解までにはまだ至りません。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門1・2」に読み替えることができます。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション(朝鮮語・朝鮮文化への導入)

第2週～第3週：朝鮮語の文字と発音

第4週～第8週：朝鮮語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：朝鮮語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語基礎2」(前期) (全学 1単位)

目標：「基礎1」とともに、ハングル文字の発音からはじめて、朝鮮語の基礎的な構造と活用形(連体形・連用形・過去形など)や、日常生活でよく用いられる主な語法(仮定法や比喩表現など)と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解までにはまだ至りません。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門1・2」に読み替えることができます。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション(朝鮮語・朝鮮文化への導入)

第2週～第3週：朝鮮語の文字と発音

第4週～第8週：朝鮮語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：朝鮮語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語基礎3」(後期) (全学 1単位)

目標：「朝鮮語基礎1」を履修した人を対象に、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解することも可能になります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級1」に読み替えることができます。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈基礎1〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：朝鮮語の基礎的な総合能力の拡充
- 第6週～第10週：朝鮮語の基礎的な総合能力の強化
- 第11週～第14週：朝鮮語の基礎的な総合能力の仕上げ

評価方法：定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語基礎4」（後期）（全学 1単位）

目標：「朝鮮語基礎2」を履修した人を対象に、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法（可能表現や婉曲語法など）や活用（不規則活用など）や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解することも可能になります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級2」に読み替えることができます。

授業内容・授業計画：

- 第1週：〈基礎2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：朝鮮語の基礎的な総合能力の拡充
- 第6週～第10週：朝鮮語の基礎的な総合能力の強化
- 第11週～第14週：朝鮮語の基礎的な総合能力の仕上げ

評価方法：定期試験と小テスト（中間テスト、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語特修1」（前期）（全学 1単位）

「朝鮮語特修2」（後期）（全学 1単位）

目標：語学学習は語法や語彙を学んだだけでは不十分で、それらを活用し、自分の伝えたいことが伝わる形で発信したり、また相手のメッセージを正確に受信するトレーニングが何よりも大切です。そのために正確な発音と作文力を養成しながら、自然な表現の獲得を目指します。

評価方法：定期試験のほか、何よりも課題や授業時の積極的な発表が重視されます。

「朝鮮語中級」（前期）（全学 1単位）

目標：中級ではより実践的な内容に重点を置きながら、基礎クラスで習得した事柄を確実に使いこなせるよう、徹底した反復練習を通じ、確実な語学力の養成を目標とします。

評価方法：定期試験や小テストは無論のこと、授業時の質疑応答が重視されます。

基礎1（前期）

全I（水・1）高秀賢（特任）

授業内容：ハングル文字と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

基礎1（前期）

全I（木・1）野崎充彦（文学部）

授業内容：ハングル文字と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：木内明『基礎から学ぶ韓国語初級篇』（国書刊行会）

基礎3 (後期)

全I (水・1) 高秀賢 (特任)

授業内容: ハングル文字と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト: 高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

基礎4 (後期)

全I (木・1) 野崎充彦 (文学部)

授業内容: 前期に引き続き、朝鮮語の基本的な活用やよく用いられる語法の習熟を通じ、簡単な会話や読解・作文力を養うことを目的とします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト: 木内明『基礎から学ぶ韓国語初級篇』(国書刊行会)

特修1 (前期)

全II (水・2) 高秀賢 (特任)

授業内容: 少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト: プリント

特修2 (後期)

全II (水・2) 高秀賢 (特任)

授業内容: 少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト: プリント

中級1 (前期)

全II (木・2) 野崎充彦 (文学部)

授業内容: より実践的な内容に重点を置きながら、基礎クラスで習得した事柄を確実に使いこなせるように、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。具体的には読解や語法練習、および作文や会話の練習に重点が置かれます。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト: プリント

5. 健康・スポーツ科学科目

- 健康・スポーツ科学科目の履修について
- 実習事業時の集合場所
- シラバス

健康・スポーツ科学

Health, Exercise and Sport Sciences; HESS

学習の意義

近年の著しい物質文明の発達、我々の健康にも大きな影を落とし、かつて成人病と呼ばれた疾患が若年者にも多く見られるようになって、「生活習慣病」なる言葉すら生まれるに至った。機械化や車の普及による「運動不足」や食糧事情の好転による「肥満」が、生活習慣病の大きな原因であることは周知のことであり、その結果、健康や体力への関心は年々高まり、生涯を通しての身体運動の重要性が指摘されている。肉体的な成熟期を迎えた大学生の今、新しい時代に即した健康とスポーツの情報や科学的な身体運動の理論と実践法を学びかつ体験することによって、それらを頭と体の両方で習得することは、将来健康で豊かな文化生活を送るために必要不可欠なものである。上記の理念に基づき、当科目では、1) 健康・スポーツ科学論 2) 健康・スポーツ科学実習 を通して、疾病の予防、健康・体力の維持・増進に関する知識と実践法を習得し、生涯を通して、スポーツや身体運動に親しむ習慣を獲得することを目的としている。

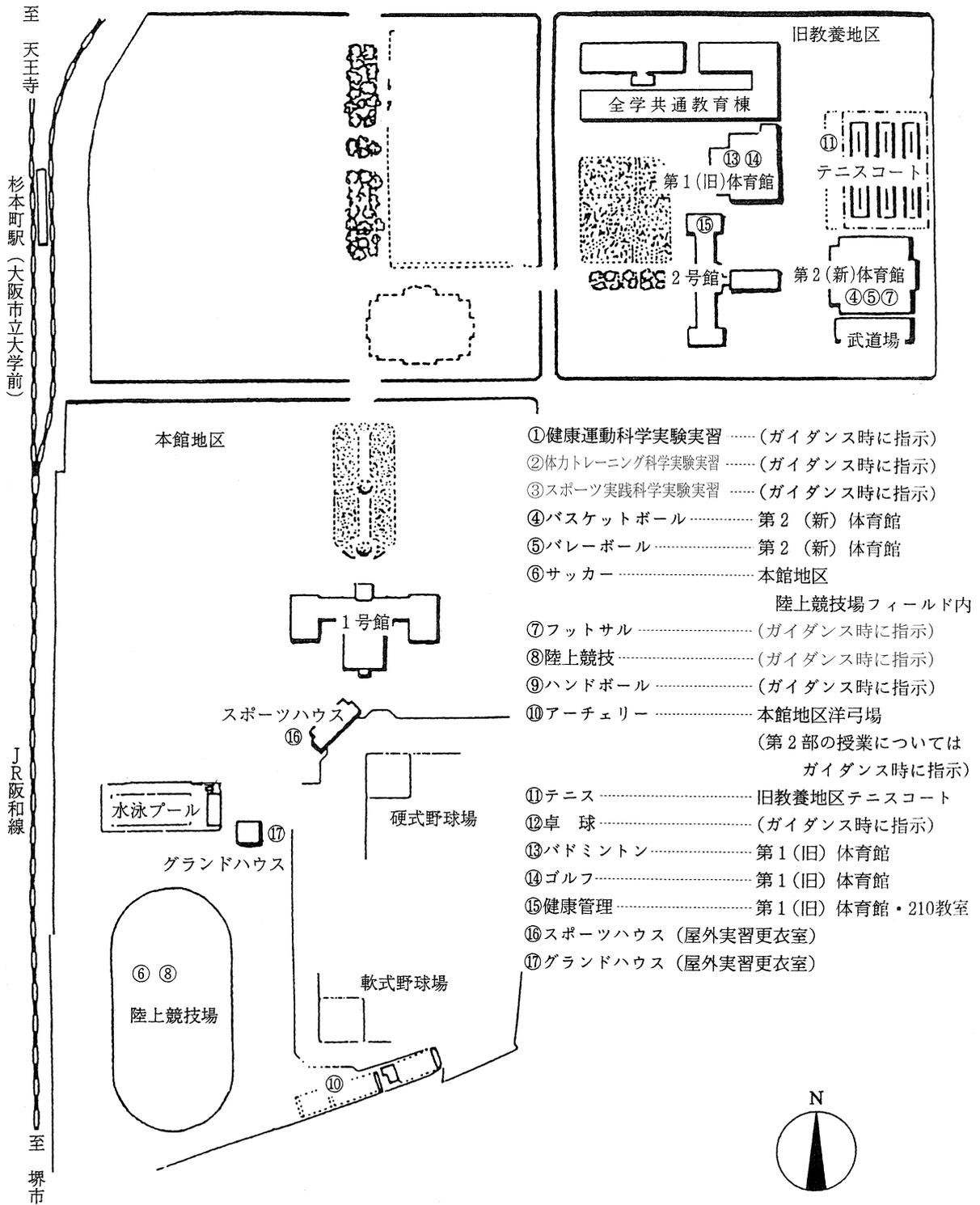
○ 健康・スポーツ科学科目の履修について

- (1) 健康・スポーツ科学科目の履修については、原則として所属学部指定に従って履修することが望ましい。
- (2) 健康・スポーツ科学科目の単位は、1・2年次の間に修得することが望ましい。
- (3) 健康・スポーツ科学論（以下「講義」という）の開講計画の説明は、第1週時の講義授業時に行う。
- (4) 健康・スポーツ科学実習（以下「実習」という）は、原則として自由に選択することができるが、各実習とも定員があるため、各人の希望する実習を履修できない場合がある。
- (5) 実習の内容の説明および人員編成は、第1週時の実習ガイダンスにて行う。
- (6) 実習は、半期に2単位を修得することはできない。
- (7) 同じ実習は、原則として履修することができない。
- (8) 実習1は初心者（ビギナー）向けの内容であり、実習2は経験者（アドバンス）向けの内容である。
- (9) 実習を履修しようとする者は、本学が実施する健康診断を受けなければならない。
- (10) 健康上の事由により、実習の履修が困難と認められる者については、前期、水曜日の5時限に「健康管理実習」を、開講している。
- (11) 健康上の理由により、学期途中で実施を履修できなくなった者は、担当教員の指示をうけなければならない。特に、1ヶ月以上にわたる場合は、医師の診断書を提出し、担当教員の指示をうけなければならない。
- (12) 特別な事由により、学期途中で履修した実習を変更する場合（健康管理実習への変更等）は、新・旧担当教員の承認を得た上、実習変更届を所属学部の事務室に提出しなければならない。
- (13) 実習は、全開講数の3/4以上の出席がなければ、単位を修得することができない場合がある。
- (14) 履修する担当教員へ提出する「実習選択カード」は、都市健康・スポーツ研究センターが提供したカードでなければならない。
- (15) その他詳細については、第1週時に行う実習ガイダンスにおいて説明するので、必ず出席しなければならない。その日時・場所については、別途掲示する。

注意事項

- 1) 健康・スポーツ科学実習では、必ず運動靴および運動着（水泳は水着）に更衣すること。
- 2) 体育館、卓球場における実習は、すべて上履き専用の運動靴を使用すること。
- 3) テニス実習を履修する者は、必ずテニスシューズを使用すること。
- 4) 実習中における各自の貴重品の取り扱いについては、盗難予防のため、担当教員の指示に従うこと。
- 5) 前期実習の場合は、実習によっては実習期間中に短期間の水泳を実施することがある。ただし何らかの事由により、水泳を受けることが不可能な者は、5月末日までに担当教員に届け出ること。
- 6) 健康・スポーツ科学科目についての連絡事項（教室変更、休講等）は、第一体育館横の「都市健康・スポーツ研究センター掲示板」に掲示するので、見落とさないよう注意すること。

○実習授業時の集合場所



[健康スポーツ科学講義]

Health, Exercise and Sport Science throughout Life

健康運動科学 2単位

Exercise Science for Health

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・2	宮側 敏明(健スポ)

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・2	宮側 敏明(健スポ)

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・2	宮側 敏明(健スポ)

授業内容

現代人の「健康でありたい」あるいは「健康でなければならぬ」という欲求は、益々強くなる傾向にある。最近では、QOL (quality of life=生活の質) を問題にするようになり、そこから新しい考え方が生まれている。すなわち、「自分の目標決定したことを、苦痛なく遂行できる」ということに、病気との共存という意味も含めた新しい健康感が受け入れられつつある。病があったとしても、自分のやりたいことが自分の許容範囲でできれば、それは健康であることを意味している。主観的な個人の生き方を肯定することが、QOLを重視した新しい健康の定義といえる。そこを自覚し、あくまでも個人の主体性を持った健康を考えることが提唱されている。

本講義では、健康に対する考え方が、多くの誤解と知識の欠如に起因すると考えるので、下記の内容について例題を解きながら解説していく。また、自己満足のスポーツ、運動・食餌・休養療法がどこまで意味のあるものかを科学的に実証していく。そして、様々な調査や医学的事実に基づいた自分の健康論や信条を持ち、そのな

かで自分ができることは何かについて考え、21世紀に対応した新しい健康感を養成する。

講義の構成：

1. ヒトの発生、進化、適応能。2. ヒトの寿命と適応能。3. 健康の捉え方、4. 健康のための運動処方。5. 肥満の成因、分類、判定。6. 肥満の分類と判定。7. 肥満療法。8. 骨粗鬆症の発症機序と判定。9. 骨粗鬆症の予防。10. 筋肉の種類と構造。11. 筋の収縮のメカニズムと収縮エネルギー供給。12. 筋力トレーニング。13. 発汗と体温調節。14. 体液バランスと熱中症予防

評価方法

定期試験、小テストおよびレポート、出席状況で評価する。

教材

1. 朝山正己 他編：「イラスト運動生理学」(東京教科学社)
2. 配布資料

体カトレーニング科学 2単位

Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・4	河端 隆志(健スポ)

授業内容

スポーツの楽しみ方は、まず「経験」をすることである。良い経験とするためには、直立二足歩行動物であるヒトの動作における解剖学的構造と運動時の生理学的機能を「知る」ことが重要である。そして、こうした知識を基にスポーツ動作を「観る」ことは、少なからず、スポーツを楽しむレベルの向上へと導くものである。本講義では、スポーツパフォーマンスの改善を目標とするトレーニングの有効性について、基本的なスポーツ動作を

「二軸動作」という新たな視点から解析するとともに、環境や運動ストレスに対する生理学的な適応能の仕組みを解説し、運動に対する制限因子 (Limiting Factor) についての知識を習得し、実践力を養うことを目標とするものである。

講義の構成：1. 直立二足歩行の解剖学的特徴、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 一流スポーツ選手は二軸動作Ⅰ、4. 一流スポーツ選手は二軸動作Ⅱ、5. 二軸動作を生み出すトレーニングⅠ、6. 二軸動作を生み出す

トレーニングⅡ、7. 直立二足歩行の生理学的特徴、8. 運動と筋肉、9. 運動と循環、10. 運動と体温調節、11. 運動適応と環境適応、12. 一流選手の生理学的特徴、13. トレーニングの生理学的効果；骨格筋系トレーニング、14. トレーニングの生理学的効果；循環

系トレーニング

評価方法

定期試験と小テストの結果から評価する

教材

必要に応じて参考資料を配布する

体力トレーニング科学 2単位

Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	全	火・2	国田 賢治(健スポ)

授業内容

産業革命以後、生活の機械化が急速に進んだ。これに対応して日常生活における身体活動量が激減し、運動不足に付随した身体への影響が社会での大きな問題として取り上げられるようになってきている。さらに、この影響は、幼児期から高齢期までの生涯の過程において生活の質を大きく左右する。

人は、身体の適応性、すなわち運動を負荷すると身体が運動に適応しようとする性質を利用して、体力や運動能力を合目的に発達させることができる。上述の身体への運動刺激は、トレーニングと呼ばれている。その際、運動の質・量を十分考慮して、個々に適した実践を行うことが重要であろう。さらに、人の知的財産であるスポーツを活用することも有効であろう。これらをふまえ、本授業では、運動の質、運動の量及びスポーツの観点から以下の内容を概説する。

1. 健康史と健康及び体力の定義

2. 運動の質への理解

- 3～4. トレーニングの原理・原則

- 5～6. 筋力トレーニングと筋持久力トレーニングの方法及び効果

- 7～8. 脂肪の役割と減量

- 9～10. 最適な運動強度

11. 姿勢と歩行

12. 幼児期における遊びと身体機能の発達

13. 身体機能の老化と運動訓練

14. スポーツの活用

評価方法

出席状況を重視し、記述式テストをふまえ総合的に判断する。

教材

藤原勝夫・外山 寛著：「身体活動と体力トレーニング」(日本出版サービス)

スポーツ実践科学 2単位

Kinematic and Practical Science for Sports

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	全	木・3	荻田 亮(健スポ)

授業内容

我々人間にとって、スポーツは豊かな生活を営むために行う身体活動であり、生きがいであり、文化であるといえる。近年、慢性運動不足が社会問題になってからスポーツ活動は単に楽しみとして実施するだけでなく、体力の保持・向上と健康の維持・増進の手段として実施されるようになった。我々の身体は動かさないと生理機能が退化し人間本来の身体特性や生活意欲が薄れていくが、過度に使いすぎると身体の諸機能に障害を引き起こす結果となってしまう。生涯にわたって豊かな生活を営むためには、身体の諸機能についての理解や、目的に応じた効果的な運動についての理解を深める必要がある。

この講義では運動に対する身体適応や、目的に応じた効果的な運動方法、さらには生活の中でのスポーツ実践方法を習得させることを目標とし、生涯を通じて豊かな生活を営むためのスポーツ知識について教授する。

授業内容・授業計画

1. スポーツの概念
2. スポーツの意義
3. スポーツと健康
4. スポーツと体力
5. スポーツと身体の仕組み
6. スポーツと身体の適応
7. 発育発達とスポーツ
8. 加齢・老化とスポーツ

- 9. スポーツ障害と予防
- 10. 環境の変化と身体の適応
- 11. 健康と運動処方
- 12. スポーツ特性とトレーニング
- 13. ダイエットとスポーツ
- 14. スポーツと生活

評価方法

試験、小テスト、レポート、出席状況から総合的に評価する。

教材

OHPやビデオを使用する。必要に応じて、資料の配布等を行う。

スポーツ実践科学 2単位

Kinematic and Practical Science for Sports

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・4	渡辺 一志(健スポ)

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・4	渡辺 一志(健スポ)

授業内容

現代社会におけるスポーツは、目的が多様化し、実践する人の目的に応じたパフォーマンスの向上や運動の成果を実感するための科学的な理論が重要となる。この講義では、生涯を通じてスポーツを享受し、より健康的な生活を創造するための最新スポーツ科学の知識について教授する。

- ・現代社会とスポーツ (1)
- ・スポーツと健康 (2～3)

- ・スポーツと体力 (4～7)
- ・スポーツとコンディショニング (8～9)
- ・スポーツとトレーニング (10～13)
- ・スポーツと栄養 (14)

評価方法

試験、レポート、出席状況を加味する。

教材

必要に応じて資料の配付や文献の紹介を行う。

[健康・スポーツ科学実習] Practise Courses

〈実験実習〉 Experimental Education for HESS

健康運動科学実験実習 1 1単位

Experimental Education for HESS (Exercise Science for Health 1)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・4	宮側 敏明(健スポ)

授業内容

自然科学の諸概念は、実験や観察に基づいて得られたものである。実験実習を通じて、はじめて教科書や講義の内容がよく理解できると言っても過言ではない。本実験実習では人体を対象として、運動中の生理現象を詳細に記録や観察をし、また、それらのデータについての深い分析や疑義を深めることによって、実習の生理学的意義を考察できるようにする。さらに、中には複雑な機械を用いた実習もあるので、実験装置の原理や取り扱い方についての留意点を理解できるようにする。

実習の構成：

1. 研究と実験の意義についての解説とレポートのまとめ方。
2. 安静時および運動時の心拍数と血圧の生理的応答測定の意義。
3. 心拍数および血圧測定器具の取り扱い説明とその実習。
- 4～5. ヒトの姿勢変化に伴う心拍数および血圧変化の測定。
6. 身体計測法(マルティン人体計測器)と体脂肪測定

- 方法（皮脂厚計法、Bモード法、インピーダンス法など）および測定器具の取り扱い説明とその実習。
- 7～8. 身体計測および体脂肪率測定。
 9. エネルギー代謝量の測定意義の説明。
 10. 酸素摂取量、換気諸量などの測定器具取り扱い説明とその実習。
 11. 自転車エルゴメータ運動時の生体反応の測定。
 12. トレッドミル歩行時の生体反応の測定。

13. 自由課題。
14. 実習グループ別の実験結果プレゼンテーションと質疑応答。

評価方法

実習レポート、出席状況、履修態度などによって、総合的に評価する。

教材

測定項目に関する参考資料を配布する。

体力トレーニング科学実験実習 1 1 単位

Experimental Education for HESS

(Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription 1)

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	全	火・3	国田 賢治(健スポ)

授業内容

健康とは環境に適応し、かつその人の能力が十分に発揮できるような状態であると考えられている。このような状態を客観的にとらえたものが体力であり、また健康の状態を向上させる過程がトレーニングであると考えられている。このような観点に立てば、日常生活の中での身体活動の工夫は、健康・体力づくりにつながることとなる。

本授業は、大まかに3つの点を重視している。1) 身体運動を実際に行い、また実験実習を通して健康の維持・増進に関する知識を深く理解する。2) 健康の維持・増進が図れるよう、日常生活の中でさまざまな工夫ができる応用力を高める。3) 相互交流型の演習を通じて、授業を楽しみ、親睦を深める。

運動の質、運動の量及びスポーツの観点から、健康の

維持・増進について、以下の点について楽しく、かつわかりやすく演習を行う。

- 1～2. 日常生活の中での動作の工夫
- 3～5. 均整のとれた身体を形成するための工夫
- 6～8. 腰痛や肩こりを防ぐ正しい立ち方や歩き方
- 9～11. 脂肪の減量をもたらす身体活動
12. 身体機能の老化を防ぐための工夫
13. スポーツの活用
14. 幼児期の遊びの重要性

評価方法

出席状況を重視し、記述式テストをふまえて総合的に判断する。

教材

藤原勝夫・外山 寛著：「身体活動と体力トレーニング」(日本出版サービス)

体力トレーニング科学実験実習 1 1 単位

Experimental Education for HESS

(Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription 1)

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	全	木・1	河端 隆志(健スポ)

授業内容

本実習は、講義「体力トレーニング科学論」と対を成すものである。ここでは、スポーツパフォーマンスの改善を目標とするトレーニングの有効性について、基本的なスポーツ動作を「二軸動作」という新たな視点での解析や、環境・運動ストレスに対する生理学的な適応の仕組みを実験的に体験し、運動に対する制限因子(Limiting Factor)についての知識を習得し、実践力を養うことを目標とするものである。

実習の構成：1. 直立二足歩行の解剖学的特徴、2.

二軸動作と中心軸動作、3. 一流スポーツ選手は二軸動作、4. 二軸動作を生み出すトレーニングⅠ、5. 二軸動作を生み出すトレーニングⅡ、6. 二軸動作を生み出すトレーニングⅢ、7. 直立二足歩行の生理学的特徴、8. 高温環境と脱水、9. 運動と水分摂取Ⅰ、10. 運動と水分摂取Ⅱ、11. 運動適応と環境適応、12. トレーニングの生理学的効果：骨格筋系トレーニング、13. トレーニングの生理学的効果：循環系トレーニング、14. 実験成果の発表

評価方法

実験結果のまとめ方と発表、出席状況より評価する。

スポーツ実践科学実験実習 1

Experimental Education for HESS
(Kinematic and Practical Science for Sports 1)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	STI (全理)	水・2	渡辺 一志(健スポ)

授業内容

運動の発現や運動に伴う身体機能の応答、さらにスポーツスキルを実験によって客観的に据え評価することによって、運動の質と運動調節能について理解を深める。

- ・スポーツに必要な体力（形態、筋力、スピード、パワー、筋持久力、全身持久力）の意義とその測定・評価（1～5）
- ・運動に伴う呼吸循環系（心拍数、血圧、酸素摂取量な

教材

必要に応じて参考資料を配付する

1 単位

ど)の応答とその測定・評価(6～11)

- ・筋電図を用いた筋活動評価の基礎とスポーツスキル分析への応用。生体信号処理について理解を深める。(12～14)

評価方法

レポート、出席状況

教材

必要に応じて資料の配布や文献の紹介を行う。

〈スポーツ実習〉 Practise - Field Work for HESS

バスケットボール 1

1 単位

Basketball 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	荻田 亮(健スポ)
	全	火・4	荻田 亮(健スポ)
	全	水・2	荻田 亮(健スポ)
	STI (全理)	木・2	荻田 亮(健スポ)

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・2	荻田 亮(健スポ)

授業内容

バスケットボールは、楽しさや爽やかな気持ちをもたらすと同時に、相当な運動量と判断力や調整力といった運動能力が必要とされるスポーツである。個人技術の習得には、走・跳・投など多種多様な動きが必要とされるため、オールラウンドな身体づくりが期待出来る。

この実習では、安全に、楽しくスポーツを実践するための基礎的知識を深めながら、バスケットボールの技術を習得すると同時に、スポーツを実践する総合的な行為能力を育成する。さらに、バスケットボールを通して、健康で豊かに生活するために必要な運動についての知識と技能、ならびに態度を養うことを目標とする。

授業内容・授業計画

1. 競技特性と安全性

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	STI (全理)	木・2	荻田 亮(健スポ)
	全	水・2	荻田 亮(健スポ)
	EJI (全文)	木・1	荻田 亮(健スポ)

2. ウォーミングアップとストレッチ
3. 基本姿勢と身体調整
4. 身体の仕組みと動きの分析
5. シュート技術の分析と実践
6. パス技術の分析と実践
7. ドリブル技術の分析と実践
8. 個人技術の応用 (1 on 1)
9. 個人的対峙の理解と実践
10. 集団の理解と実践 (2 on 1)
11. 状況の認識と判断
12. 集団的対峙の理解と実践
13. ゲーム運営と審判法
14. ゲームの実践

評価方法

バスケットボールの基礎的技術、スポーツ実践に対する基礎的知識について実技試験・レポートを実施し評価

バスケットボール 2

1 単位

Basketball 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	EJI (全文)	木・1	荻田 亮(健スポ)

授業内容

バスケットボールは、協同や連携、集団的な安全行動のための規則、技術的な協調、責任の分担などに対する理解が培われる集団スポーツである。また、組織的な戦術・戦略を通して独創性や自制心、自己表現についての知識が高められる競技種目である。

この実習では、バスケットボールという集団スポーツを通して、あらゆるスポーツに対する観方、楽しみ方、そして自主的に活動へ参加する姿勢と態度を育成する。さらに、生活文化としてスポーツを理解し、生涯にわたりスポーツを実践するための知識を高めることを目標とする。

授業内容・授業計画

1. 集団的な安全行動と規則
2. 集団プレーの原理と原則
3. 集団プレーの分類
4. 集団的対峙の理解と実践

バレーボール 1

1 単位

Volleyball 1・2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	中嶋 紀子(非常勤)
	全	火・4	中嶋 紀子(非常勤)

科目の主題と目標

バレーボールの技術・戦術の習得とともにゲームによる実践を通して、体力の向上・自主性・協調性・積極性を育てることを目的とする。また、生涯にわたり健康的な生活を送るために、積極的に生活の中に、身体運動を取り入れてゆく態度を形成することを目的とする。

授業内容

1. 授業内容と競技中における傷害例とその予防について説明
2. 基本技術の習得 (6 週間)
 - ①パス技術 (オーバー・アンダー)
 - ②パワーク・パスゲーム (2 vs 2・3 vs 3)

する。

教材

特になし。

5. 動きの連携と協同
6. 個人の役割と責任分担
7. 空間の認識と先取り
8. 動きの認識と先取り
9. 集団技術の基礎 (2 on 1、2 on 2)
10. 集団技術の応用と実践 (3 on 2、3 on 3)
11. ゲームの運営と審判法
12. 戦術行動の基礎と応用
13. 技術の指導法
14. ゲームの実践

評価方法

バスケットボールの個人・集団技術、集団スポーツに対する基礎的知識について実技試験・レポートを実施し評価する。

教材

特になし。

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CLI (全文)	火・3	中嶋 紀子(非常勤)
	全	火・4	中嶋 紀子(非常勤)

- ③レシーブ技術 (対人レシーブ・3人レシーブ)
- ④スパイク技術
- ⑤ブロック技術
- ⑥サーブ・サーブレシーブ技術
3. 応用技術の習得 (2 週間)
 - ①連携プレー
チャンスカットから攻撃
サーブカットから攻撃
アタックレシーブから攻撃
4. フォーメーションの説明と動きの確認
5. ルールの説明と審判法
6. ゲームの実践 (4 週間)

評価方法

出席率・受講態度・バレーボールの基本技術・戦術の

習得度等から総合的に評価する。

サッカー 1 1 単位

Association Football (Soccer) 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI(全文)	火・3	河端 隆志(健スポ)
	STI(全理)	木・2	河端 隆志(健スポ)

授業内容

スポーツの楽しみ方は、まず「経験」をすることである。良い経験とするためにはスポーツを「知る」こと、そして「観る」能力を養うことが大切である。本実習では、「サッカー」という世界的にポピュラーなスポーツを通して、「二軸動作」からみたスポーツ動作の基礎を体験するとともに、集団でのコミュニケーション、キャプテンシーおよび協調性の重要性についての能力を養うことを目的とする。また、チームを編成し、毎回試合形式のゲームを行い、チームの問題点を定義し、チーム内で改善していくものとする (M-T-M method; match-training-match)。総合ゲームでは、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでコーディネートし

サッカー 2 1 単位

Association Football (Soccer) 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・4	河端 隆志(健スポ)

授業内容

スポーツの楽しみ方は、まず「経験」をすることである。良い経験とするためにはスポーツを「知る」こと、そして「観る」能力を養うことが大切である。本実習では、「サッカー」のより高度な理解度を追及するために、「二軸動作」から観たスポーツ動作の基礎を学ぶとともに、実際の J-リーグ観戦によるゲームの分析や一流選手との交流によるプレーの解析を体験する (予定)。また、集団でのコミュニケーション、キャプテンシーおよび協調性の重要性についての能力を養うこと、チームを編成し、毎回試合形式のゲームを行い、チームの問題点を定義し、チーム内で改善 (M-T-M method; match-training-match) していくものとするを目的とする。総合ゲームでは、キャプテンを中心にウォーミングアッ

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・3	鈴木 崇士(非常勤)
	全	火・4	鈴木 崇士(非常勤)

ていく。

実習の構成：1. ウォーミングアップ；ブラジル体操と二軸動作、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 走り方と二軸動作、4. キックと二軸動作Ⅰ、5. キックと二軸動作Ⅱ、6. ヘディングと二軸動作、7. 方向転換と二軸動作、8. シュートとは、9. システム、10. ゲーム分析、11. 総合ゲーム、12. 総合ゲーム、13. 総合ゲーム、14. 総合ゲーム

評価方法

自主性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力および出席状況の結果から評価する

教科書

必要に応じて参考資料を配布する

プからゲームまでコーディネートしていく。

実習の構成：

1. ウォーミングアップ；ブラジル体操と二軸動作、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 走り方と二軸動作、4. キックと二軸動作Ⅰ、5. キックと二軸動作Ⅱ、6. ヘディングと二軸動作、7. 方向転換と二軸動作、8. シュートとは、9. システム、10. ゲーム分析、11. 総合ゲーム、12. 総合ゲーム、13. 総合ゲーム、14. 総合ゲーム

評価方法

自主性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力および出席状況の結果から評価する

教科書

必要に応じて参考資料を配布する

陸上競技 1

1 単位

Track and Field 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	STI(全理)	木・1	宮側 敏明(健スポ)

授業内容

陸上競技は、以下のように解釈されている。すなわち、走・跳・投という人間が持っている動きが基本となっている競技スポーツである。そして、技術や体力の教科の成果が技能の向上に対し、直接的に関与するスポーツである。その技能の向上を図るためには、体力の強化や技術の獲得が大きな課題となり、それらの分析や強化には、スポーツ科学の進歩が多分に貢献している。また、個人的な競技種目ということから、若い競技者が陸上競技への興味や情熱を持ち続けるためには、人間や競技に対する知識を持ち続けるためには、人間や競技に対する知識を持ち、自らが考えるという競技生活を行うことが大切であり、そうすることで、そこに新しい疑問や課題が生じ、前進が見られる。本実習では、季節による屋外環境条件を考慮しながら、ヒトの基本的な動きや動作を生体の構造と機能との関係から捉え、指導用として開発された器具をも並行して用い、楽しく基本的な技術を獲得する。

実習の構成：

1. 陸上競技の歴史、種目内容、種目特性についての説

明。

2. ウォームアップ、補助運動の意義と実施方法。
3. 歩行とジョギングの差異とその実施方法。
4. 走の説明とウインドスプリント、加速走の体験。
5. 短距離走の説明と体験。
6. 変形スタートダッシュ。
7. スタートテイングブロックによるスタートダッシュ。
8. 短距離（50、100m）走のタイム測定。
9. ハードル走の説明と体験。
10. 走り（棒）高飛びの説明と体験。
11. 背面跳びの練習と体験。
12. 槍投げの説明と体験。
13. 槍投げの測定。
14. 円盤投げの説明と体験。

評価方法

技術能力のみならず運動遂行能力を相対的に評価し、さらに、平常点や出席を考慮して総合的に評価する。

教材

ビデオなどの視聴覚教材を用いる。また、競技ルールなどの参考資料を必要に応じて配付する。

アーチェリー 1

1 単位

Archery 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	渡辺 一志(健スポ)
	全	火・4	渡辺 一志(健スポ)
	STI (全理)	木・2	渡辺 一志(健スポ)

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・2	渡辺 一志(健スポ)

授業内容

アーチェリーというスポーツ文化に接し理解を深め、その基本的技術を習得すること。また、生涯スポーツの観点から、スポーツ実践におけるコンディショニング、種々のトレーニング方法について理解することを目標とする。

- ・アーチェリーの歴史
- ・アーチェリーの技術と競技概要
- ・弓具とその取り扱いについて

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・3	渡辺 一志(健スポ)

- ・基本技術の習得とシューティング
- ・コンディショニングおよびトレーニング
- ・スコアリング

評価方法

知識、技術の習得状況、出席状況など総合的に判断する。

教材

必要に応じて資料を配布する。

テニス 1

1 単位

Tennis 1

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	CLI (全文)	火・3	宮側 敏明(健スポ)
	全	火・4	宮側 敏明(健スポ)
	EJI (全文)	木・1	松原 慶子(非常勤)
	STI (全理)	木・2	松原 慶子(非常勤)

授業内容

テニスは、「幅が広くしかも奥行きが深いスポーツである。また、どのような人でもそれぞれに楽しさを味わうことができ、上手になるにつれて、そのつど新しい楽しさに満ちた世界が開けてくるスポーツである」といわれている。ただし、上手になるには、基本がもっとも重要であるものの、基本に関する誤解もみられ、日本舞踊や能の型のような、決まりきったものであるという考え違いをしている場合が多い。テニスの基本とは、「そうしなくてはならない」ということではなく、「なぜそうしなければならないか」をかんがえる「考え方」が重要であり、また、それぞれのプレーの身体的、精神的特徴について理解することも重要である。本実習は、テニスの基本的な構えと技術の獲得を以下のような内容で初心者を対象に展開する。

実習の構成：

1. コートおよびラケットの名称とラケットグリップの

テニス 2

1 単位

Tennis 2

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
後	EJI (全文)	木・1	松原 慶子(非常勤)
	STI (全理)	木・2	松原 慶子(非常勤)

授業内容

本実習は、テニス経験者および熟練者を対象として、より実践的な内容を展開する実習である。したがって、テニス1（初心者を対象）で基本的技術を獲得した者あるいは熟練者を対象に、実習1での実施内容をより一層発展させ、テニスの高度な技能の獲得とゲームの戦略戦術に至るまでの内容を実施する。

実習の構成：

1. オリエンテーション、およびテニスの特性について。
2. ラケットイテリング、ミニラリー、サービス。
3. ボディコントロールとボールコントロール、ラリー。
4. 応用技術の練習。
5. ネットプレー。

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	全	木・3	松原 慶子(非常勤)
	全	木・4	松原 慶子(非常勤)

説明およびボール遊び。

- 2～3. テニスの構えとラケットスイング、インパクトの基本。
- 4～6. フォアハンド・ストローク、バックハンドストロークの基本。
7. グランド・ストロークとボレーの基本。
- 8～9. テニスマシーンを用いたグランド・ストロークの練習。
10. サービスとレシーブの基本。
11. サービスとラリー。
12. ゲームやルールの理解とゲームの進行。
- 13～14. ダブルス・ゲームの体験。

評価方法

技能、履修態度、出席状況などから総合的に評価する。

教 材

配布資料。

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
後	全	木・3	松原 慶子(非常勤)
	全	木・4	松原 慶子(非常勤)

6. 総合練習、タイブレーク・ゲーム。
7. ダブルスのゲーム。
8. 戦術について。
9. ダブルスのゲーム。
10. トップアスリーのプレーから学ぶ。
11. シングルのゲーム。
12. 団体戦。
13. クラストーナメント。

評価方法

高度技能習得度、平常点、出席状況などから総合的に行う。

教 材

必要に応じて参考資料を配布する。

卓球 1

1 単位

Table-tennis 1

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	EJI (全文)	木・1	国田 賢治(健スポ)
	STI (全理)	木・2	国田 賢治(健スポ)
	全	木・3	国田 賢治(健スポ)

〈第2部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	全	火・2	国田 賢治(健スポ)

授業内容

生涯スポーツとしての卓球を実践する上で必要な知識と技術を、演習を通じて習得する。さらに、身体活動に伴う健康の増進の効果についても学習する。

授業のはじめに健康の維持・増進に適した運動について解説するとともに、その運動を演習する。その後、卓球を実践する。卓球の実践では、個々に適した返球ができることを目標とする。生理学、解剖学及び力学の知識

をふまえて個々に指導する。また習得した技術を用いてゲームを多く体験する。

評価方法

出席状況を重視し、記述式テスト及び技能テストの結果をふまえ総合的に判断する。

教 材

藤原勝夫・外山 寛著：「身体活動と体力トレーニング」(日本出版サービス)

卓球 2

1 単位

Table-tennis 2

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
後	全	火・4	国田 賢治(健スポ)
	EJI (全文)	木・1	国田 賢治(健スポ)
	STI (全理)	木・2	国田 賢治(健スポ)

授業内容

生涯スポーツとしての卓球を実践する上で必要な知識と技術を生理学、解剖学及び力学の知識をふまえて解説するとともに、演習を通じて習得する。個々に適した返球ができること、あるいは返球における洗練した技術を

習得することのいずれかを目標とする。個々それぞれに指導する。習得した技術を用いてゲームを多く体験する。

評価方法

出席状況を重視し、記述式テスト及び技能テストの結果をふまえ総合的に判断する。

フットサル 1 1 単位

Futsal 1

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	CLI(全文)	火・3	鈴木 崇士(非常勤)
	全	火・4	鈴木 崇士(非常勤)
	EJI(全文)	木・1	鈴木 崇士(非常勤)
	STI(全理)	木・2	鈴木 崇士(非常勤)

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
後	CLI(全文)	火・3	河端 隆志(健スポ)
	全	火・4	河端 隆志(健スポ)

〈第2部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	全	木・2	河端 隆志(健スポ)

授業内容

フットサルは、近年日本においても盛んに行われている室内で行うサッカーである。特徴としては、少ない人数で、弾みの少ないボールを用いて行う。本実習では、運動動作について「二軸動作」という新たな視点から着目し、フットサルを通して、有効な身体動作についての知識を習得するとともに実践する能力を養うこと、さらには集団競技である利点を活かし、集団における個々のコミュニケーション力、キャプテンシーおよび協調性を身に付けることを目的とする。

実習の構成：1. ウォーミングアップ；ブラジル体操

と二軸動作、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 走り方と二軸動作、4. キックと二軸動作Ⅰ、5. キックと二軸動作Ⅱ、6. ヘディングと二軸動作、7. 方向転換と二軸動作、8. シュートとは、9. ボールテクニック、10. ボールテクニック、11. 総合ゲーム、12. 総合ゲーム、13. 総合ゲーム、14. 総合ゲーム

評価方法

自主性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力および出席状況の結果から評価する

教 材

必要に応じて参考資料を配布する

健康管理 1 1 単位

Health Improvement Exercise for The Handeicapped 1

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	全	水・5	藤原 晃(非常勤)

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
後	全	水・5	藤原 晃(非常勤)

授業内容

本実習は、身体的、体力的な理由により健常人と同様の運動が難しいもののために開設されたものであり、各自の体力や症状を把握し、軽スポーツや身体の調整法を痛して現在の状態を維持、向上させることを主旨とする。

ハンディキャップを抱えるものでもスポーツを楽しむ権利は平等にあり、本実習において自分に合った運動を発見し、健康に取っての運動の意義を学習する。

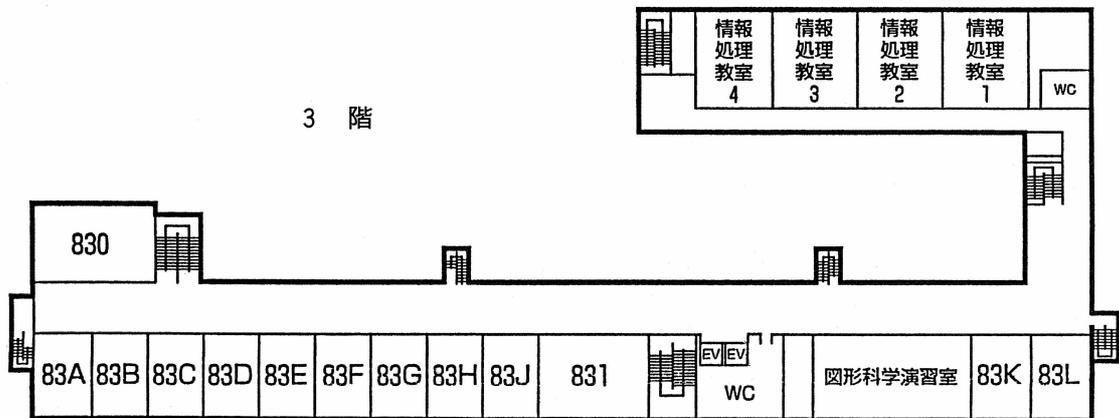
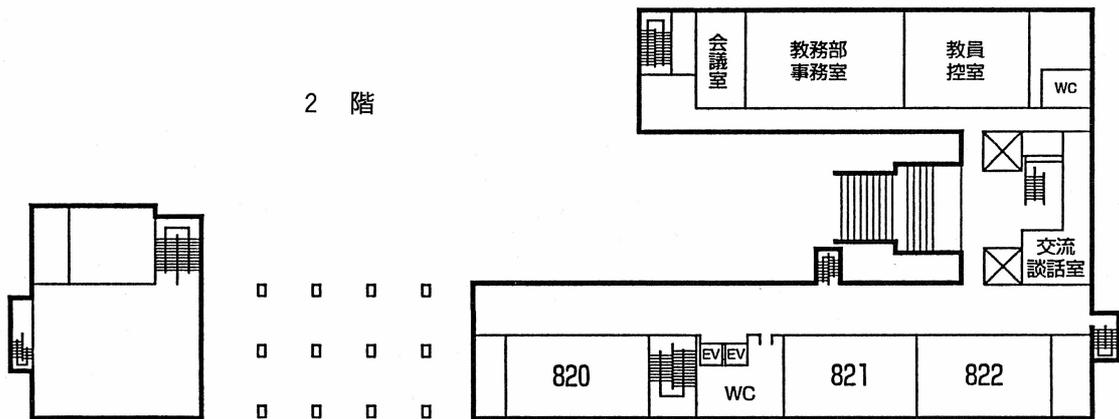
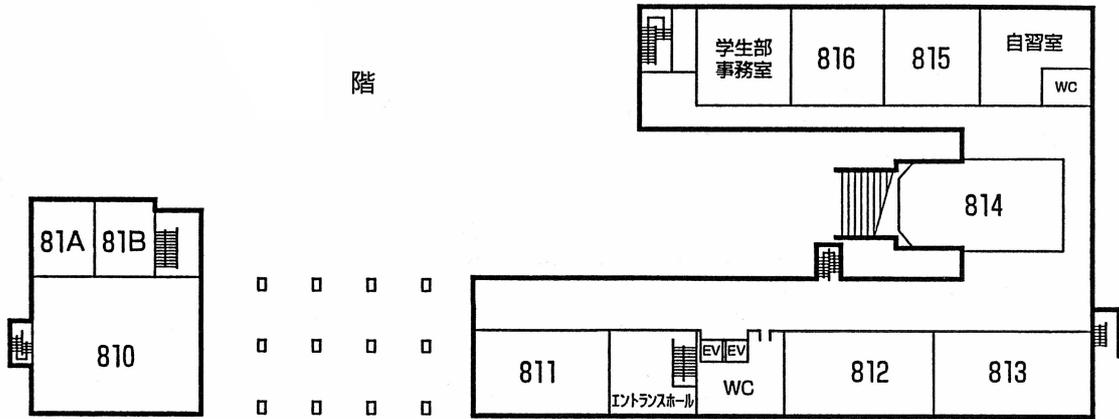
- ①②体力測定
- ③④自力整体
- ⑤⑥パートナーマッサージ
- ⑦⑧呼吸法
- ⑨⑩ストレッチング
- ⑪⑫⑬⑭軽スポーツ

評価方法

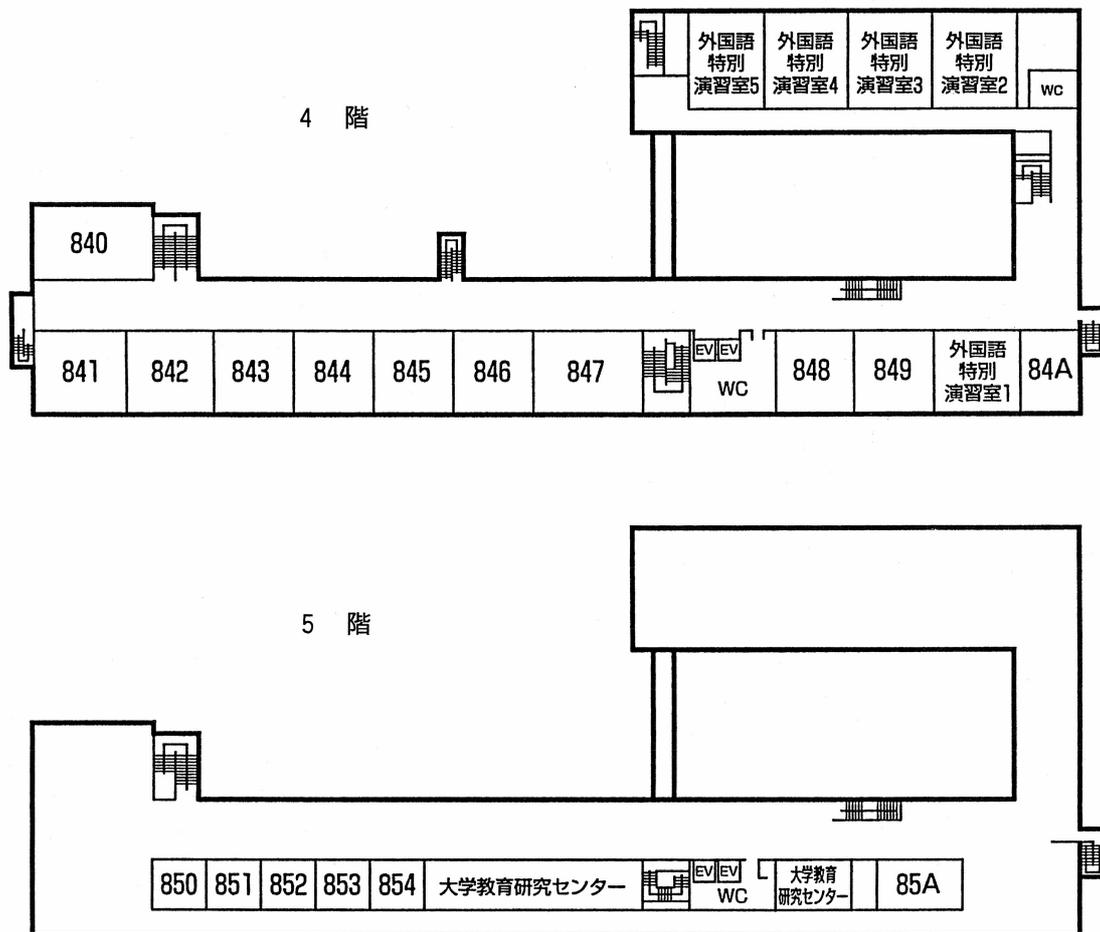
出席点・授業中の平常点

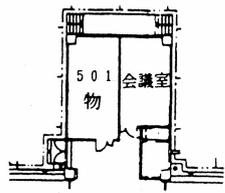
IV 教室等施設配置図

全学共通教育棟

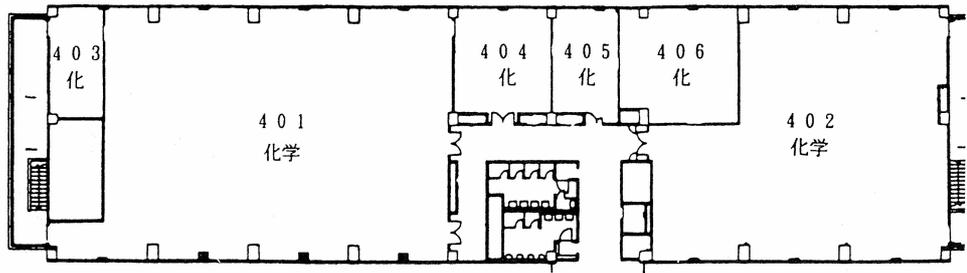


各教室見取図





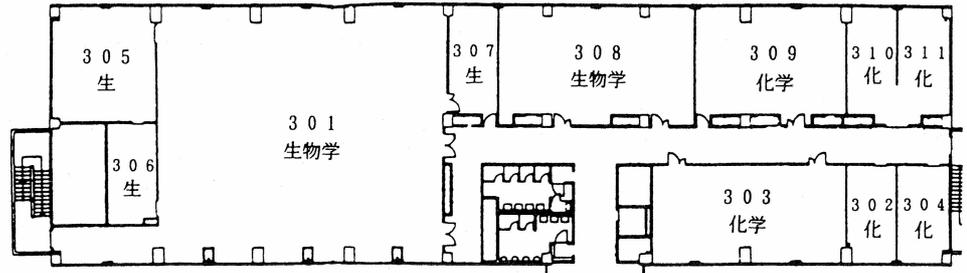
5階



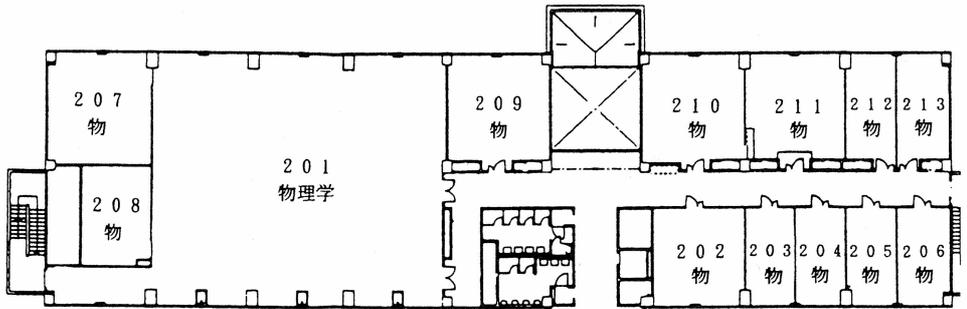
4階

基礎教育実験棟

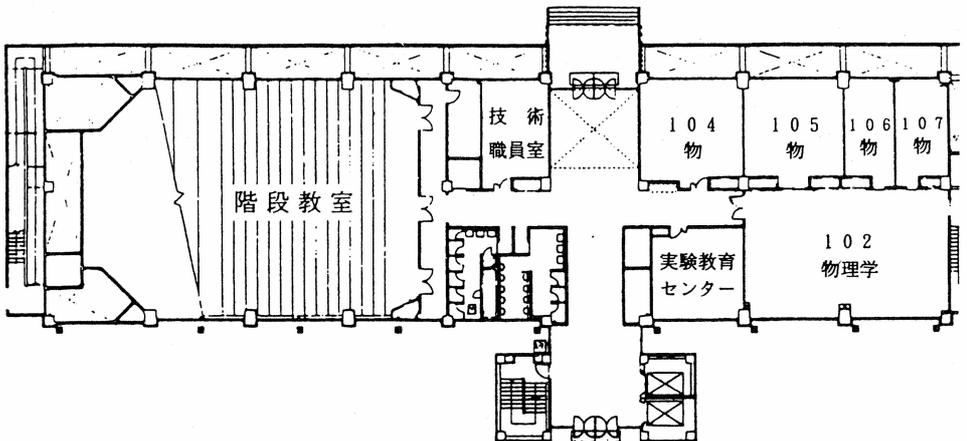
3階



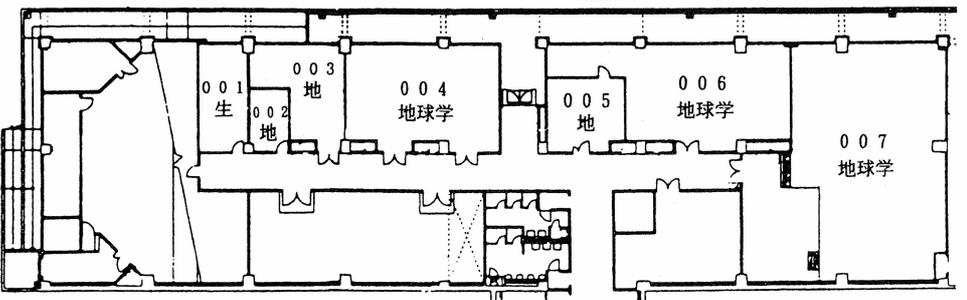
2階



1階

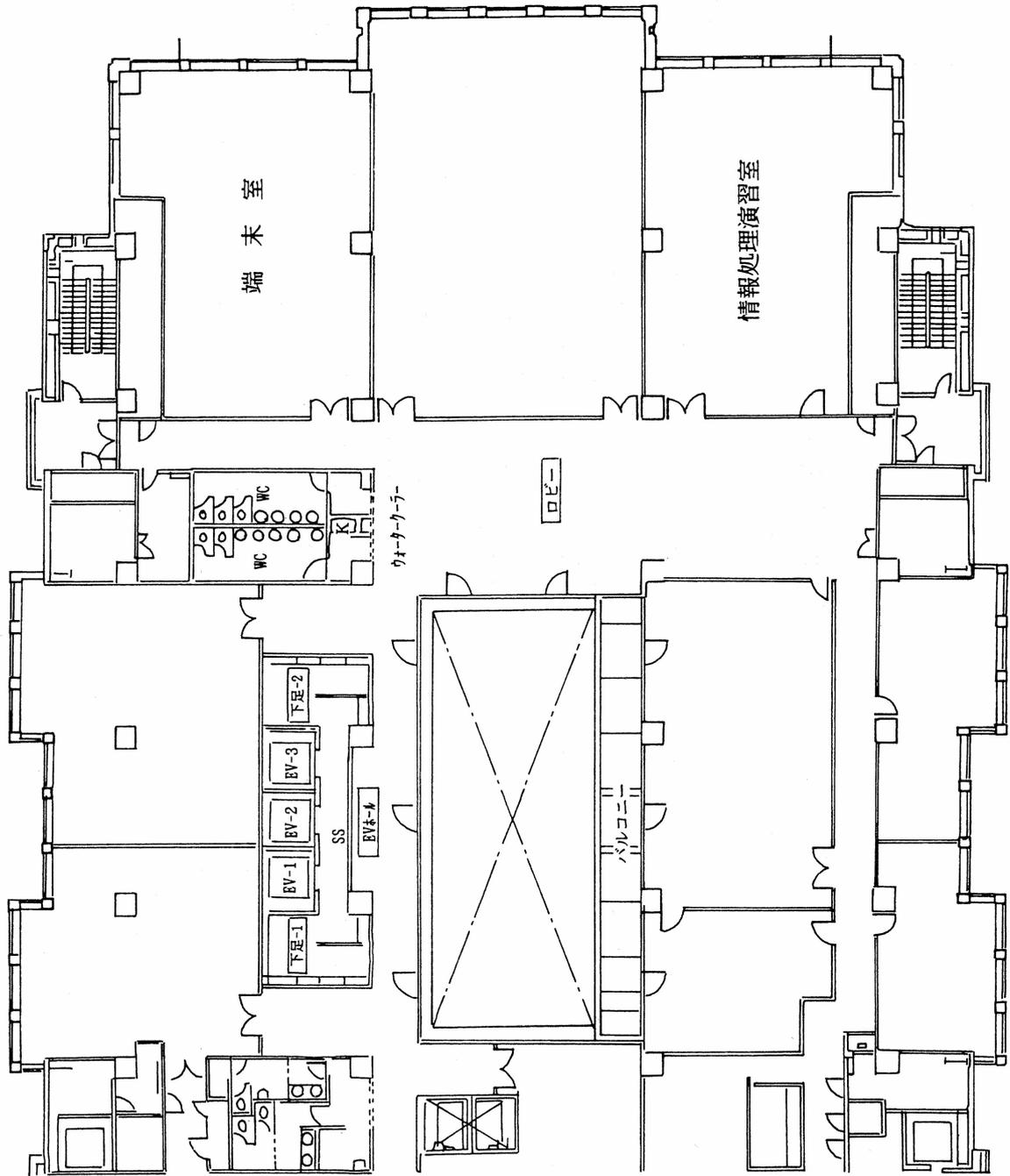


地下1階



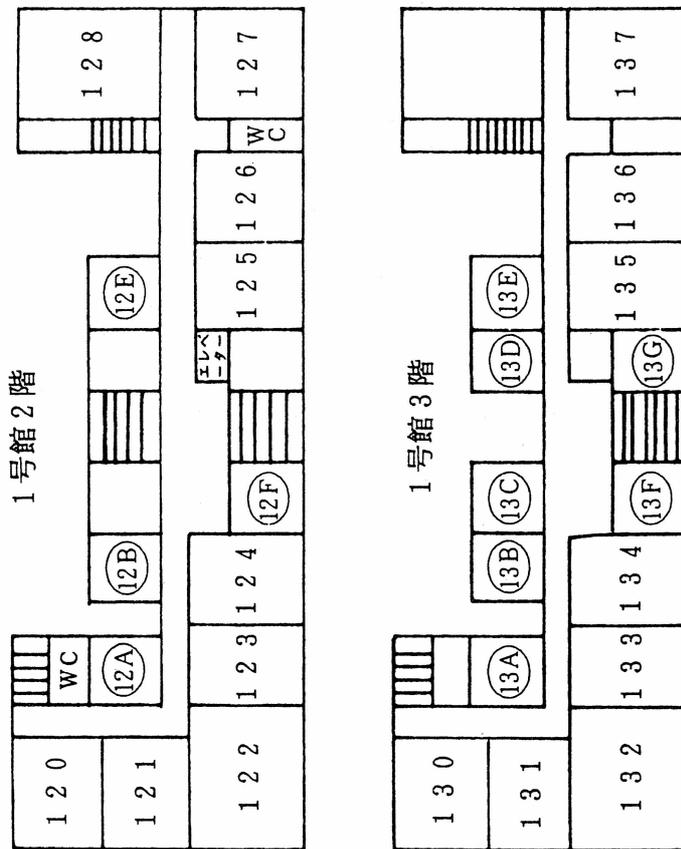
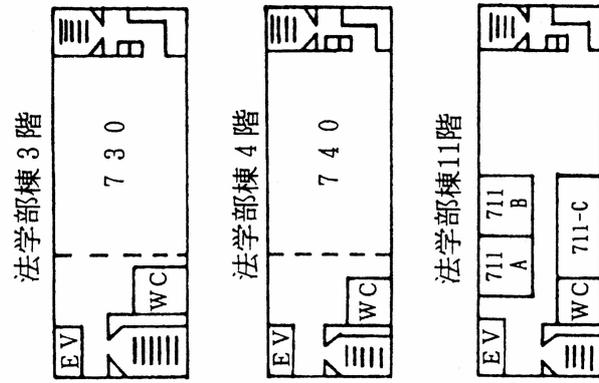
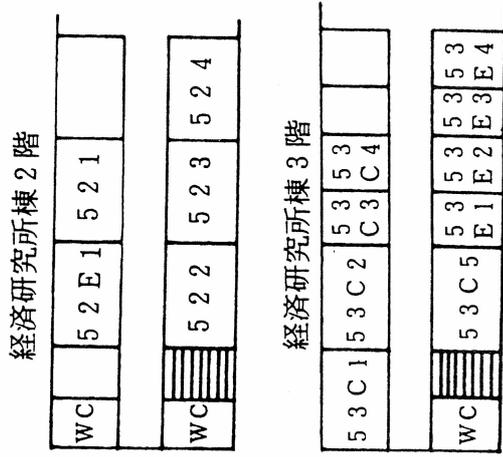
(1階以外はエレベーター及び階段部分を省略した。
男子、女子、身障者用の便所は地階から4階の各階にある。)

学術情報総合センター 9F



(西側省略)

本館地区見取図



杉本学舎配置図

